［No.3］
Fujitsu Software Infrastructure Manager Essentialによる運用管理

2023年 12月

富士通株式会社

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

はじめに（留意事項）

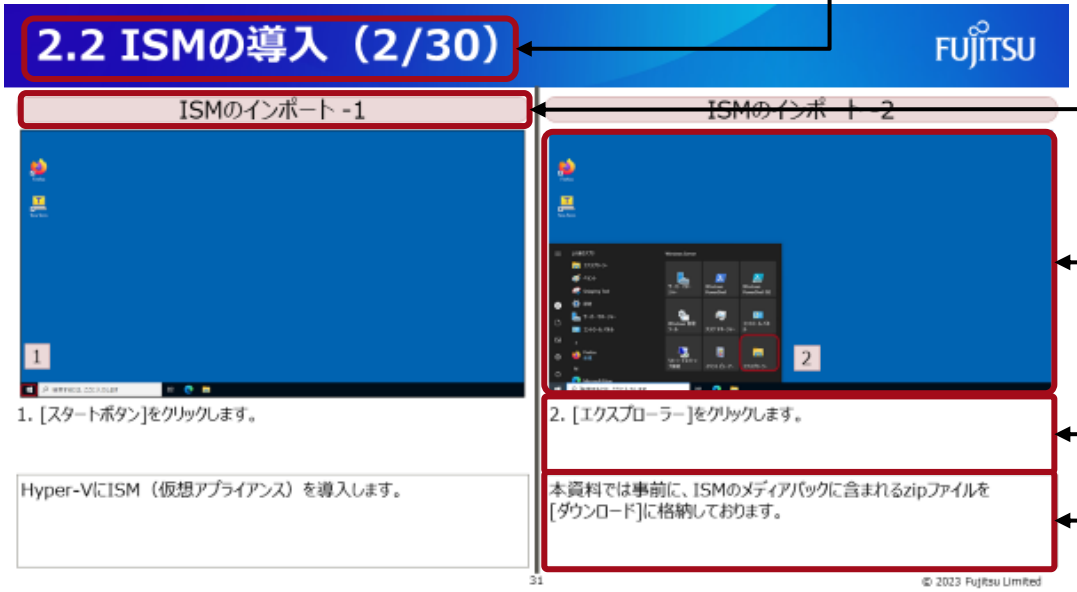
FUJITSU

■ 資料内容について
本資料の内容は2023年12月時点の情報に基づいて作成しています。
作成に当たっては作成時における最新の資料、情報を参考にしておりますが、
記載元の資料や製品については、予告無く、内容・仕様が変更になることがございます。
最新の情報については、弊社または富士通グループ提供の公開サイトまたは技術情報提供用サイトにてご確認ください。

■ 本資料の情報を利用した場合の責任範囲について
本資料は富士通株式会社及び富士通グループ、または他社のプロダクト製品、
サービスに関する情報提供を目的としております。記載された情報については受講された方の責任においてご利用ください。
本テキストに記載された情報を最新情報による裏づけ無しで使用されたことに伴う、
一切のトラブル・損失について、富士通株式会社または富士通グループは何ら責任を負うことができません。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

はじめに（テキストの見方）



ページのタイトルになります。

小項目になります。
その項目で実施する内容が簡潔に記載されています。

実際に操作を実施する画面になります。
操作指示や補足説明/設定パラメーターなどを見た上で、
操作番号の順番に操作（クリック、選択、入力など）を
実施し、設定を進めていきます（赤枠が該当箇所）。

操作番号に対応する操作指示が記載されています。

補足説明/設定パラメーター、参考情報、
注意事項などが記載されています。
操作を実施する前に必ず内容を確認してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

はじめに（用語）

本資料では、各製品について略称で記載している場合があります。

製品・ソフトウェアなどの名称	略称
Fujitsu Software Infrastructure Manager	ISM
integrated Remote Management Controller	iRMC
Intelligent Platform Management Interface	IPMI

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

はじめに（環境構成説明）

本資料での環境構成・設定値について説明します。

環境構成

ISM Essential v2.7

Hyper-V

Windows Server 2022

RX2530M6_iRMC

管理サーバー

【管理サーバーの情報】
サーバー名：2022SV1
モデル： PRIMERGY RX2530 M6
OS：Windows Server 2022 Datacenter
ハイパーバイザー：Hyper-V
ユーザー名：administrator
パスワード：Pass123

① Hyper-V環境に、ISM-VAを展開します。

② ISMを起動し、設定（ノードの登録・アラーム設定等）を実施します。

管理端末から
サーバーにアクセス

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

はじめに（関連ドキュメント）

以下のドキュメントも必要に応じてご参照ください。

	ドキュメント名称	本資料での表記	説明
①	Fujitsu Software Infrastructure Manager Infrastructure Manager for PRIMEFLEX 入門書	入門書	ISMを初めて使用する利用者向けのマニュアルです。 ISMの製品体系／ライセンス、利用手順の概要について説明しています。
②	Fujitsu Software Infrastructure Manager Infrastructure Manager for PRIMEFLEX 解説書	解説書	ISMの機能、導入手順、操作方法を説明したマニュアルです。 ISMの全機能、全操作を把握できます。
③	Fujitsu Software Infrastructure Manager Infrastructure Manager for PRIMEFLEX 操作手順書	操作手順書	ISMの導入手順、利用シーンに応じた操作手順を説明したマニュアルです。
④	Fujitsu Software Infrastructure Manager Infrastructure Manager for PRIMEFLEX 用語集	用語集	ISMを使用するうえで理解が必要な用語の定義を説明した用語集です。
⑤	管理対象機器一覧	管理対象機器一覧	ISMの各バージョンでサポートしている機器を記載したドキュメントです。

※ ご利用の製品に合わせたバージョンのドキュメントをご参照ください。また、上記のドキュメントは以下の公開サイトから確認できます。

Fujitsu Software Infrastructure Manager技術情報
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/technical/

Fujitsu Software Infrastructure Manager動作環境
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

目次（1/3）

FUJITSU

1. ISMとは
    1.1 ISMの概要
    1.2 ISM Essentialについて

2. ISMの導入
    2.1 ISM導入前の準備
    2.2 ISMの導入
    2.3 初期設定
    2.4 ログイン
    2.5 ISMへのパッチ適用

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

目次（2/3）

FUJITSU

3. ISMによるノード管理
3.1 ノード管理機能
3.2 ノードの登録
3.3 OS情報の登録

4. モニタリング機能
4.1 モニタリング機能について
4.2 ノードの状態監視
4.3 アラーム通知設定

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

目次（3/3）

FUJITSU

5. ファームウェア管理機能
5.1 ファームウェア管理機能について
5.2 ファームウェアのインポート
5.3 ファームウェアのアップデート

6. 保守資料の採取
6.1 保守資料の採取（CLI）
6.2 保守資料の採取（GUI）

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1. ISMとは

1.1 ISMの概要

1.2 ISM Essentialについて

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（1/16）

FUJITSU

ISMのコンセプト

ISMは、ICT機器について、管理の統合、異常状態やパフォーマンス情報の可視化、設定の自動化、
これらの機能によりICTインフラの運用をより一層簡単にします。

統合

複雑化する管理を統合して効率アップ

- サーバー、ストレージ、ネットワークスイッチなどを1つの画面で統合管理
- 異なる種類の機器やコンポーネントも共通の手順でファームウェアをアップデート
- vCenterやOpenStackから仮想マシンの情報を取得、反対にvCenterの画面にサーバーなどの物理マシンの情報を表示
- APIにより、既存の管理ツールと容易に連携

可視化

機器の状態や異常発生時の影響範囲をひと目で把握

- 実際のサーバーラックの前にいるかのように、機器の状態をビジュアルで再現
- データセンター・サーバールームの状態を機器のステータス情報と共に仮想的に3D表示
- 最新バージョンのファームウェアが適用されていない機器をハイライト
- ネットワークの結線情報をマップ表示

自動化

処理を自動化し作業時間を大幅に削減、操作ミスを撲滅

- 機器の設定情報をコピーして複数台に適用可能、機器の増設時も既存機器の設定情報から容易に複製
- 特定のイベントが発生したときに任意のスクリプトを自動で実行
- ラック単位で電力の上限値を設定可能、上限に近づくと機器のパフォーマンスを自動で制御
- APIを使って操作を自動化

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（2/16）

FUJITSU

ISMが提供する主な機能と特長

Infrastructure Manager “ISM”がICT機器の運用ライフサイクルを管理

ISMは、[Deploy]・[Control]・[Dynamize]・[Maintain]・[Integrate]というサーバーの運用サイクルを管理するために必要な機能を仮想アプライアンスとして提供します。

Dynamize -
データセンタ機器の運用・管理を「簡潔・効果的に」行うことをサポートします

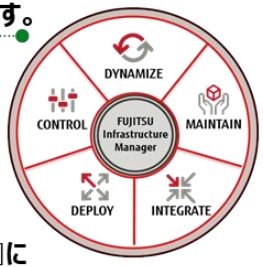
- 一元管理
- 仮想IO、ネットワーク管理

Control -
データセンタ機器監視のための各機能を統合し、『簡単・効果的』にサーバの集中管理を行うことをサポートします。

- 機器管理
- 状態監視・制御
- パフォーマンス監視
- 電源管理

Maintain -
機器の動作状態によらず、『いつ・どこから』でもメンテナンスを行うことをサポートします。

- ファームウェア管理
- イベント管理
- ログ管理



Deploy 導入 -
データセンタ機器の初期セットアップ、自動サーバインストールなどを『迅速・安心・確実』に行うことをサポートします。

- ハードウェア設定
- OS一括インストール

Integrate -
Systemwalker だけではなく、他社の管理ソフトウェアとも高い親和性を持っており、『シームレス』に連携しIT統合をサポートします。

- 他社管理ソフト連携
- APIインターフェース
- 他社機器管理

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（3/16）

FUJITSU

エディション別の主な機能

利用目的に応じた3つのエディションで多様なお客様のニーズに対応します

ISM Essential

- サーバ、ストレージ、ネットワークスイッチの情報・状態を監視
- ファームウェアの管理、アップデート
- ライセンス無償　※ サポートは有償 (SupportDesk)

ISM Advanced / Advanced for PRIMEFLEX

ISM Essentialの機能に加え

- ハードウェアの一括設定、OS一括導入
- ネットワーク接続情報表示
- 仮想リソース管理、IOリソース影響分析
- 電力制御
- 仮想化基盤向け拡張機能※　など…

※Advanced for PRIMEFLEXの機能

ISM Essential	ISM Advanced
	仮想化基盤向け拡張機能※
	他社サーバー管理
	定期ログ収集
	仮想リソース管理/IOリソース影響分析
	グループ単位の電力制御
	OS一括インストール
	ハードウェア設定
	アノマリ検知（CPU使用率予測）
	ネットワークマップ
	ラック・フロアイメージ表示
ダッシュボード	ダッシュボード
ストレージ・スイッチステータス監視	ストレージ・スイッチステータス監視
サーバーステータス監視	サーバステータス監視
SNMPトラップ受信・転送	SNMPトラップ受信・転送
インベントリ情報収集・表示	インベントリ情報収集・表示
ファーム版数表示・アップデート	ファーム版数表示・アップデート
SupportDeskリモート通報	SupportDeskリモート通報
ライセンス：無償	**ライセンス：有償**
サポート：有償	**サポート：有償**

Advanced のライセンスをご購入いただくことで Essential から Advancedへアップグレードが可能

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（4/16）

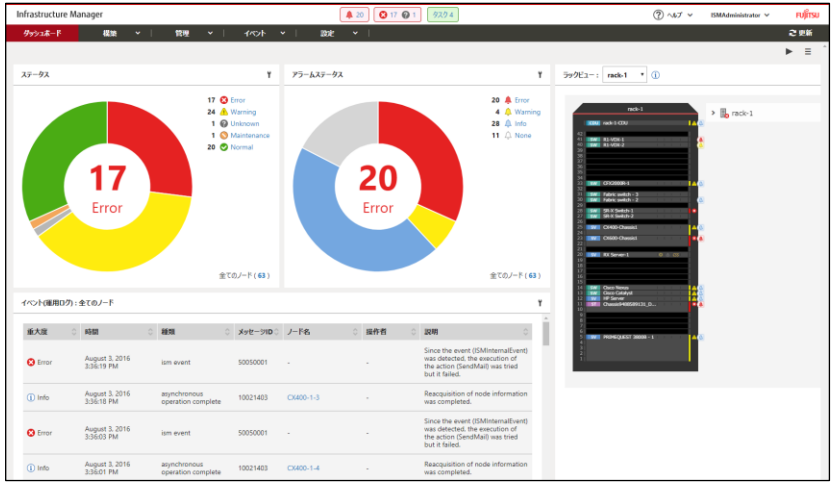
FUJITSU

多種多様な機器を統合してビジュアル管理

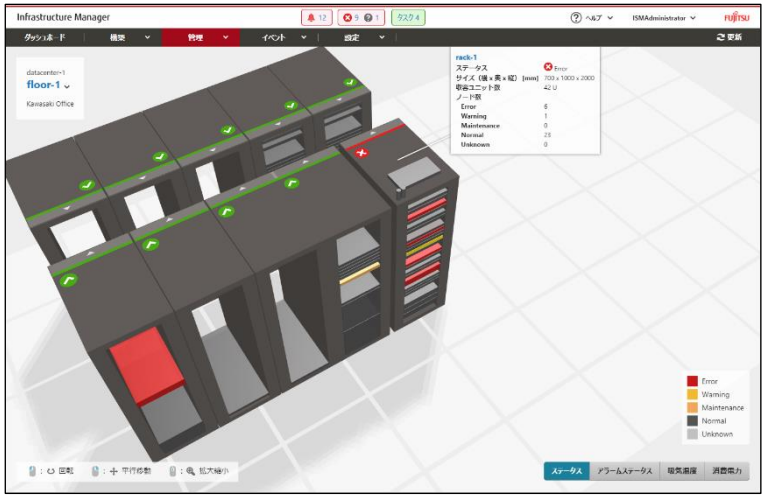
Essential　Advanced　PRIMEFLEX

※ラックビュー、3DビューはEssential非サポート

- **機器管理**
  - サーバー、ストレージ、スイッチ、ファシリティ機器 (UPS, CDU)の統合管理
  - データセンター、ラック、ノードそれぞれの位置管理と統合ステータス管理



ダッシュボード/ラックビュー



3D ビュー

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

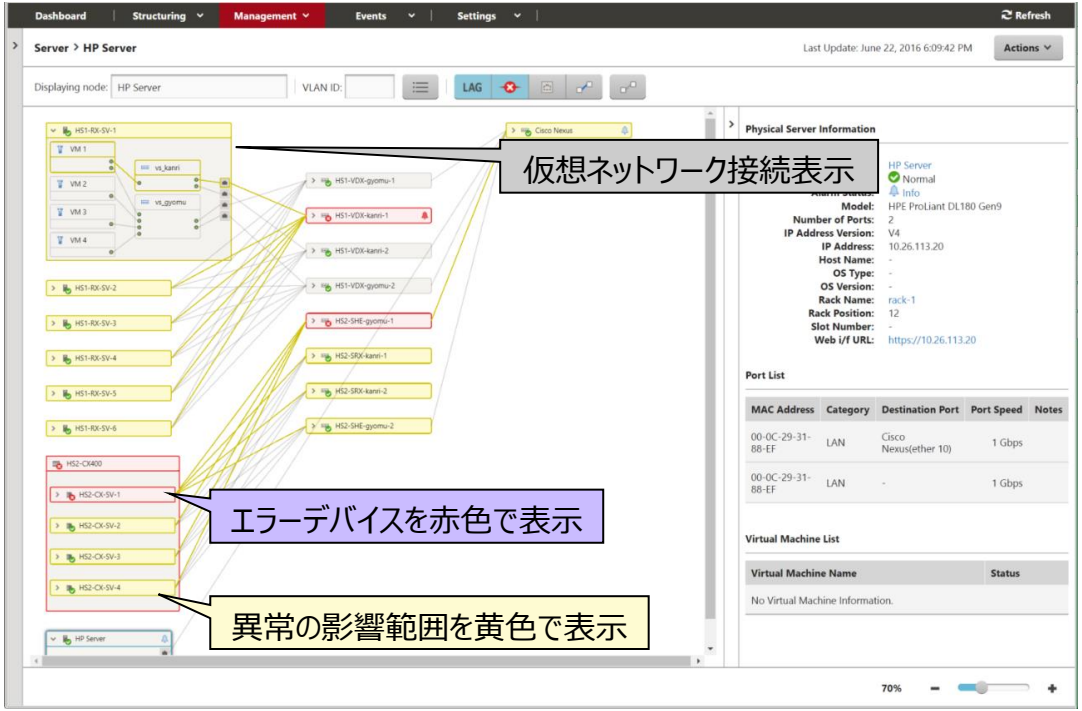
1.1 ISMの概要（5/16）

FUJITSU

ネットワークの接続情報をマップで表示

Advanced　PRIMEFLEX

- **ネットワークトポロジー管理**
  - ネットワーク接続情報の表示と情報取得の自動化
  - ネットワークスイッチとサーバのほか、ストレージとの接続、仮想ネットワークの接続情報も可視化
  - エラーと異常の影響範囲を一元監視
- **仮想ネットワークパケット分析**
  - 仮想ネットワークのパケット送受信量や通信遅延、送信ロスの情報を統計的に表示



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

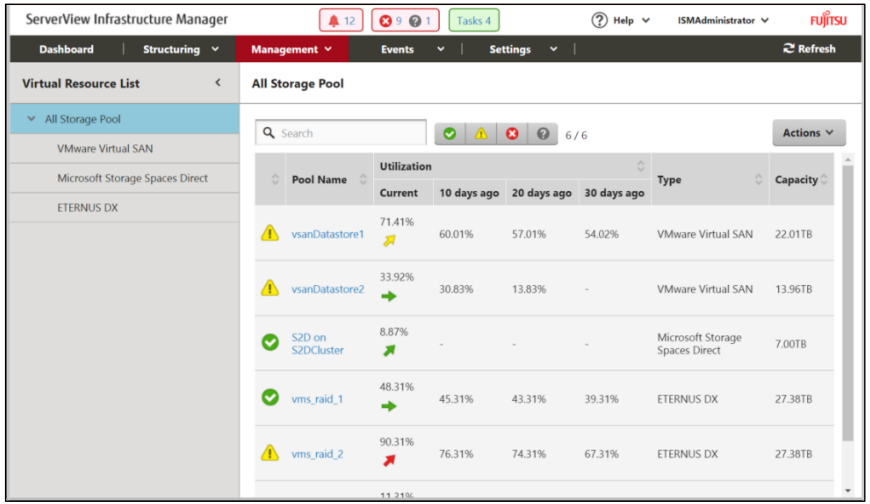
1.1 ISMの概要（6/16）

FUJITSU

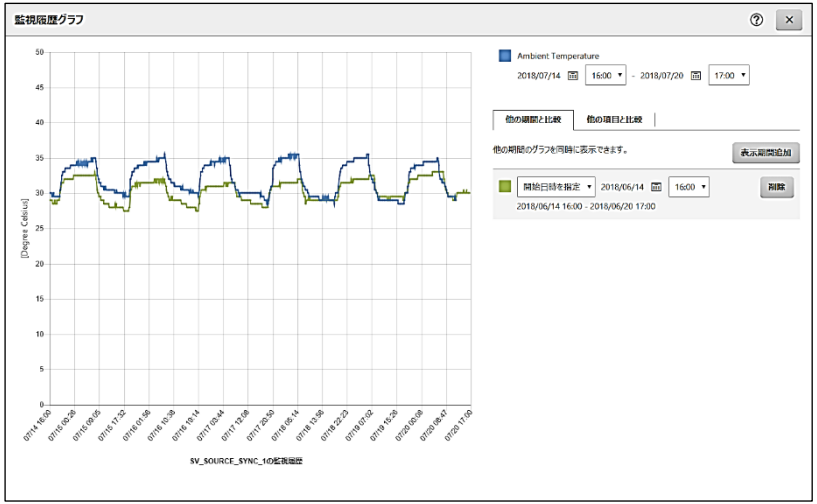
システムのリソース状態を監視

Essential | Advanced | PRIMEFLEX

- **状態監視**
  - ハードウェアの状態監視 (温度、ファン等)
  - リソース使用量の監視 (CPU、メモリ、ストレージ、仮想リソース等)
  - 監視項目としきい値のカスタマイズが可能



仮想リソース管理ビュー



複数パラメータを並べてグラフ表示

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

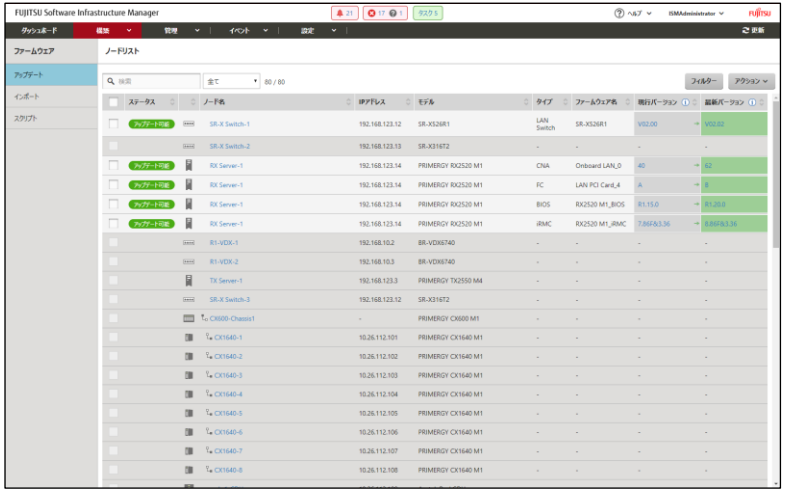
1.1 ISMの概要（7/16）

FUJITSU

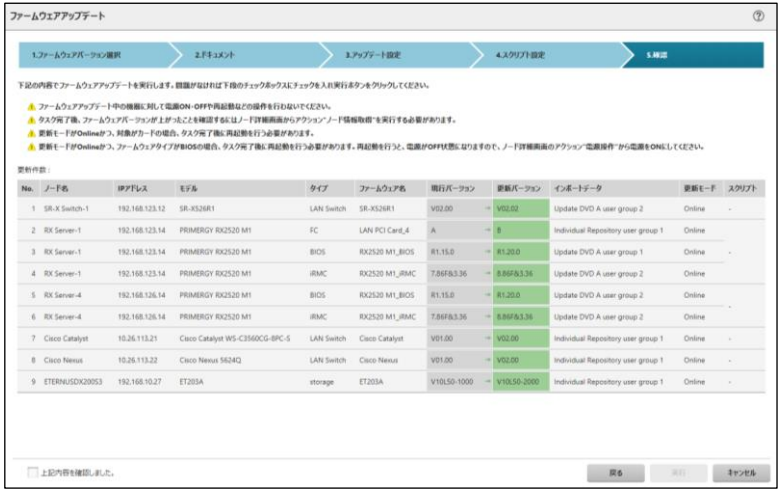
ファームウェアアップデートにかかる時間の削減

Essential　Advanced　PRIMEFLEX

- **アップデート管理**
  - 新しいバージョンのファームウェアがある場合にハイライト表示
  - 複数機器およびコンポーネントへの一括適用が可能



自動ファームウェアバージョンチェック



複数ノードのファームウェアを5ステップ※でアップデート
※[4.スクリプト設定]はスキップ可能

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（8/16）

FUJITSU

機器の平常時と異なる状態を検知する「アノマリ検知機能」

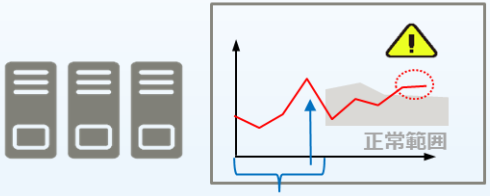
Advanced　PRIMEFLEX

アノマリ検知機能は、機器の平常状態を分析し、平常時と異なる状態を検知する機能です。
システム管理者の勘と経験で設定されていた、平常状態とする”しきい値”をISM が運用開始直後から学習を行い、
サーバーの状態にあった値に自動で設定します。また、学習によってトラブルの予測を行い、お客様の業務影響の予防にも活用することができます。
平常時と異なる状態を検知した際には、その解決方法を表示し、運用管理の業務を支援します。

運用開始時直後

運用開始直後の学習結果から、自動で閾値設定

トラブル未然防止のためのアラームを自動で設定



正常・異常の判定基準を自動で設定・修正

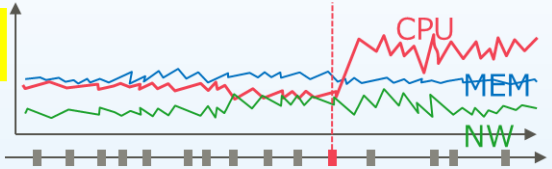
トラブル未然防止策や改善策を提示

運用中

トラブル発生時に自動で原因を特定

トラブル被疑個所の特定、問題解決までの時間を短縮

イベントログから自動で原因特定



(例)VMのライブマイグレーション操作

システム運用データを蓄積し、自律的に精度向上

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（9/16）

FUJITSU

アノマリ検知機能 - CPU使用率予測

Advanced　PRIMEFLEX

CPU使用率予測はアノマリ検知機能の一つです。予測用データを収集し、CPUの許容平均利用率を超える振る舞いが発生すると管理者へ瞬時に通知します。仮想マシンのCPU枯渇予測を行い、異変の検知と対策を支援します。

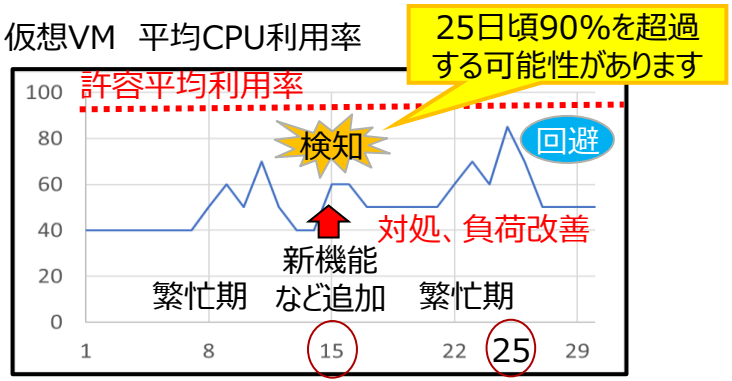
新機能追加後のアクセス繁忙期にスローダウンが発生。
追加機能を疑うが、急なサービス停止もできず、
アクセス制限などの対処療法に追われる。

仮想VM　平均CPU利用率

CPUの振る舞いを監視し、今後の負荷変動、性能低下を予測。
繁忙期に入る前に負荷分散などで事前対処が可能。

リソースのひっ迫時期を予測！

仮想VM　平均CPU利用率



アノマリ検知により"いつもとちがう振る舞い"を検知し、更にリソース枯渇予測を行うことで、将来のトラブルの可能性に事前に対処ができ、システムの安定稼働につながります。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（10/16）

FUJITSU

仮想リソース管理 - I/Oリソース影響分析

Advanced　PRIMEFLEX

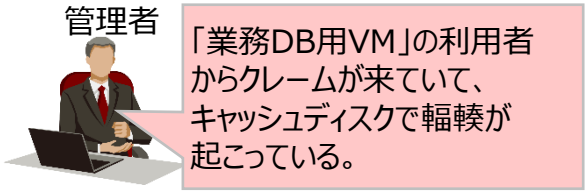
※V2.8.0以降で使用可能な機能

仮想マシンのI/O性能劣化時に、影響範囲分析と要因分析を支援します。
サーバーの停止や物理ディスク（キャッシュディスクおよびキャパシティディスク）の性能低下が発生した時に影響を与える仮想マシンを表示します。

VMware vSANにてキャッシュディスクへのアクセス集中で
I/O障害が発生。障害の影響を受ける仮想マシンの調査や
特定までに時間がかかる。

物理ディスクと仮想マシンのI/Oの関係性を分析し、
影響する仮想マシンをGUIで瞬時に特定・表示

VMの物理サーバー上の配置によらず、簡単に影響VMを抽出



ISMにアクセス

性能劣化時にボトルネック箇所を発見し、それを引き起こした高負荷VMを特定する事で、
調査時間を大幅に短縮。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（11/16）

FUJITSU

仮想リソース管理 - リソース変動予測

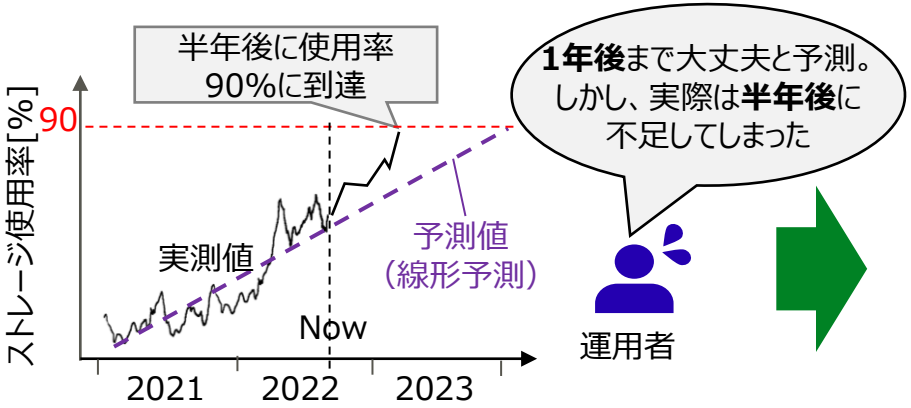
Advanced　PRIMEFLEX

※V2.8.0.061以降で使用可能な機能

ワークロードが変化しても将来のリソース変動を精度よく見積もれます

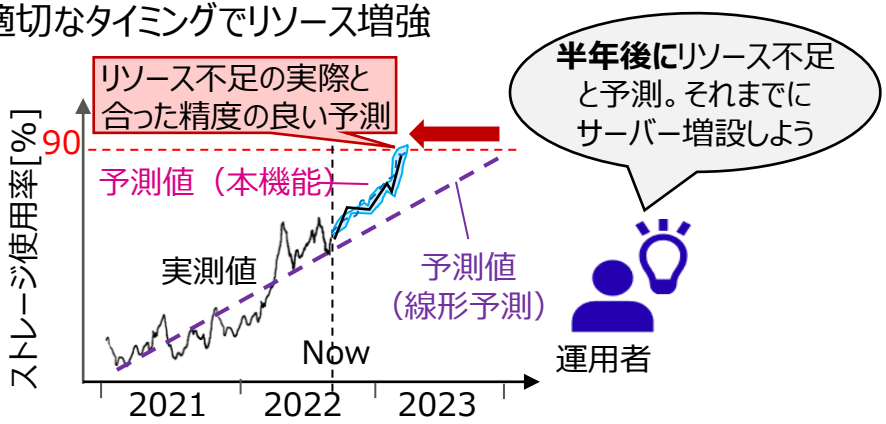
before

■ **運用者の経験や勘、或いは一般的な線形予測**
➡ リソース増強が遅れ、性能低下が発生



after

■ **複数の予測モデル(線形予測、トレンド変化予測、周期予測)から自動的に適したものを選択して、精度よく予測**
➡適切なタイミングでリソース増強



Point

リソース不足時期を適切に予測し、
設備コストの最適化とシステムの安定稼働の両立をサポート

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（12/16）

FUJITSU

エディション別の製品体系　-1

ISMの製品体系は、以下の体系で構成されており、ライセンスにより利用できる機能が異なります。

- **メディアパック**
  ISMのインストールメディアです。ISMは、動作基盤となるソフトウェアを仮想マシン向けにパッケージ化した仮想アプライアンスとして提供されます。ISM（仮想アプライアンス）を動作させるハイパーバイザーに応じてメディアパックを選択する必要があります。

- **サーバーライセンス**
  ISMで使用可能な機能範囲を解除するためのライセンスです。使用可能な機能（動作モード）は、サーバーライセンスの登録有無およびサーバーライセンスの種類によって異なります。必要な機能（動作モード）に応じて必要なサーバーライセンスを用意してください。
  サーバーライセンスはISM（仮想アプライアンス）ごとに必要です。

- **ノードライセンス**
  ISMで管理できるノード数の上限を許諾するためのライセンスです。ISMでノードを監視／運用するために必要です。
  管理対象機器（ノード）の増加に合わせてノードライセンスを用意してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（13/16）

FUJITSU

エディション別の製品体系　-2

ISMの製品体系は、以下の表になります。

ISMの製品体系	動作モード		
	Essential	Advanced	Advanced for PRIMEFLEX
メディアパック	Infrastructure Manager for Red Hat Enterprise Linux KVM メディアパック V2 Infrastructure Manager for vSphere メディアパック V2 Infrastructure Manager for Windows Server Hyper-V メディアパック V2		Infrastructure Manager for PRIMEFLEX メディアパック（ESXi）　V2
サーバーライセンス	ライセンス登録なし	Infrastructure Manager Advanced Edition サーバーライセンス V2	Infrastructure Manager Advanced Edition for PRIMEFLEX サーバーライセンス V2
ノードライセンス [注1]	ライセンス登録なしで最大1000台までノード登録可能	Infrastructure Manager ノードライセンス V2 最大1000台までノード登録可能	Infrastructure Manager for PRIMEFLEX ノードライセンス V2 最大1000台までノード登録可能

[注1]：ノードライセンスは、登録する機器によってノードライセンス数の数え方が異なります。ノードライセンスの数え方については、弊社の本製品Webサイトで『管理対象機器一覧』の「必要サーバー・ノードライセンス数」シートを参照してください。
http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（14/16）

FUJITSU

エディション別の機能一覧 -1

動作モードごとにサポートする機能を紹介します。凡例：○＝サポート、－＝非サポート

機能	動作モード		
	Essential	Advanced	Advanced for PRIMEFLEX
ノード管理機能	○[注1]	○	○
モニタリング機能	○[注2]	○	○
ファームウェア管理機能	○[注3]	○	○

[注1]：仮想化管理ソフトウェア管理機能を使用するには、AdvancedまたはAdvanced for PRIMEFLEXのサーバーライセンスが必要です。
詳細については、『解説書』の「2.13.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能」を参照してください。

[注2]：以下の機能を使用するには、AdvancedまたはAdvanced for PRIMEFLEXのサーバーライセンスが必要です。

- ノードのラック搭載位置表示、3Dビュー表示
  詳細については、『入門書』の「1.1.2 複数機器の状態を一元的に監視（モニタリング機能）」を参照してください。
- 監視ポリシーの設定
  詳細については、『解説書』の「2.2.1.6 ノードの検出」-「検出したノードの登録時のハードウェア設定」を参照してください。
- アノマリ検知（普段と異なる動作／状態の監視）
  詳細については、『解説書』の「2.3.6 アノマリ検知機能」を参照してください。

[注3]：ファームウェア版数管理（ファームウェアベースライン）を行うには、AdvancedまたはAdvanced for PRIMEFLEXのサーバーライセンスが必要です。詳細については、『解説書』の「2.6.5 ファームウェアベースライン」を参照してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（15/16）

FUJITSU

エディション別の機能一覧 -2

動作モードごとにサポートする機能を紹介します。凡例：○＝サポート、－＝非サポート

機能	動作モード		
	Essential	Advanced	Advanced for PRIMEFLEX
プロファイル管理機能	-	○	○
ログ管理機能	-	○	○
ネットワーク管理機能	-	○	○
電力制御機能[注4]	-	○	-
仮想リソース管理機能[注5]	-	○	○
ハードウェア設定バックアップ/リスト機能[注6]	-	○	○
仮想ネットワークパケット分析機能[注7]	-	○	○

[注4]:機能の詳細については、『解説書』の「2.8 電力制御機能」を参照してください。
[注5]:機能の詳細については、『解説書』の「2.9 仮想リソース管理機能」を参照してください。
[注6]:機能の詳細については、『解説書』の「2.10 ハードウェア設定バックアップ/リストア機能」を参照してください。
[注7]:機能の詳細については、『解説書』の「2.11 仮想ネットワークパケット分析機能」を参照してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.1 ISMの概要（16/16）

FUJITSU

エディション別の機能一覧 -3

動作モードごとにサポートする機能を紹介します。凡例：○＝サポート、－＝非サポート

機能		動作モード		
		Essential	Advanced	Advanced for PRIMEFLEX
仮想化基盤向け拡張機能	クラスタ管理機能	-	-	○
	クラスタ作成機能	-	-	○
	クラスタ拡張機能	-	-	○
	ローリングアップデート機能	-	-	○
	ノード切離し/組込み機能 [注8]	-	-	○
	クラスタ停止機能 [注9]	-	-	○
ISMのバックアップ/リストア [注10]		○	○	○

[注8]：機能の詳細については、『解説書』の「2.12.5 ノード切離し／組込み機能」を参照してください。
[注9]：機能の詳細については、『解説書』の「2.12.8 クラスタ停止機能」を参照してください。
[注10]:機能の詳細については、『解説書』の「4.4.2 ISM-VA管理コマンドによるISMのバックアップ／リストア」を参照してください。

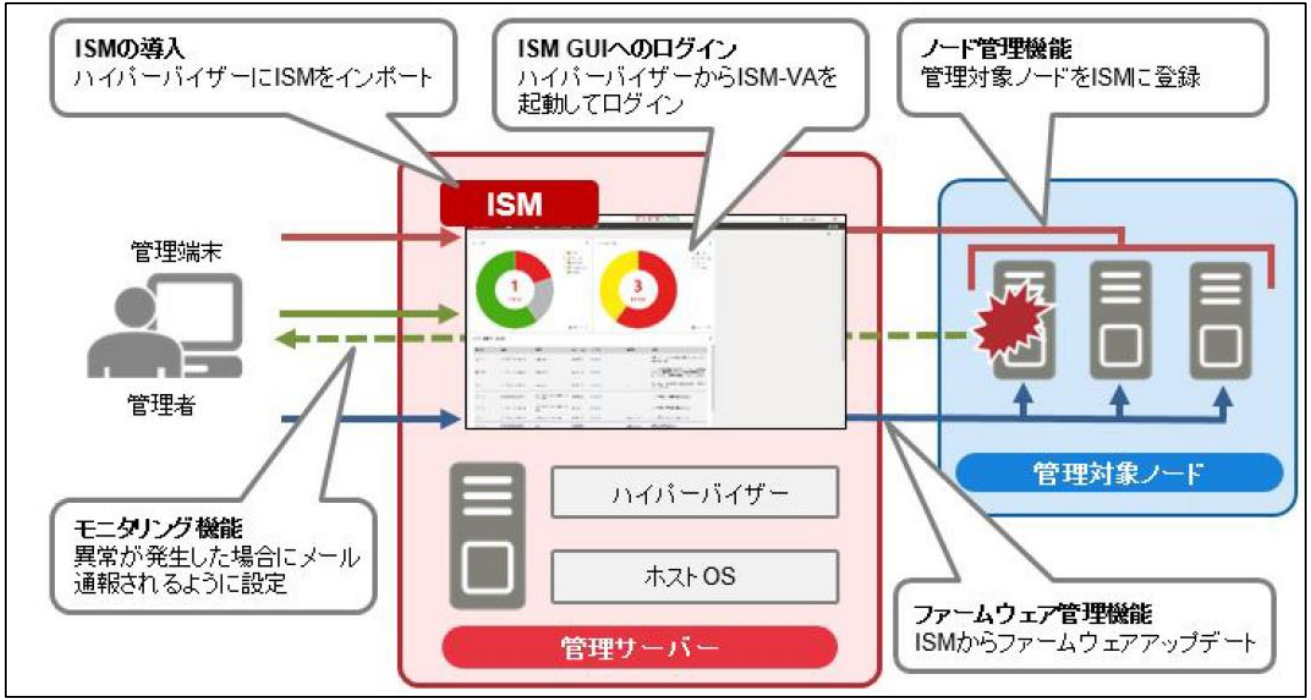
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.2 ISM Essentialについて（1/2）

FUJITSU

ISM Essentialの特長 -1

ISM Essentialはサーバー、ストレージ、スイッチの状態監視およびファームウェア管理に利用できます。
以下に、ISM Essentialで利用できる機能の概要を示した図を記載します。



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

1.2 ISM Essentialについて（2/2）

FUJITSU

ISM Essentialの特長 -2

ISM Essentialは、他の動作モードと違い、サーバーライセンスやノードライセンスは不要です。
ただし、サポート契約（SupportDesk）は有償になります。
以下のサービスを受けるために、サポート契約を結ぶことを推奨します。

① ISM Essentialに関するお問い合わせへの対応
② 最新版のアップデートモジュールの提供

※サポート契約がなくとも、ダウンロードサイトに公開されている修正パッチ（例：V2.7.0.000⇒V2.7.0.020）の適用は可能です。
しかし、アップデートモジュール（例：V2.7.0⇒V2.8.0）は提供されないため、
最新化したい場合に、ISMの入れ替えが発生し、再設定が必要になります。

また各サポート契約の価格は、以下の通りです。（2023/4/28時点）

品名	時間帯	型名	価格（税別）
Infrastructure Manager Essential Edition	平日8:30-19:00	SV7BA003G	4,450円/月
	24時間365日	SV7BA003R	5,550円/月

【参考】
https://fujitsu.sharepoint.com/sites/jp-sdk/SitePages/services/supportdesk/standard/server.aspx
※上記サイトにアクセスできない場合は、担当の富士通営業など、上記のWebサイトにアクセスできる方から入手してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2. ISMの導入

2.1 ISM導入前の準備

2.2 ISMの導入

2.3 初期設定

2.4 ログイン

2.5 ISMへのパッチ適用

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.1 ISM導入前の準備（1/3）

FUJITSU

ISMの導入前準備 -1

ISMの導入準備として確認する要件は、ISMを動作させるハイパーバイザーの要件と、ISMのGUIを表示する管理端末の要件の2つです。
以下に「ISMを動作させるハイパーバイザーの要件」を記載します。

ISMを動作させるハイパーバイザーの要件

項目	説明
CPUコア数	2コア以上 [注1][注5][注6]
メモリー容量	16GB以上 [注1][注5][注6]
空きディスク容量	70GB以上 [注2][注3][注4][注5][注6]
ネットワーク	1Gbps以上
ハイパーバイザー	• Hyper-Vの役割が含まれる Microsoft Windows Server 2012/2012R2/2016/2019/2022 • Azure Stack HCI OS version 20H2/21H2/22H2 [注7] • VMware ESXi 6.5/6.7/7.0/8.0 [注8] • KVMがインストールされている Red Hat Enterprise Linux 7.3/7.4/7.6/7.7/7.9/8.2/8.4/8.6/8.7/8.8/9.0/9.1/9.2 • KVMがインストールされている SUSE Linux Enterprise Server 12 SP4/12 SP5/15/15 SP1/15 SP2/15 SP3/15 SP4/15 SP5 • Nutanix AHV [注8]

[注1]:管理するノード数に応じて、必要なコア数およびメモリー容量が異なります。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.1 ISM導入前の準備（2/3）

FUJITSU

ISMの導入前準備 -2

[注2]:管理するノード数および使用するISMの機能に応じて、ディスク容量を見積る必要があります。
『解説書』の「3.2.1 ディスク資源の見積り」を参照してください。
[注3]:ISM-VAをバックアップする場合は、管理サーバーにISM-VAと同等以上の空きディスク容量が必要です。
[注4]:ISM-VA導入時に固定的に割り当てる必要があります。
[注5]:仮想ネットワークパケット分析機能を使用するには、ISM-VAが動作するハイパーバイザーにリソースの追加が必要です。
機能ごとにISM-VAに必要なリソースは『解説書』の「1.3.1 ISM-VAを動作させるハイパーバイザーの要件」を参照してください。
[注6]:アノマリ検知機能を使用するには、ISM-VAが動作するハイパーバイザーにリソースの追加が必要です。
必要なリソースは『解説書』の「2.3.6.1 動作要件」を参照してください。
[注7]:管理端末にインストールされたHyper-Vマネージャーからリモート接続して操作する必要があります。
Hyper-Vマネージャーの詳細は、MicrosoftのWebサイトを参照してください。
https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/virtualization/hyper-v/manage/remotely-manage-hyper-v-hosts
[注8]:Nutanix Enterprise Cloud on PRIMERGYの場合は、AOS 5.15.5以降でサポートしているVMware ESXiまたはAHVのバージョンに対応しています。

管理するノード数に応じた、必要なコア数およびディスク容量（参考）を以下に示します。

ノード数	CPUコア数	ディスク容量（参考）
1～100	2	20GB
101～400	4	80GB
401～1000	8	200GB

上記の表は、『解説書』の「3.2.1.3 ノード管理データ容量の見積り」を参考に記載しています。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.1 ISM導入前の準備（3/3）

FUJITSU

ISMの導入前準備 -3

管理端末のシステム要件	
項目	**説明**
デバイス	パソコン、サーバー、Windows 10タブレット、Androidタブレット、iPad
ディスプレイ	・パソコン、サーバー、Windows 10タブレット：1280×768ピクセル以上 ※ISM GUIを表示するブラウザのウィンドウサイズを1280×768ピクセル以上にする必要があります。 ・タブレット:上記デバイスが搭載するディスプレイ
ネットワーク	100Mbps以上
Webブラウザ	・パソコン、サーバー、Windows 10タブレット： – Microsoft Edge 115以降 – Mozilla Firefox 115以降 – Google Chrome 115以降 ・Androidタブレット：Google Chrome 43以降 ・iPad：Safari13以降 安定した動作のため、各ブラウザは最新バージョンを利用してください。
関連ソフトウェア	Acrobat Reader（マニュアル表示用）

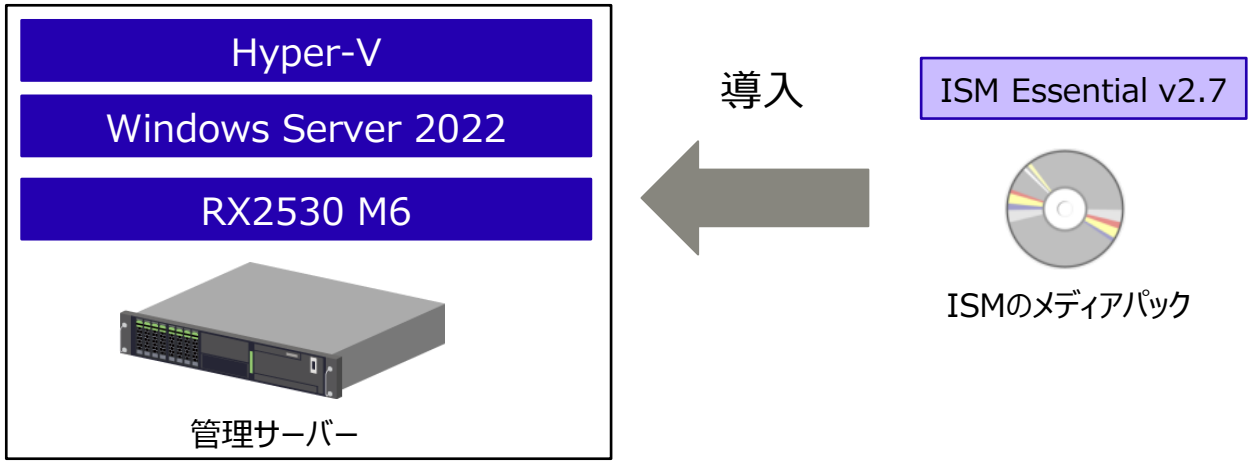
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（1/30）

ISMを導入する

ISMは、ISMの各メディアパックに同梱されています。
インストール先となるハイパーバイザーに応じた手順で、ISMを導入します。

本資料では、事前にWindowsとHyper-Vの導入・設定を実施しています。
そのため、Hyper-VにISM（仮想アプライアンス）を導入する所から実施します。

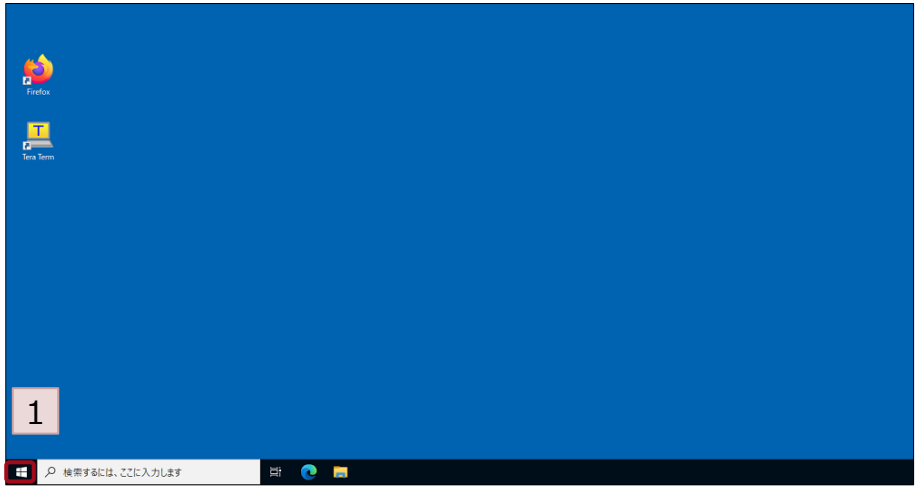


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（2/30）

FUJITSU

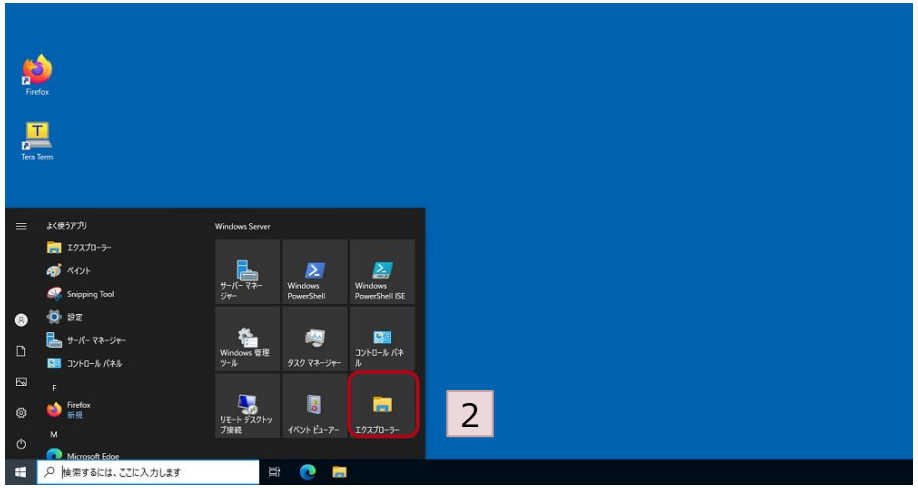
ISMのインポート -1



1. [スタートボタン]をクリックします。

Hyper-VにISM（仮想アプライアンス）を導入します。

ISMのインポート -2



2. [エクスプローラー]をクリックします。

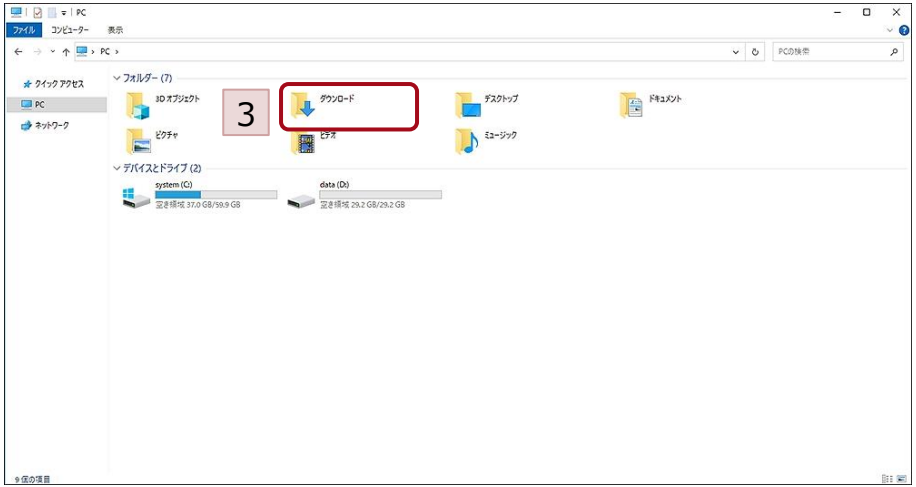
本資料では事前に、ISMのメディアパックに含まれるzipファイルを[ダウンロード]に格納しています。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（3/30）

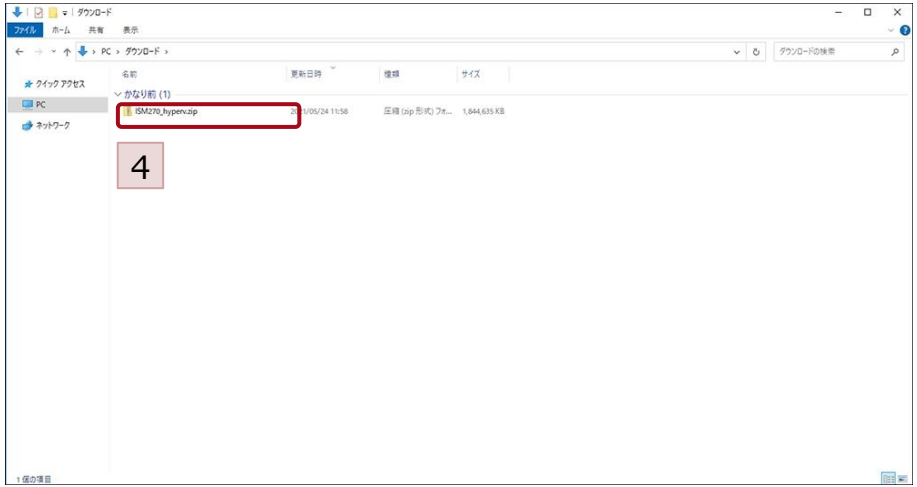
FUJITSU

ISMのインポート -3



3. [ダウンロード]をダブルクリックします。

ISMのインポート -4



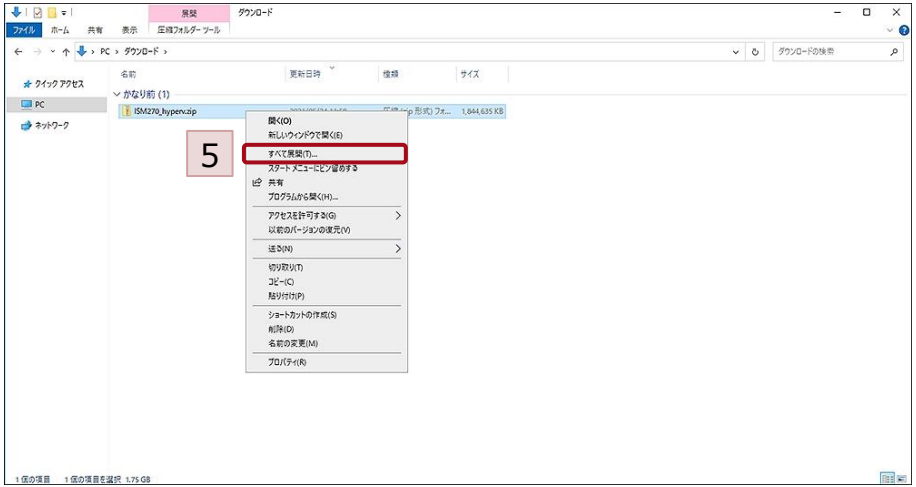
4. [ISM270_hyperv.zip]を右クリックします。

ISMのメディアパックに含まれるzipファイルを展開します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

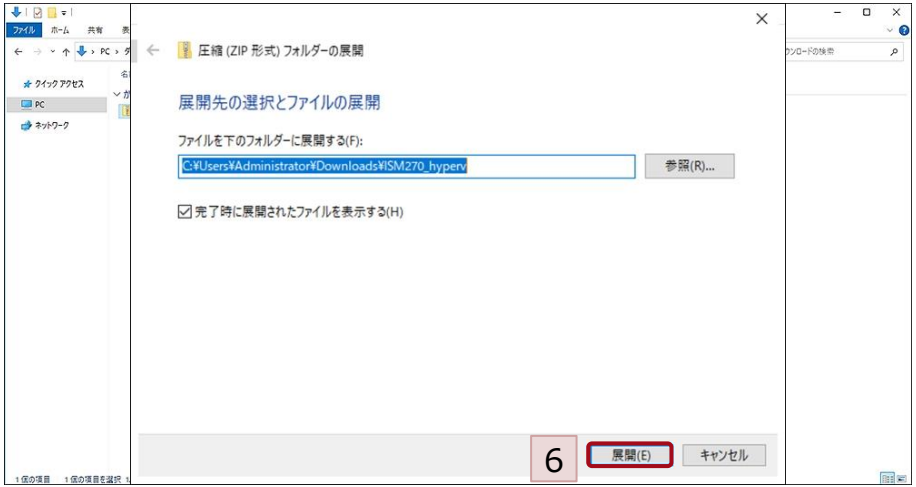
2.2 ISMの導入（4/30）

ISMのインポート -5



5. [すべて展開]をクリックします。

ISMのインポート -6



6. [展開]をクリックします。

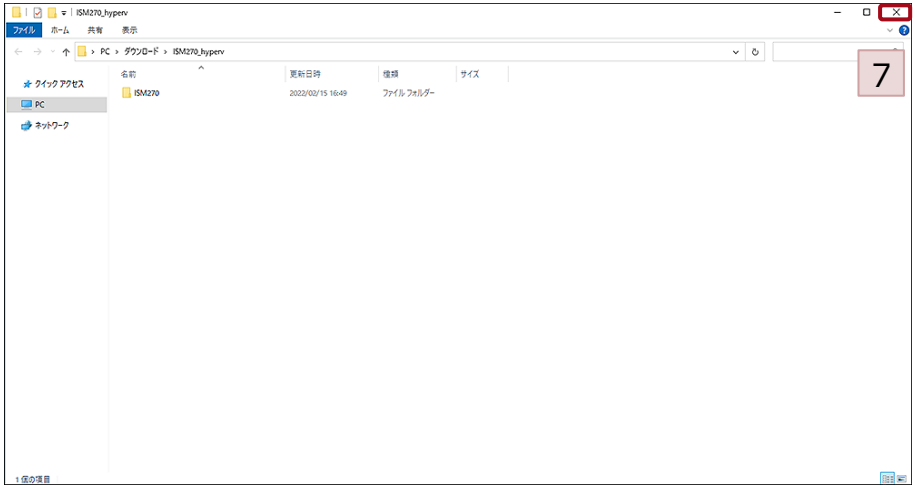
任意の場所に、ISMのファイルを展開します。
※本資料では、zipファイル格納先と同じフォルダーに展開します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（5/30）

FUJITSU

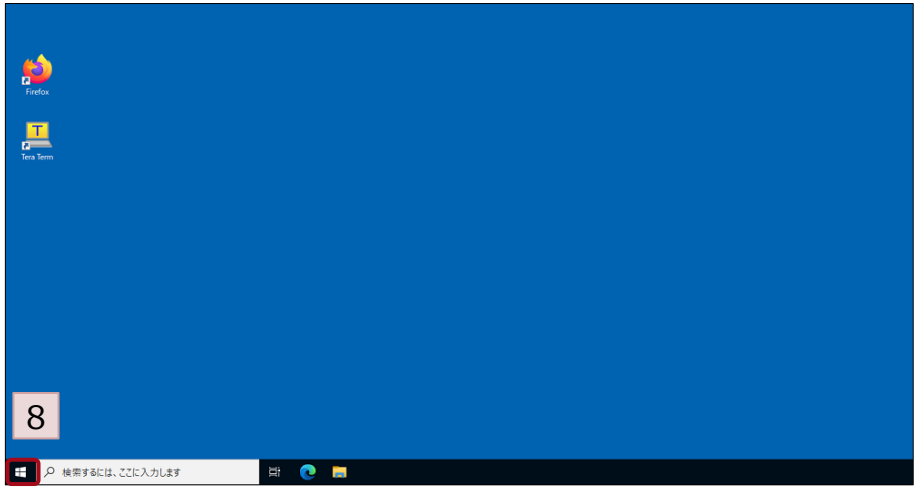
ISMのインポート -7



7. 右上の[×]をクリックして画面を閉じます。

[ISM270]のファイルが展開されていることを確認します。

ISMのインポート -8



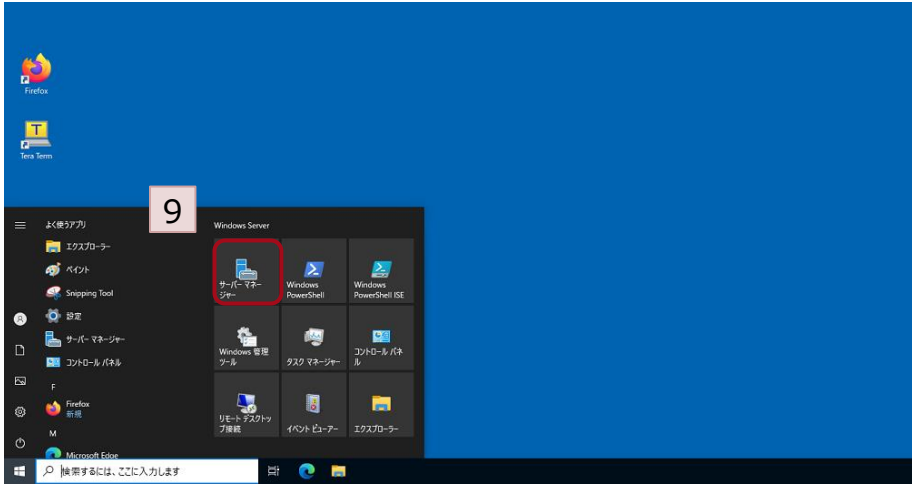
8. [スタートボタン]をクリックします。

Hyper-Vマネージャーを起動します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（6/30）

ISMのインポート -9



9. [サーバーマネージャー]をクリックします。

ISMのインポート -10

10. [ツール]をクリックします。

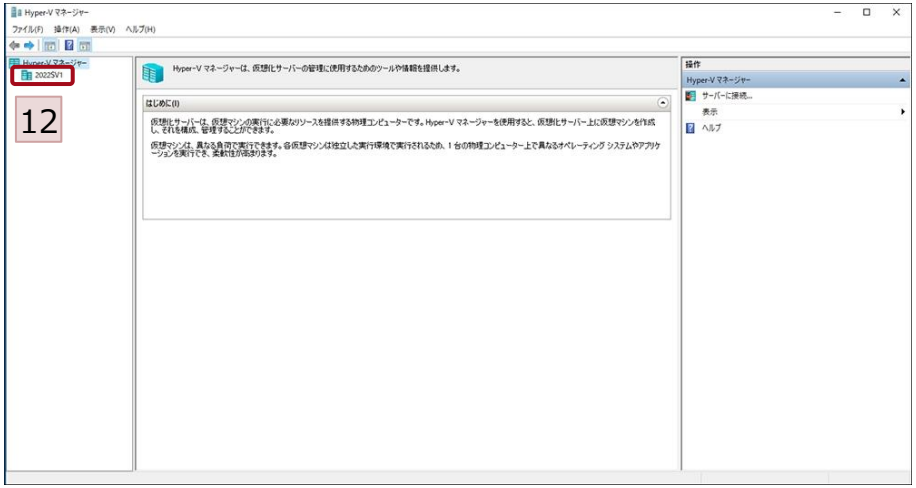
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（7/30）

ISMのインポート -11

11. [Hyper-V マネージャー]をクリックします。

ISMのインポート -12



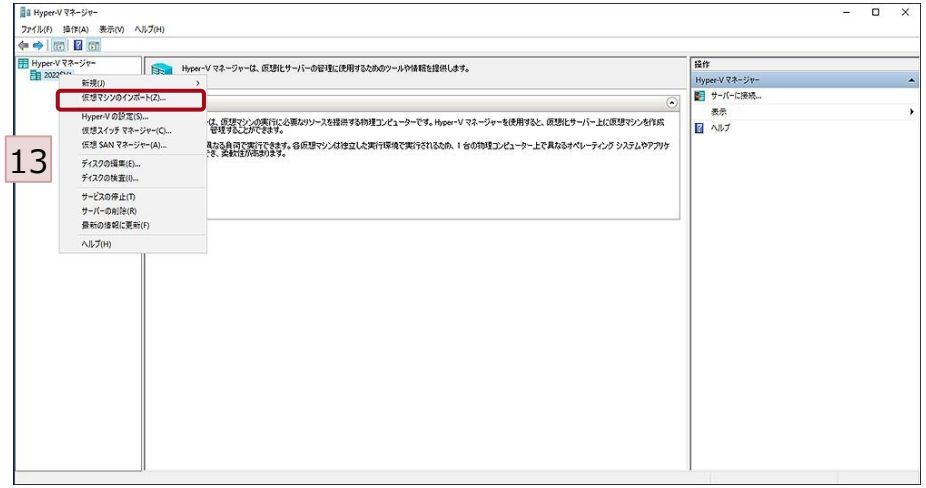
12. [2022SV1]を右クリックします。

Hyper-Vホストの[ホスト名]を右クリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（8/30）

ISMのインポート -13



13. [仮想マシンのインポート]をクリックします。

ISMのインポート -14

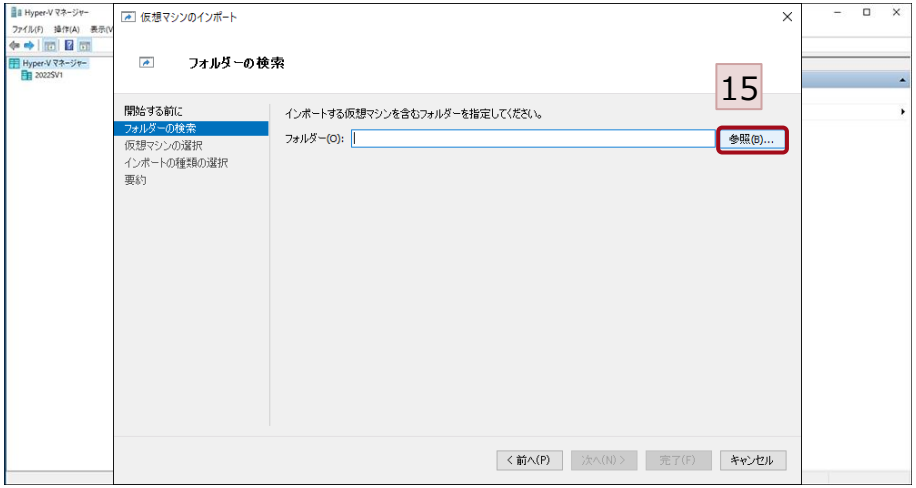
14. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（9/30）

FUJITSU

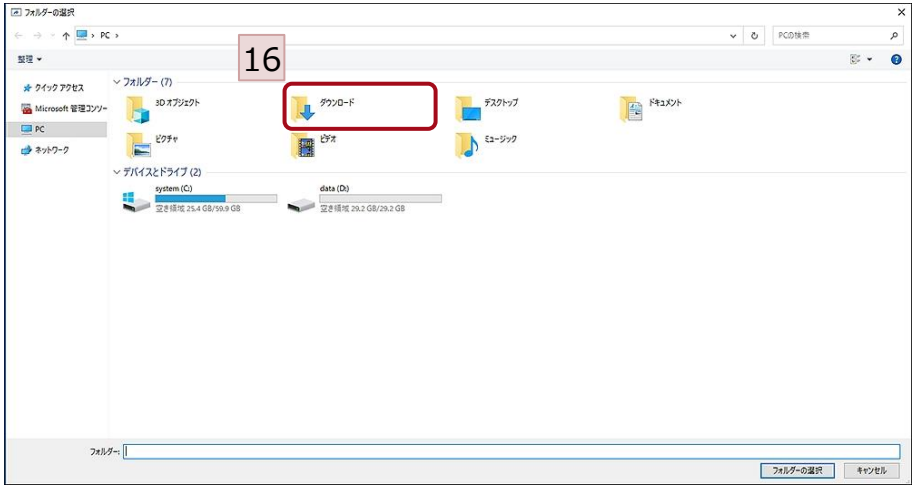
ISMのインポート -15



15. [参照]をクリックします。

先ほどの手順で展開したフォルダーを選択します。

ISMのインポート -16

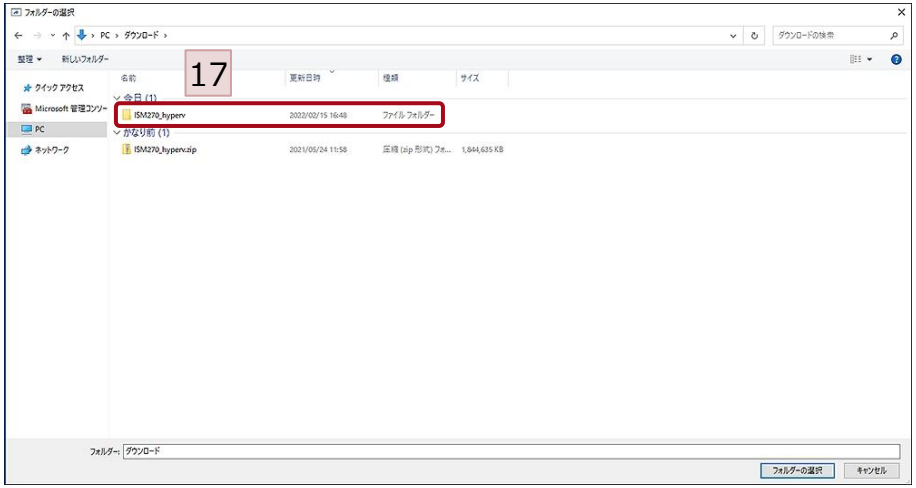


16. [ダウンロード]をダブルクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

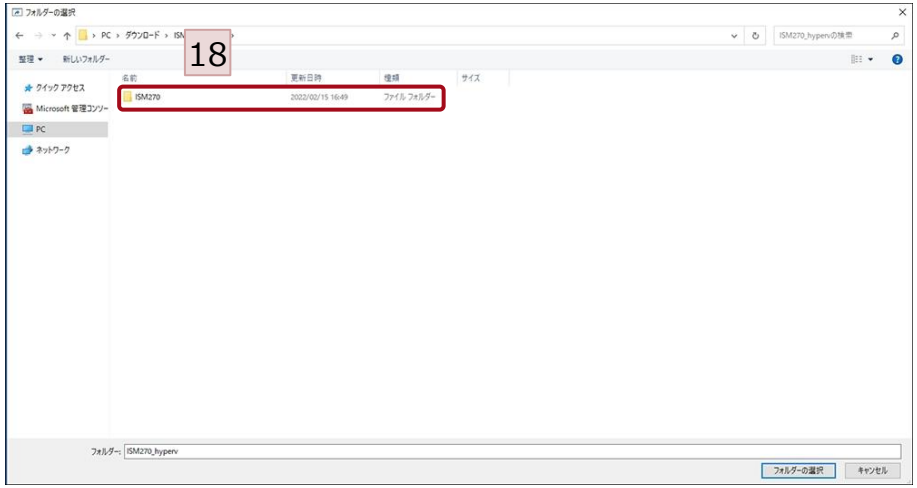
2.2 ISMの導入（10/30）

ISMのインポート -17



17. 展開されている[ISM270_hyperv]フォルダーをダブルクリックします。

ISMのインポート -18

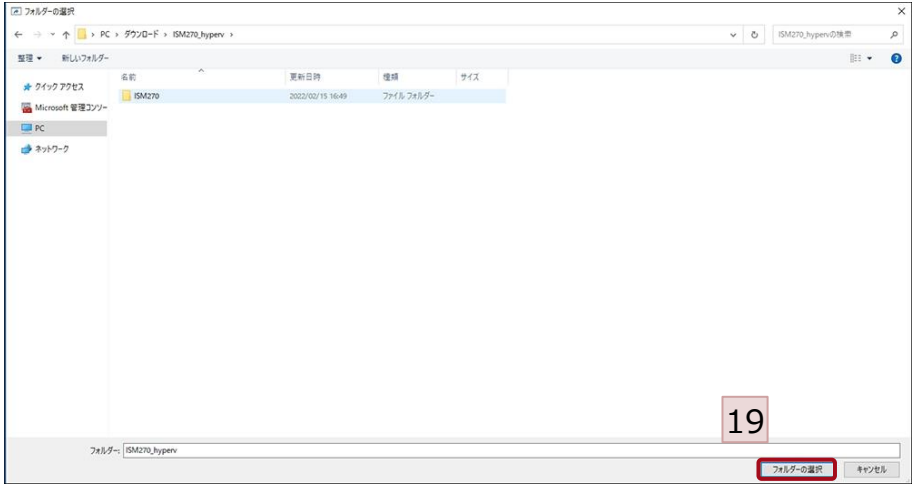


18. [ISM270]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

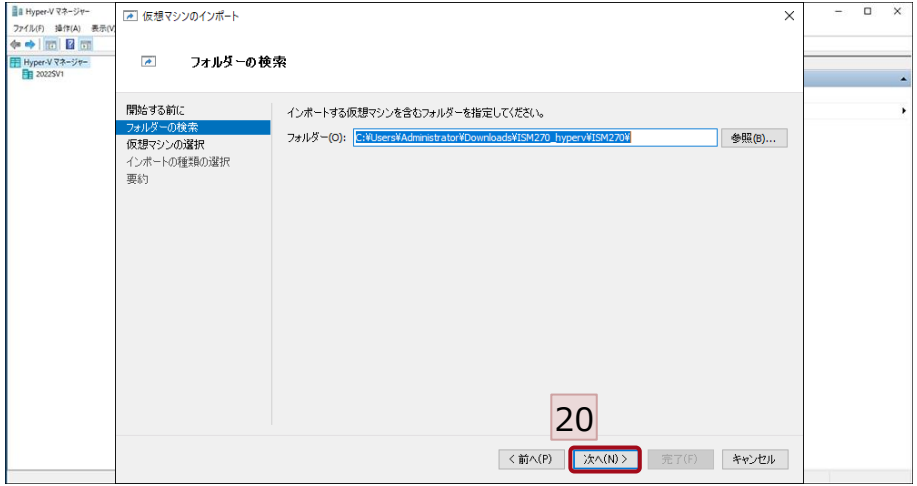
2.2 ISMの導入（11/30）

ISMのインポート -19



19. [フォルダーの選択]をクリックします。

ISMのインポート -20



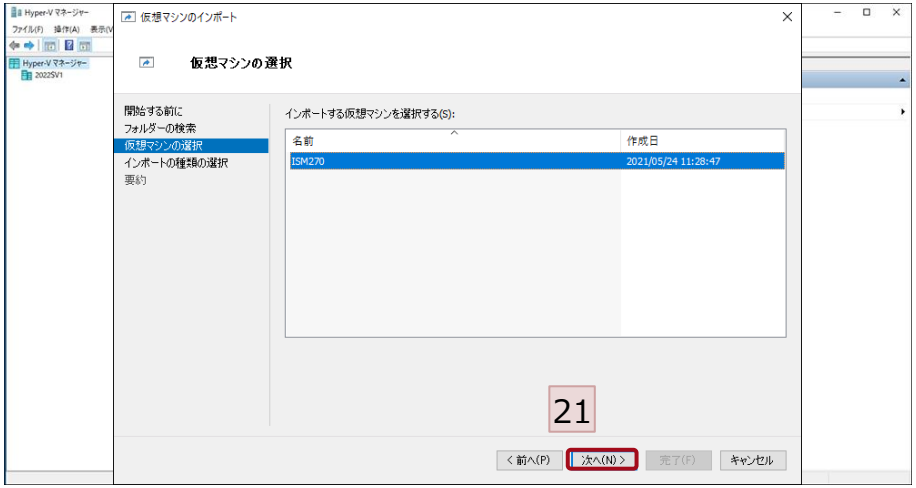
20. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（12/30）

FUJITSU

ISMのインポート -21



21. [次へ]をクリックします。

インポートする仮想マシンの名前が表示されていることを確認してください。

ISMのインポート -22

22. [仮想マシンをコピーする]を選択します。
23. [次へ]をクリックします。

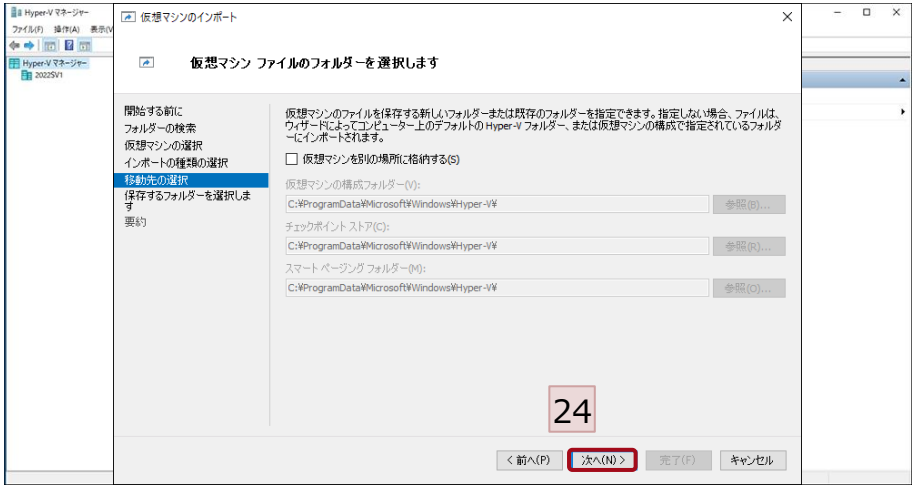
実行するインポートの種類を選択します。
※ISMは仮想アプライアンス製品ですので、[仮想マシンをコピーする]を選択します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（13/30）

FUJITSU

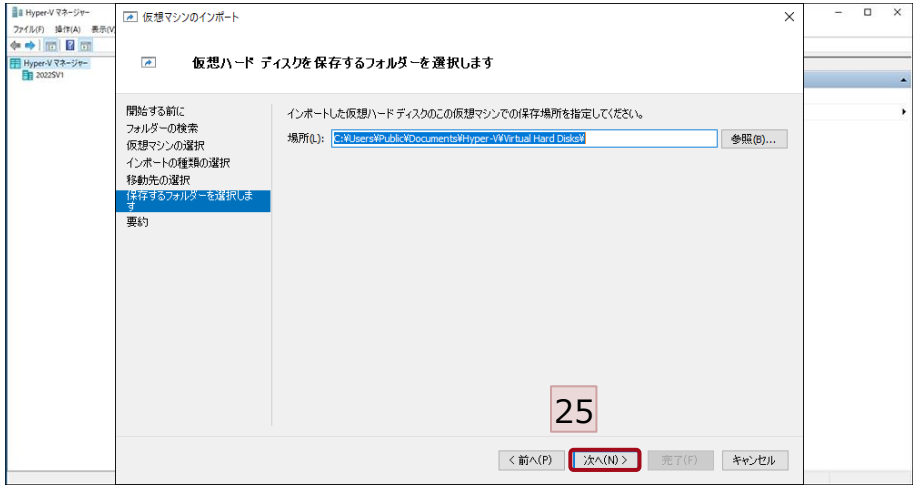
ISMのインポート -23



24. [次へ]をクリックします。

仮想マシンの格納場所を選択します。
※格納場所を変更したい場合、[仮想マシンを別の場所に格納する]にチェックをつけて、仮想マシンの格納場所を変更してください。

ISMのインポート -24



25. [次へ]をクリックします。

ISMの仮想ハードディスクの格納場所を選択します。
※必要に応じて格納場所を変更してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（14/30）

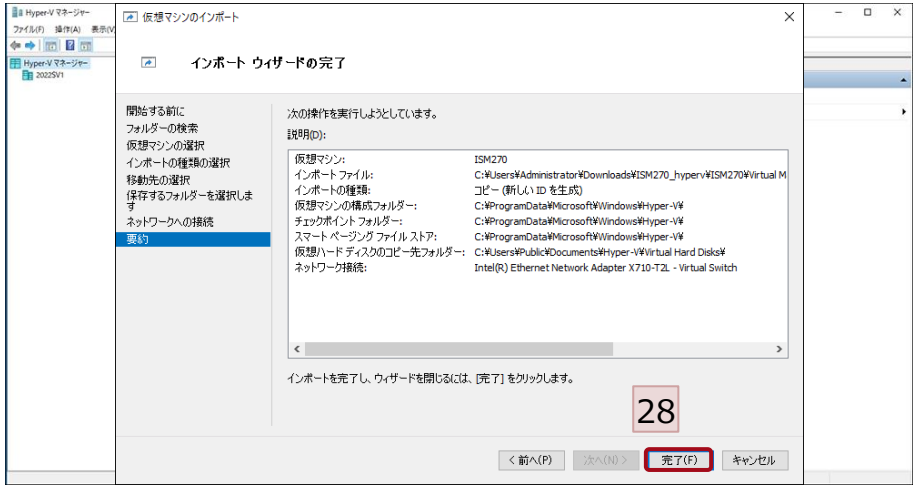
FUJITSU

ISMのインポート -25

26. プルダウンから、[Intel X710-T2]を選択します。
27. [次へ]をクリックします。

ISMで使用する仮想スイッチを選択します。

ISMのインポート -26



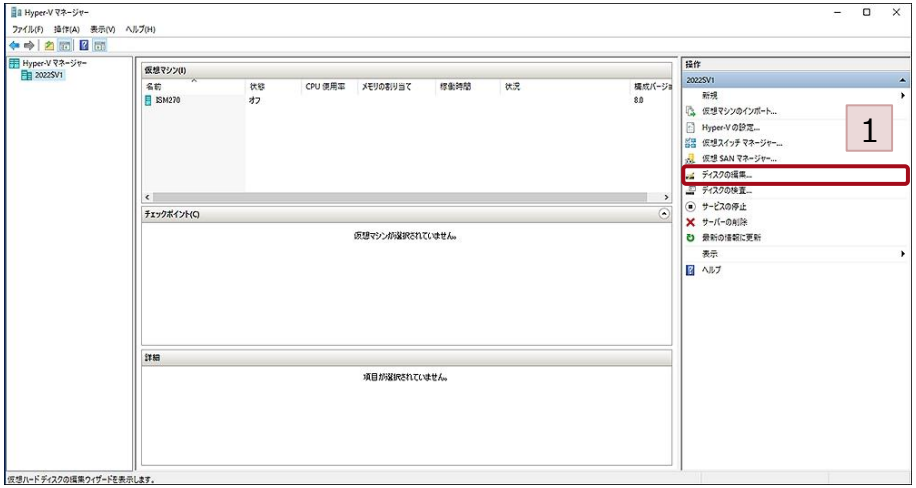
28. [完了]をクリックします。

以上でISMのインポートは完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（15/30）

ハードディスクの固定容量変換 -1



1. [ディスクの編集]をクリックします。

仮想ハードディスクを[固定容量]に変換します。

ハードディスクの固定容量変換 -2

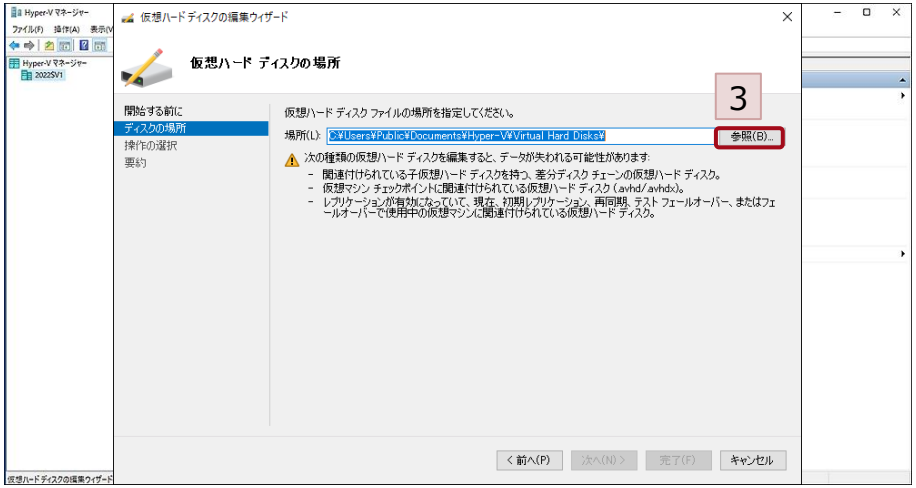
2. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（16/30）

FUJITSU

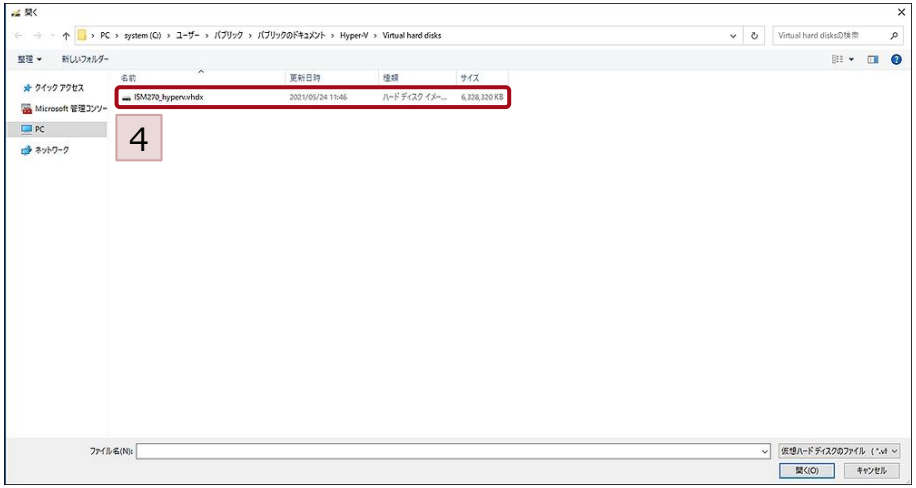
ハードディスクの固定容量変換 -3



3. [参照]をクリックします。

ISMの仮想ハードディスクの格納場所を選択します。

ハードディスクの固定容量変換 -4



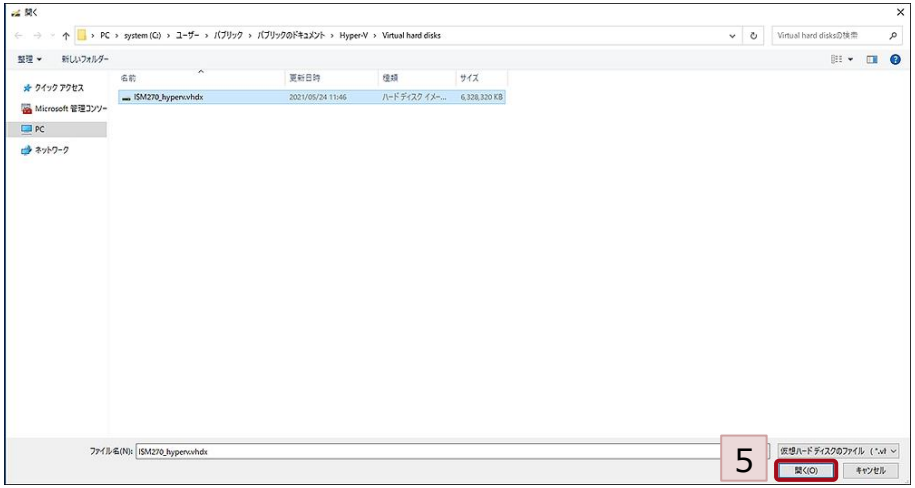
4. [ハードディスク名]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（17/30）

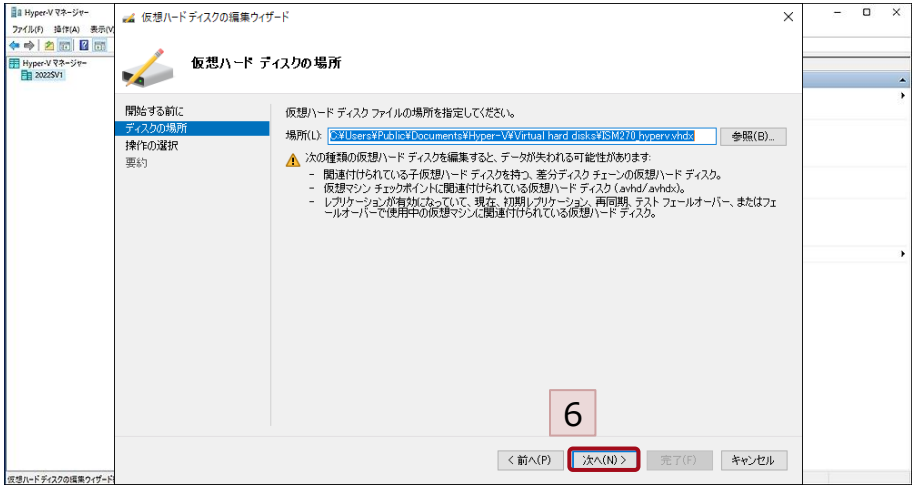
FUJITSU

ハードディスクの固定容量変換 -5



5. [開く]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -6



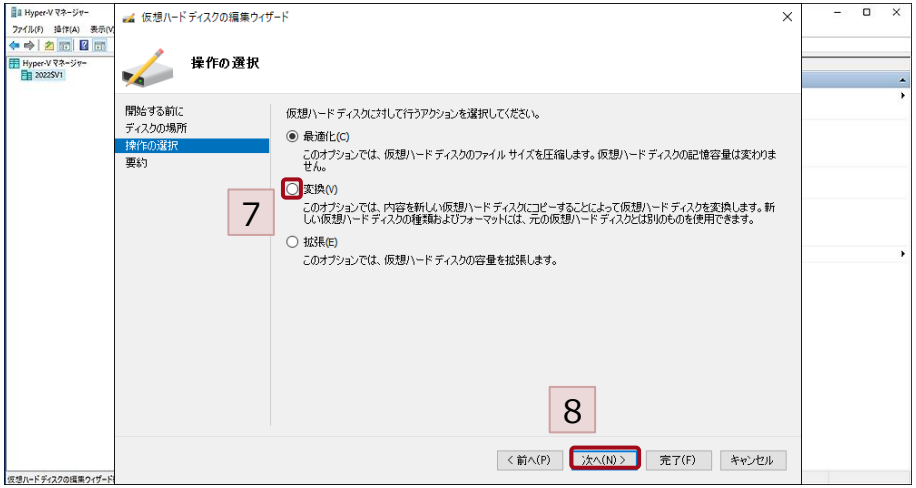
6. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（18/30）

FUJITSU

ハードディスクの固定容量変換 -7



7. [変換]を選択します。
8. [次へ]をクリックします。

既存の仮想ハードディスクを変換するため、[変換]を選択します。

ハードディスクの固定容量変換 -8

9. [次へ]をクリックします。

仮想ハードディスクのフォーマットを選択します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

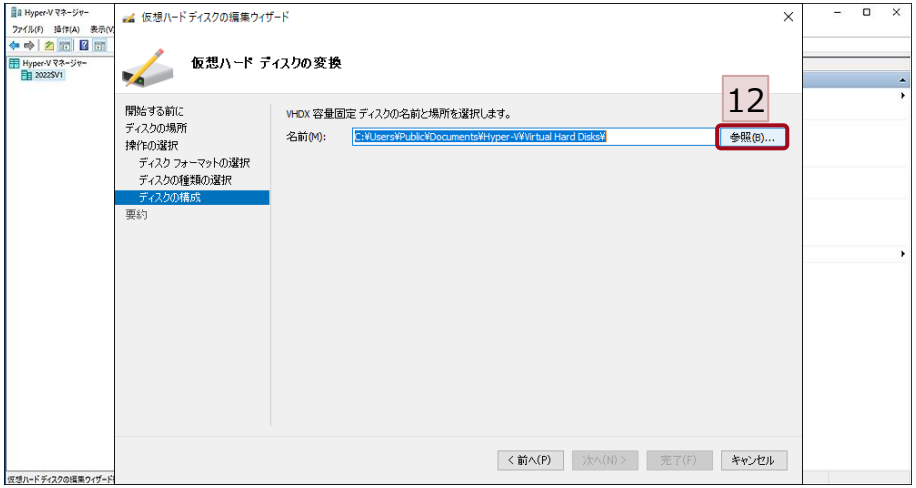
2.2 ISMの導入（19/30）

ハードディスクの固定容量変換 -9

10. [容量固定]を選択します。
11. [次へ]をクリックします。

変換後の仮想ハードディスクの種類を選択します。

ハードディスクの固定容量変換 -10



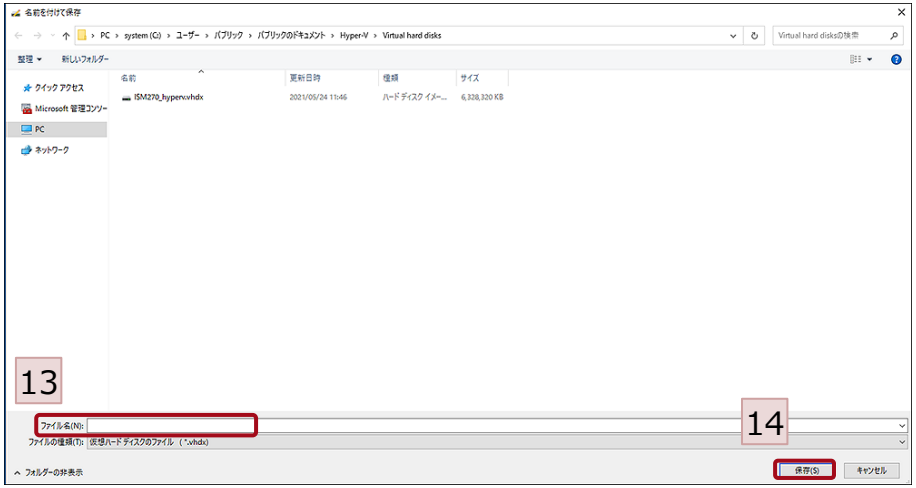
12. [参照]をクリックします。

変換後の仮想ハードディスクを格納する場所を指定します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（20/30）

ハードディスクの固定容量変換 -11



13. [ファイル名]を入力します。
14. [保存]をクリックします。

変換後の仮想ハードディスク名を入力します。

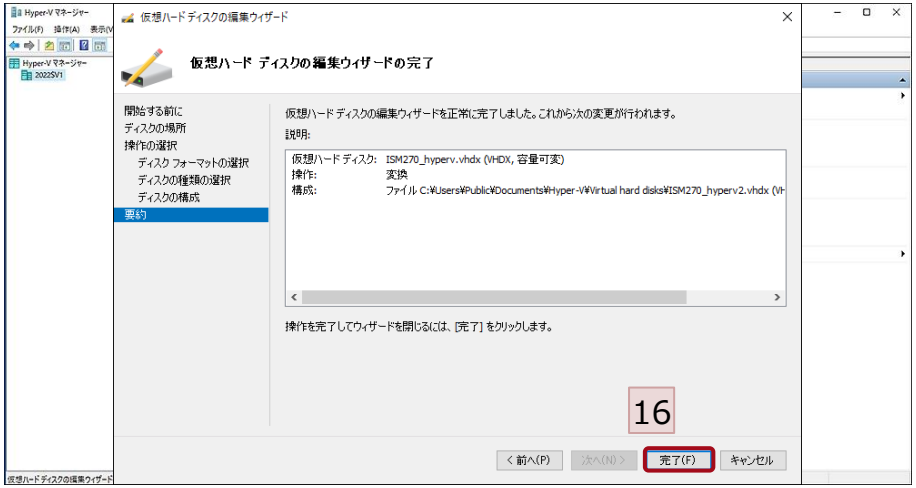
ハードディスクの固定容量変換 -12

15. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

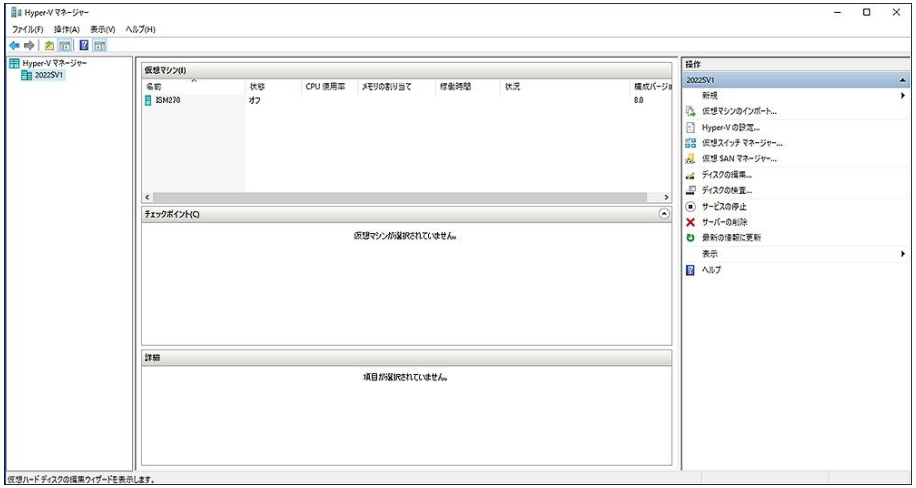
2.2 ISMの導入（21/30）

ハードディスクの固定容量変換 -13



16. [完了]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -14

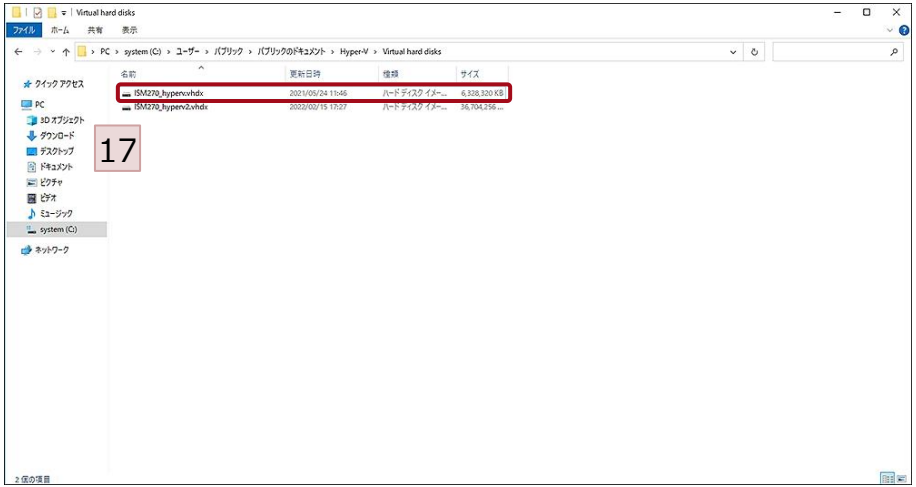


次に、エクスプローラーを開き、ISMをインポートした際に作成された仮想ハードディスクを削除します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（22/30）

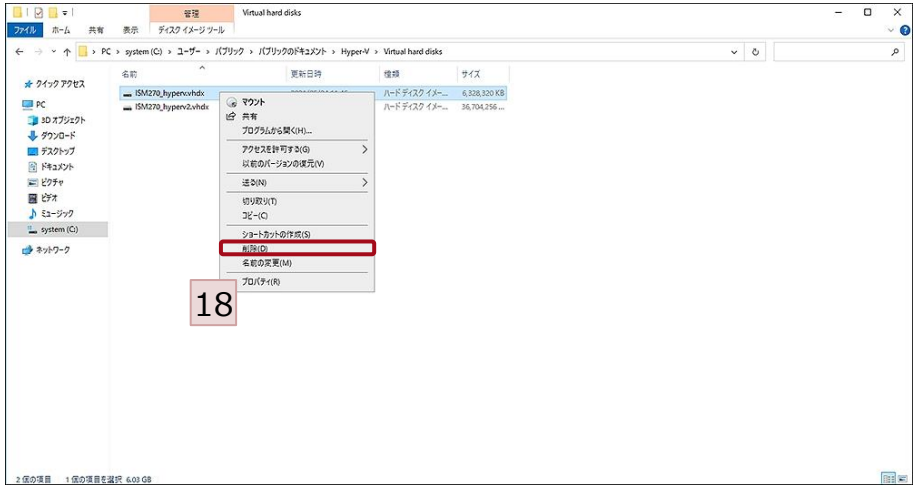
ハードディスクの固定容量変換 -15



17. [ハードディスク名]を右クリックします。

エクスプローラーを開き、ISMをインポートした際に作成された仮想ハードディスクを削除します。

ハードディスクの固定容量変換 -16

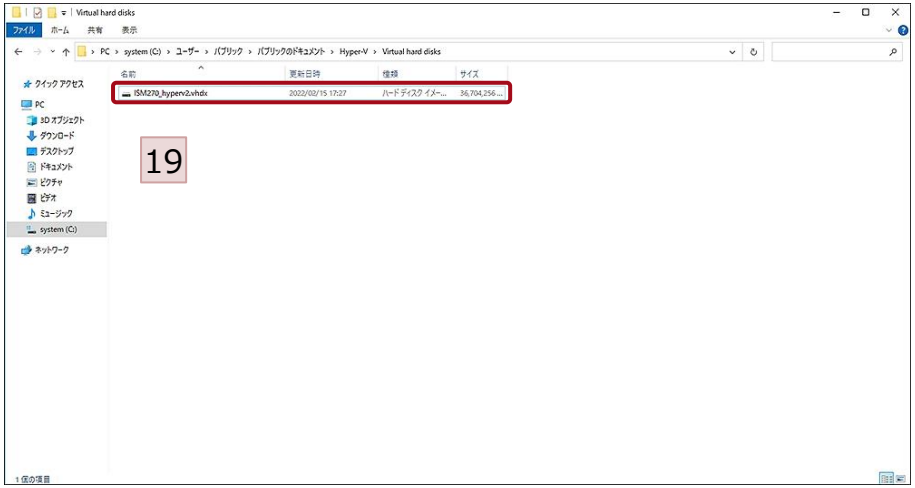


18. [削除]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（23/30）

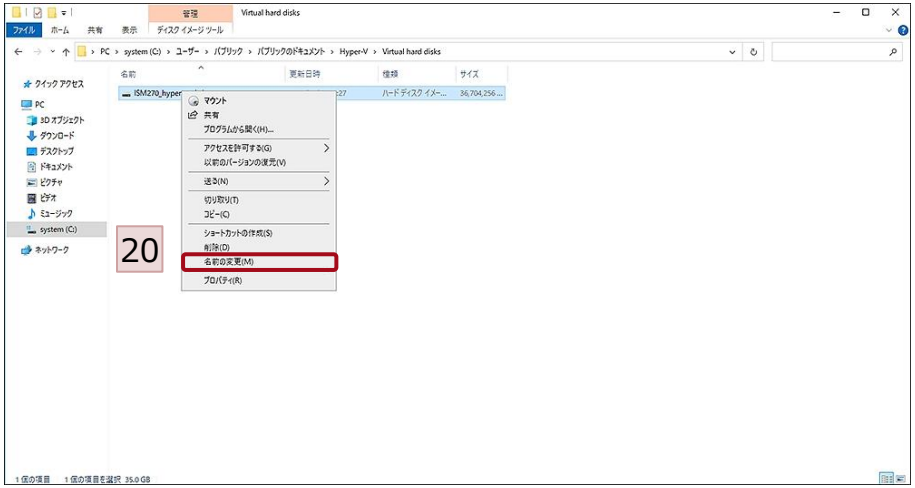
ハードディスクの固定容量変換 -17



19. [ハードディスク名]を右クリックします。

固定容量変換した仮想ハードディスクの名前を変更します。

ハードディスクの固定容量変換 -18

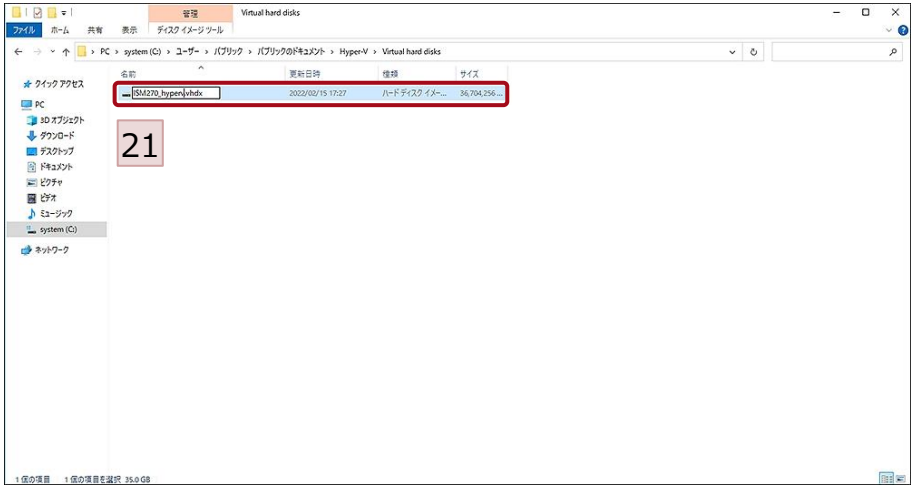


20. [名前の変更]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

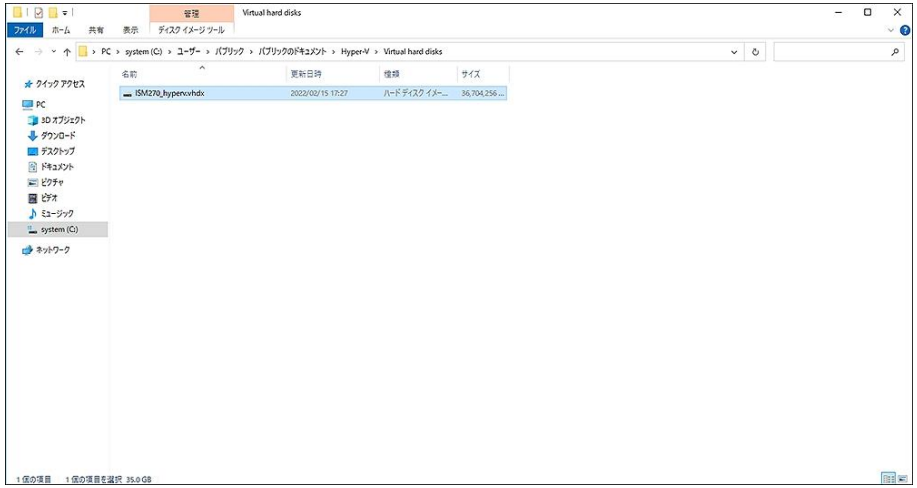
2.2 ISMの導入（24/30）

ハードディスクの固定容量変換 -19



21. [ハードディスク名]を入力し、[Enter]キーを押します。

ハードディスクの固定容量変換 -20

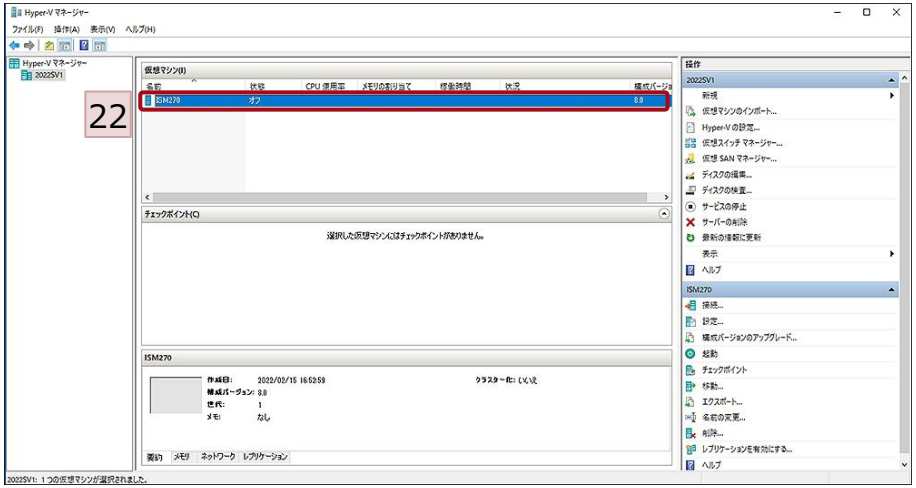


ハードディスク名が変更されたことを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.2 ISMの導入（25/30）

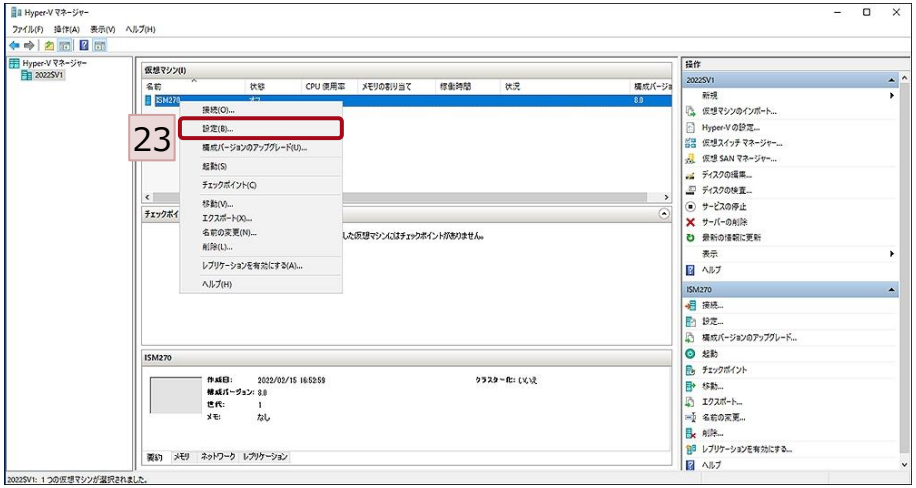
ハードディスクの固定容量変換 -21



22. [ISM270]を右クリックします。

Hyper-Vマネージャーに戻り、ISMの仮想ハードディスクの情報を更新します。

ハードディスクの固定容量変換 -22

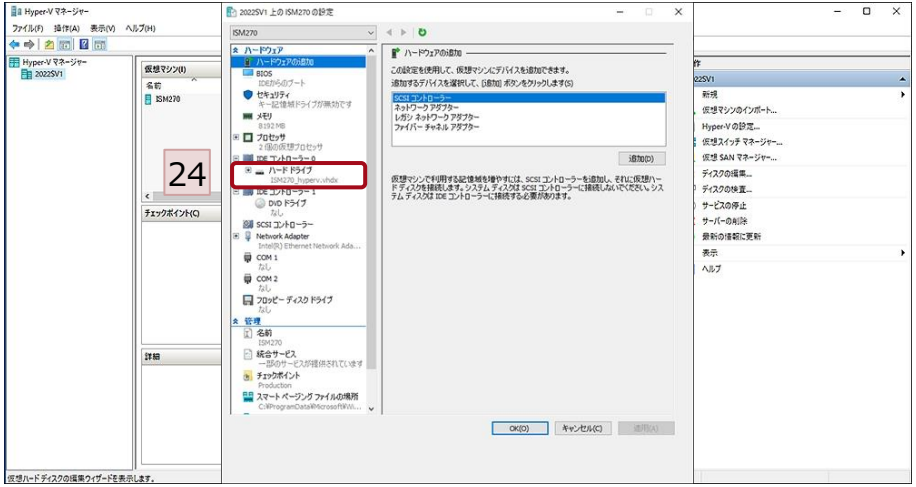


23. [設定]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

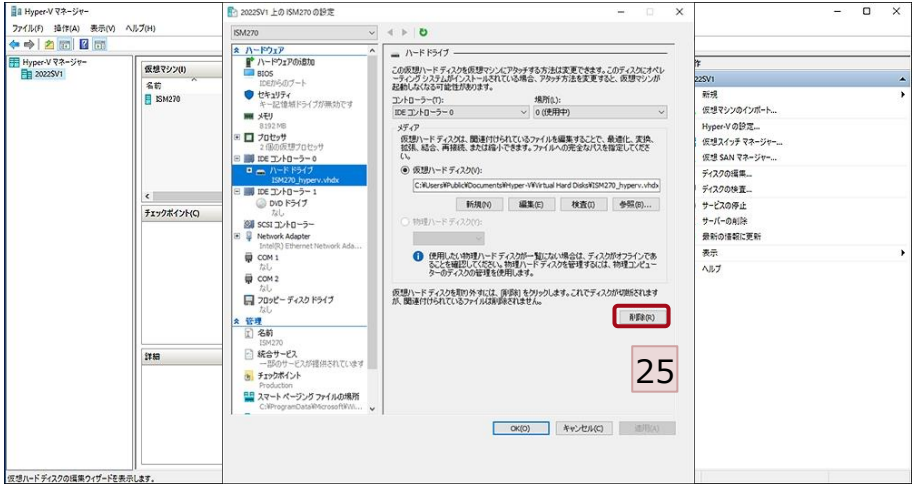
2.2 ISMの導入（26/30）

ハードディスクの固定容量変換 -23



24. [ハード ドライブ]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -24



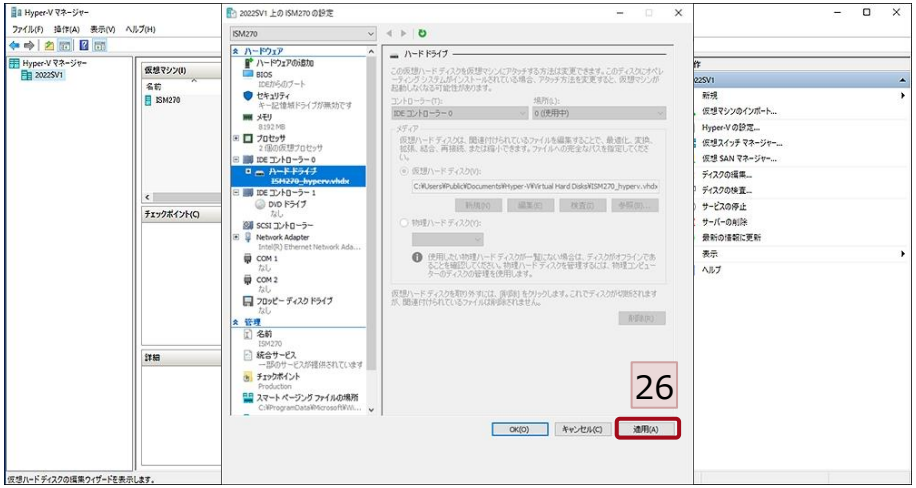
25. [削除]をクリックします。

ISMをインポートした際に作成された仮想ハードディスクを取り外します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

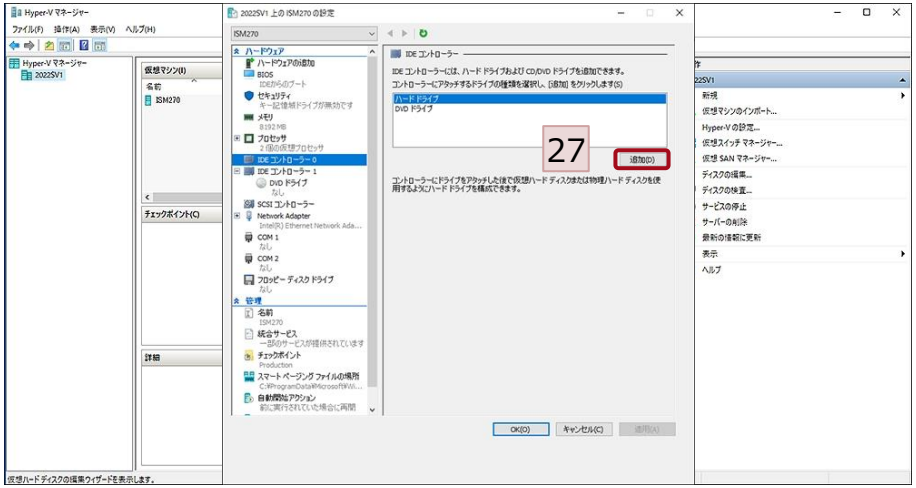
2.2 ISMの導入（27/30）

ハードディスクの固定容量変換 -25



26. [適用]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -26



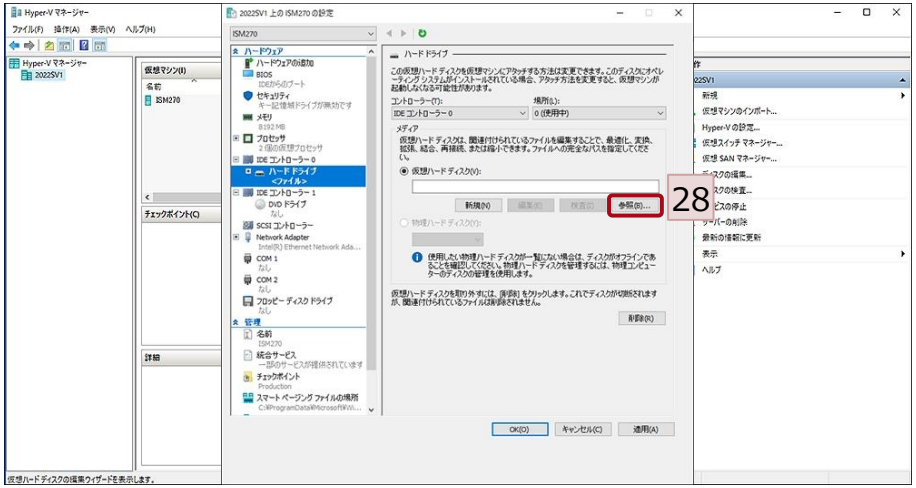
27. [追加]をクリックします。

固定容量変換した仮想ハードディスクを関連付けます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

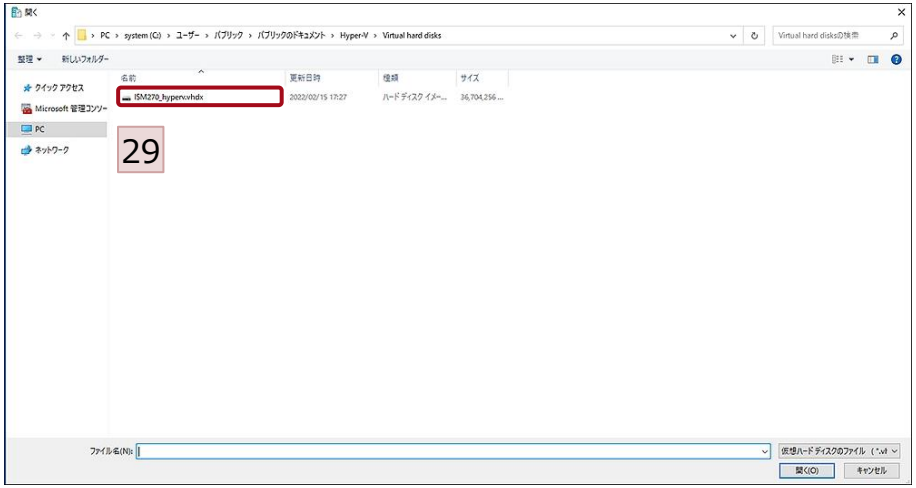
2.2 ISMの導入（28/30）

ハードディスクの固定容量変換 -27



28. [参照]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -28

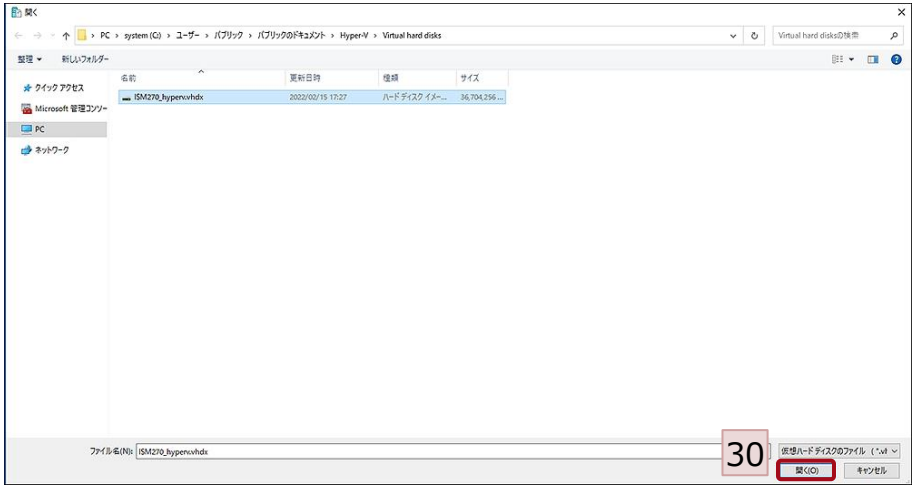


29. [ハードディスク名]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

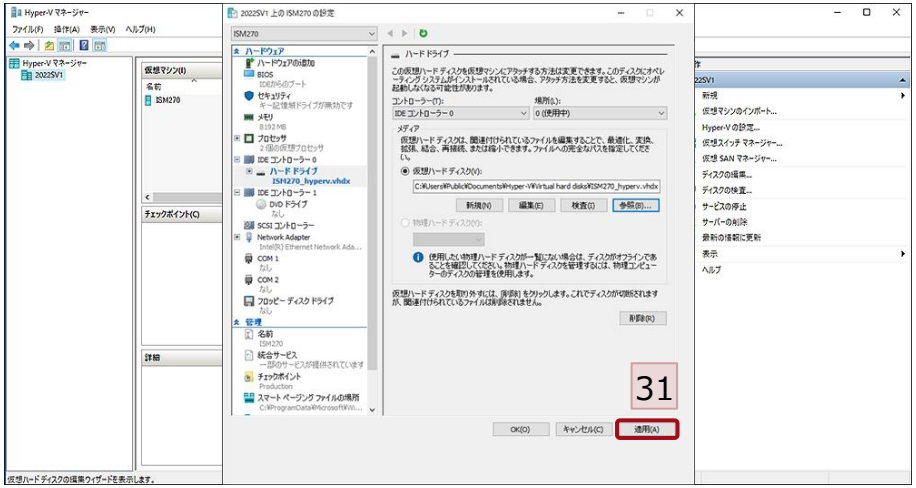
2.2 ISMの導入（29/30）

ハードディスクの固定容量変換 -29



30. [開く]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -30

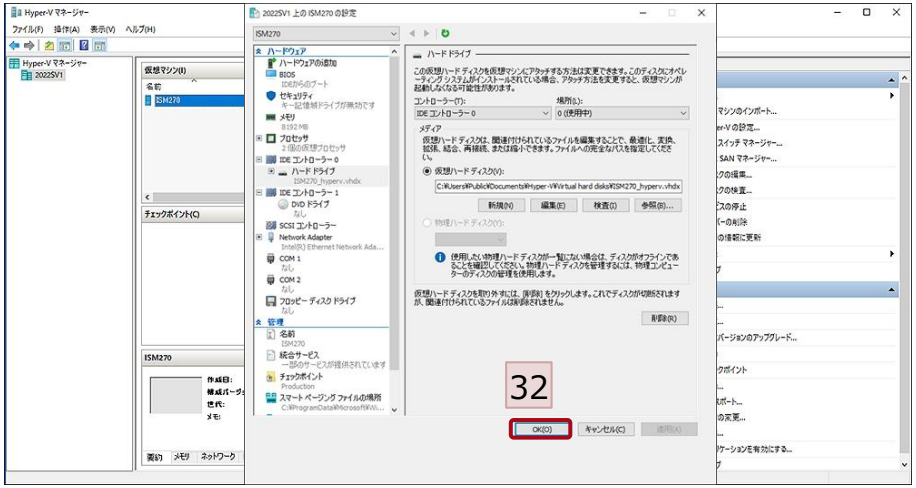


31. [適用]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

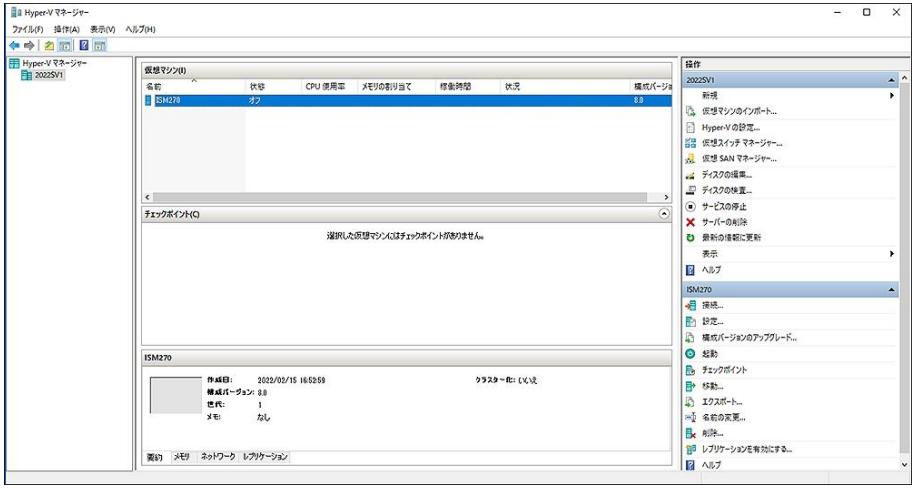
2.2 ISMの導入（30/30）

ハードディスクの固定容量変換 -31



32. [OK]をクリックします。

ハードディスクの固定容量変換 -32



以上でハードディスクの固定容量変換は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（1/12）

FUJITSU

ISMの設定

ISMの導入後、初期設定を行います。
ISMの初期設定には、以下の方法があります。

1. コンソールの基本設定メニューで行う方法
2. コマンドを使用して行う方法

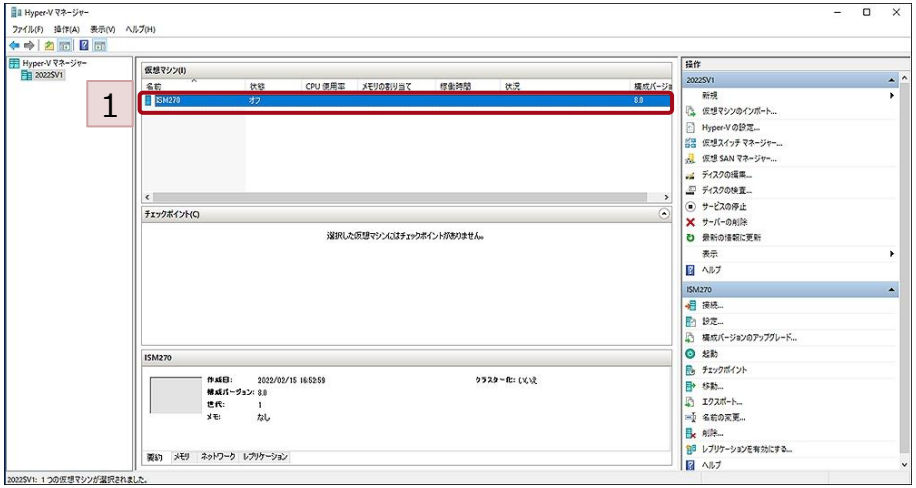
本資料では、「コンソールの基本設定メニューで行う方法」を説明します。

本資料で紹介しない、「コマンドを使用して行う方法」については、
弊社Webサイト掲載の『解説書』より、「3.4.2.2 ismadmコマンドを使用した初期設定」を参照してください。
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/technical/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（2/12）

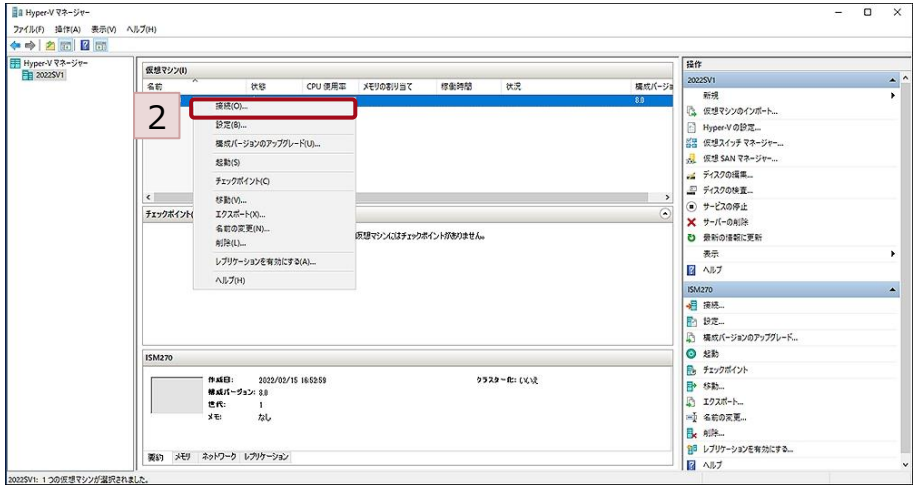
初回起動 -1



1. [ISM270]を右クリックします。

ISMを起動させます。
Hyper-Vマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックします。

初回起動 -2



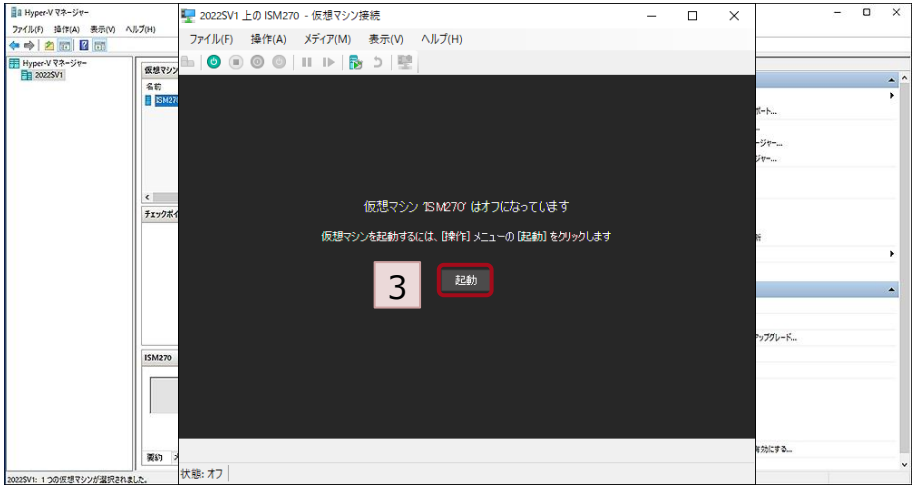
2. [接続]をクリックします。

ISMにログインするため、コンソールを開きます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（3/12）

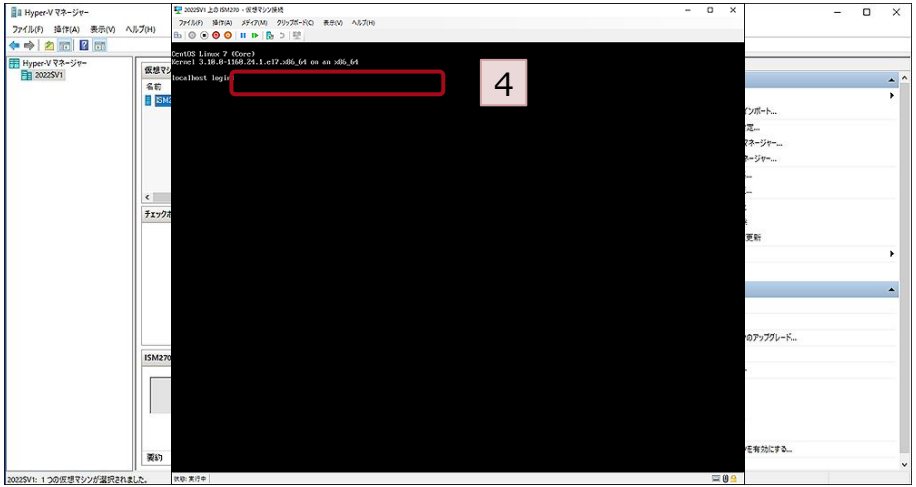
初回起動 -3



3. [起動]をクリックします。

ISMを起動します。
ISM起動後、コンソールの基本設定メニューまたはismadmコマンドを使用して、ISMの基本的な設定を行います。
※本資料では、コンソールの基本設定メニューから設定を行います。

初回起動 -4



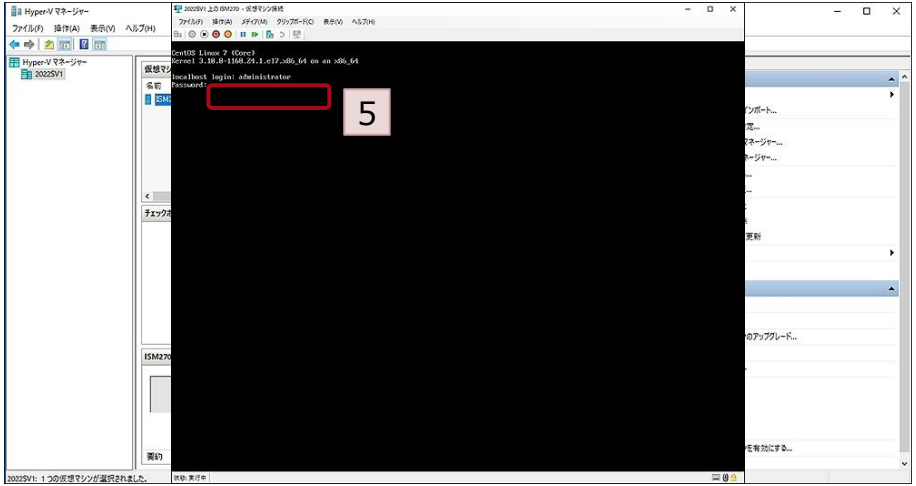
4. [ユーザー名]を入力し、[Enter]キーを押します。

管理者アカウントとパスワードを使用し、コンソールにログインします。
本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザー名：administrator

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（4/12）

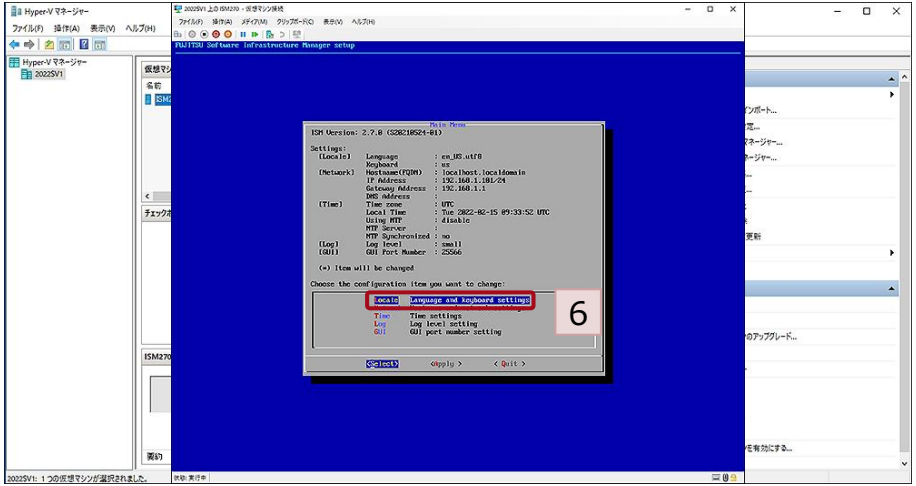
初回起動 -5



5. [パスワード]を入力し、[Enter]キーを押します。

本資料では、下記の情報を入力します。
パスワード：admin

初回起動 -6



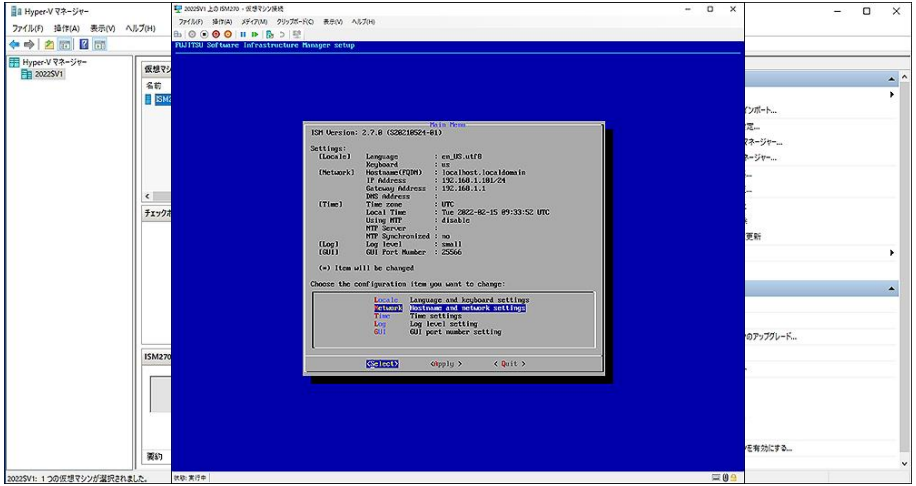
6. [↓]キーを押します。

ISMのネットワーク設定を行います。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（5/12）

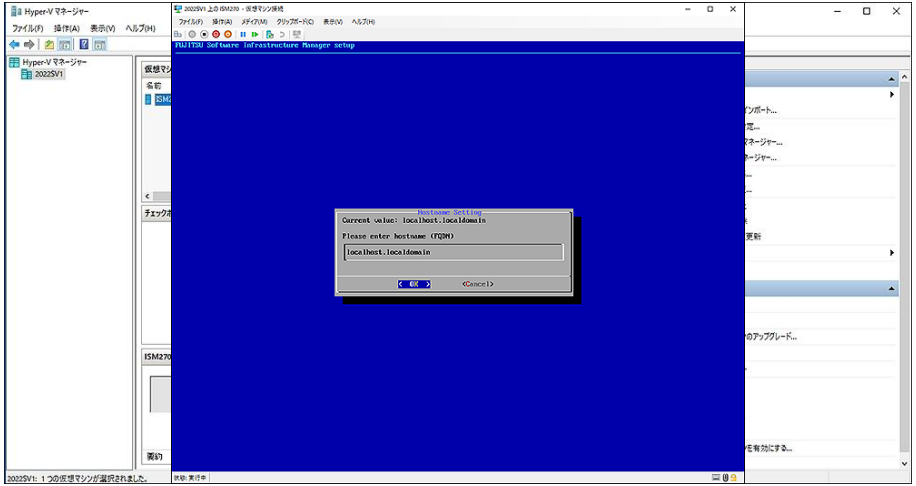
初回起動 -7



7. [Enter]キーを押します。

Networkを選択した状態で、[Enter]キーを押します。

初回起動 -8



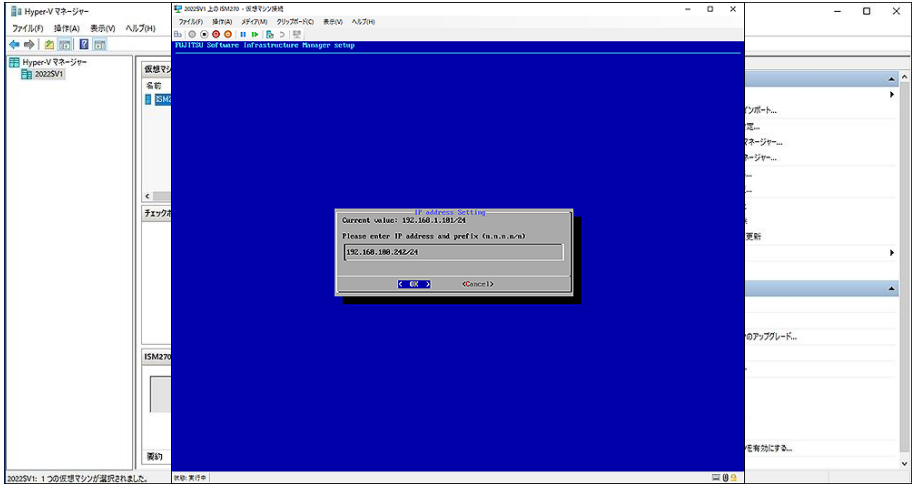
8. [Enter]キーを押します。

ホスト名を設定します。
※本資料では、デフォルトのまま[Enter]キーを押します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（6/12）

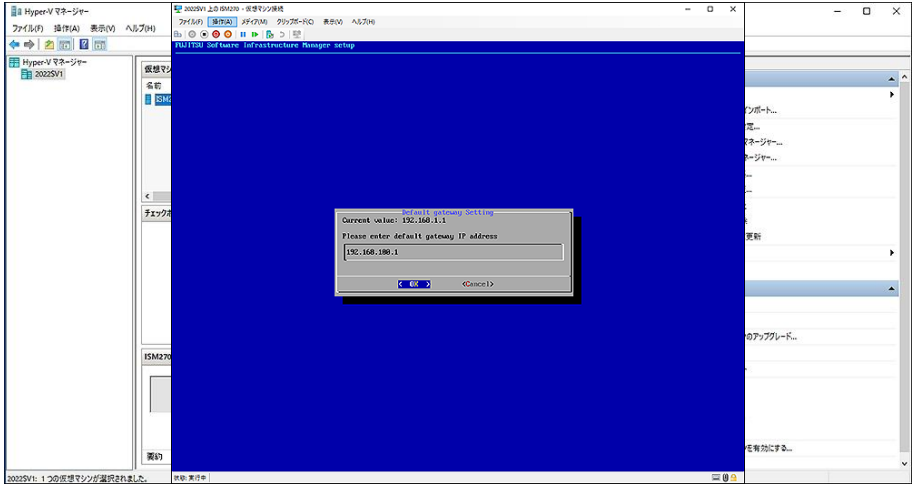
初回起動 -9



9. [IPアドレス]を入力し、[Enter]キーを押します。

IPアドレスを設定します。
本資料では、下記の情報を入力します。
IPアドレス：192.168.100.242/24

初回起動 -10



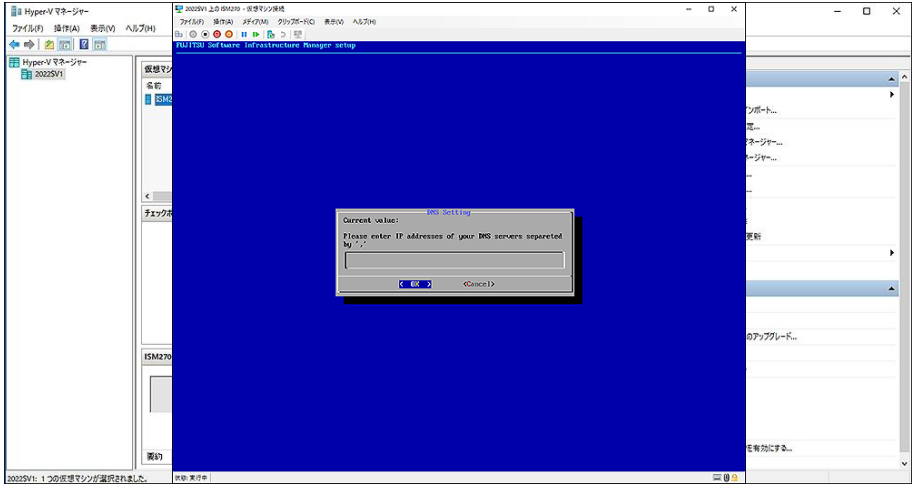
10. [デフォルトゲートウェイ]を入力し、[Enter]キーを押します。

デフォルトゲートウェイを設定します。
本資料では、下記の情報を入力します。
デフォルトゲートウェイ：192.168.100.1

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（7/12）

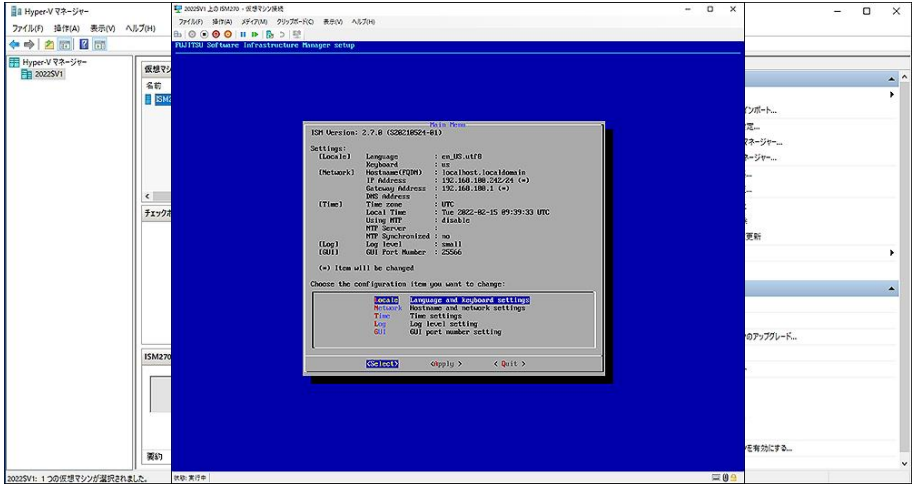
初回起動 -11



11 [Enter]キーを押します。

DNSサーバーを設定します。
※本資料では、DNSサーバーがないため、デフォルトのまま[Enter]キーを押します。

初回起動 -12



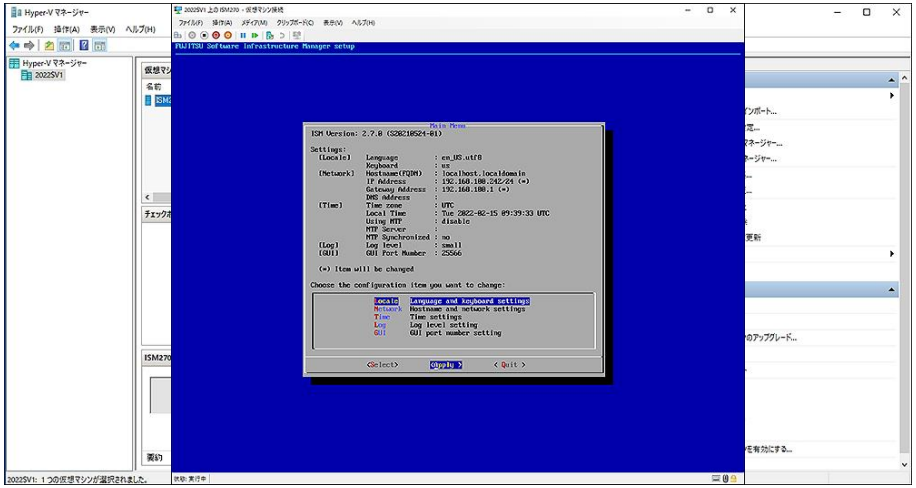
12. [→]キーを押します。

設定項目を入力後、[Apply]を選択し設定を適用します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

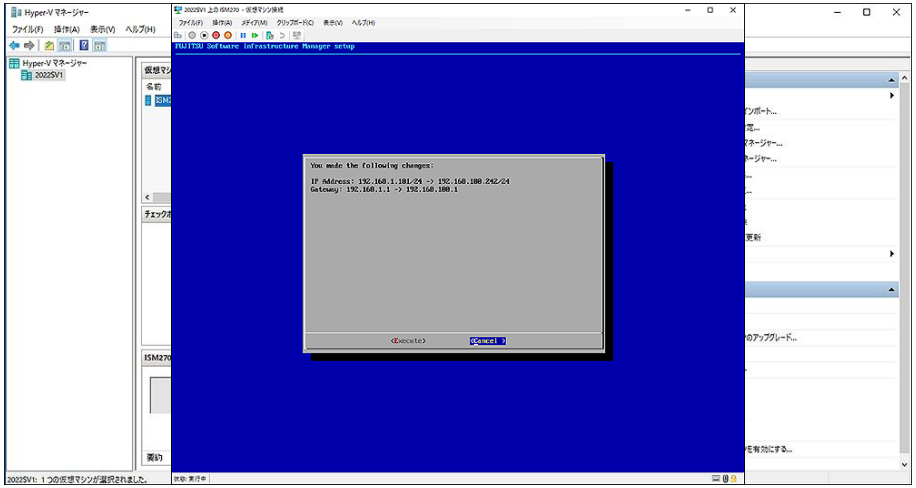
2.3 初期設定（8/12）

初回起動 -13



13. [Enter]キーを押します。

初回起動 -14



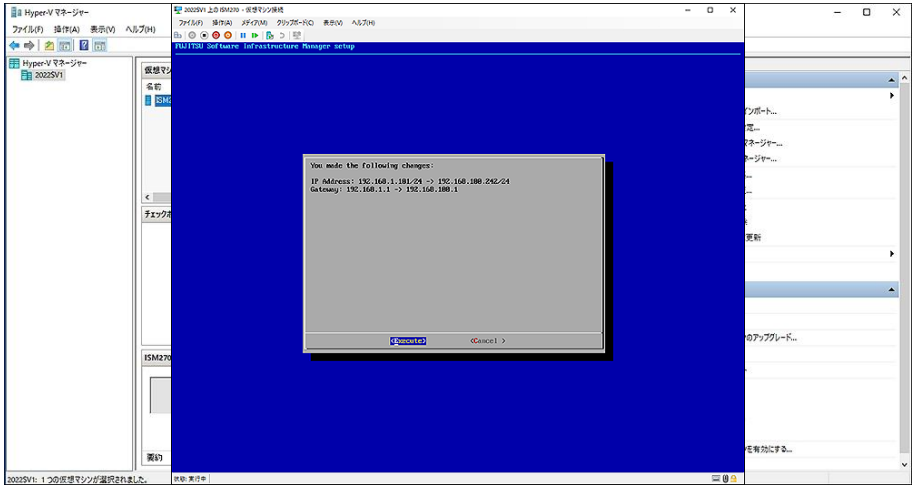
14. [←]キーを押します。

設定内容を確認し、[Execute]を選択します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

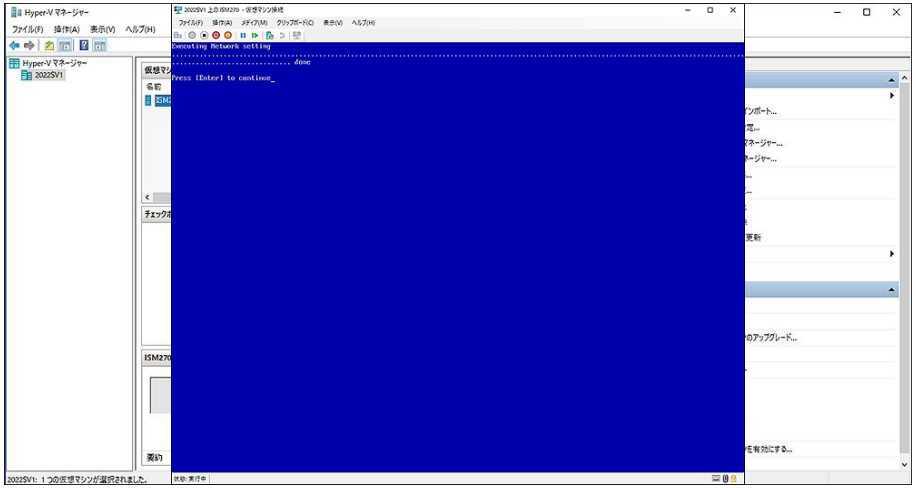
2.3 初期設定（9/12）

初回起動 -15



15. [Enter]キーを押します。

初回起動 -16

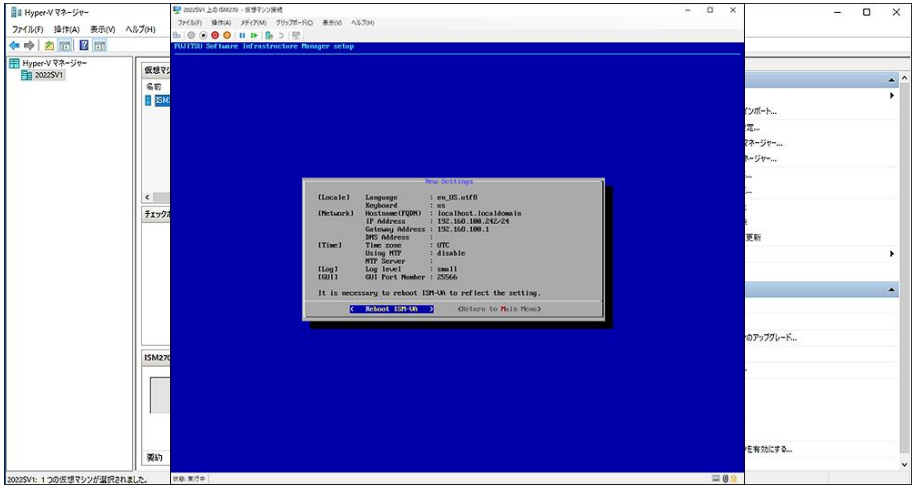


16. [Enter]キーを押します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（10/12）

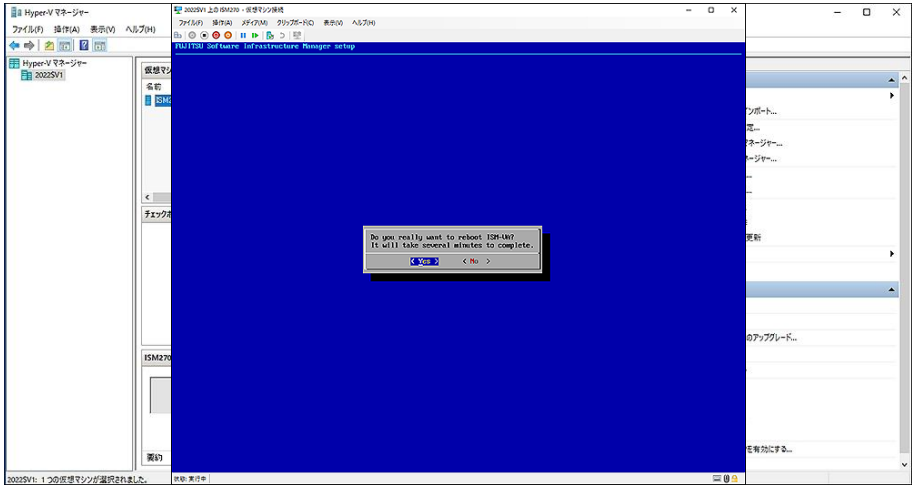
初回起動 -17



17. [Enter]キーを押します。

[Reboot ISM-VA]を選択してISMを再起動し、変更を反映させます。

初回起動 -18

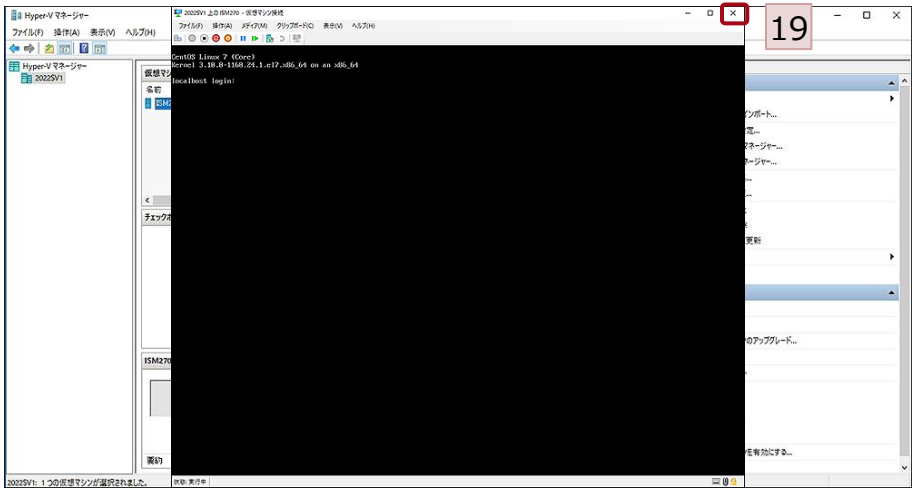


18. [Enter]キーを押します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（11/12）

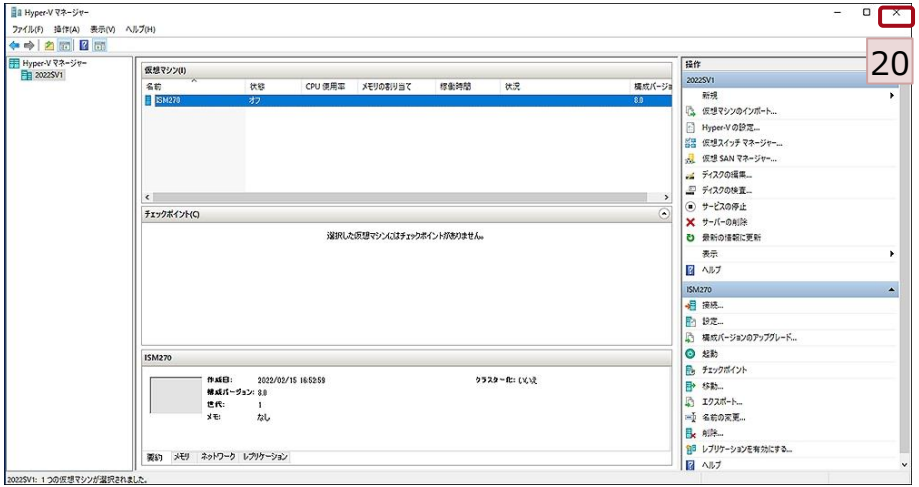
初回起動 -19



19.右上の[×]をクリックして画面を閉じます。

ISMが再起動したのを確認し、コンソールを閉じます。
※ログイン画面が表示されれば、ISMは起動した状態です。

初回起動 -20



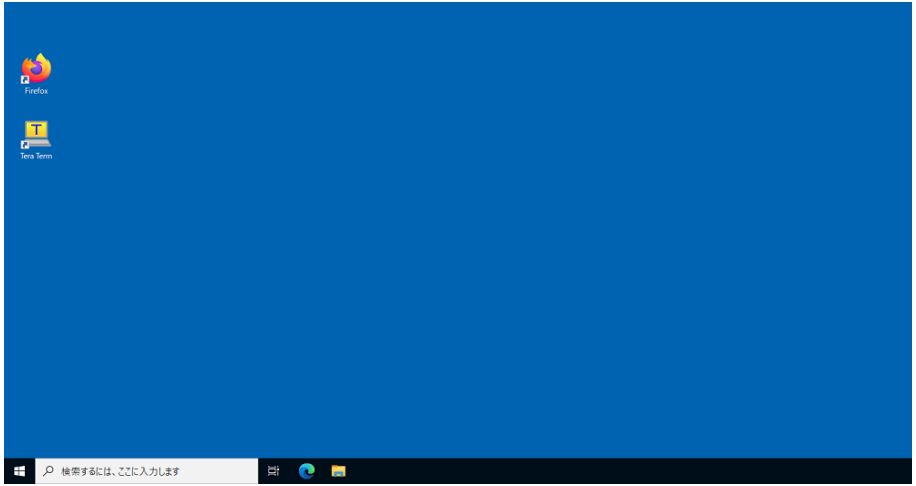
20. 右上の[×]をクリックして画面を閉じます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.3 初期設定（12/12）

FUJITSU

初回起動 -21



以上でISMの初期設定は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.4 ログイン（1/7）

FUJITSU

ISMにログインする

初期設定後に、ISMのグラフィカルユーザーインターフェイス（GUI）へログインします。
ISMは、Webブラウザで操作できるグラフィカルユーザーインターフェイス（GUI）を提供します。
※GUIのほかに、FTP、SSH、REST APIをユーザーインターフェイスとして提供しています。

GUIにアクセスするためのURLと、ログインに必要な値を、以下に記載します。

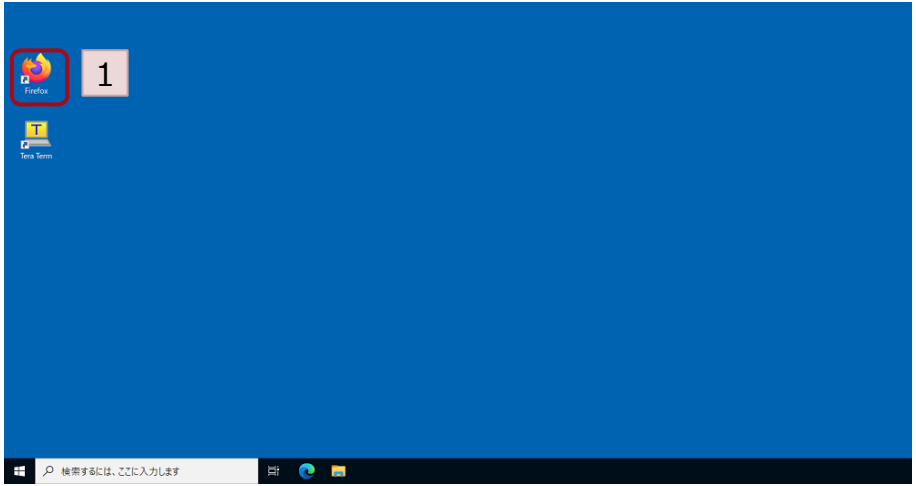
項目	入力値
URL	https:// ＜ISMのIPアドレス＞ :25566
ユーザー名	administrator（初期値）
パスワード	admin（初期値）

本資料では、ログイン後にISMの日付フォーマットとタイムゾーンの設定を変更します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.4 ログイン（2/7）

GUIへのログイン -1



1. [ブラウザのショートカット]をダブルクリックします。

ISMのWeb GUIへログインします。

GUIへのログイン -2

2. [URL]を入力し、[Enter]キーを押します。

本資料では、下記の情報を入力します。
https://192.168.100.242:25566

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

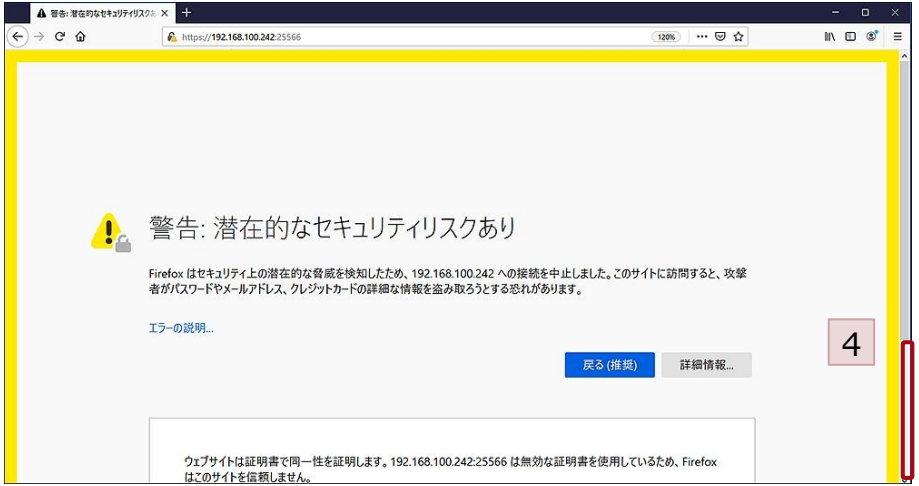
2.4 ログイン（3/7）

GUIへのログイン -3

3. [詳細情報]をクリックします。

セキュリティ警告画面が表示された場合の操作を紹介します。

GUIへのログイン -4

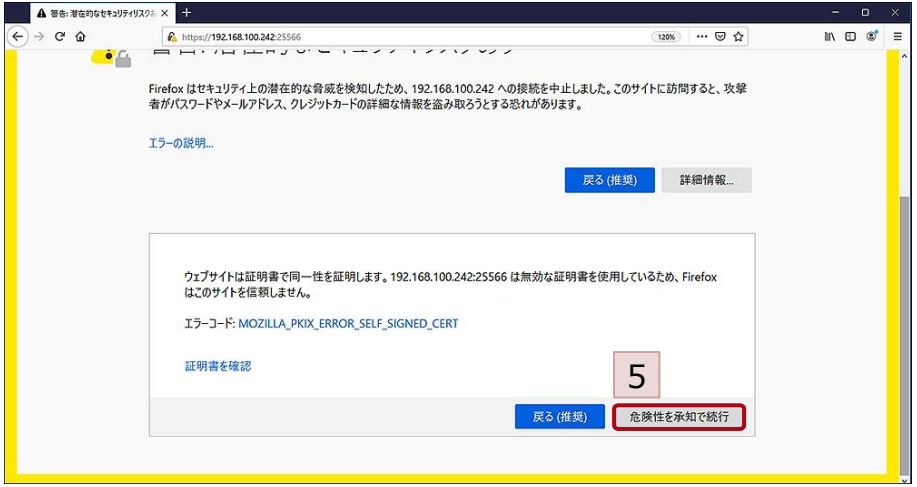


4. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

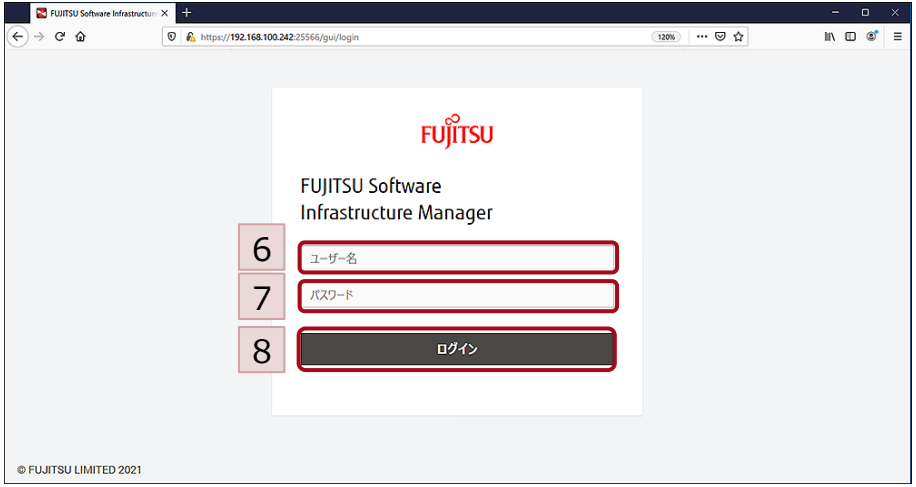
2.4 ログイン（4/7）

GUIへのログイン -5



5. [危険性を承知で続行]をクリックします。

GUIへのログイン -6



6. [ユーザー名]を入力します。
7. [パスワード]を入力します。
8. [ログイン]をクリックします。

本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザー名：administrator
パスワード：admin

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.4 ログイン（5/7）

GUIへのログイン -7

9. [上記内容を確認しました。]にチェックを付けます。
10. [同意する]をクリックします。

ISMの使用許諾に同意します。

GUIへのログイン -8

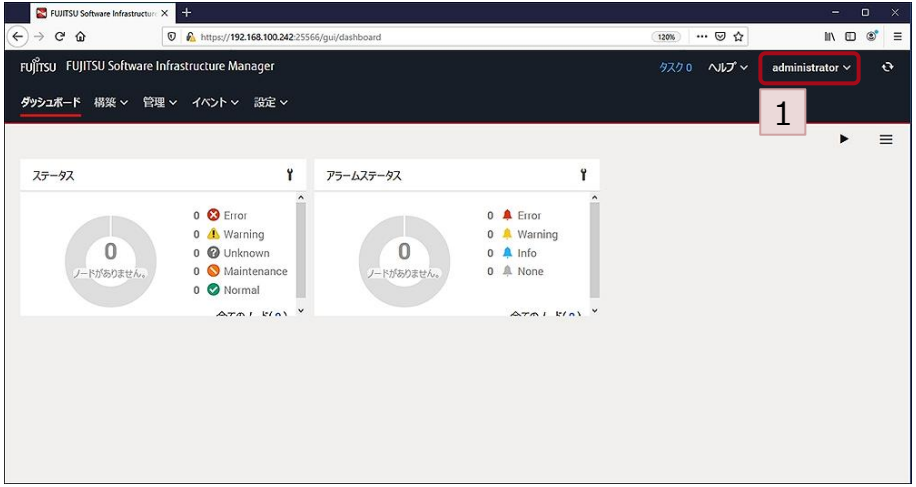
11. [閉じる]をクリックします。

以上でISMのWeb GUIへのログインは完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.4 ログイン（6/7）

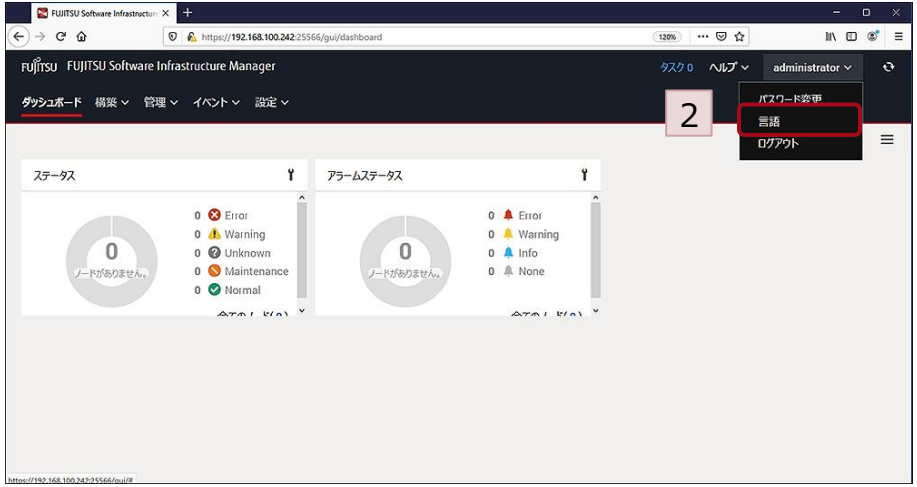
ISMの言語・タイムゾーン変更 -1



1. [administrator]をマウスオーバーします。

ISMの言語・タイムゾーンを変更します。

ISMの言語・タイムゾーン変更 -2

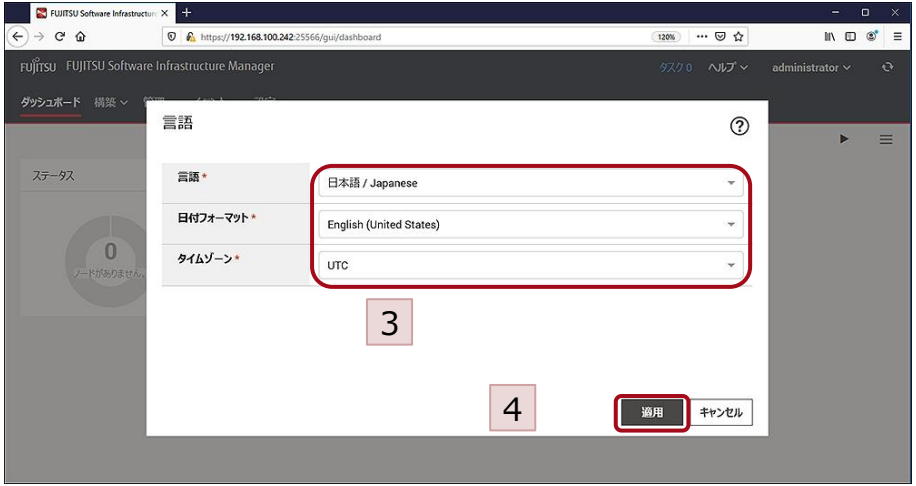


2. メニューから[言語]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.4 ログイン（7/7）

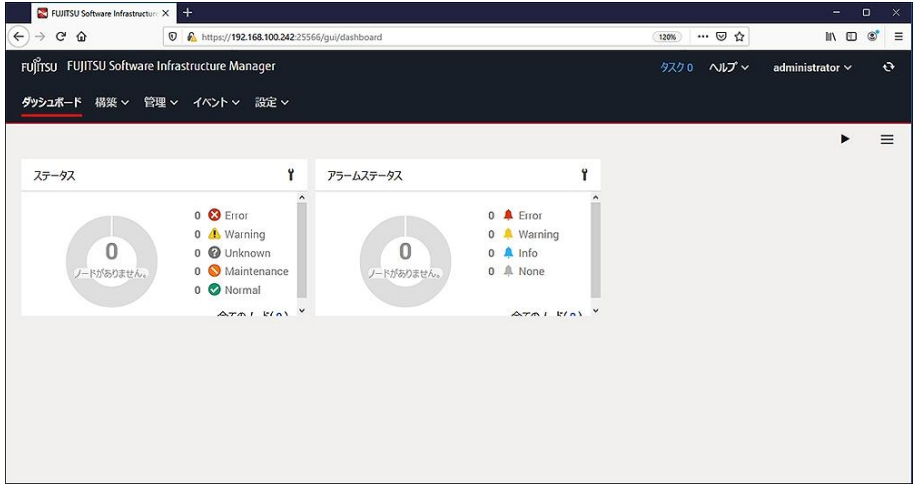
ISMの言語・タイムゾーン変更 -3



3. [言語・タイムゾーン]を選択します。
4. [適用]をクリックします。

本資料では、下記の情報を選択します。
言語：日本語/Japanese
日付フォーマット：日本語
タイムゾーン：Asia/Tokyo

ISMの言語・タイムゾーン変更 -4



以上でISMの言語・タイムゾーン変更は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（1/23）

FUJITSU

ISMへ適用するパッチの入手方法

ISMの管理対象としてサポートされているOS・ハイパーバイザーの一部については、
ISMへのパッチ適用がサポート適用の条件となっています。
本資料の環境では、[Windows Server 2022]で[ISM 2.7.0]を利用するため、サポートを適用するためには、
最新の更新パッチを適用する必要があります。

サポートを適用するためにパッチの適用が必要なOS・ハイパーバイザーにつきましては、弊社公開サイトに掲載している
「管理対象機器一覧」をご確認ください。
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/

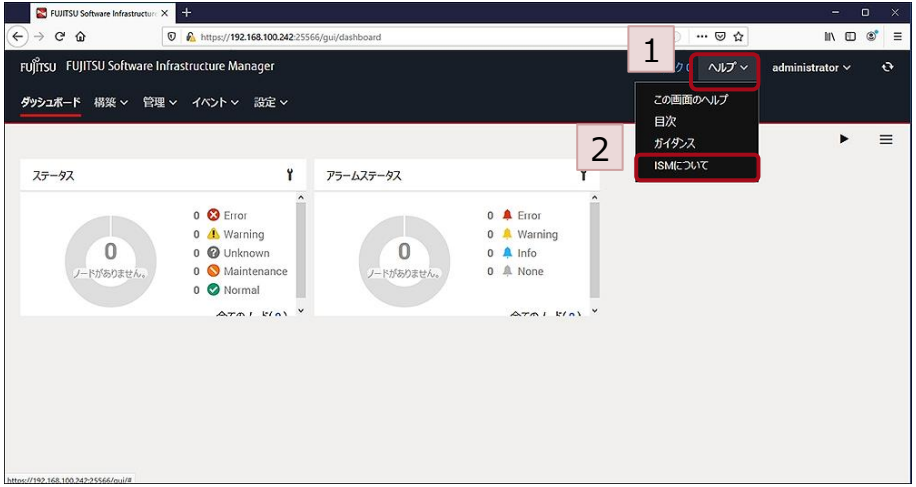
ISMの修正パッチは、製品サポートサイトより、お使いのサーバーを検索して入手してください。
https://support.ts.fujitsu.com/IndexDownload.asp?lng=jp

ISMの修正パッチは、SupportDesk-Webからダウンロードすることもできます。（SupportDesk契約が必要です）
SupportDesk-Webでは、修正パッチに加えて、ISMのアップグレードプログラムも入手することが可能です。
SupportDesk-Webについては、以下のURLを参照してください。
https://eservice.fujitsu.com/supportdesk-web/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（2/23）

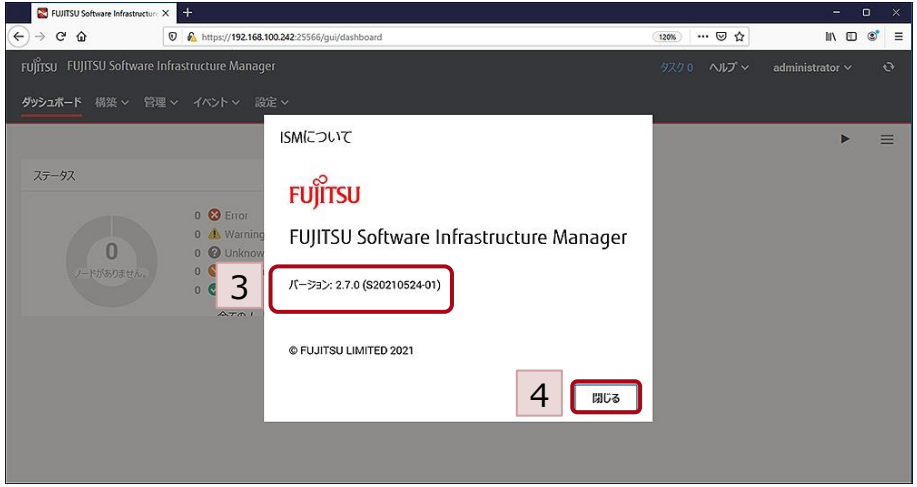
ISMのバージョン確認 -1



1. [ヘルプ]をマウスオーバーします。
2. [ISMについて]をクリックします。

資料作成時点で最新のパッチ[ISM 2.7.0.020] を適用します。
まず、導入したISMのバージョンを確認します。

ISMのバージョン確認 -2



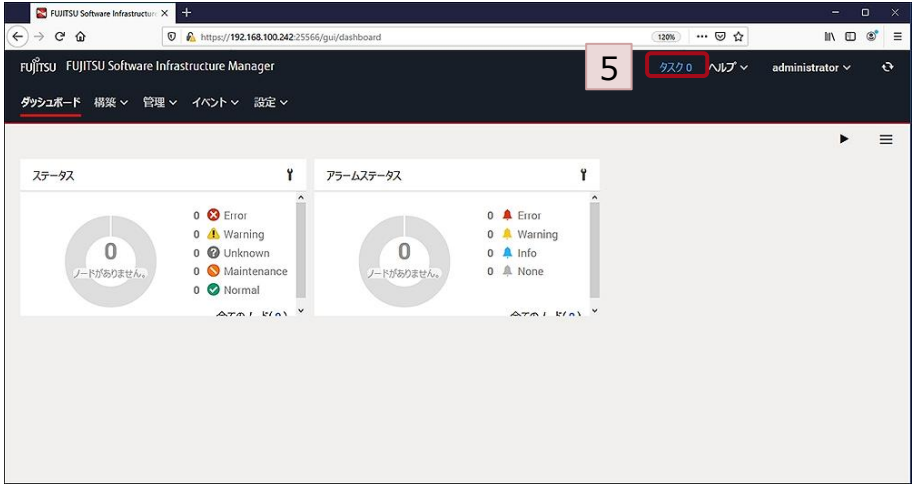
3. ISMのバージョンを確認します。
4. [閉じる]をクリックします。

本資料では、ISMのバージョンが下記であることを確認します。
バージョン: 2.7.0

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（3/23）

ISMのバージョン確認 -3



5. [タスク]をクリックします。

ISMのシャットダウンを行うにあたり、実行中のタスクがないことを確認します。

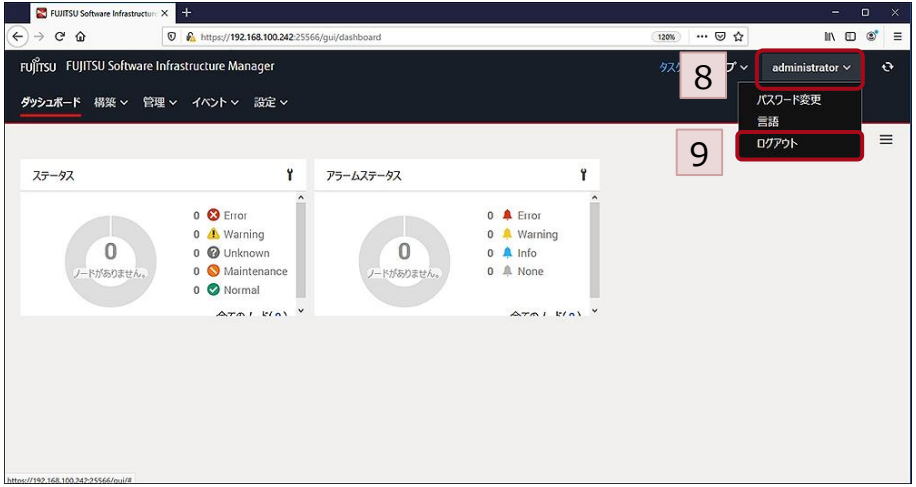
ISMのバージョン確認 -4

6. タスクがないことを確認します。
7. [閉じる]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

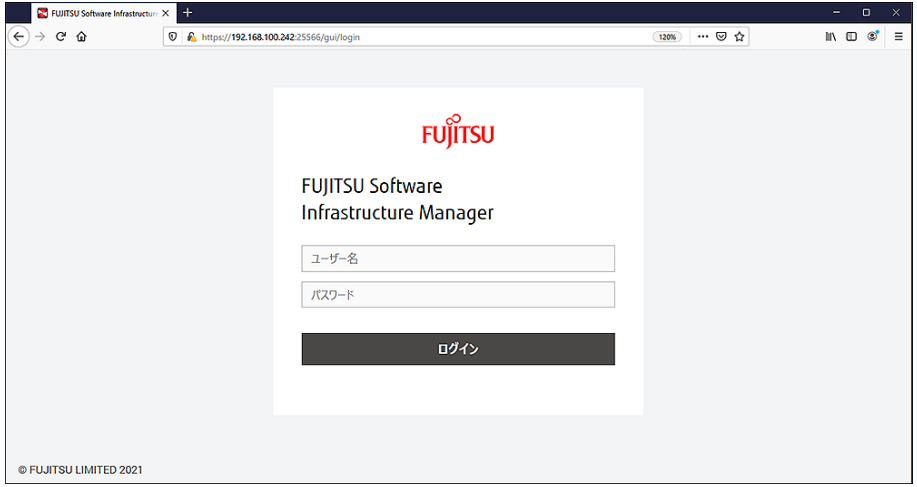
2.5 ISMへのパッチ適用（4/23）

ISMのバージョン確認 -5



8. [administrator]をマウスオーバーします。
9. [ログアウト]をクリックします。

ISMのバージョン確認 -6



以上で、ISMのバージョン確認は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（5/23）

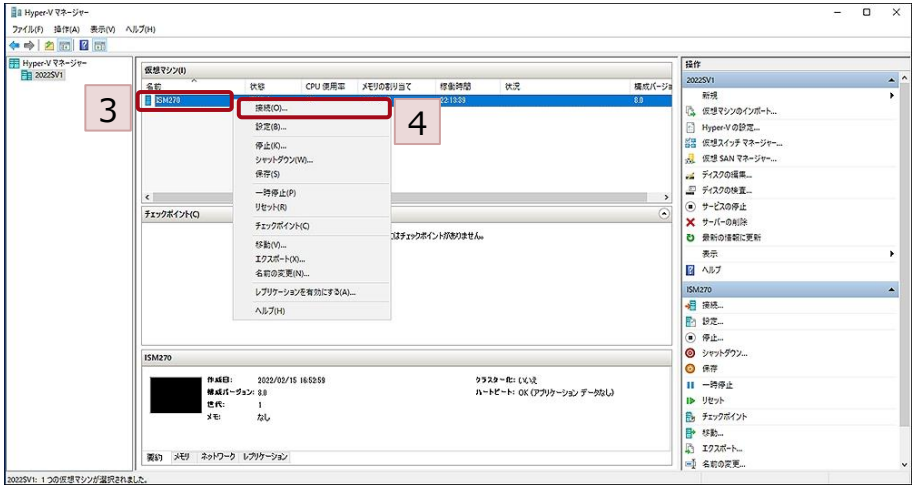
FUJITSU

ISMのシャットダウン -1

1. [ツール]をクリックします。
2. [Hyper-Vマネージャー]をクリックします。

ISMのシャットダウンを行います。

ISMのシャットダウン -2



3. [ISM270]を右クリックします。
4. [接続]をクリックし、コンソールを開きます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（6/23）

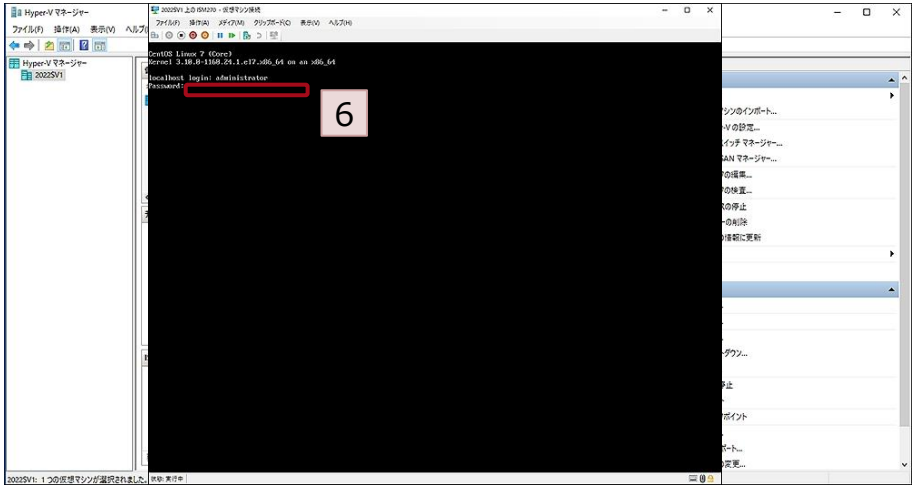
FUJITSU

ISMのシャットダウン -3

5. [ユーザー名]を入力し、[Enter]キーを押します。

管理者アカウントとパスワードを使用し、コンソールにログインします。
本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザー名：administrator

ISMのシャットダウン -4



6. [パスワード]を入力し、[Enter]キーを押します。

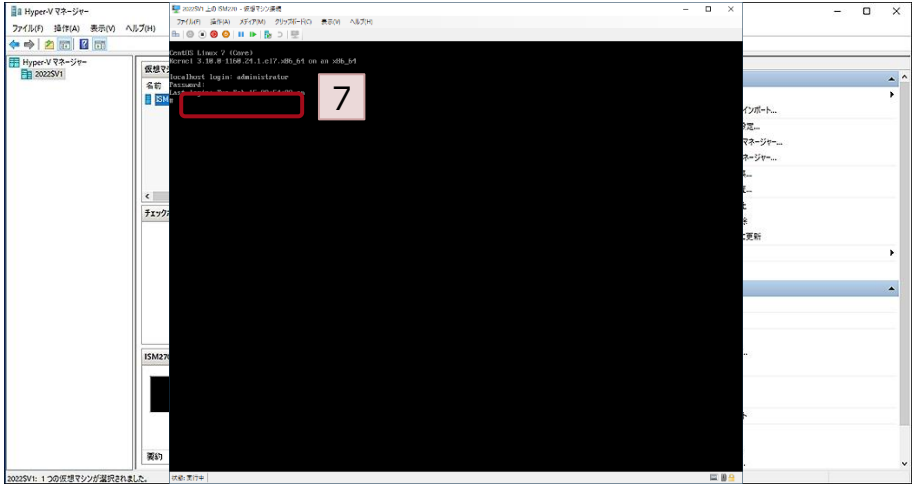
本資料では、下記の情報を入力します。
パスワード：admin

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（7/23）

FUJITSU

ISMのシャットダウン -5



7. コマンドを入力し[Enter]を押します。

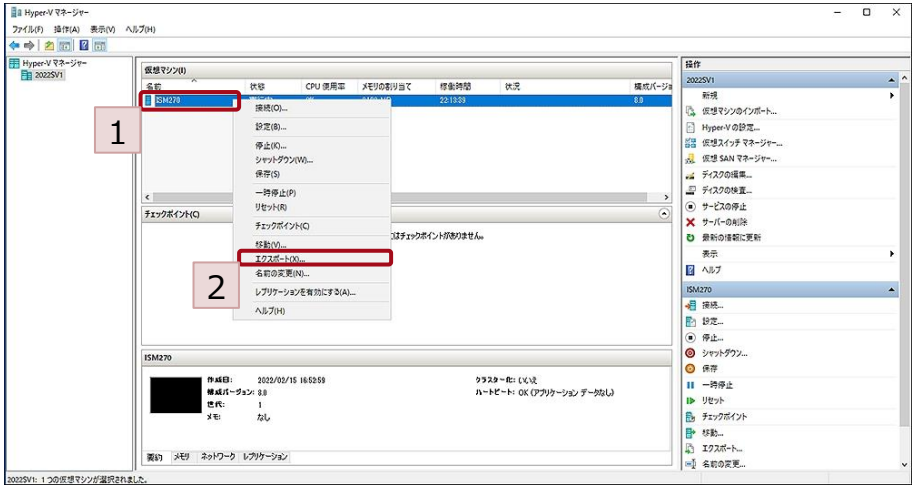
下記のコマンドを入力して、ISMをシャットダウンします。
コマンド: ismadm power stop

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（8/23）

FUJITSU

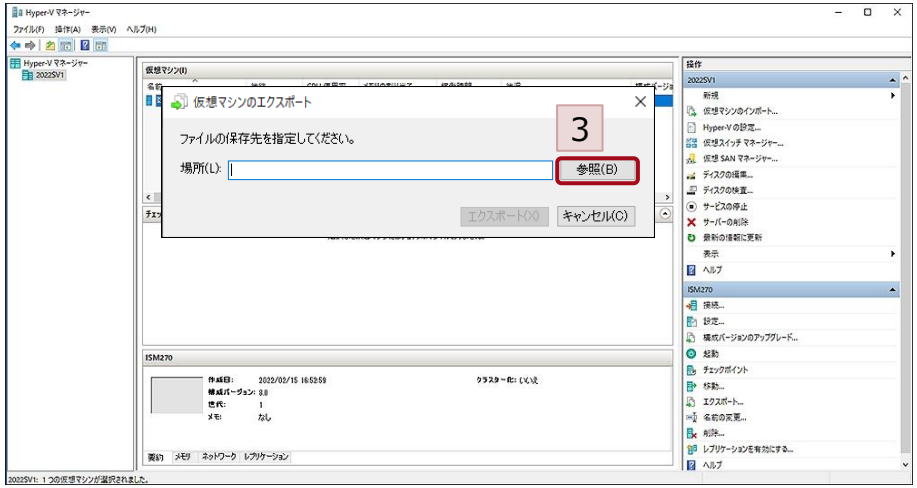
ISMのエクスポート -1



1. [ISM270]を右クリックします。
2. [エクスポート]をクリックします。

ISMのエクスポートを行います。

ISMのエクスポート -2



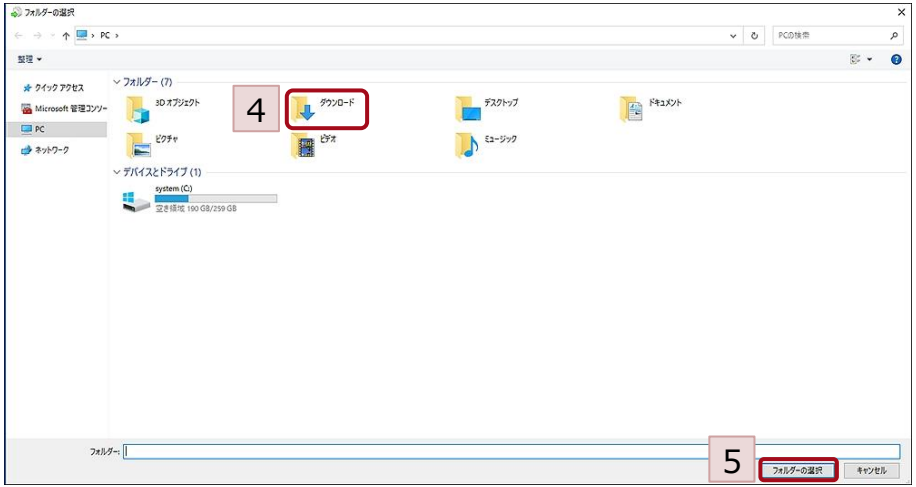
3. [参照]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（9/23）

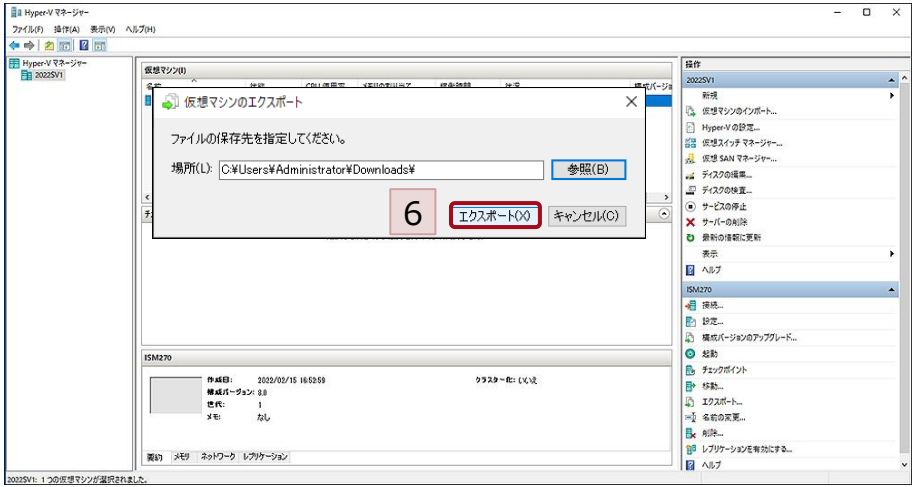
FUJITSU

ISMのエクスポート -3



4. [ダウンロード]をクリックします。
5. [フォルダーの選択]をクリックし、エクスポート先を指定します。

ISMのエクスポート -4



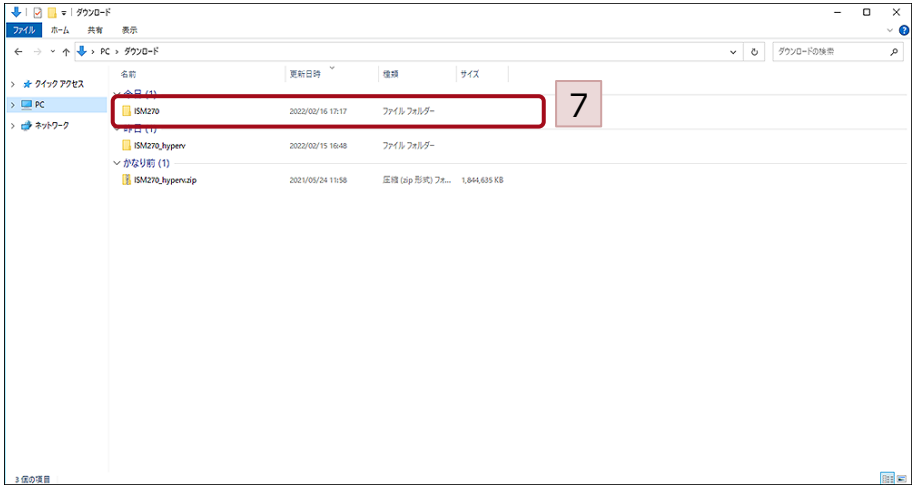
6. [エクスポート]をクリックし、ISM-VAをエクスポートします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（10/23）

FUJITSU

ISMのエクスポート -5



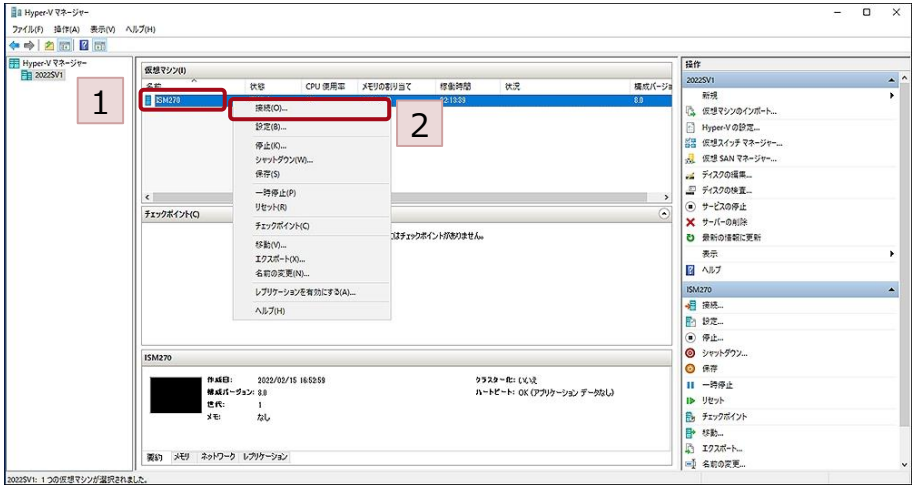
7. エクスポートしたフォルダー[ISM270]があることを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（11/23）

FUJITSU

ISMの起動 -1



1. [ISM270]を右クリックします。
2. [接続]をクリックします。

ISMを起動します。

ISMの起動 -2

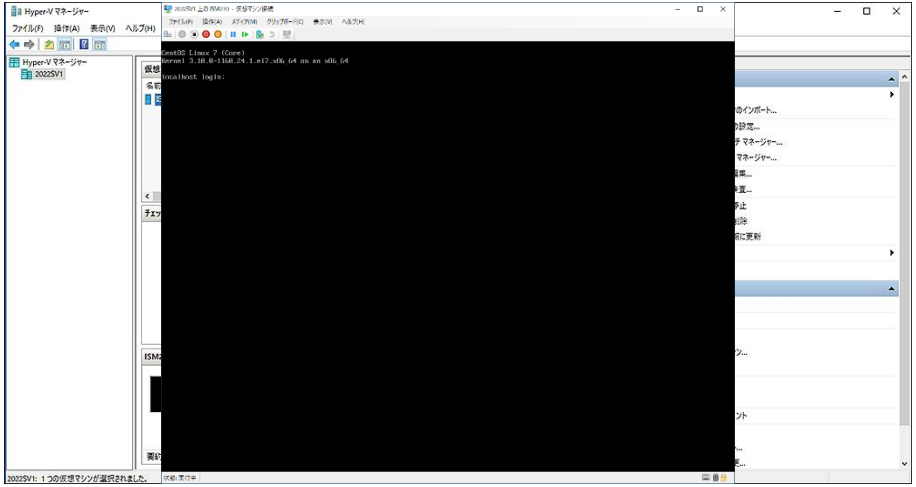
3. [起動]をクリックし、ISMを起動します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（12/23）

FUJITSU

ISMの起動 -3



4. ログイン画面が表示されたことを確認します。

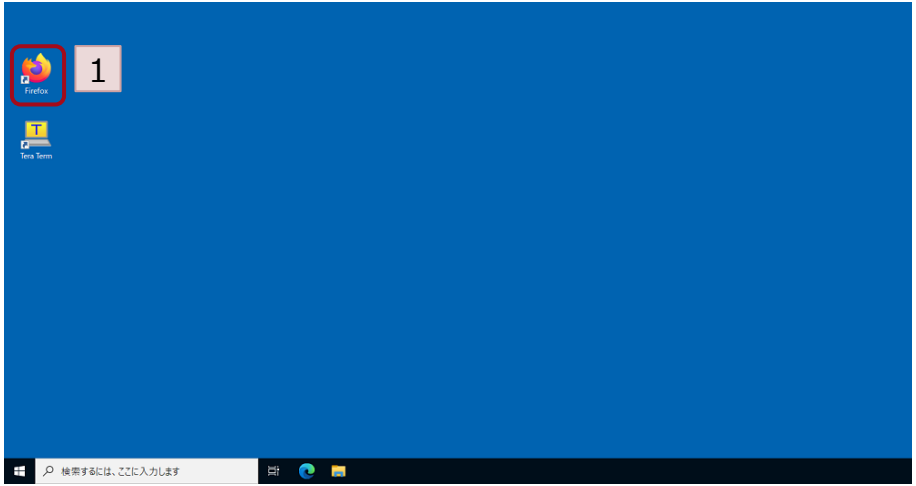
以上で、ISMの起動は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（13/23）

FUJITSU

ISMへのパッチ適用 -1



1. [ブラウザのショートカット]をダブルクリックします。

ISMのWeb GUIへログインします。

ISMへのパッチ適用 -2

2. [URL]を入力し、[Enter]キーを押します。

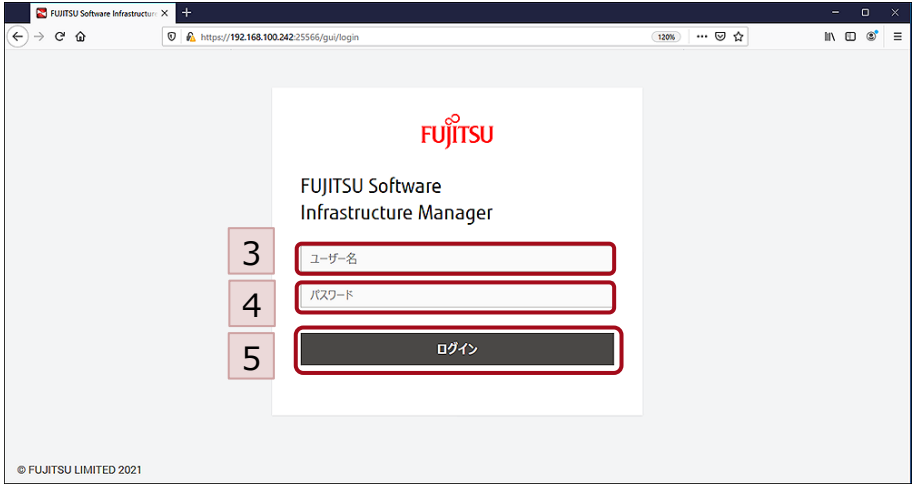
本資料では、下記の情報を入力します。
https://192.168.100.242:25566

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（14/23）

FUJITSU

ISMへのパッチ適用 -3



3. [ユーザー名]を入力します。
4. [パスワード]を入力します。
5. [ログイン]をクリックして、ISMにログインします。

本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザー名：administrator
パスワード：admin

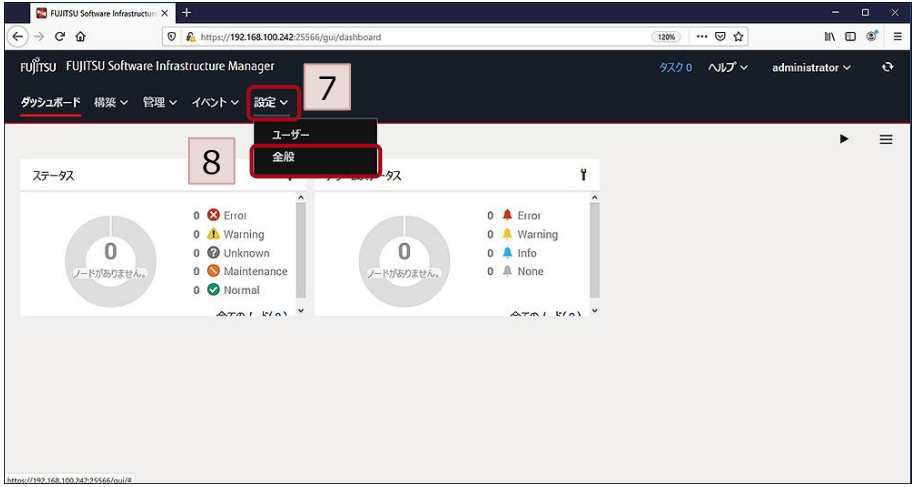
ISMへのパッチ適用 -4

6. [閉じる]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

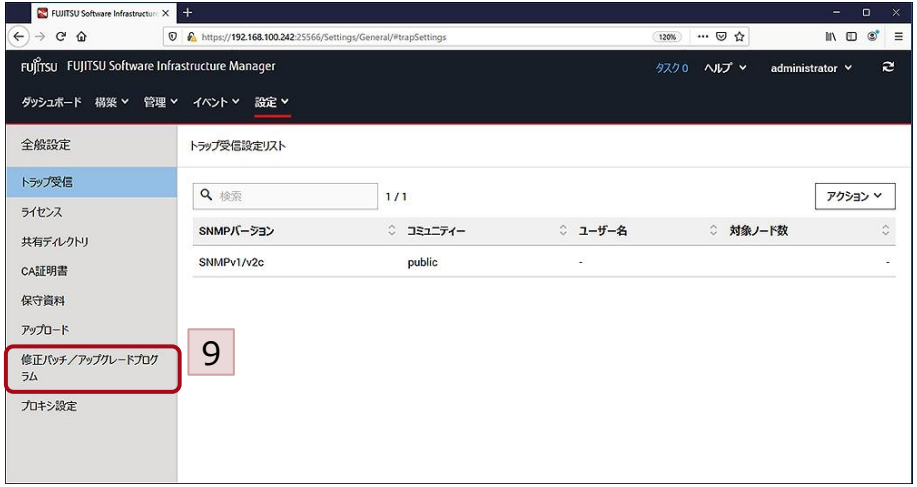
2.5 ISMへのパッチ適用（15/23）

ISMへのパッチ適用 -5



7. [設定]をマウスオーバーします。
8. [全般]をクリックします。

ISMへのパッチ適用 -6



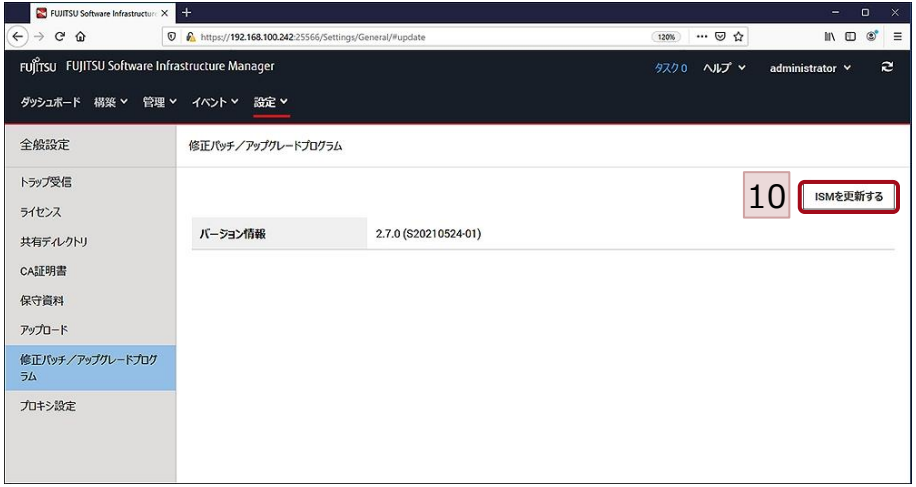
9. [修正パッチ/アップグレードプログラム]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（16/23）

FUJITSU

ISMへのパッチ適用 -7



10. [ISMを更新する]をクリックします。

ISMへのパッチ適用 -8

11. [ブラウズ]をクリックします。

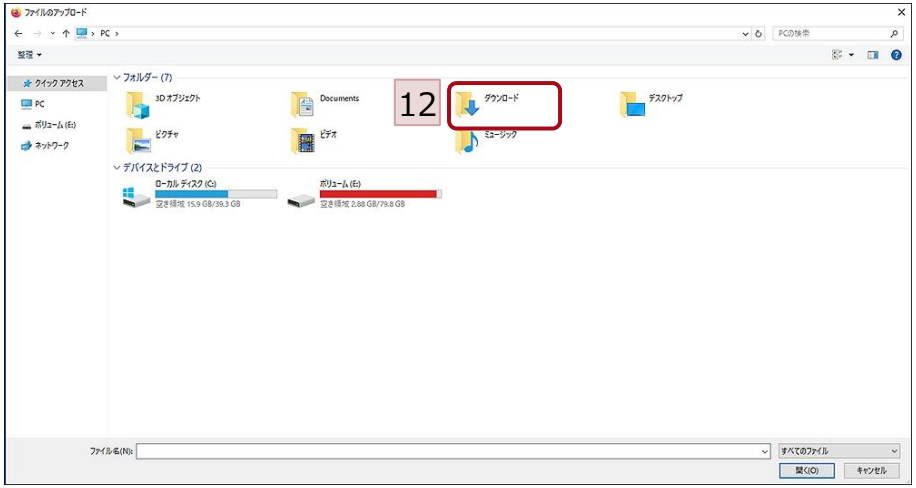
ISMに適用するパッチファイルを指定します。
本資料では、あらかじめ[ダウンロード]フォルダーにパッチファイルを格納しています。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（17/23）

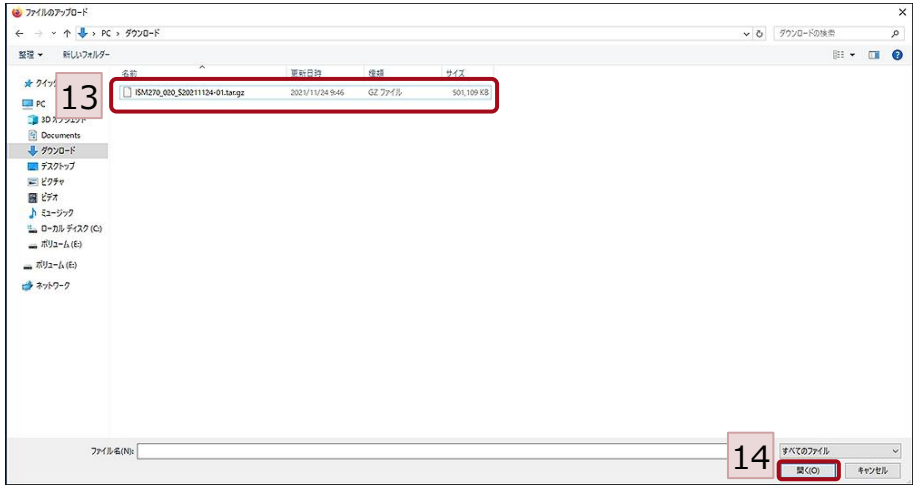
FUJITSU

ISMへのパッチ適用 -9



12. [ダウンロード]をダブルクリックします。

ISMへのパッチ適用 -10



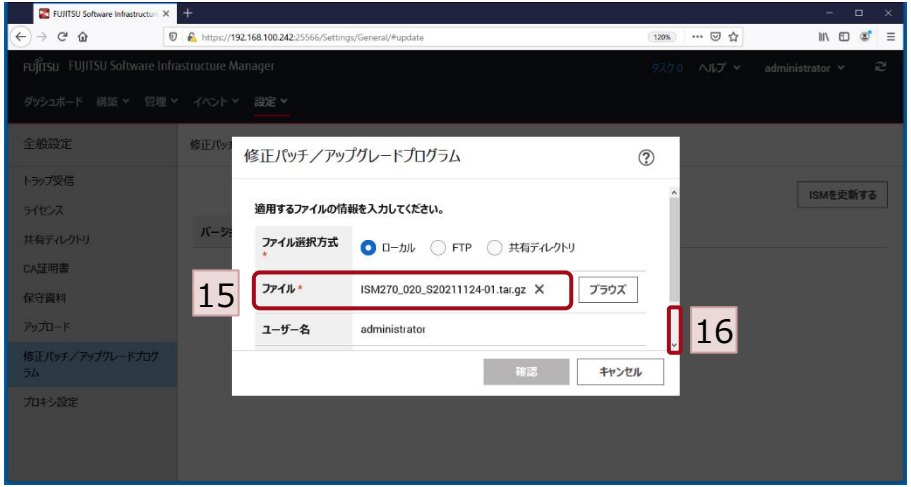
13. フォルダー内にある、ISMのパッチファイルをクリックします。
14. [開く]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（18/23）

FUJITSU

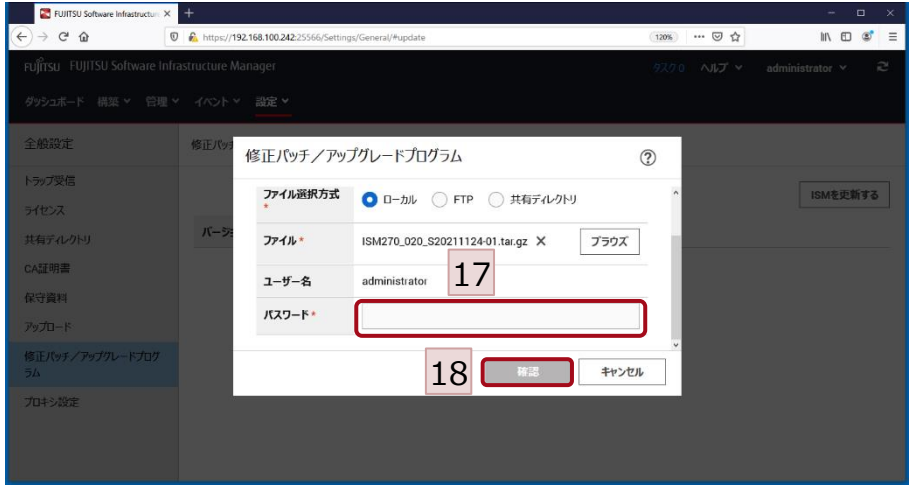
ISMへのパッチ適用 -11



15. 指定したパッチファイルが表示されているのを確認します。
16. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

本資料では、下記のファイルが表示されていることを確認します。
ファイル名: ISM270_020_S20211124-01.tar.gz

ISMへのパッチ適用 -12



17. [パスワード]を入力します。
18. [確認]をクリックします。

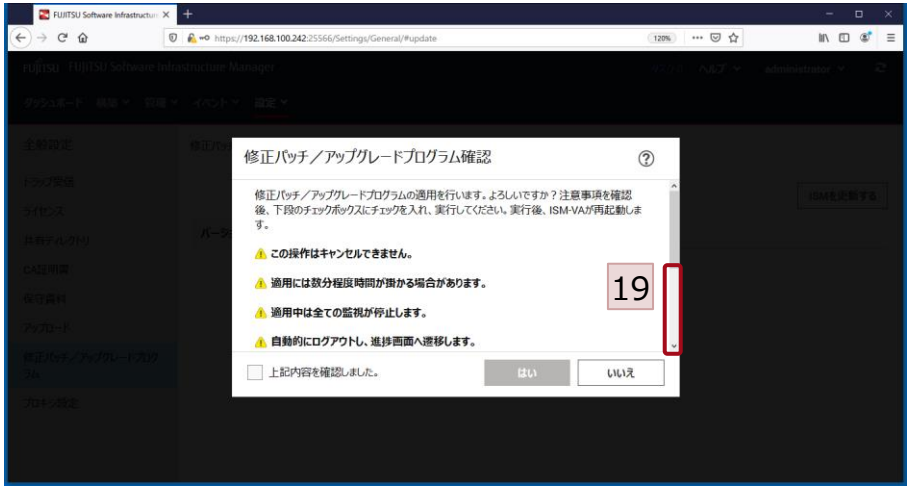
本資料では、下記の値を入力します。
パスワード: admin

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（19/23）

FUJITSU

ISMへのパッチ適用 -13



19. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

ISMへのパッチ適用 -14

20. [上記内容を確認しました]をクリックし、チェックを入れます。
21. [はい]をクリックし、パッチを適用します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（20/23）

ISMへのパッチ適用 -15

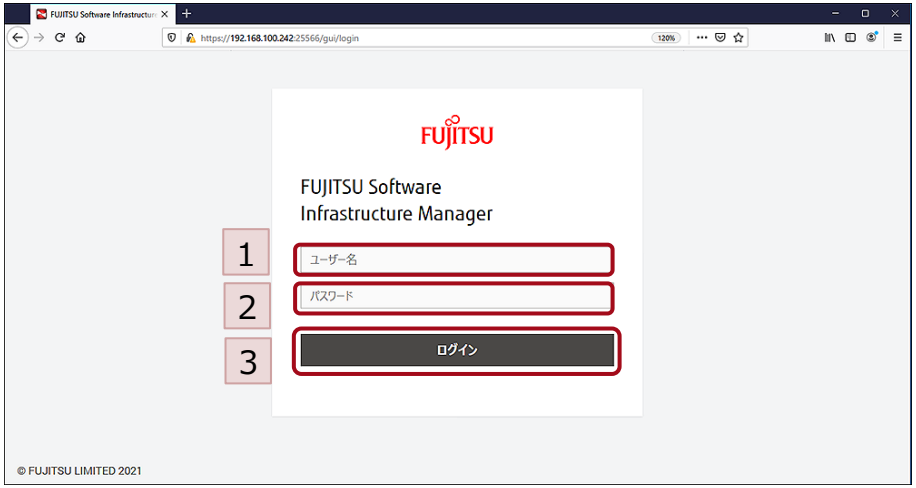
22. パッチの適用が完了したらブラウザを再起動し、ログイン画面に移動します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（21/23）

FUJITSU

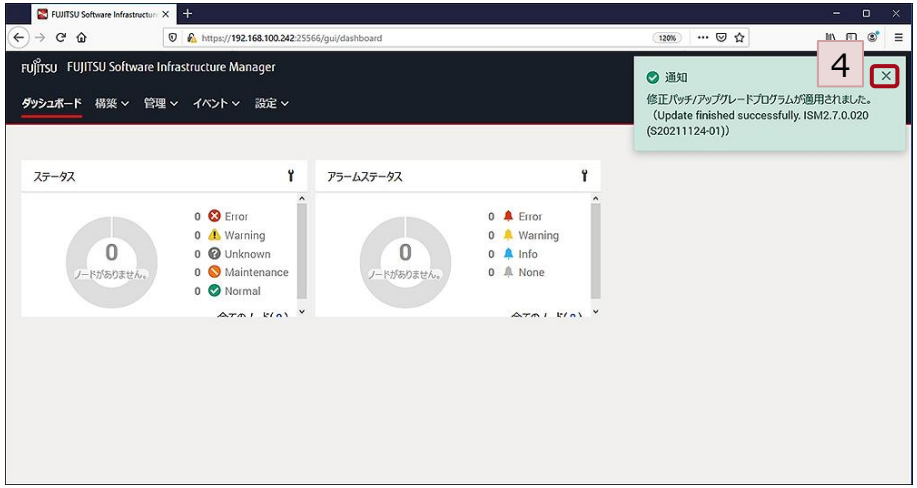
パッチ適用の確認 -1



1. [ユーザー名]を入力します。
2. [パスワード]を入力します。
3. [ログイン]をクリックして、ISMにログインします。

本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザー名：administrator
パスワード：admin

パッチ適用の確認 -2

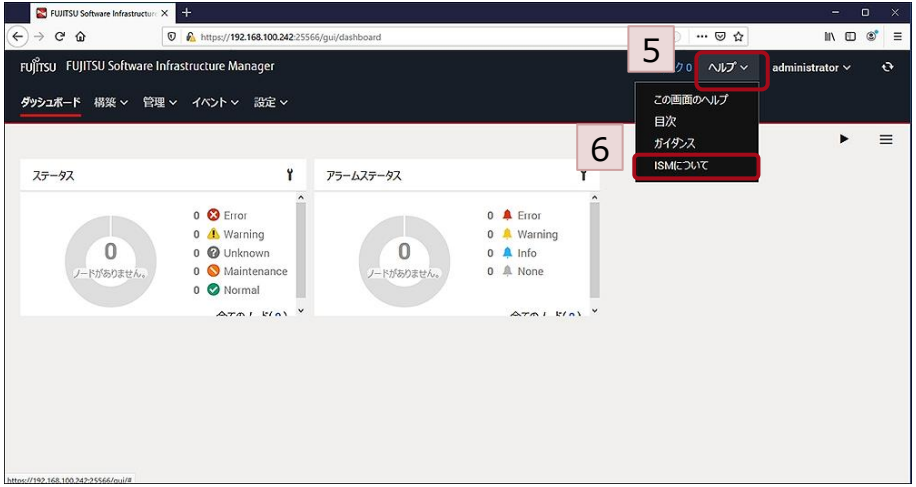


4. パッチ適用通知の[×]をクリックして、通知を閉じます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

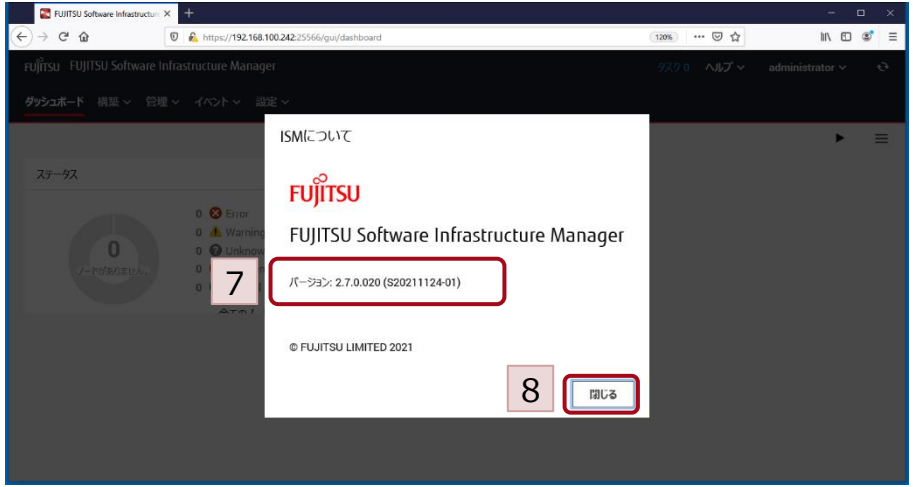
2.5 ISMへのパッチ適用（22/23）

パッチ適用の確認 -3



5. [ヘルプ]をマウスオーバーします。
6. [ISMについて]をクリックします。

パッチ適用の確認 -4



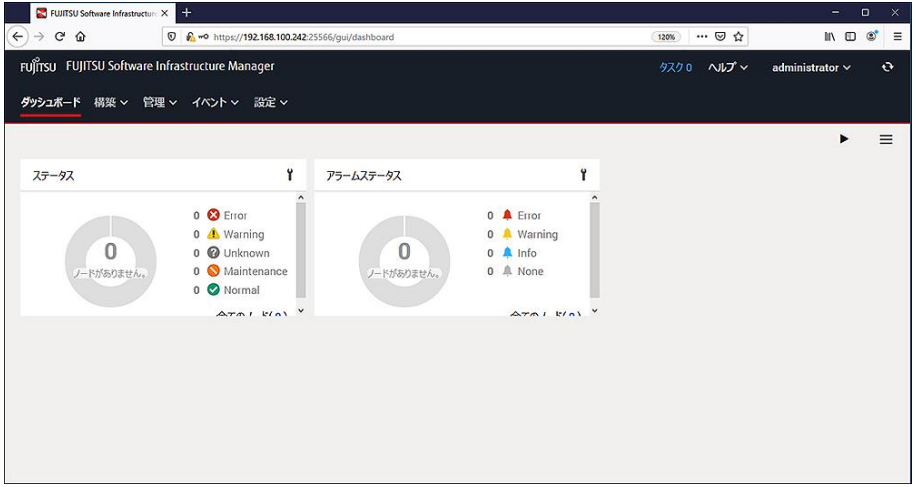
7. パッチが適用され、ISMのバージョンが変わったことを確認します。
8. [閉じる]をクリックします。

本資料では、ISMのバージョンが下記であることを確認します。
バージョン: 2.7.0.020

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

2.5 ISMへのパッチ適用（23/23）

パッチ適用の確認 -5



以上で、ISMへのパッチ適用は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3. ISMによるノード管理

3.1 ノード管理機能

3.2 ノードの登録

3.3 OS情報の登録

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.1 ノード管理機能（1/3）

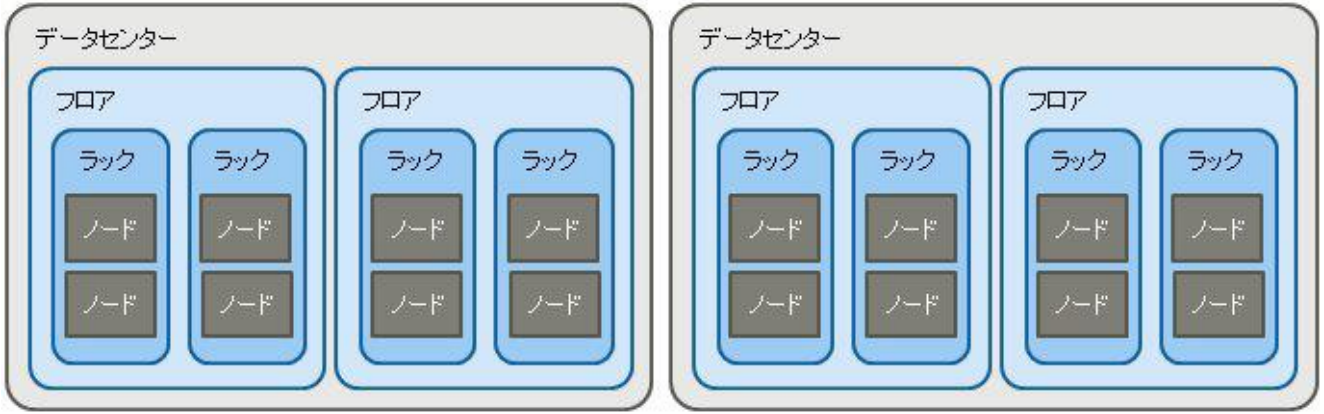
FUJITSU

ノード管理機能とは -1

ノード管理機能は、管理対象のサーバーをISMへ登録し、管理する機能です。
データセンター／フロア／ラック／ノードの4階層でノードを管理し、各階層は以下の意味をもちます。

- ・データセンター：データセンター施設の建屋
- ・フロア：データセンター施設内のマシンルーム
- ・ラック：フロア内に設置されているラック
- ・ノード：ラック内に搭載されている管理対象機器

※Essentialは、ノードの管理しかサポートしておりません。データセンター等を管理したい場合、Advancedをご購入ください。



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.1 ノード管理機能（2/3）

FUJITSU

ノード管理機能とは -2

ISMに登録できる管理対象機器（ノード）の製品および、各管理対象機器でサポートする機能については、弊社の本製品Webサイトで『管理機器対象一覧』を参照してください。
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.1 ノード管理機能（3/3）

FUJITSU

ノード管理機能とは -3

ノード登録時に設定したノード名、IPアドレス、モデル名、シリアル番号などの情報が、
ノードリストに一覧表示されます。
これにより、多種多様な機器を一元管理できます。
またノードリストから対象のノード名をクリックすることで、各ノードの詳細情報を参照できます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.2 ノードの登録（1/8）

FUJITSU

ノードの登録について

ISMでノードを管理するためには、ISMにノードを登録する必要があります。
ノード登録は、以下の2通りの方法があります。

①ネットワーク内ノードを検出してノード登録する方法
IPアドレスの範囲を指定し、登録可能なノードを検出します。
検出された複数のノードを順次登録できます。

②ノードを直接登録する方法
単一のIPアドレスを指定して1つのノードを登録できます。

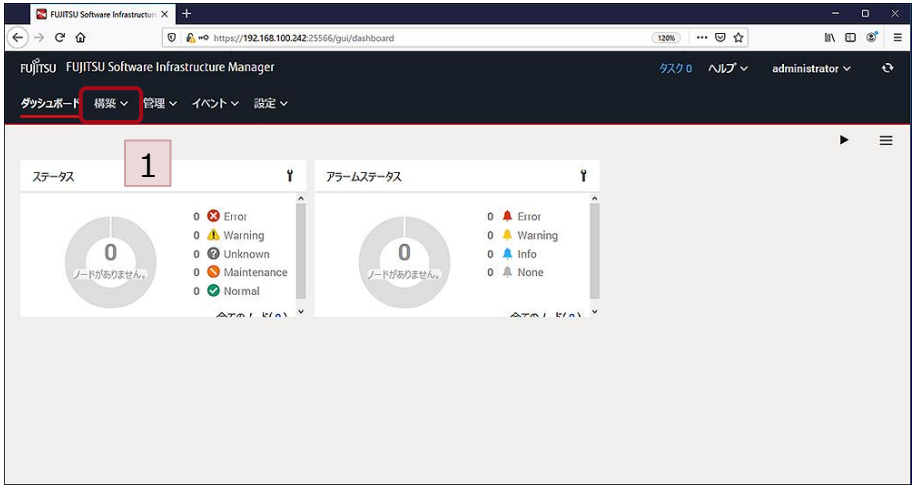
本資料では、「ノードを直接登録する方法」を実施します。

最新の手順については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。
Fujitsu Software Infrastructure Manager 技術情報
https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/technical/

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

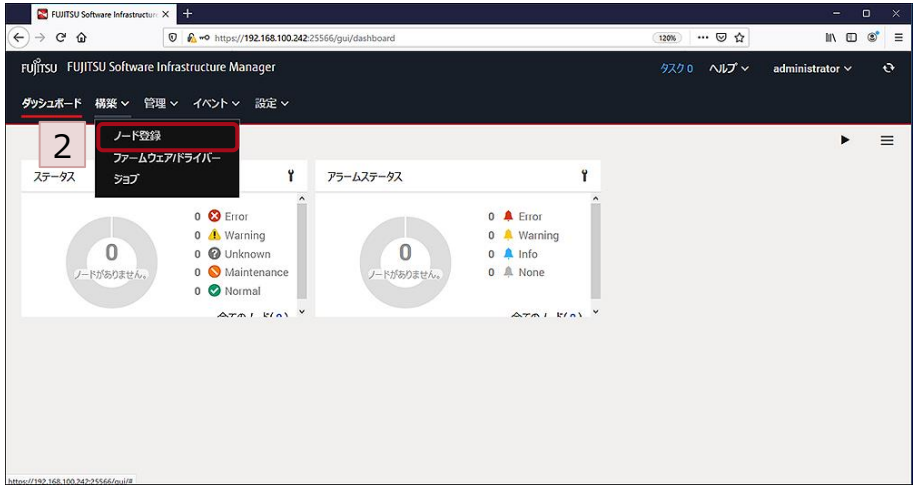
3.2 ノードの登録（2/8）

ノードの登録 -1



1. [構築]をマウスオーバーします。

ノードの登録 -2



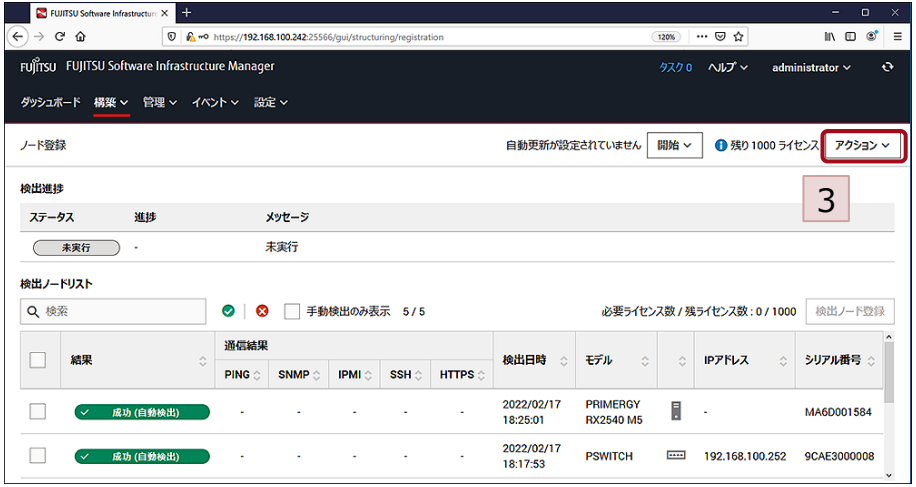
2. メニューから[ノード登録]をクリックします。

ISMにノードを登録します。
本資料では、ホストOSが搭載されているサーバーを登録します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

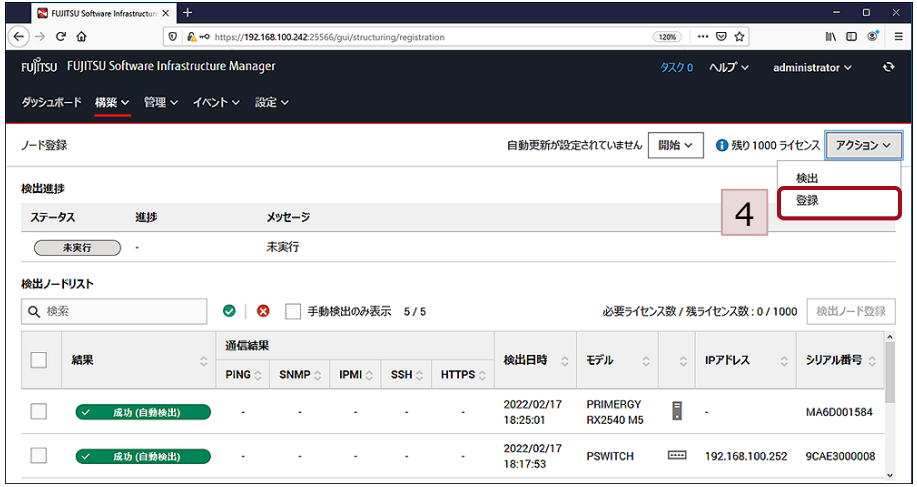
3.2 ノードの登録（3/8）

ノードの登録 -3



3. [アクション]をクリックします。

ノードの登録 -4



4. メニューから[登録]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

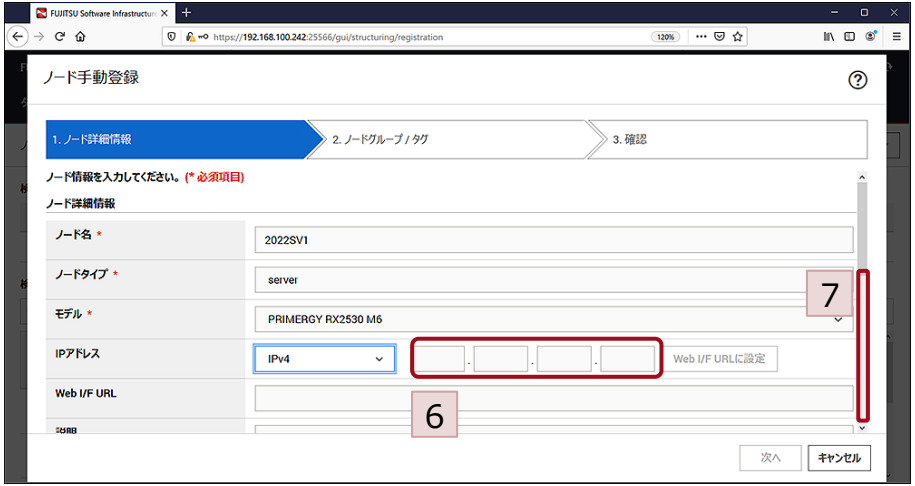
3.2 ノードの登録（4/8）

ノードの登録 -5

5. [ノード情報]を入力します。

本資料では、下記の情報を入力します。
ノード名：2022SV1
ノードタイプ：server
モデル：PRIMERGY RX2530 M6
IPアドレス：IPv4

ノードの登録 -6



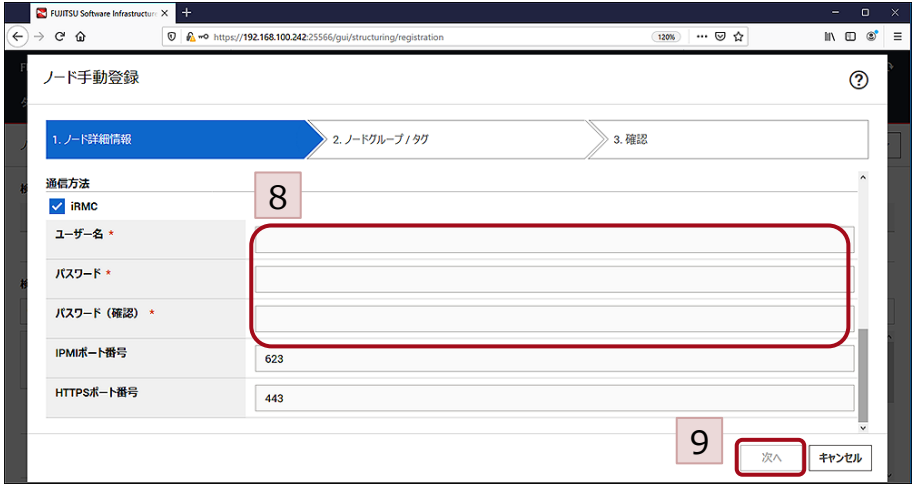
6. [IPアドレス]を入力します。
7. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

本資料では、iRMC経由でノード管理するため、
iRMCのIPアドレスを入力します。
IPアドレス：192.168.100.240

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.2 ノードの登録（5/8）

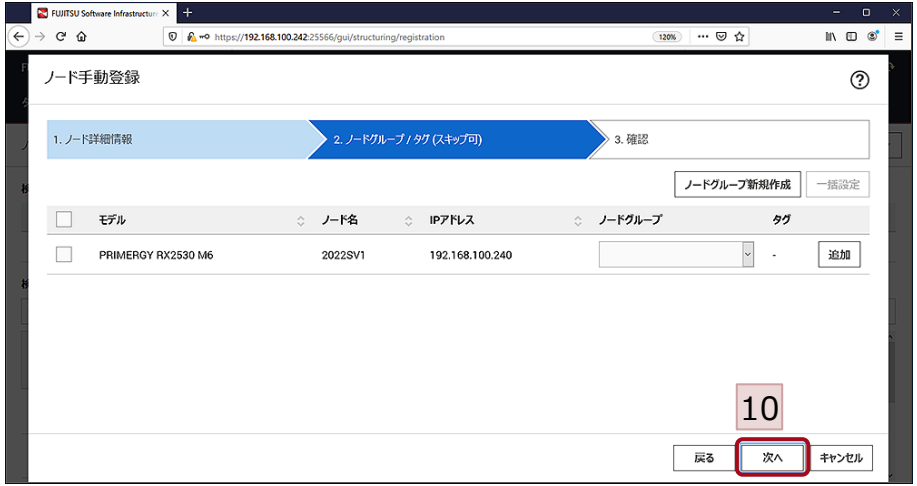
ノードの登録 -7



8. [ユーザー情報]を入力します。
9. [次へ]をクリックします。

本資料では、以下のiRMCのユーザー名・パスワードを入力します。
ユーザー名：admin
パスワード：admin
パスワード（確認）：admin

ノードの登録 -8

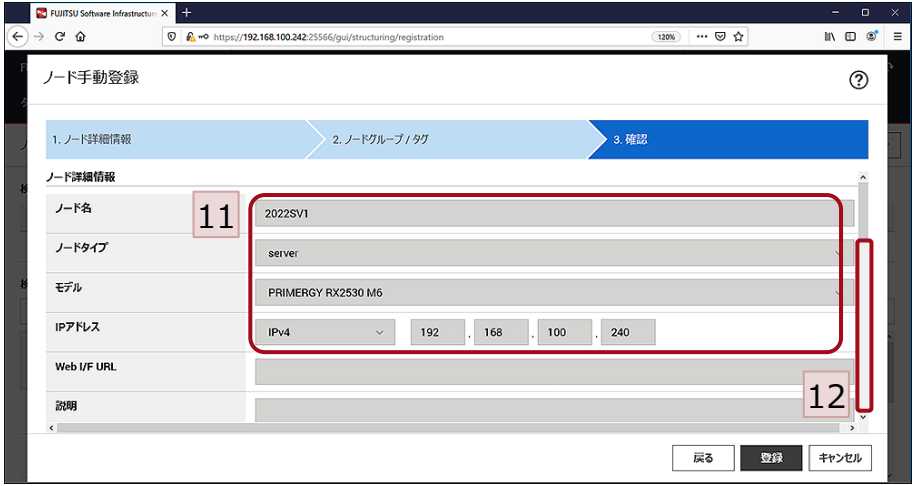


10. [次へ]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.2 ノードの登録（6/8）

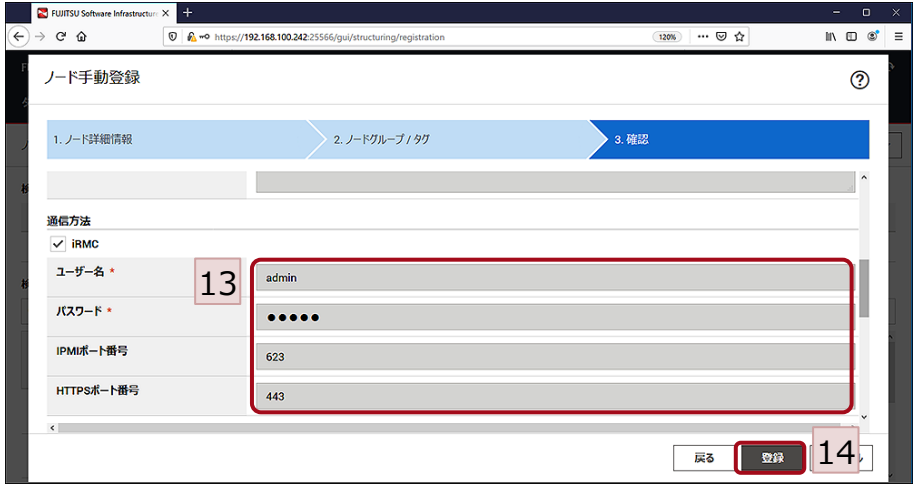
ノードの登録 -9



11. 設定内容を確認します。
12. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

入力した下記の内容が表示されていることを確認します。
ノード名：2022SV1
ノードタイプ：server
モデル：PRIMERGY RX2530 M6
IPアドレス：IPv4　192.168.100.240

ノードの登録 -10



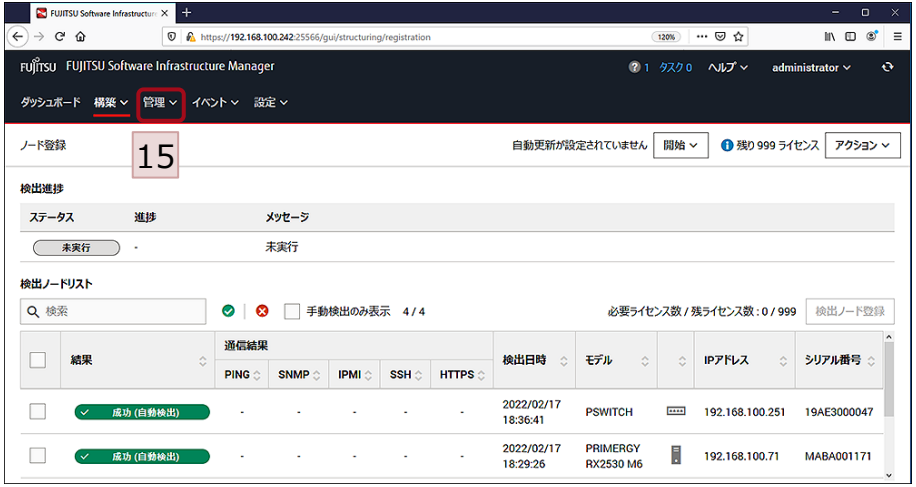
13. 設定内容を確認します。
14. [登録]をクリックします。

入力した下記の内容が表示されていることを確認します。
ユーザー名：admin
パスワード：●●●●●
IPMIポート番号：623
HTTPSポート番号：443

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.2 ノードの登録（7/8）

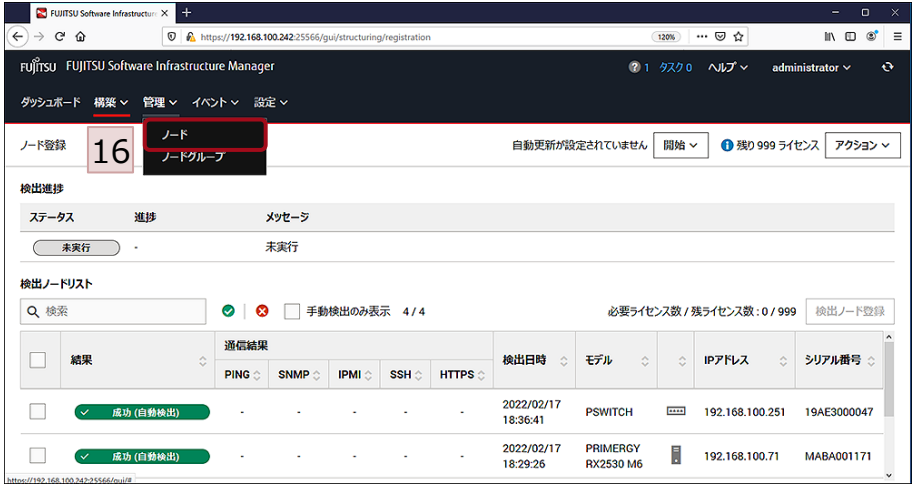
ノードの登録 -11



15. [管理]をマウスオーバーします。

ノードの登録を確認します。

ノードの登録 -12

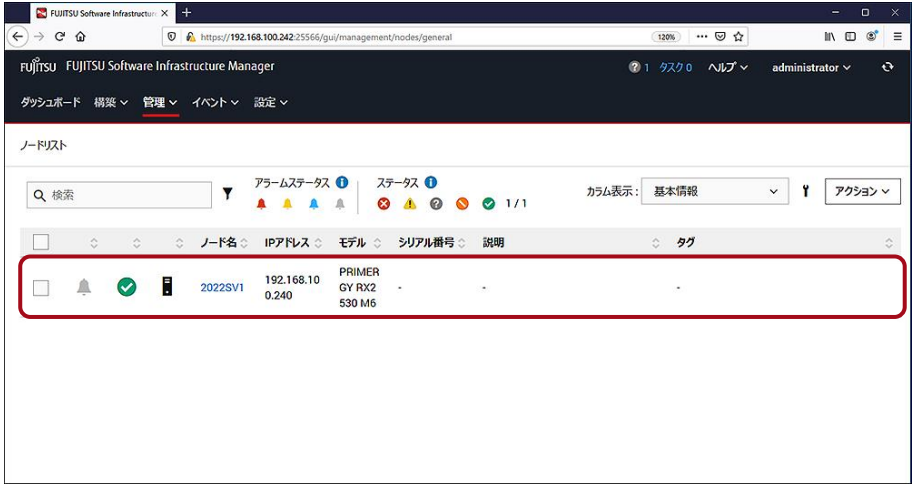


16. メニューから[ノード]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.2 ノードの登録（8/8）

ノードの登録 -13



ノードリストにサーバーが表示されていることを確認します。
以上で、ノードの登録は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（1/33）

FUJITSU

OS情報の登録について

ISMに登録したノードのOSを監視する場合は、OS情報を登録する必要があります。
OS情報にはOSの種類、IPアドレス、およびOSに接続するためのアカウント情報などが含まれます。
OSをISMの監視対象にするための手順は、OSごとに異なるので注意してください。
詳細は、『解説書』の「付録B 監視対象OS、仮想化管理ソフトウェアに対する設定」を参照ください。

本資料では、Windows Serverの登録手順を実施します。
凡例：○＝設定必要、×＝設定不要、－＝該当なし

OS		サービス	セキュリティ		ドメイン	
		WinRM	Firewall	PowerShell	SPN	ISM-VA設定
Windows Server	2012 R2	○	○	○	○	○
	2016	○	○	○	○	○
	2019	○	○	○	○	○
	2022	○	○	○	○	○

Windows Serverを監視するために必要な設定一覧表

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（2/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -1

ISMは、Windows Serverがインストールされている監視対象機器に対して、
WS-Managementプロトコルを使用します。

ISMからOSへの通信方式は、httpsプロトコル+Basic認証を使用します。
必要な設定は、以下の通りです。

- WinRMサービスの起動確認
- WinRMサービスの設定
- ファイアウォールのポート開放
- Windows PowerShellの実行ポリシー変更
- ドメインユーザーアカウント使用時の設定
  ※Active Directoryがある場合に必要な設定になります。
  本資料ではActive Directoryがないので、実施しません。

次頁から、OS情報登録の事前準備を紹介していきます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（3/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -2

WinRMサービスの起動確認を実施します。
監視対象のOS（Windows）にログインし、管理者権限でコマンドプロンプトを開きます。
コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、WinRMサービスの起動を確認します。

```
>sc query winrm
 TYPE : 20 WIN32_SHARE_PROCESS
 STATE : 4 RUNNING
  (STOPPABLE, NOT_PAUSABLE, ACCEPTS_SHUTDOWN)
 WIN32_EXIT_CODE : 0  (0x0)
 SERVICE_EXIT_CODE : 0  (0x0)
 CHECKPOINT : 0x0
 WAIT_HINT : 0x0
```

STATEがRUNNINGになっていると、 WinRMサービスが起動しています。
STATEがRUNNING以外の場合は、以下のコマンドでWinRMサービスを起動させます。

```
>sc start winrm
```

また以下のコマンドで、OSの起動に合わせてWinRMサービスが遅延自動起動（delayed-auto）するように設定します。

```
>sc config winrm start=delayed-auto
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（4/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -3

WinRMサービスの設定を実施します。
初期設定ではBasic認証が許可されていないため、Basic認証の許可設定を行います。
コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、 Basic認証を許可するように設定します。

```
>winrm set winrm/config/service/Auth @{Basic="true"}
```

設定後は以下のコマンドで、設定を反映させます。

```
>winrm quickconfig
```

以下の文言が聞かれた場合は、「y」を入力し、[Enter]キーを押します。

```
WinRM サービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
WinRM は、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。
次の変更を行う必要があります:
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicy を構成してください。
変更しますか [y/n]? y
WinRM はリモート管理用に更新されました。 ※ y を入力後に、[Enterキー]を押した後表示されます。
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう LocalAccountTokenFilterPolicy を構成しました。
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（5/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -4

https通信の設定を実施します。
https通信をするためには、証明書の設定が必要になります。
証明書を作成するために必要なツールは、以下の通りです。

① .NET Framework 4.5以降（ダウンロードサイト）
https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30653

② Windows Software Development Kit（ダウンロードサイト）
https://developer.microsoft.com/ja-jp/windows/downloads/windows-10-sdk

上記URLのWindows Software Development Kitは、Windows 7 SP1またはWindows 8.1、Windows 10、およびWindows Server 2012 R2またはWindows Server 2016、Windows Server 2019のOSに対応しています。
その他のOSにインストールする場合は、適切なWindows Software Development Kitをインストールしてください。

本資料では、作業端末（Windows 10）にWindows Software Development Kitを導入します。

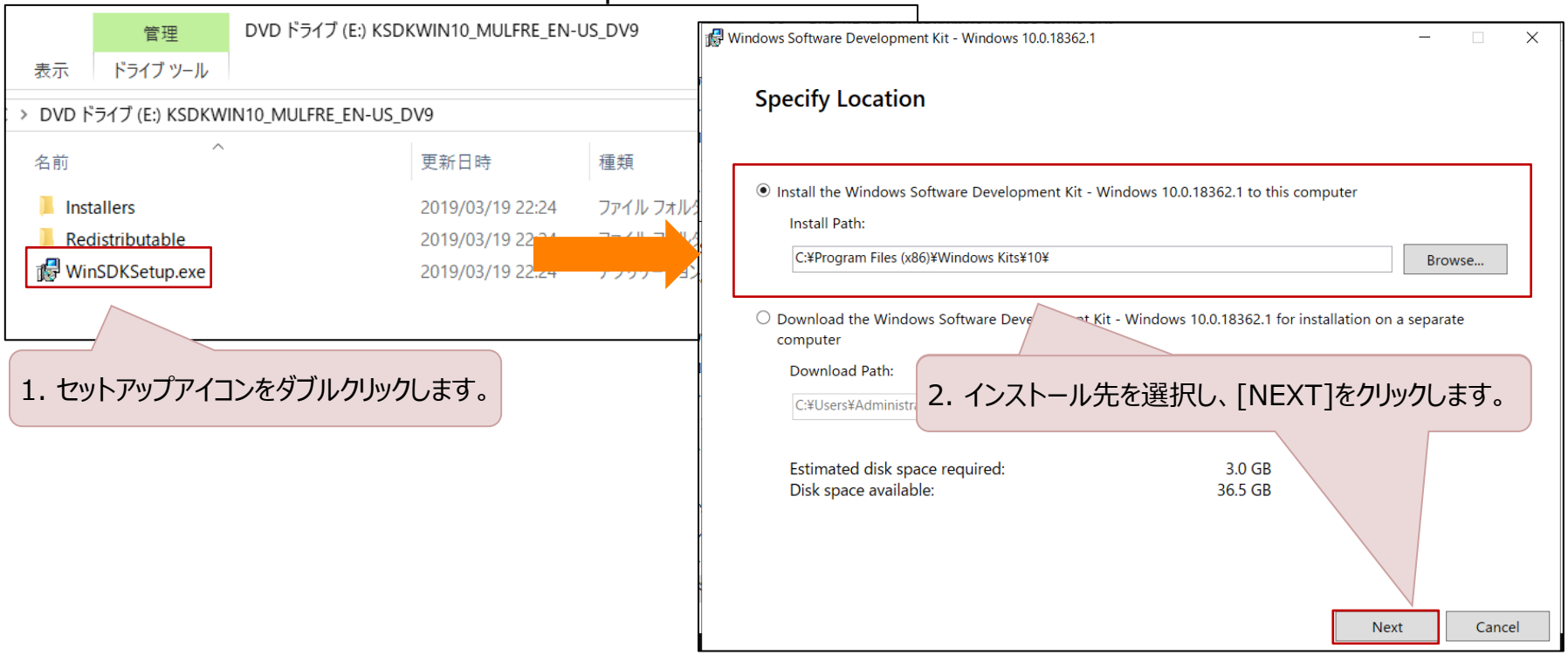
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（6/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -5

ダウンロードしたWindows Software Development Kitの、インストーラーを起動し、インストール先を選択します。



1. セットアップアイコンをダブルクリックします。

2. インストール先を選択し、[NEXT]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

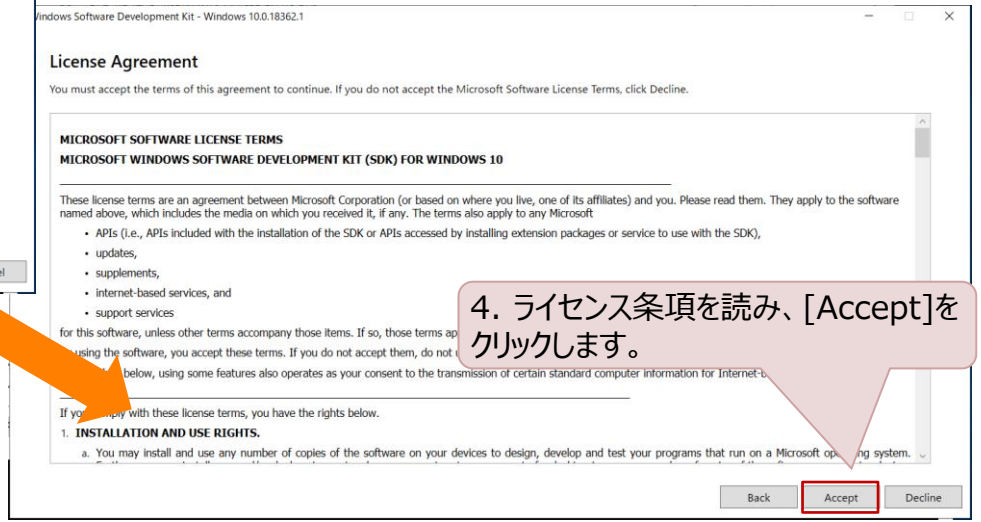
3.3 OS情報の登録（7/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -6

カスタマーエクスペリエンスの設定と、ライセンス条項への同意を実施します。

3. Microsoft社に情報提供するかを選択し、[NEXT]をクリックします。



4. ライセンス条項を読み、[Accept]をクリックします。

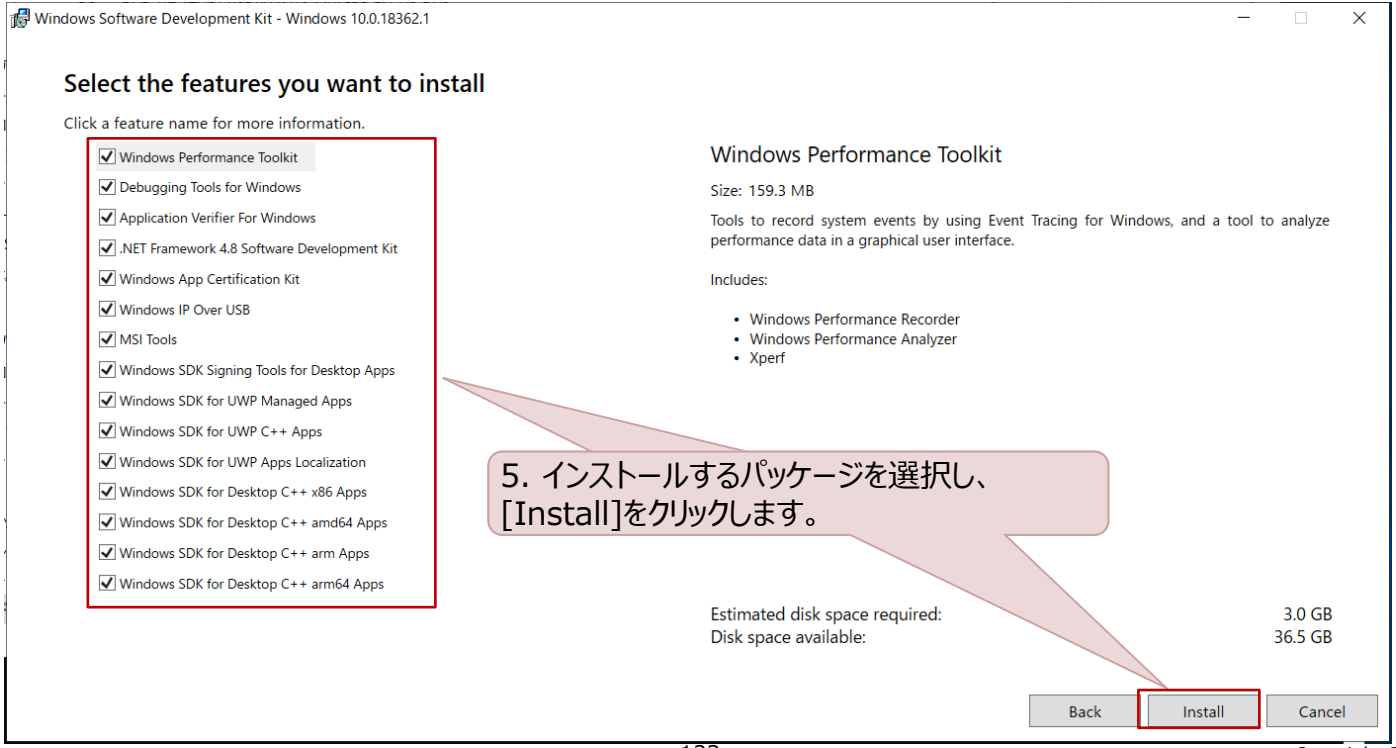
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（8/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -7

Windows Software Development Kitをインストールします。



5. インストールするパッケージを選択し、[Install]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（9/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -8

Windows Software Development Kitのインストール完了後に、実行ファイルが入っているフォルダーをPATHに登録してください。※登録しない場合、証明書発行のコマンドがエラーになることがあります。
管理者権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行し、PATHを追加してください。

```
>set path=%path%; <Windows Software Development Kitの実行ファイルの入っているフォルダーまでのPATH>
例：set path=%path%; C:¥Program Files (x86)¥Windows Kits¥bin¥10.0.18362.0¥x64
```

PATHが追加されたかは、以下のコマンドを実行して確認してください。

```
>path
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（10/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -9

https通信をするために必要な、証明書を作成します。
証明書作成ツール、個人情報交換ファイル作成ツールを使用し、以下の3つのファイルを作成します。

- CERファイル（証明書）
- PVKファイル（秘密鍵ファイル）
- PFXファイル（サービス証明書）

より詳細な証明書作成の流れについては、以下のURLを参照ください。
https://blogs.technet.microsoft.com/junichia/2010/11/09/azure-for-itpro-3

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（11/33）

FUJITSU

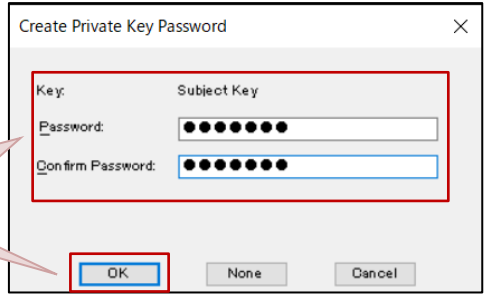
OS情報登録の事前準備 -10

最初に、「CERファイル（証明書）」と「PVKファイル（秘密鍵ファイル）」を作成します。
Windows Software Development Kitのインストール先で、管理者権限でコマンドプロンプトを起動します。
コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

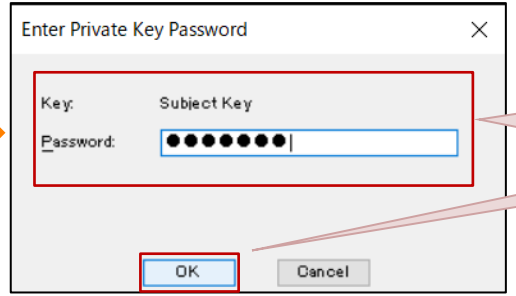
```
>makecert.exe -r -pe -n “CN=<対象のサーバー名>” -e <証明書の期限>-eku 1.3.6.1.5.5.7.3.1 -ss My
-sr localMachine -sky exchange <証明書のファイル名.cer> -sv <秘密鍵のファイル名.pvk>

例：makecert.exe -r -pe -n "CN=192.168.10.10" -e 03/30/2017 -eku 1.3.6.1.5.5.7.3.1 -ss My
-sr localMachine -sky exchange test.cer –sv test.pvk
```

また、「PVKファイル（秘密鍵ファイル）」の作成には、パスワードが必要になります。
上記コマンド後に、パスワードの入力画面が表示されるので、任意のパスワードを入力してください。



1. パスワードを入力し、[OK]をクリックします。



2. 再度パスワードを入力し、[OK]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（12/33）

FUJITSU

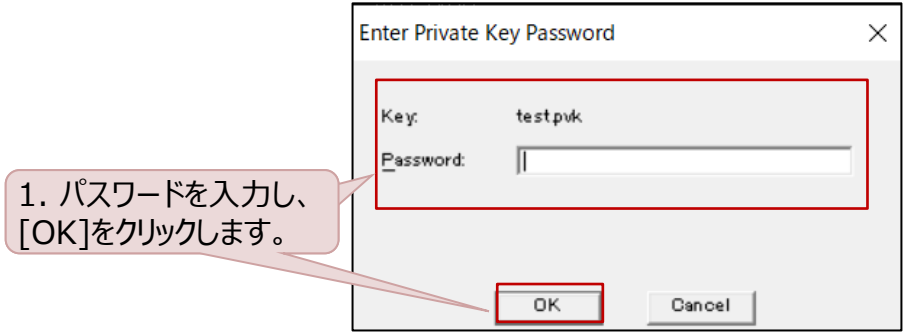
OS情報登録の事前準備 -11

次に、「PFXファイル（サービス証明書）」を作成します。
コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
>pvk2pfx.exe -pvk ＜秘密鍵のファイル名.pvk＞ -spc ＜証明書のファイル名.cer＞
-pfx ＜サービス証明書のファイル名.pfx＞

例：pvk2pfx.exe -pvk test.pvk –spc test.cer –pfx test.pfx
```

また、「PFXファイル（サービス証明書）」の作成には、「PVKファイル（秘密鍵ファイル）」のパスワードが必要になります。
上記コマンド後に、パスワードの入力画面が表示されるので、「PVKファイル（秘密鍵ファイル）」のパスワードを入力してください。



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

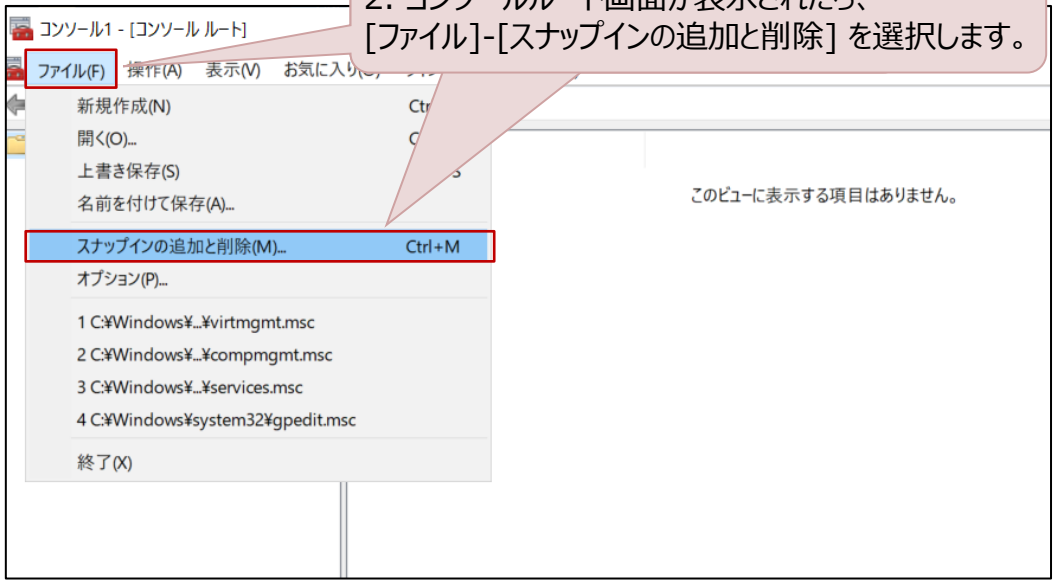
3.3 OS情報の登録（13/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -12

各証明書を作成後に、証明書の登録を実施します。
まず対象サーバーに作成したすべての証明書を任意の場所にコピーします。
その後、対象サーバーでMicrosoft 管理コンソールを起動し、証明書スナップインを追加します。

1.対象サーバーで[ファイル名を指定して実行]を起動し、[mmc.exe]を実行します。



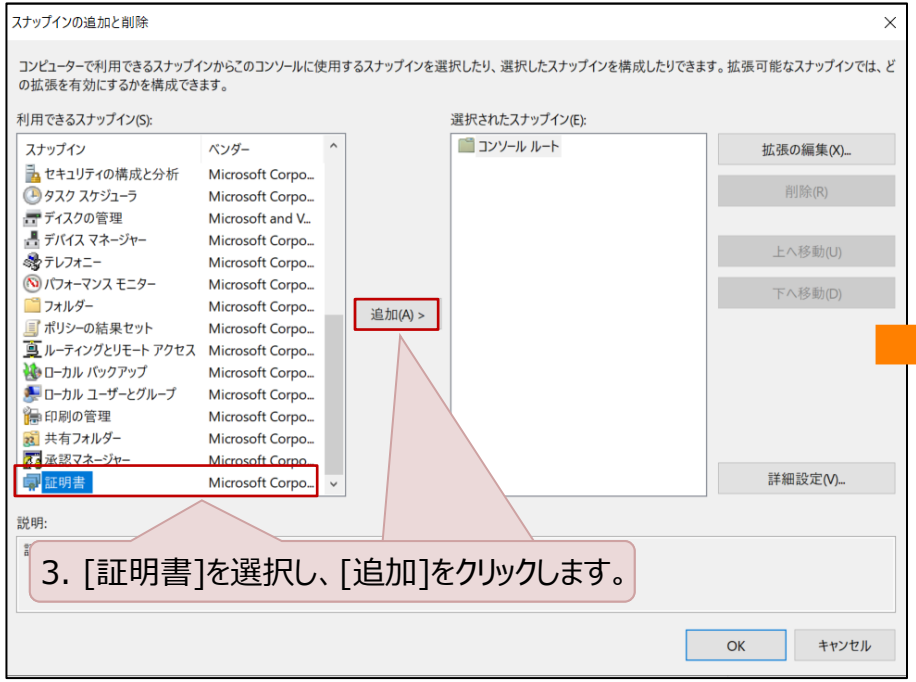
2. コンソールルート画面が表示されたら、[ファイル]-[スナップインの追加と削除] を選択します。

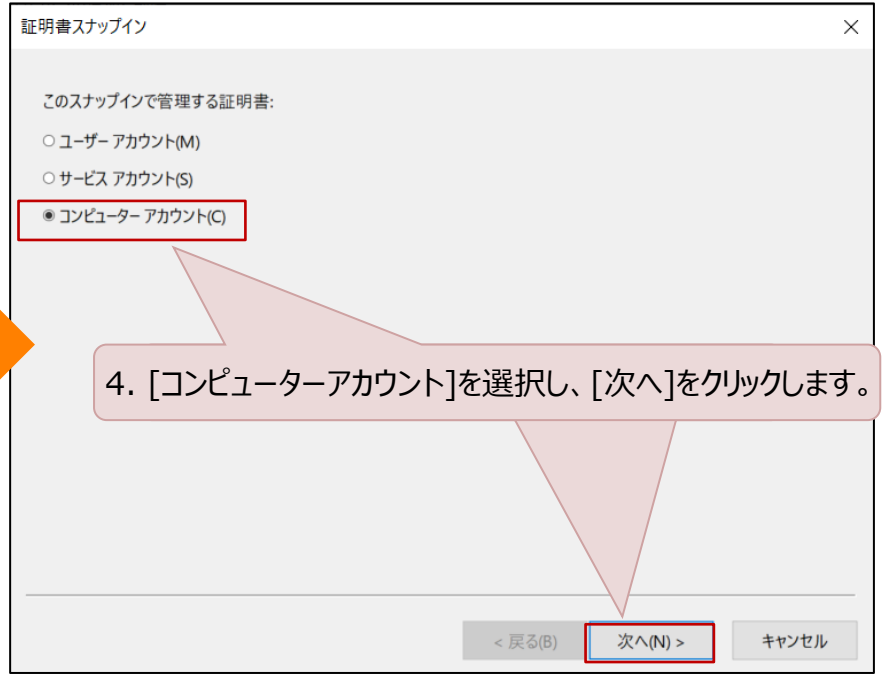
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -13

証明書スナップインを追加します。





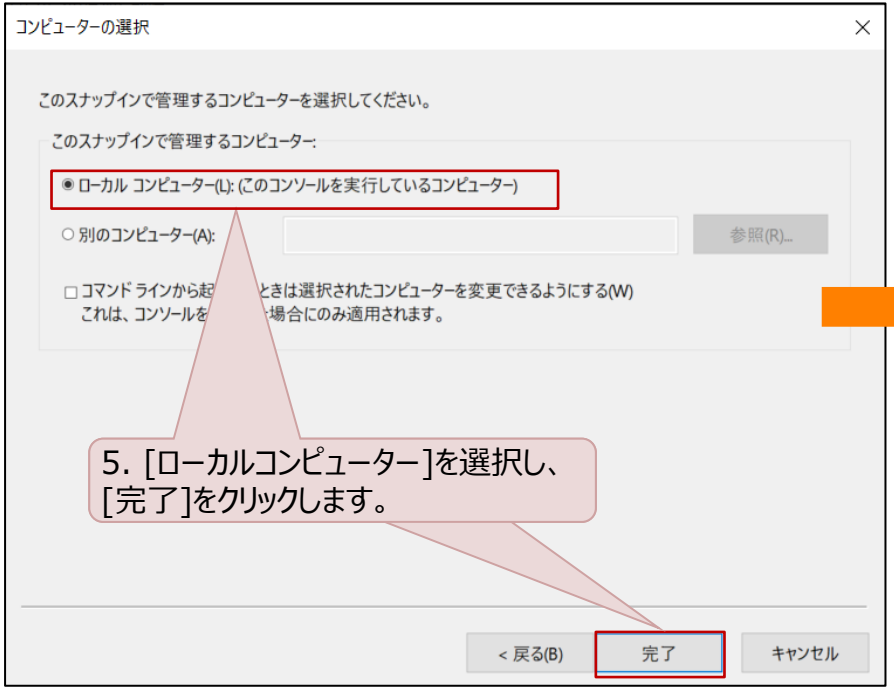
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

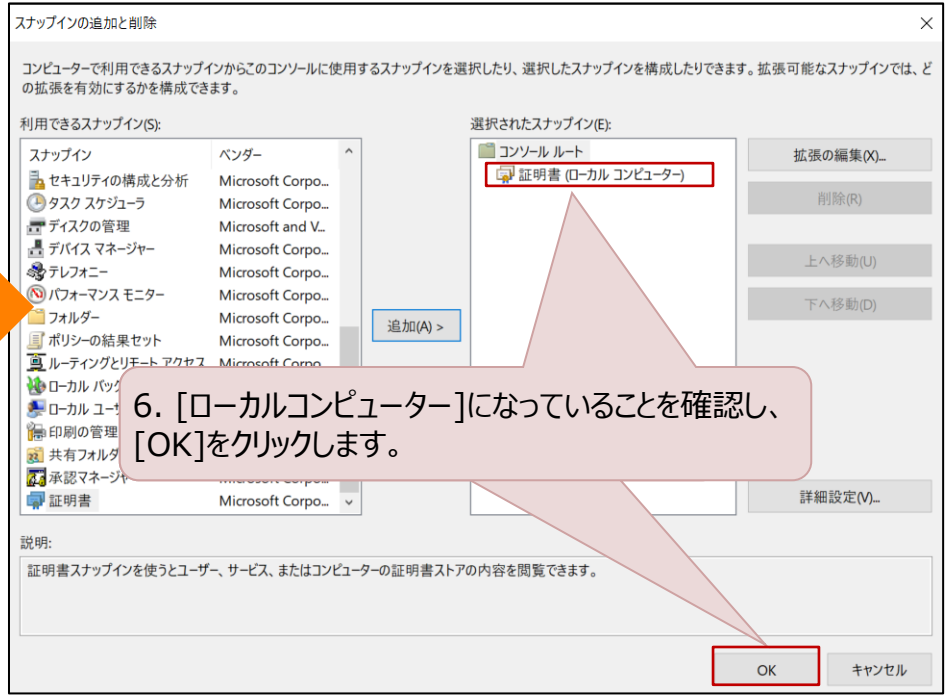
3.3 OS情報の登録（15/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -14

証明書スナップインを追加します。





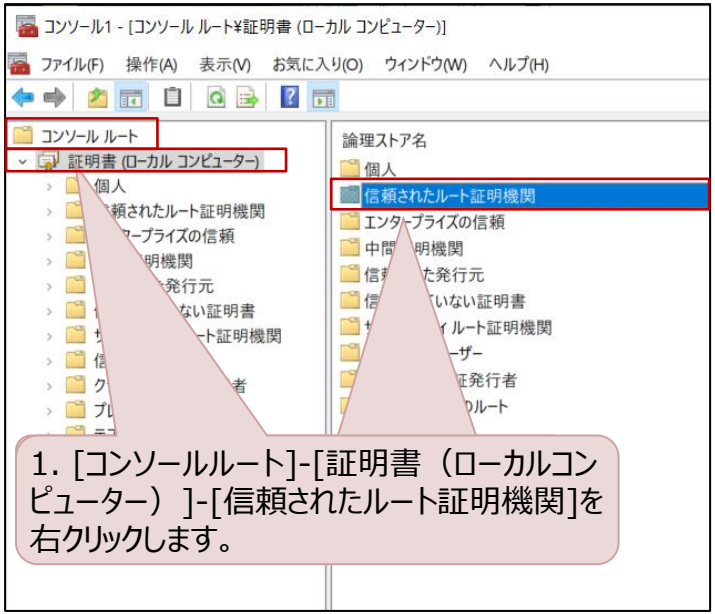
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

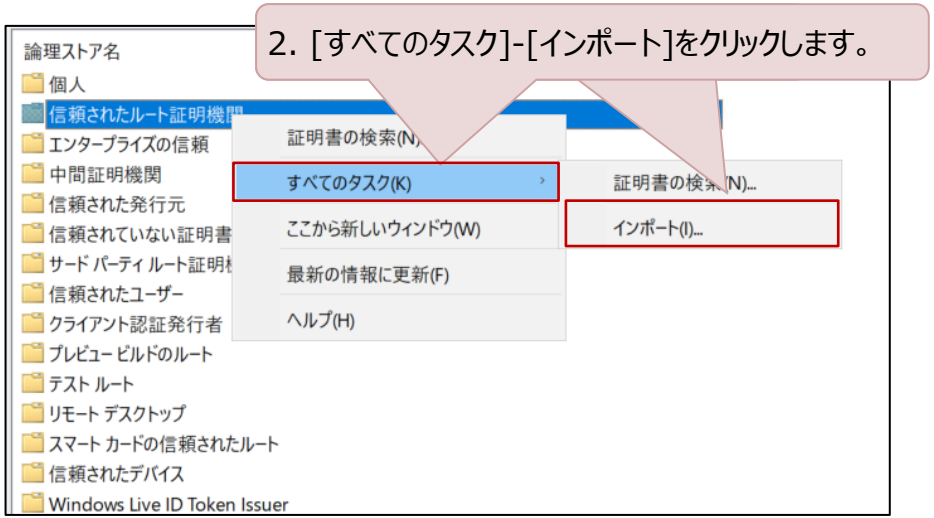
3.3 OS情報の登録（16/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -15

CERファイル（証明書）を信頼されたルート証明機関に登録します。



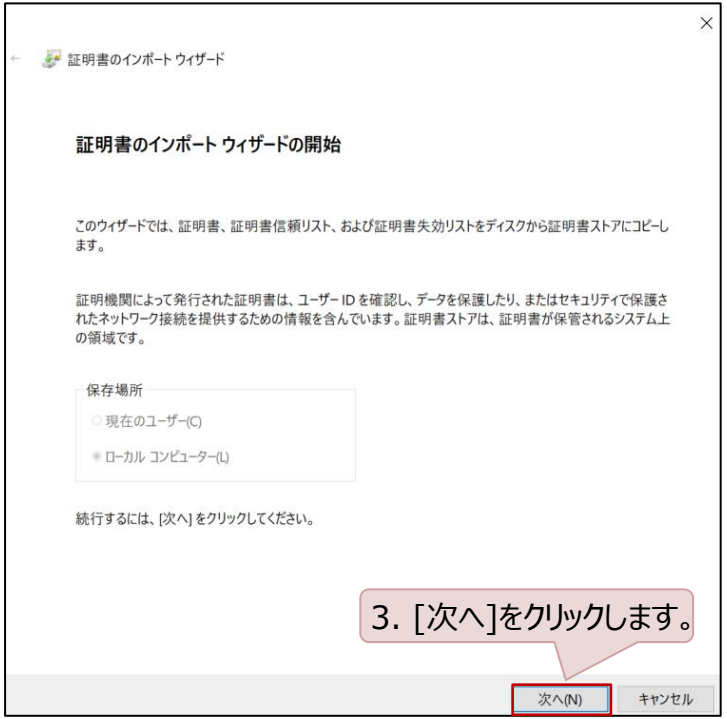


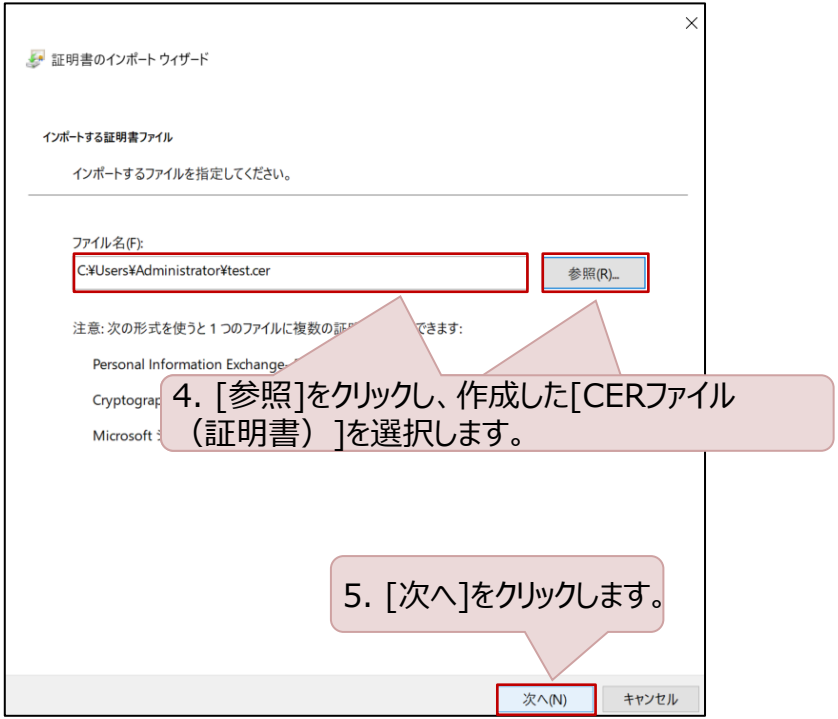
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -16

CERファイル（証明書）を信頼されたルート証明機関に登録します。



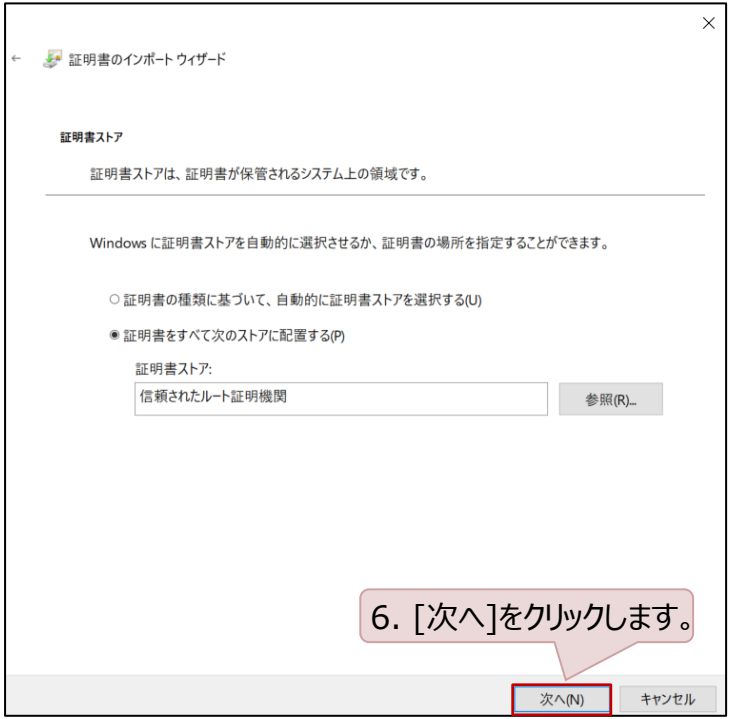


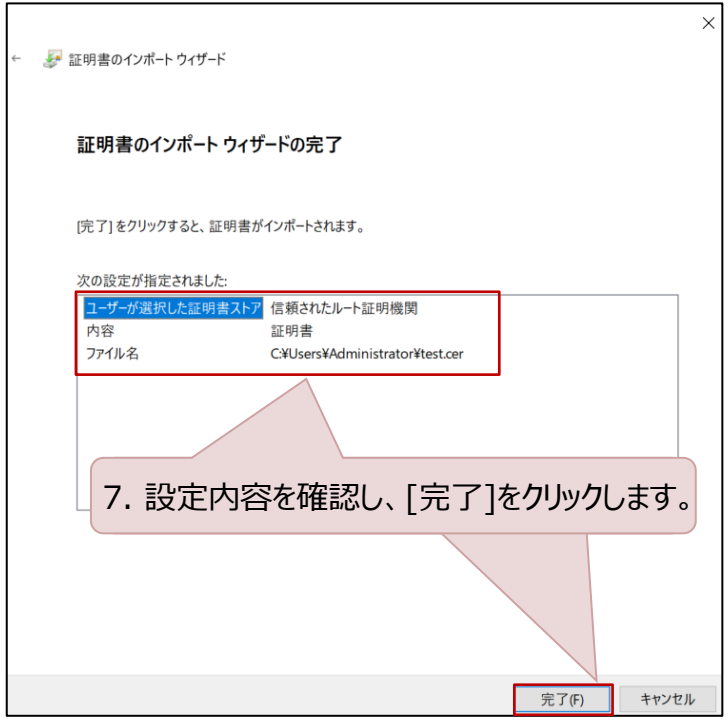
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -17

CERファイル（証明書）を信頼されたルート証明機関に登録します。



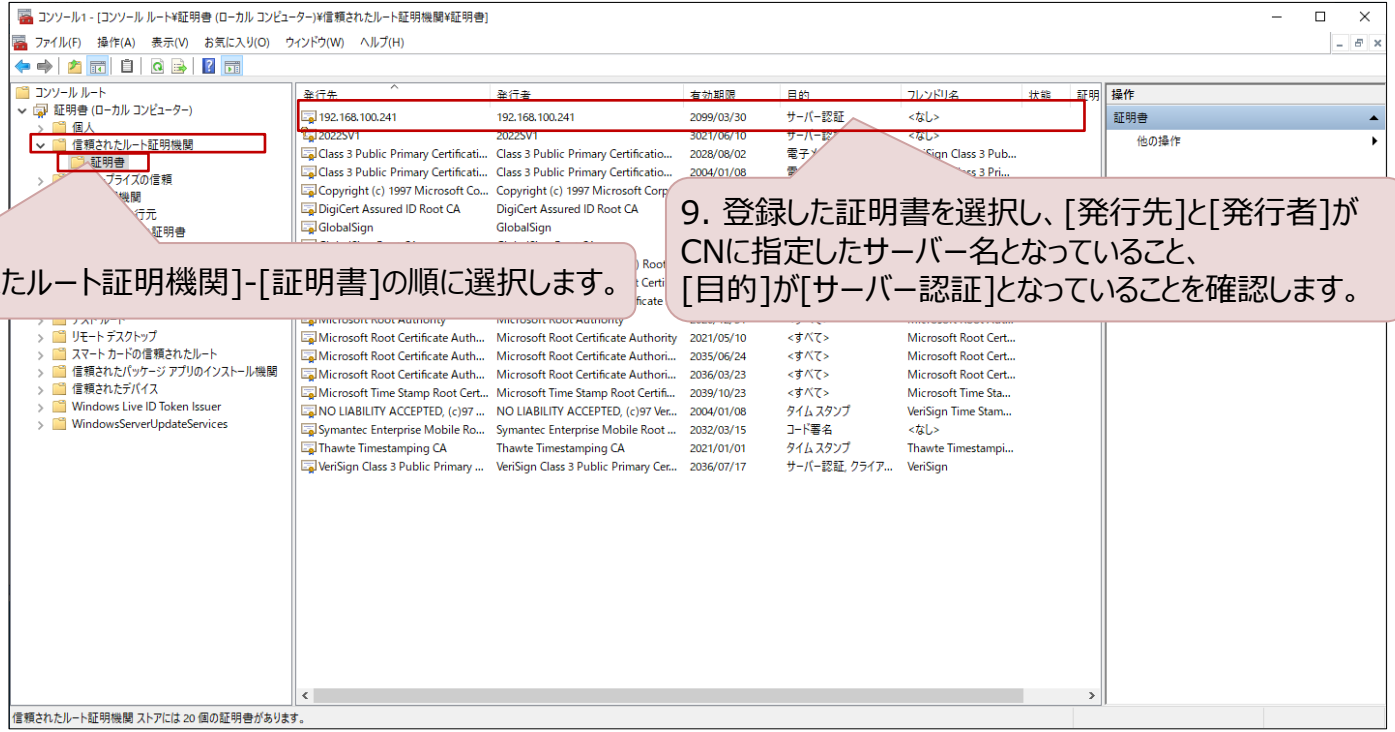


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -18

信頼されたルート証明機関に登録したCERファイル（証明書）が正しいかを確認します。



8. [信頼されたルート証明機関]-[証明書]の順に選択します。

9. 登録した証明書を選択し、[発行先]と[発行者]がCNに指定したサーバー名となっていること、[目的]が[サーバー認証]となっていることを確認します。

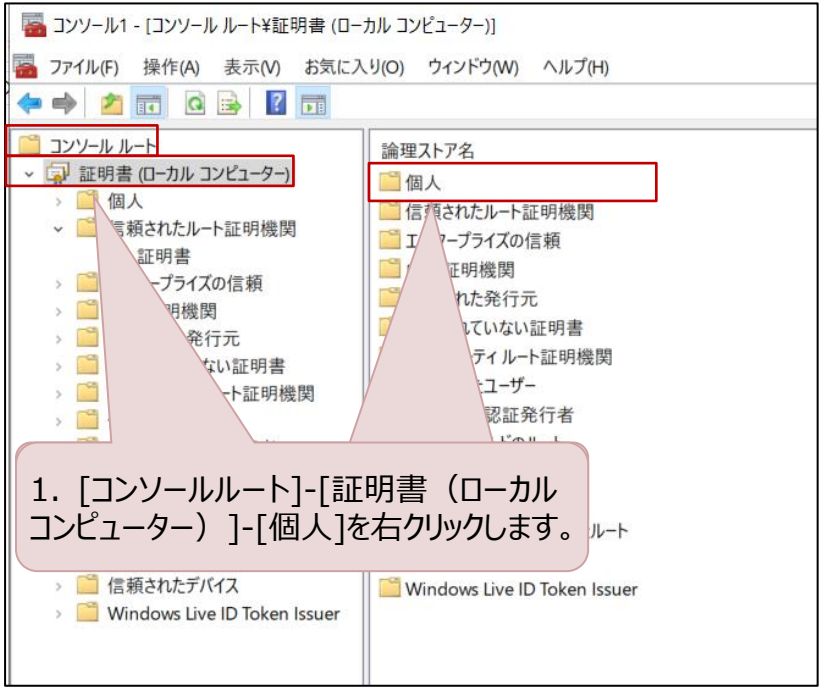
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

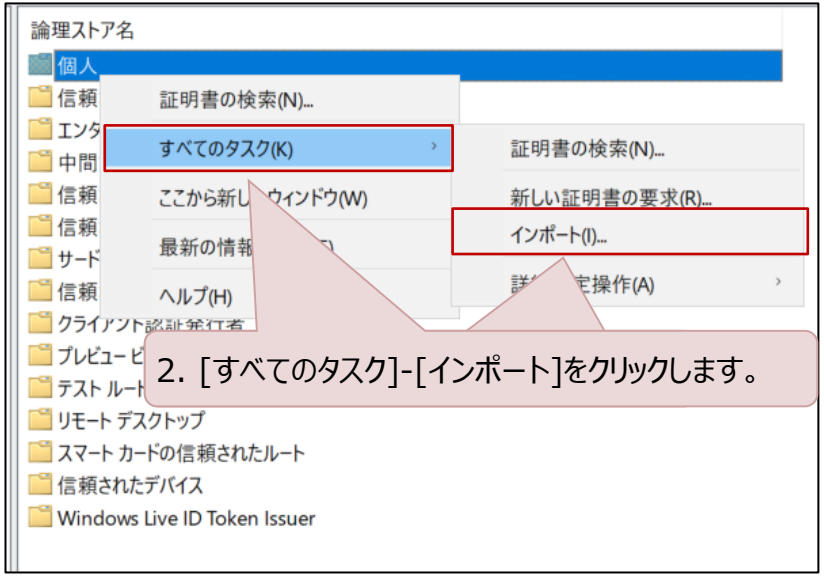
3.3 OS情報の登録（20/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -19

PFXファイル（サービス証明書）を個人に登録します。





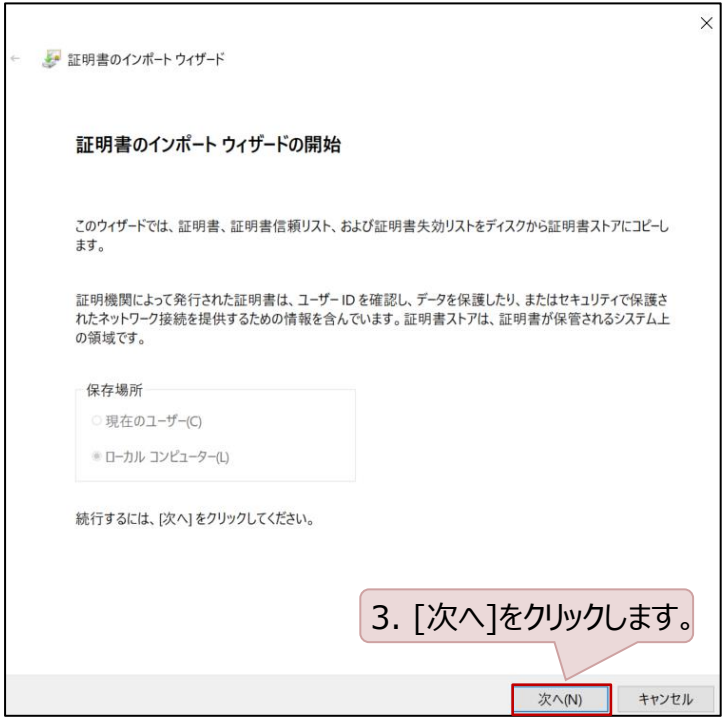
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

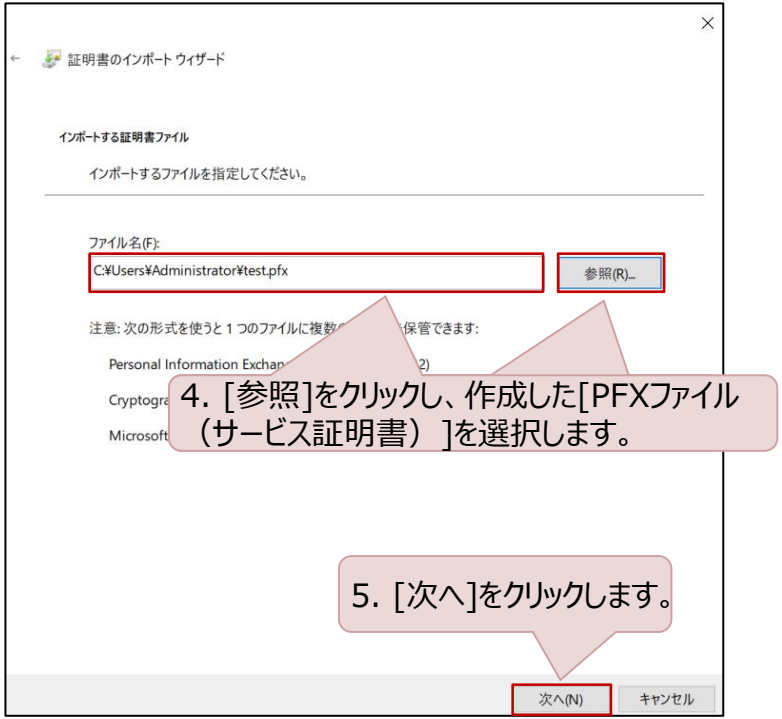
3.3 OS情報の登録（21/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -20

PFXファイル（サービス証明書）を個人に登録します。





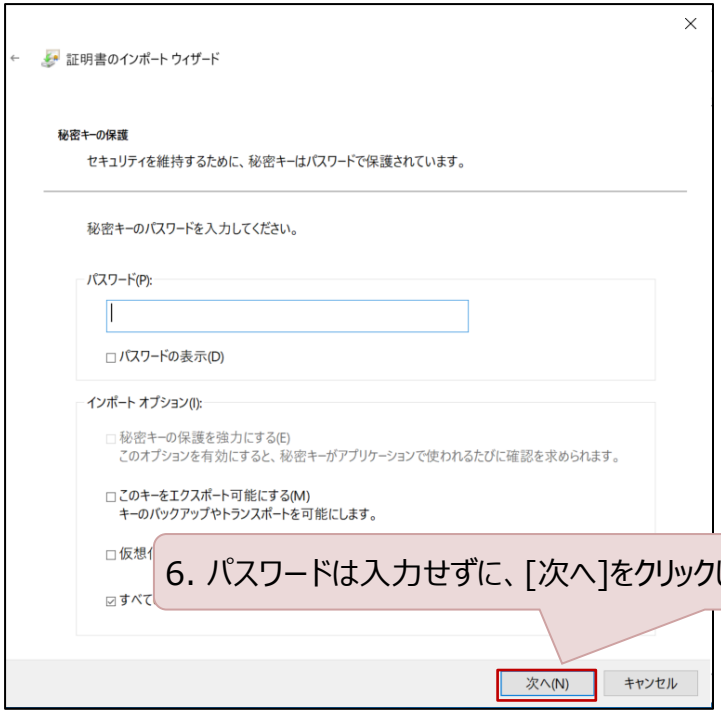
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（22/33）

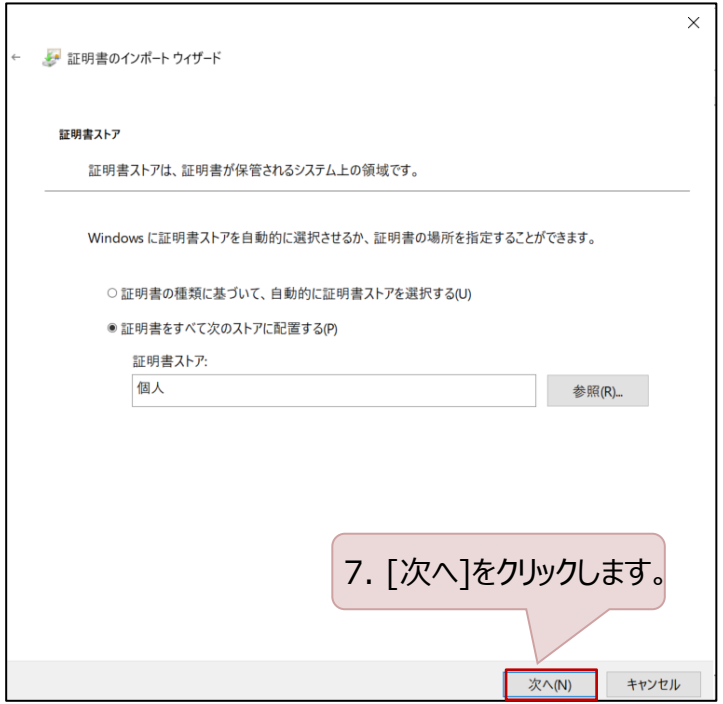
FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -21

PFXファイル（サービス証明書）を個人に登録します。



6. パスワードは入力せずに、[次へ]をクリックします。



7. [次へ]をクリックします。

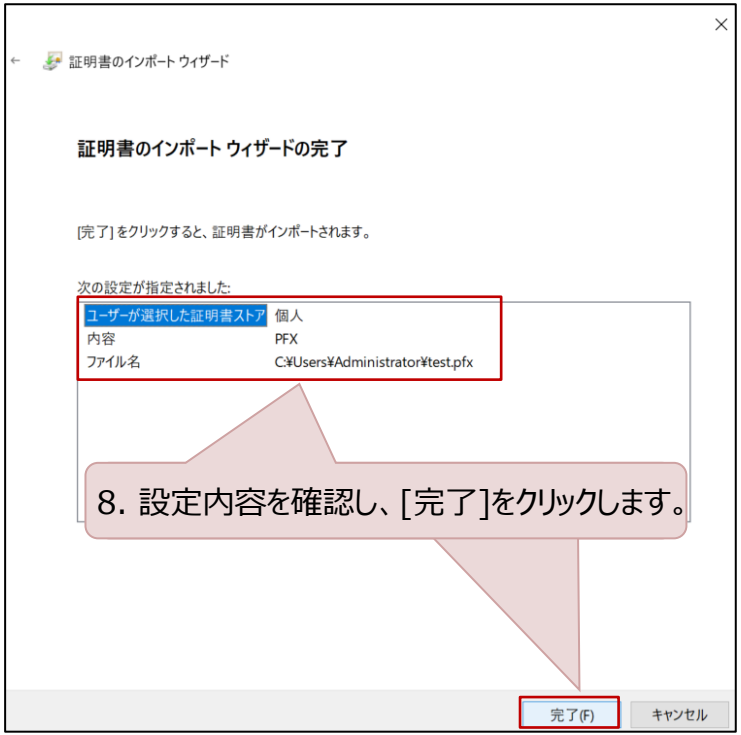
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（23/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -22

PFXファイル（サービス証明書）を個人に登録します。



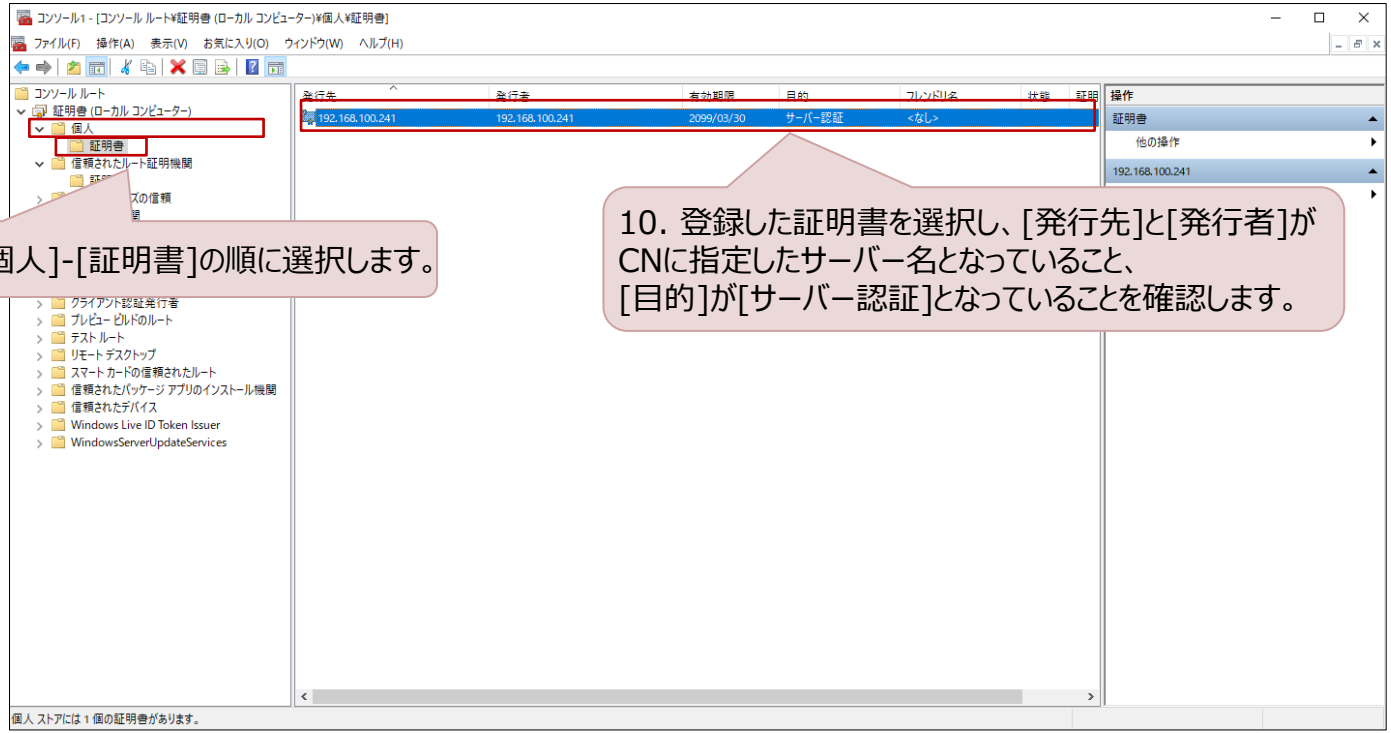
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（24/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -23

個人に登録したPFXファイル（サービス証明書）が正しいかを確認します。



9. [個人]-[証明書]の順に選択します。

10. 登録した証明書を選択し、[発行先]と[発行者]がCNに指定したサーバー名となっていること、[目的]が[サーバー認証]となっていることを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（25/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -24

WinRMサービスへの証明書に記載された拇印を登録します。
最初に登録した証明書の拇印（Thumbprint）を確認します。
本資料では、ローカルマシンの個人（LocalMachine¥my）に証明書を保存した場合の確認方法を紹介します。
コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
>powershell -Command “ls cert:LocalMachine¥my”
```

上記のコマンドを実行すると、CN名と拇印（Thumbprint）が表示されるので、それらを控えておきます。

```
ディレクトリ: Microsoft.PowerShell.Security¥Certificate::LocalMachine¥my
Thumbprint                                          Subject
----------                                          -------
1C3E462623BAF91A54591ZZZZZZZZZXXXXXXXXX  CN=192.168.100.241

※上記は、表示例になります。
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（26/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -25

次に証明書の拇印（Thumbprint）を、WinRMリスナーに登録します。
先ほど確認したCN名と拇印（Thumbprint）を元に、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

```
>winrm create winrm/config/listener?Address=*+Transport=HTTPS @
  {Hostname=" ＜証明書を作成したときに設定したCN名＞ ";
  CertificateThumbprint=" ＜作成した証明書の拇印＞ "}

例：winrm create winrm/config/listener?Address=*+Transport=HTTPS @
      {Hostname="192.168.100.241";CertificateThumbprint=
      "1C3E462623BAF91A54591ZZZZZZZZZXXXXXXXXX"}
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（27/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -26

WinRMリスナーに登録できたかを確認します。
コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
>winrm get winrm/config/listener?Address=*+Transport=HTTPS
```

以下のようなコマンド結果が返ってくれば、WinRMのリスナーが登録できています。

```
Listener
Address = *
Transport = HTTPS
Port = 5986
Hostname = 192.168.100.241
Enabled = true
URLPrefix = wsman
CertificateThumbprint = 1C3E462623BAF91A54591ZZZZZZZZZXXXXXXXXX
ListeningOn = 10.40.16.102, 127.0.0.1, ::1, 2001:258:8402:200:bd8a:1c1:c50d
:8704, fe80::bd8a:1c1:c50d:8704%12
```


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（28/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -27

ファイアウォールのポート開放を実施します。
WinRMサービスがリクエストの受付をできるように、WinRMリスナーで設定したポートを開放する必要があります。
本資料では、https通信のデフォルトポート番号である「5986」を開放します。
管理者権限でWindows PowerShellを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
>New-NetFirewallRule -DisplayName ＜ファイアウォールルール名＞ -Action Allow -Direction Inbound
 -Enabled True -Protocol TCP -LocalPort ＜ポート番号＞

例：New-NetFirewallRule -DisplayName WinRM -Action Allow -Direction Inbound
-Enabled True -Protocol TCP -LocalPort 5986
```

※ファイアウォールの設定は、対象サーバーの環境によって異なるので注意してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（29/33）

FUJITSU

OS情報登録の事前準備 -28

Windows PowerShellの実行ポリシー変更を実施します。
管理者権限でWindows PowerShellを開き、以下のコマンドを実行します。

```
>set-executionpolicy remotesigned
```

コマンド実行後に以下のメッセージが表示された場合、「Y」を入力後、[Enter]キーを押します。

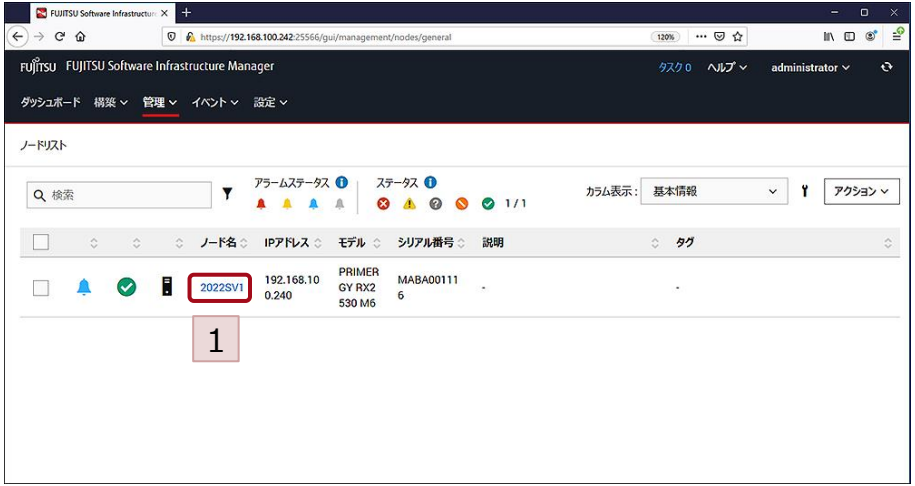
```
実行ポリシーの変更
実行ポリシーは、信頼されていないスクリプトからの保護に役立ちます。実行ポリシーを変更すると、
about_Execution_Policiesのヘルプ トピック http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=135170
で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか?
[Y] はい(Y) [N] いいえ(N) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "Y"): Y
```

以上で、OS情報登録の事前準備は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

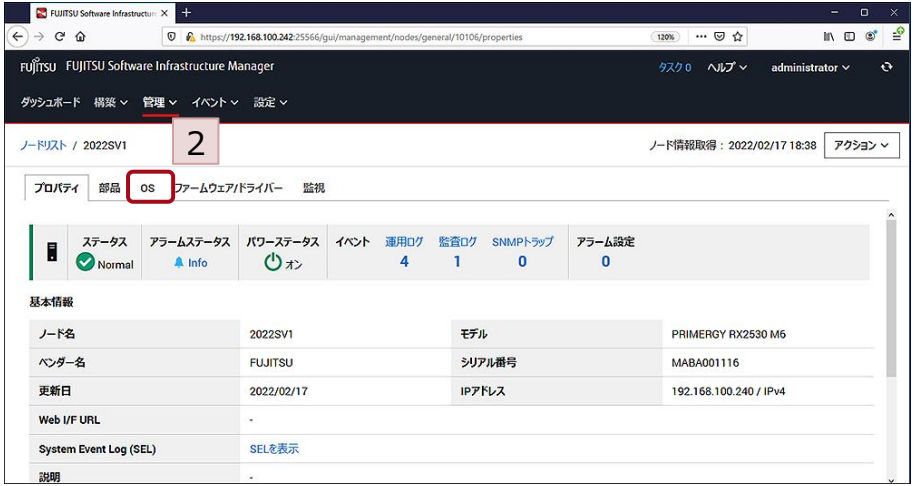
3.3 OS情報の登録（30/33）

OS情報の設定 -1



1. ノード名[2022SV1]をクリックします。

OS情報の設定 -2



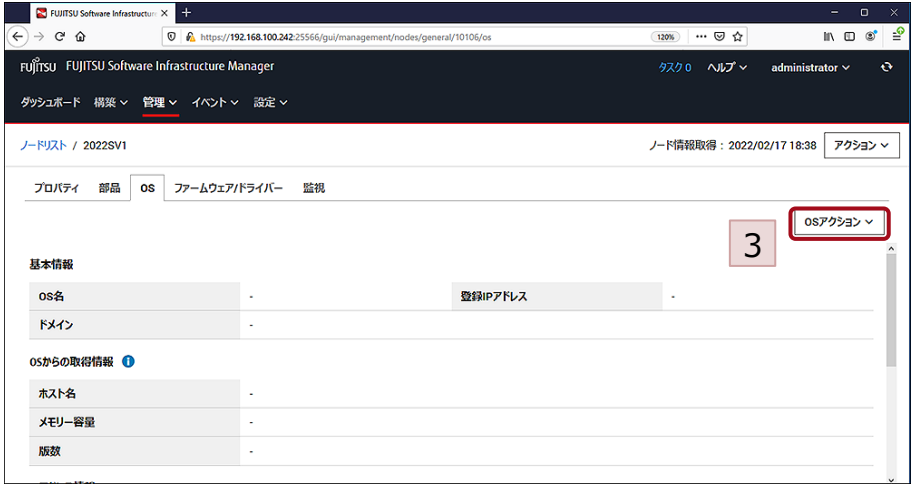
2. [OS]をクリックします。

ISMにOS情報を設定します。
※本資料では、OS情報登録の事前準備は実施済みです。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

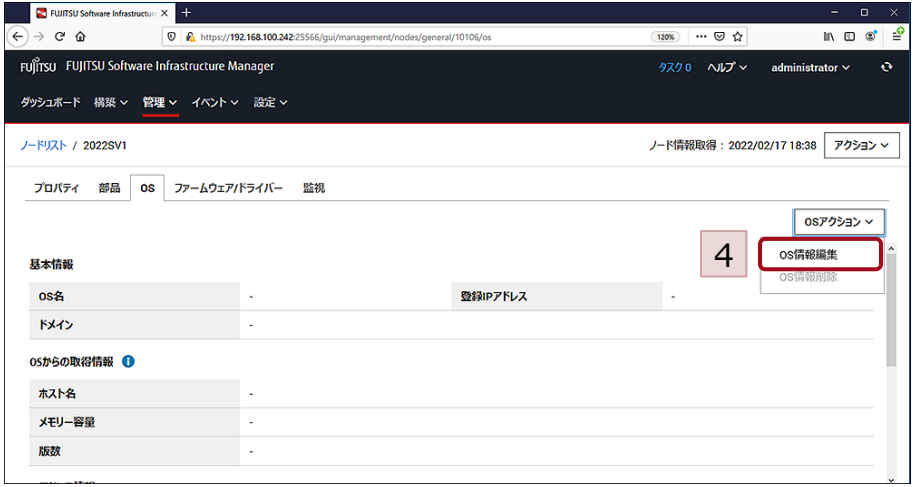
3.3 OS情報の登録（31/33）

OS情報の設定 -3



3. [OSアクション]をクリックします。

OS情報の設定 -4



4. メニューから[OS情報編集]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（32/33）

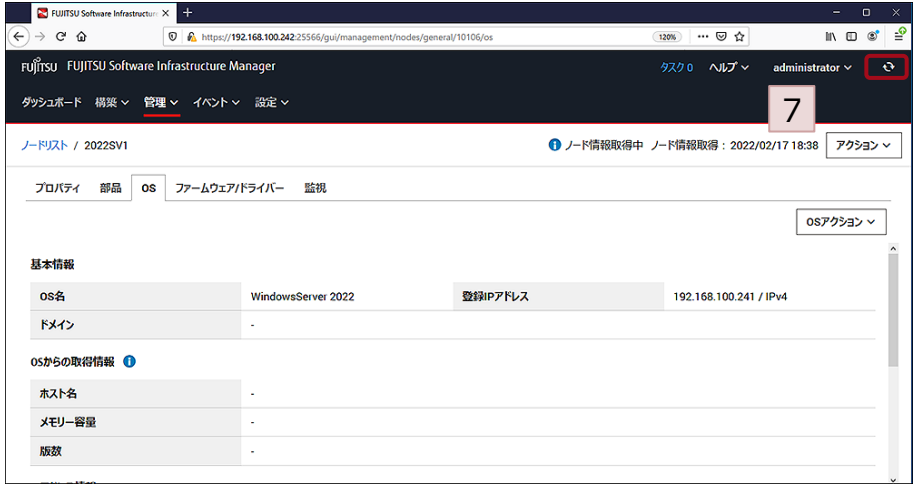
FUJITSU

OS情報の設定 -5

5. [OS情報]を入力します。
6. [適用]をクリックします。

本資料では、ホストOSの下記の情報を入力します。
（ドメイン名の欄は情報の入力は不要です。）
OSタイプ：WindowsServer　OSバージョン：2022
OS IPアドレス：IPv4 192.168.100.241
アカウント：administrator　パスワード（確認も同じ）：Pass123

OS情報の設定 -6



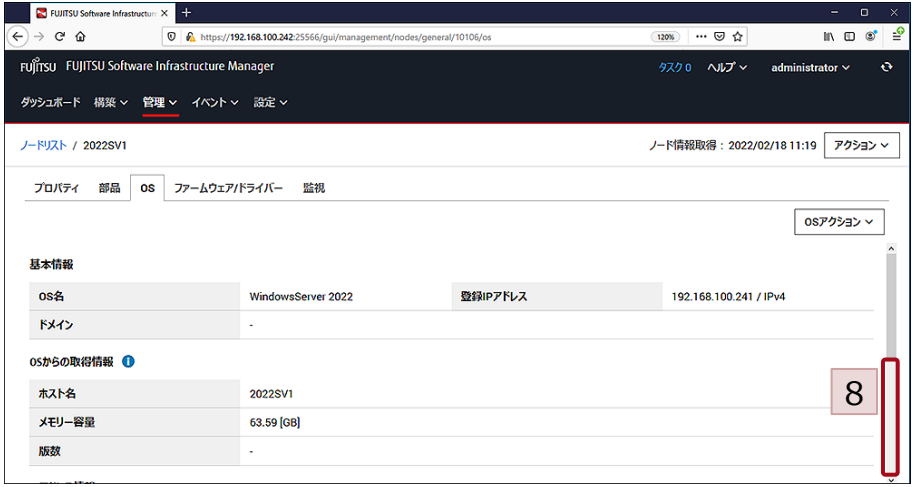
7. [更新]（円形の矢印）をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

3.3 OS情報の登録（33/33）

FUJITSU

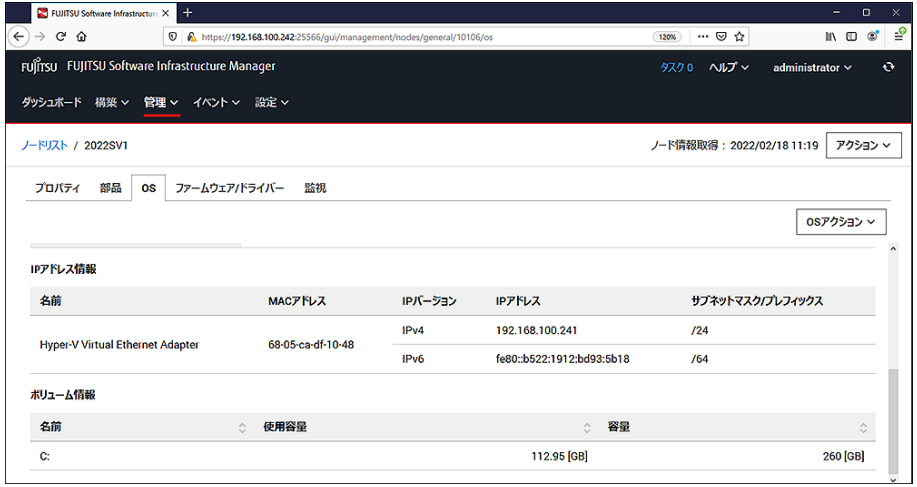
OS情報の設定 -7



8. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

OS情報編集が完了すると、ノードのOS情報が取得可能となります。
※本資料では、すでにOS情報を取得済みの状態です。
　取得は、「アクション」から「ノード情報取得」を実施してください。
OSからの取得情報を確認します。

OS情報の設定 -8



OSからの取得情報を確認します。
以上で、OS情報の設定は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4. モニタリング機能

4.1 モニタリング機能について

4.2 ノードの状態監視

4.3 アラーム通知設定

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

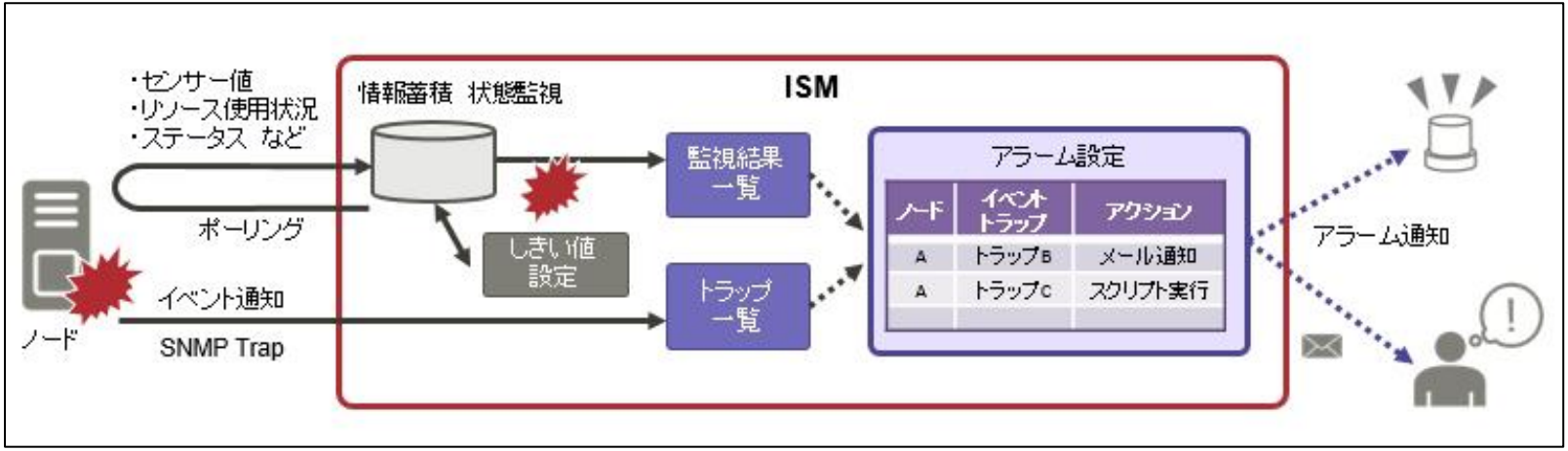
4.1 モニタリング機能について

モニタリング機能とは

モニタリング機能は、以下の用途で利用する機能です。

① ノードの温度やセンサーの値、CPU使用率などのリソース使用状況、ステータスなどの状態をポーリングし、情報を蓄積
② 事前に指定したしきい値とポーリング結果との比較、およびステータスの変化を監視
③ ノードからのイベント通知（SNMP Trap）を受信
④ 監視の結果およびノードからのイベント通知を、外部にアラームとして通知
※アラーム通知方法は、事前にアラーム設定のアクションとして設定します。

以下に、モニタリング機能の動作概要を示します。



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（1/10）

FUJITSU

ノードの状態変化を監視

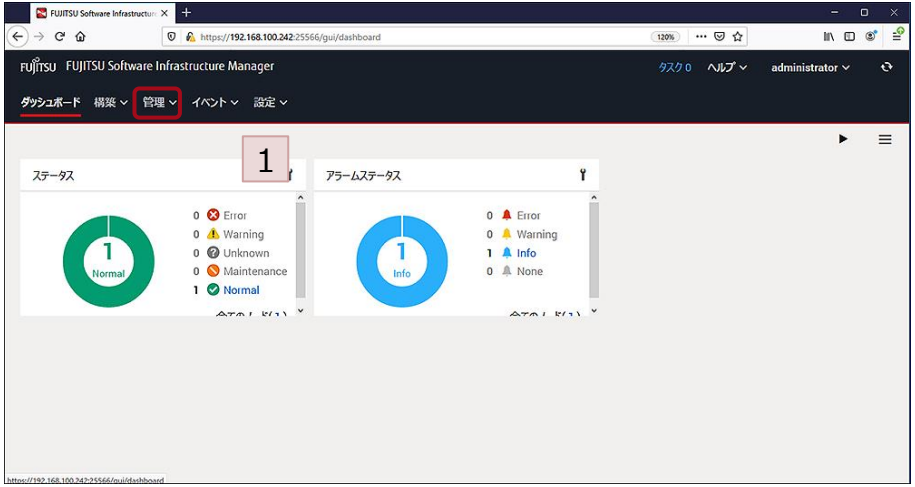
登録されているノードから定期的にイベント通知（SNMPトラップ）を受信し、
ノードのステータスの変化を監視します。
問題が発生した場合、以下のようなアイコンが表示されます。

アイコン	説明
	Errorレベルのアラームステータスです。 ノードで重大な問題（CRITICALレベルのSNMPトラップ）が発生し、ノードからISMに通知されたことを表します。
	Errorレベルのステータスです。 対象ノードの機器自身のステータスがErrorレベルになっていることを表します。
	Warningレベルのアラームステータスです ノードでMAJORまたはMINORレベルのSNMPトラップが発生し、ノードからISMに通知されたことを表します。
	Unknown（不明）レベルのステータスです。 ノードに問題が発生し、状態が確認できないステータスです。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（2/10）

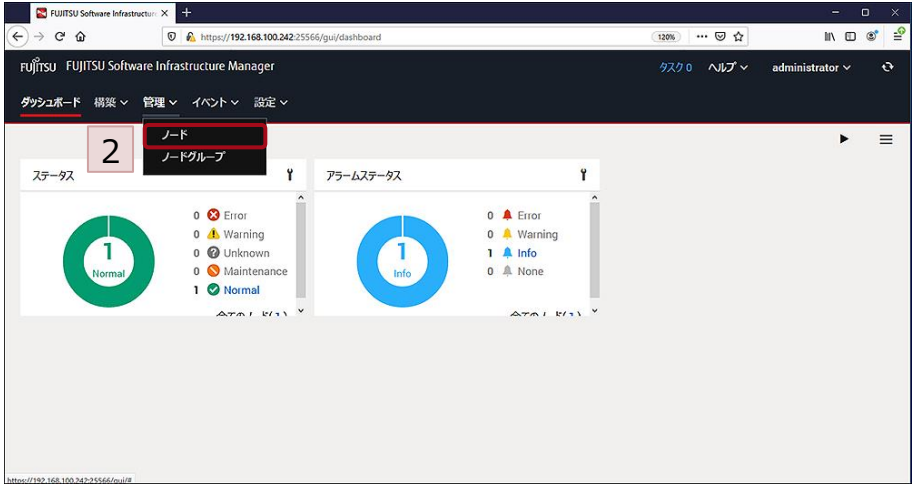
ノードの情報確認 -1



1. [管理]をマウスオーバーします。

ノードの情報を確認します。

ノードの情報確認 -2

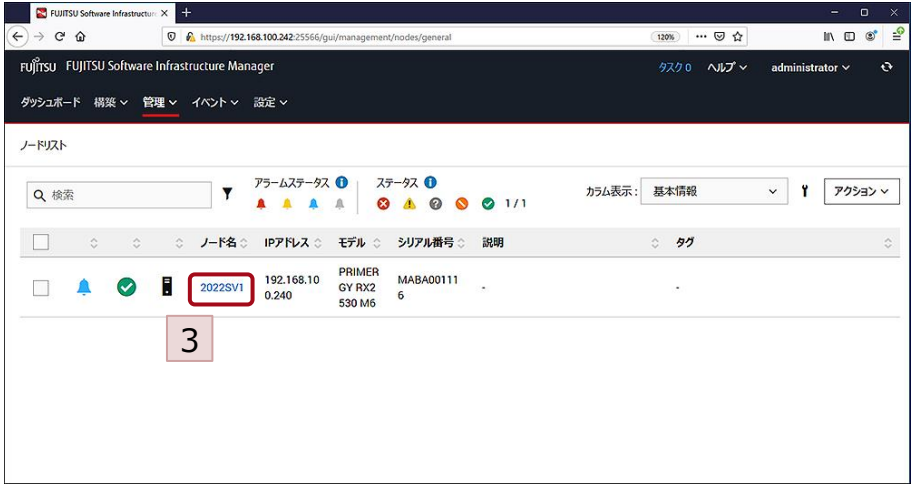


2. メニューから[ノード]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（3/10）

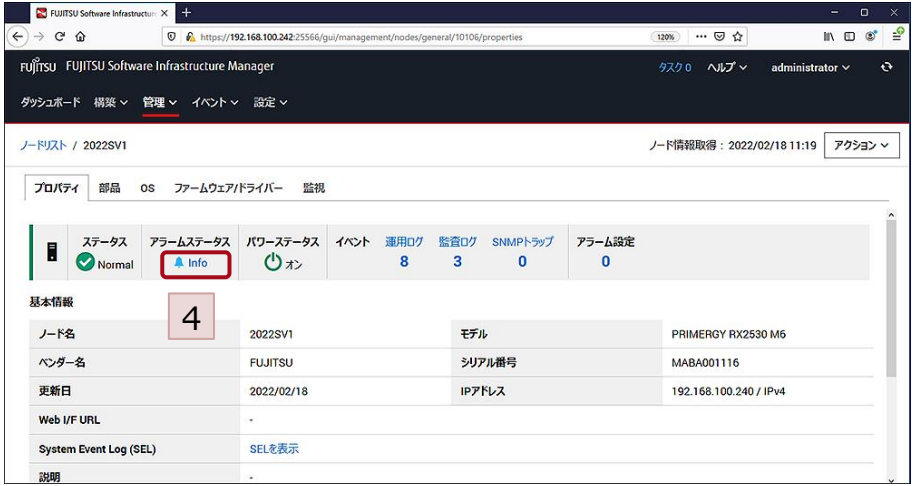
ノードの情報確認 -3



3. ノード名[2022SV1]をクリックします。

ノードの詳細情報を確認するため、[ノード名]をクリックします。

ノードの情報確認 -4



4. [Info]をクリックします。

アラームの詳細を確認するため、[アラームステータス]をクリックします。

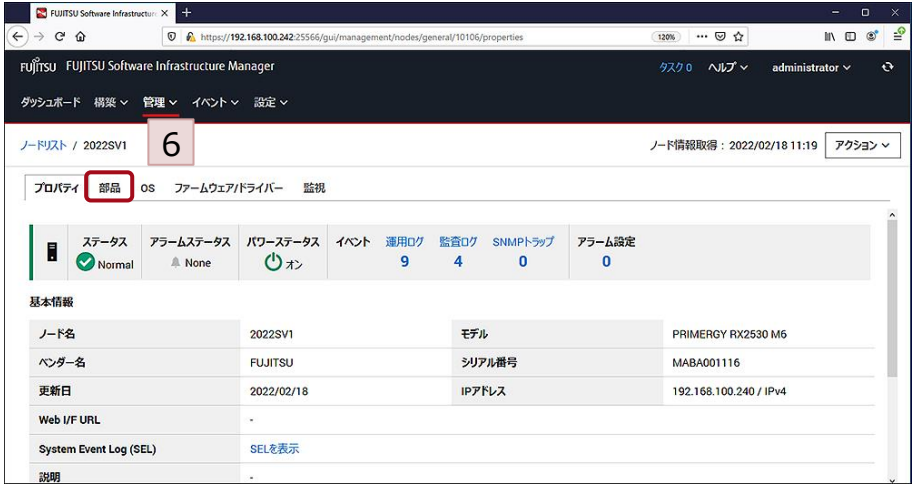
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（4/10）

ノードの情報確認 -5

5. [アラーム解除]をクリックします。

ノードの情報確認 -6



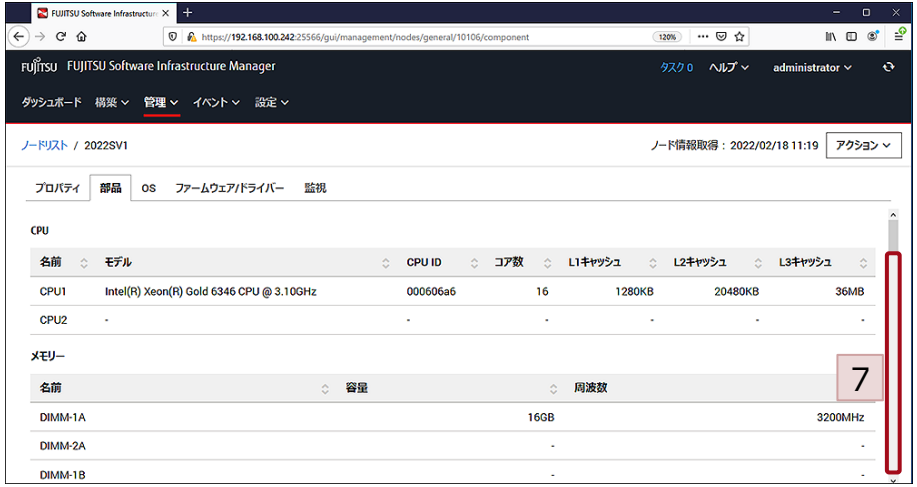
6. [部品]をクリックします。

実際にエラーなどがあった場合は、本画面からエラー内容を確認し、
解決したうえで[アラーム解除]をクリックしてください。
※アラームは自動で解除されないため、必ず手動で解除してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（5/10）

ノードの情報確認 -7



7. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

登録されているノードの、構成情報を確認します。

ノードの情報確認 -8

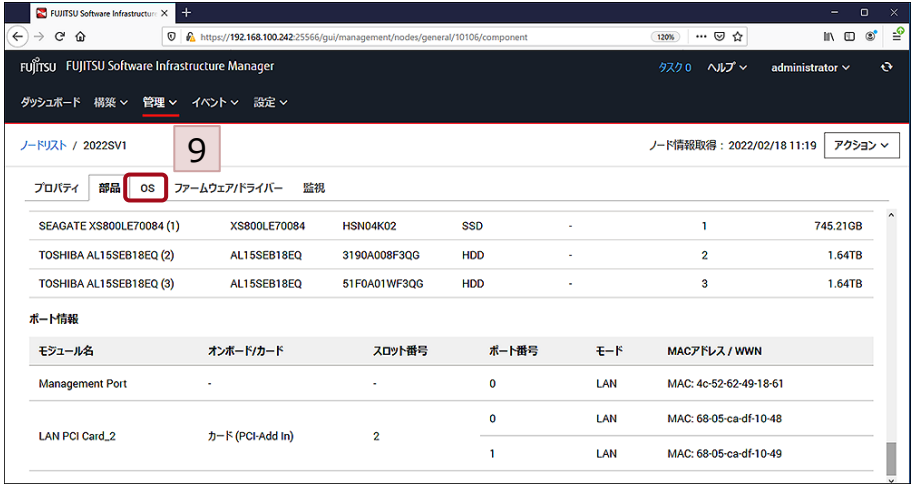
8. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

ノードの情報を確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

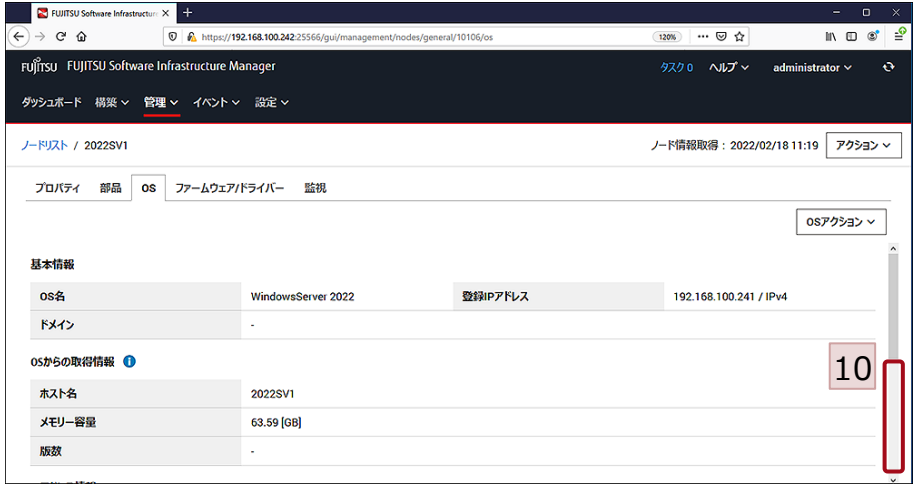
4.2 ノードの状態監視（6/10）

ノードの情報確認 -9



9. [OS]をクリックします。

ノードの情報確認 -10



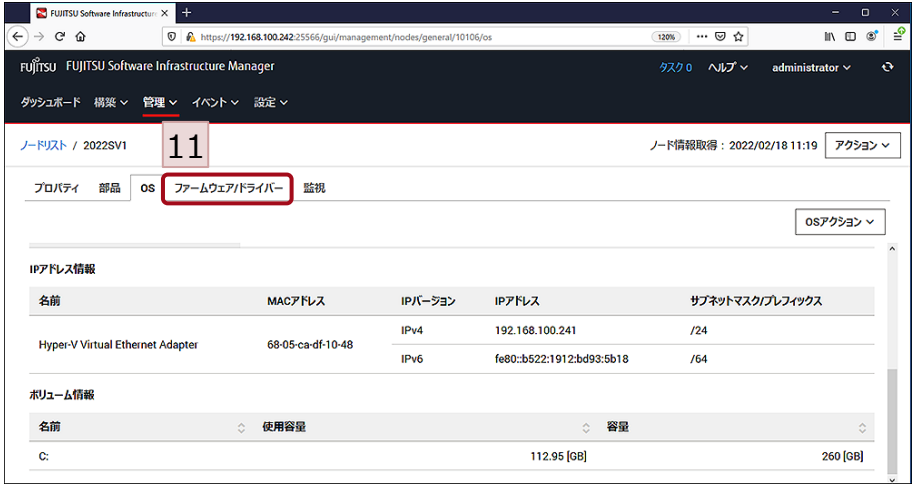
10. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

登録されているOSの情報を確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

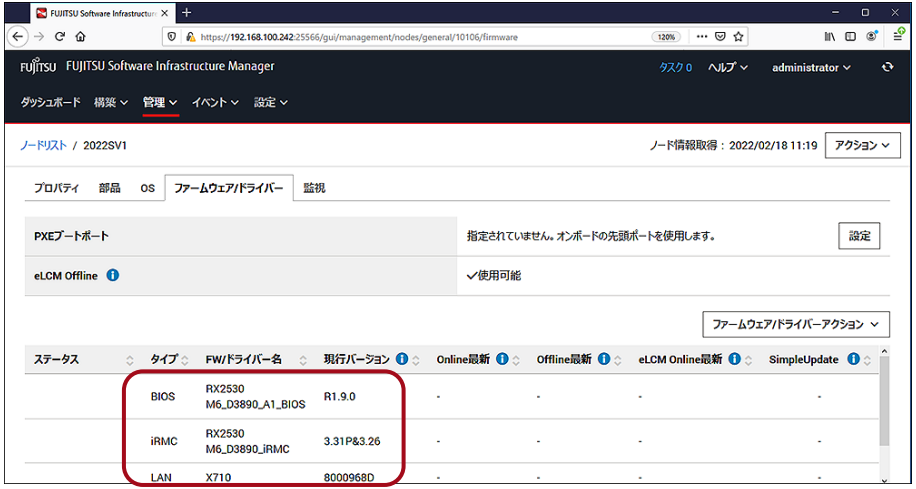
4.2 ノードの状態監視（7/10）

ノードの情報確認 -11



11. [ファームウェア/ドライバー]をクリックします。

ノードの情報確認 -12



登録されているノードのファームウェアバージョンを確認します。
以上で、ノードの情報確認は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（8/10）

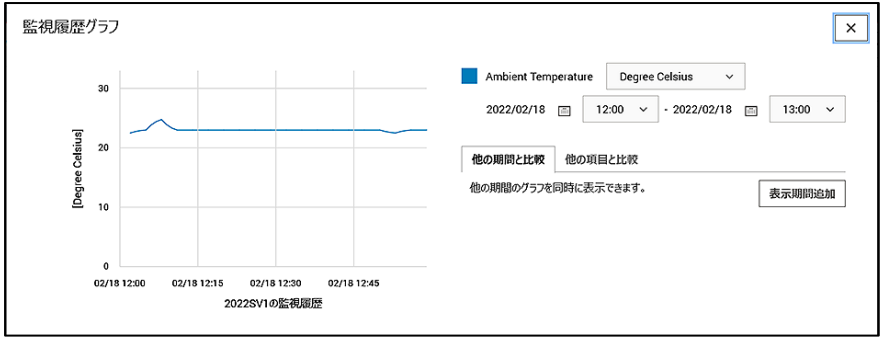
FUJITSU

ノードの状態監視について

登録されているノードの内部環境（CPU/メモリ等）や使用状況、温度等を監視することができます。

本資料では、サーバー周囲の温度のグラフを表示させます。

	名前	最新値		監視	しきい値	しきい値（値 / イベント重要度）				
		値	タイムスタンプ			下限異常	下限警告	上限警告	上限異常	
	Ambient Temperature	23 [Degree Celsius]	2022/02/18 13:31:32	有効	無効	- / -	- / -	- / -	- / -	グラフ
	Node PowerConsumption	120 [Watt]	2022/02/18 13:31:32	有効	無効	- / -	- / -	- / -	- / -	グラフ



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（9/10）

ノードの状態監視 -1

1. [監視]をクリックします。
2. [グラフ]をクリックします。

ノードの監視対象項目が表示されます。

ノードの状態監視 -2

3. 右上の[×]をクリックして画面を閉じます。

監視周期ごとに記録された情報がグラフ表示されます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.2 ノードの状態監視（10/10）

ノードの状態監視 -3

以上で、ノードの状態監視は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（1/14）

FUJITSU

監視状況を通知

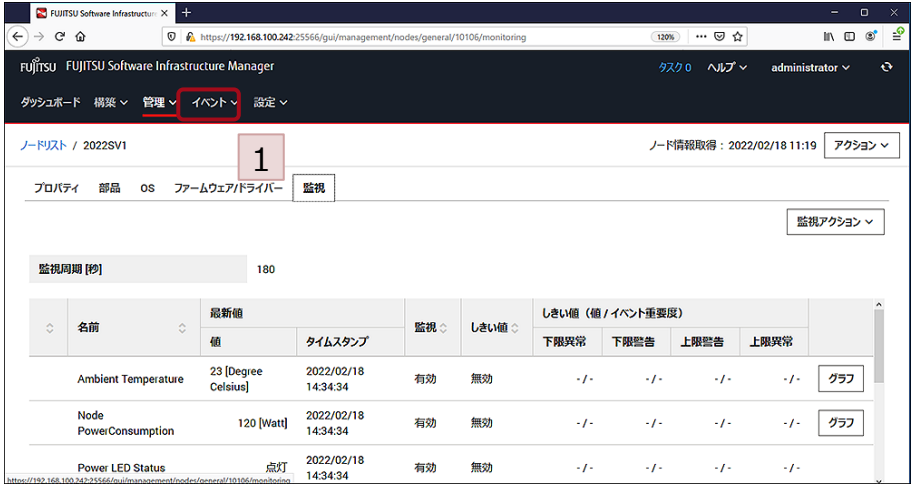
監視結果やノードからのイベント通知を外部にアラームとして通知できます。

本資料では、ISM内部で異常が発生した際に、メールでアラームを通知するための設定を実施します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（2/14）

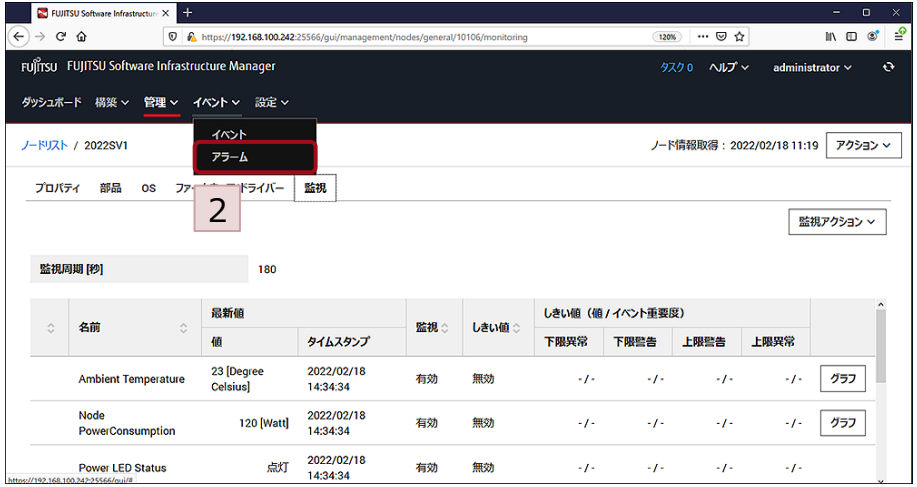
SMTPサーバーの設定 -1



1. [イベント]をマウスオーバーします。

ISMがメール送信するための、送信先メールサーバー（SMTPサーバー）を設定します。

SMTPサーバーの設定 -2



2. メニューから[アラーム]をクリックします。

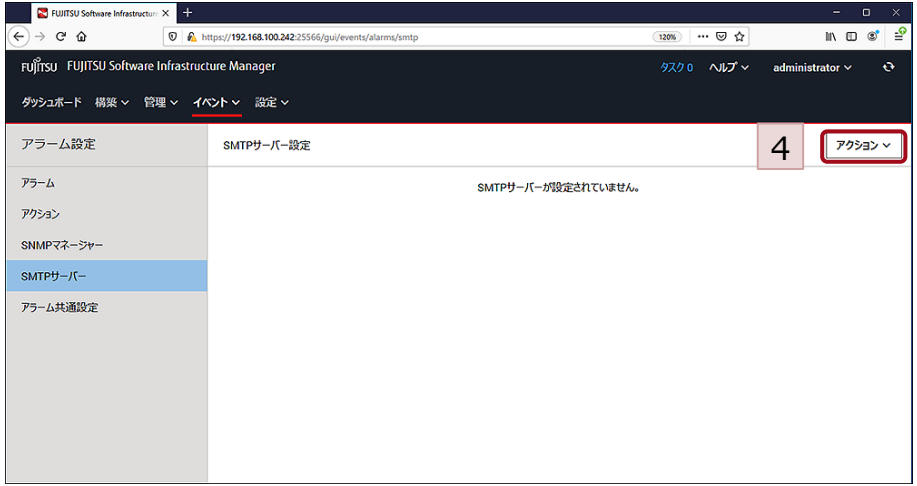
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（3/14）

SMTPサーバーの設定 -3

3. [SMTPサーバー]をクリックします。

SMTPサーバーの設定 -4

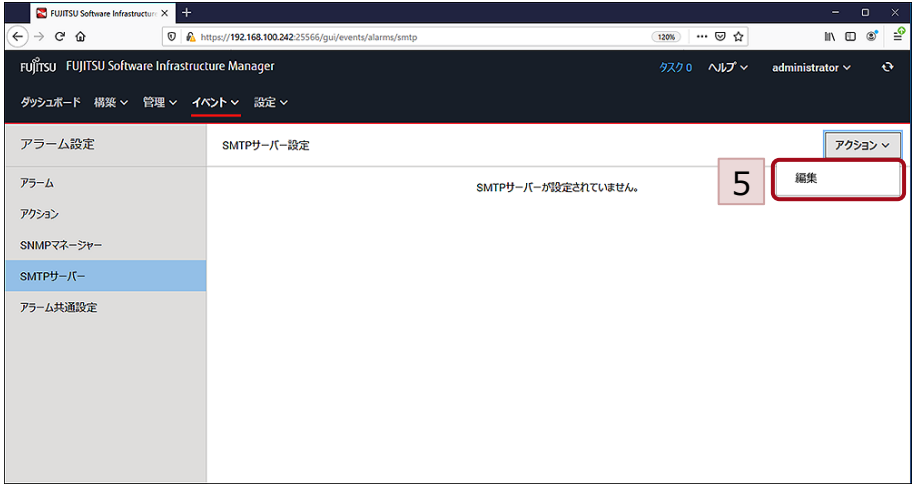


4. [アクション]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（4/14）

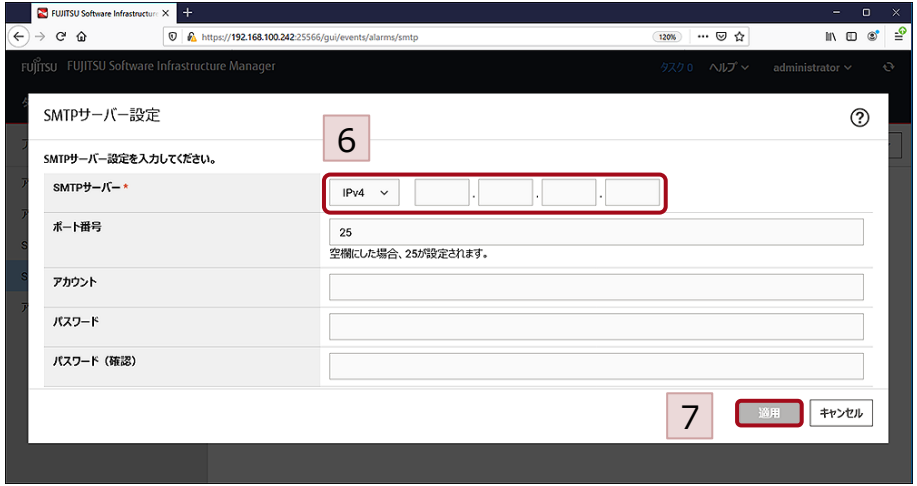
SMTPサーバーの設定 -5



5. メニューから[編集]をクリックします。

SMTPサーバーを新規に登録します。
※ISMに登録できるSMTPサーバーは1つだけなので、注意してください。

SMTPサーバーの設定 -6



6. [SMTPサーバー]のIPアドレスを入力します。
7. [適用]をクリックします。

本資料では、SMTPサーバーのIPアドレスを入力します。
SMTPサーバー：IPv4　192.168.100.22

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（5/14）

SMTPサーバーの設定 -7

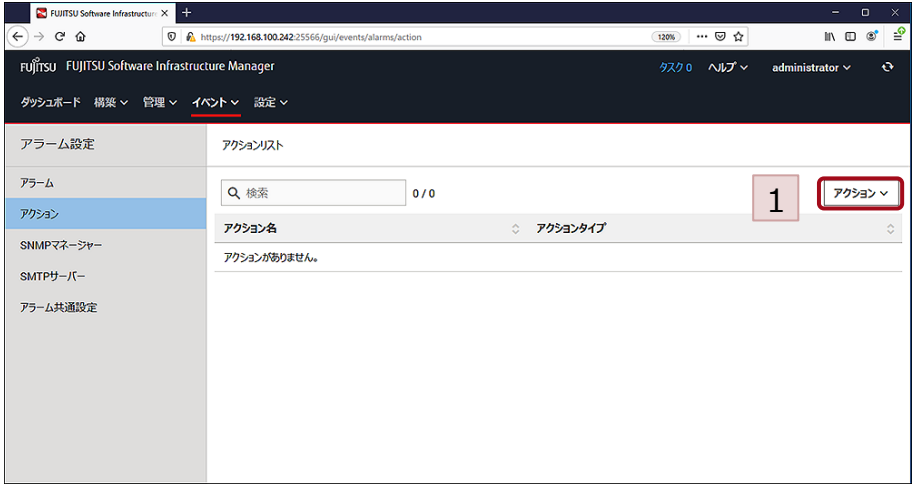
8. [アクション]をクリックします。

SMTPサーバーが登録されていることを確認します。
以上で、SMTPサーバーの設定は完了です。
次に、ISMのアクションを設定します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（6/14）

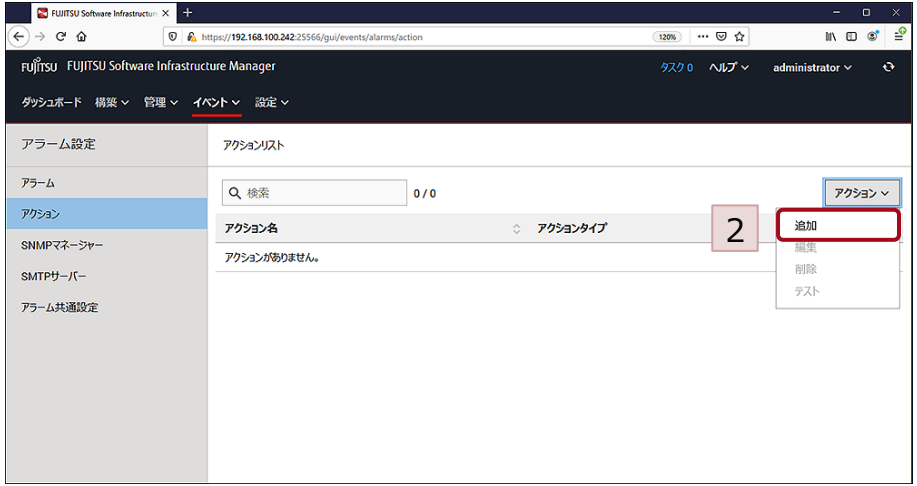
アラーム通知方法（アクション）の設定 -1



1. [アクション]をクリックします。

ISMの外部へ通知を行う方法（アクション）を設定します。

アラーム通知方法（アクション）の設定 -2

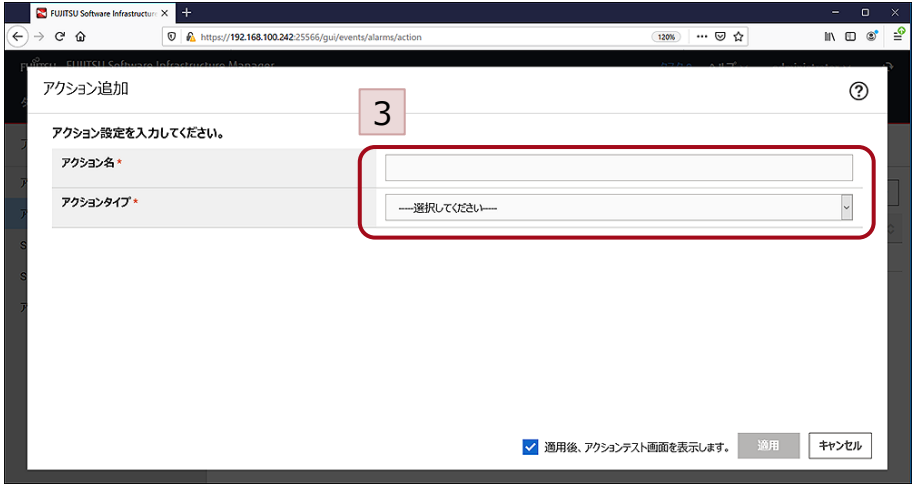


2. メニューから[追加]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（7/14）

アラーム通知方法（アクション）の設定 -3



3. [アクション設定]を入力します。

本資料では、下記の情報を入力します。
アクション名：メール通報
アクションタイプ：メール送信

アラーム通知方法（アクション）の設定 -4

4. [アクション設定]を入力します。
5. [適用]をクリックします。

本資料では、下記の情報を入力します。
宛先アドレス：xxx@fujitsu.com
送信者アドレス：yyy@fujitsu.com
メール件名：test
メール本文：testmail

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（8/14）

アラーム通知方法（アクション）の設定 -5

6. 設定内容を確認します。
7. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

入力した下記の情報が表示されていることを確認します。
アクション名：メール通報
アクションタイプ：メール送信

アラーム通知方法（アクション）の設定 -6

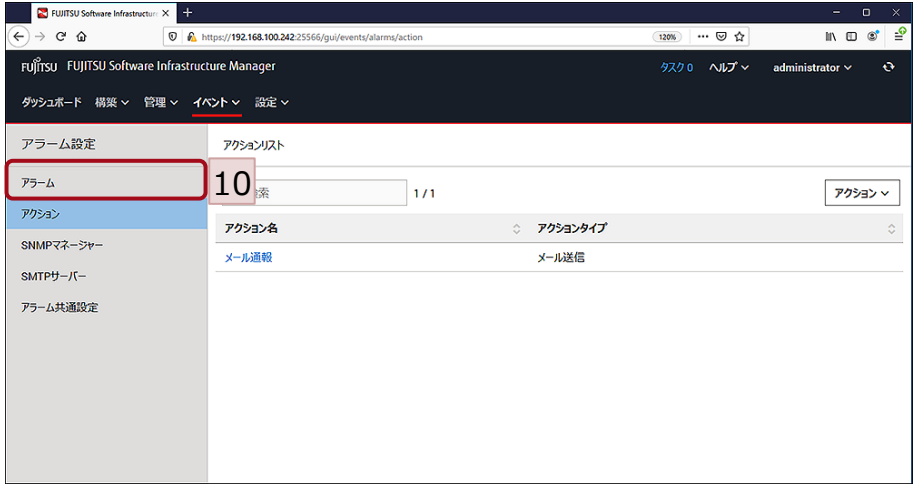
8. 設定内容を確認します。
9. [閉じる]をクリックします。

入力した下記の情報が表示されていることを確認します。
宛先アドレス：xxx@@fujitsu.com
送信者アドレス：yyy@fujitsu.com
メール件名：test　　メール本文：testmail
暗号化：チェックボックスにチェックが入っていないことを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（9/14）

アラーム通知方法（アクション）の設定 -7



10. [アラーム]をクリックします。

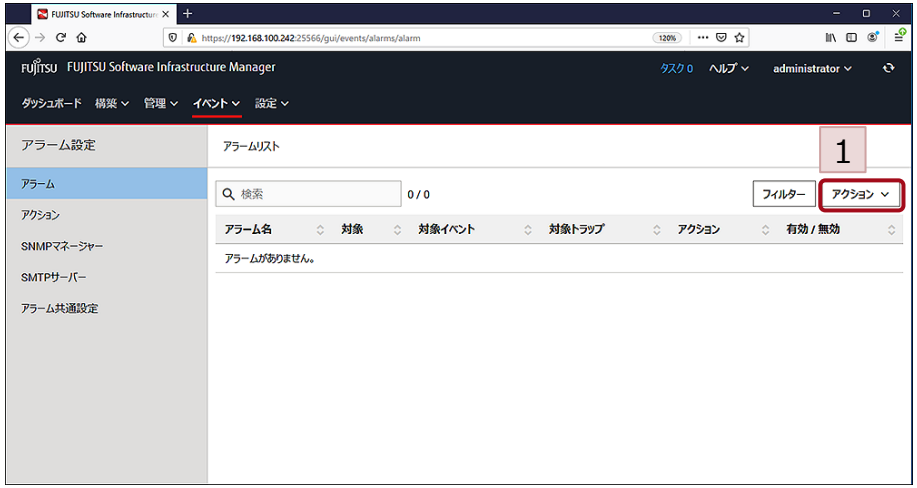
アクションの追加が完了すると、設定したアクションが[アクションリスト]画面に表示されます。
設定した[アクション名：メール通報]と[アクションタイプ：メール送信]を確認します。
以上でアラーム通知方法（アクション）の設定は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（10/14）

FUJITSU

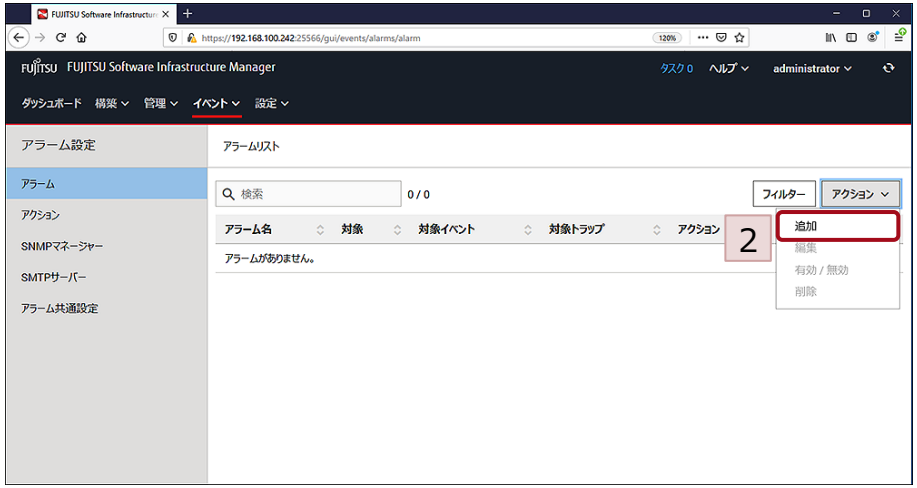
アラームの設定 -1



1. [アクション]をクリックします。

事前に作成したアラーム通知方法（アクション）と
通報の対象（種別、イベント）を定義して、アラームを設定します。

アラームの設定 -2



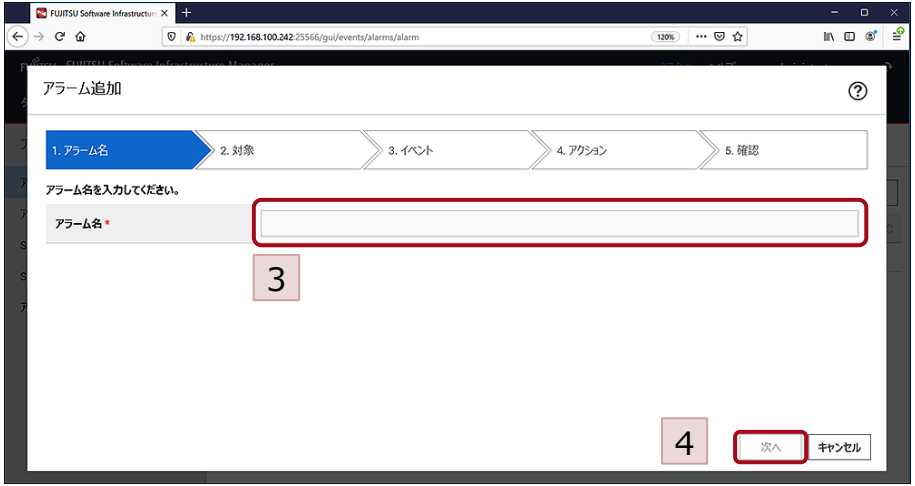
2. メニューから[追加]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（11/14）

FUJITSU

アラームの設定 -3



3. [アラーム名]を入力します。
4. [次へ]をクリックします。

本資料では、下記の情報を入力します。
アラーム名：Errorイベント

アラームの設定 -4

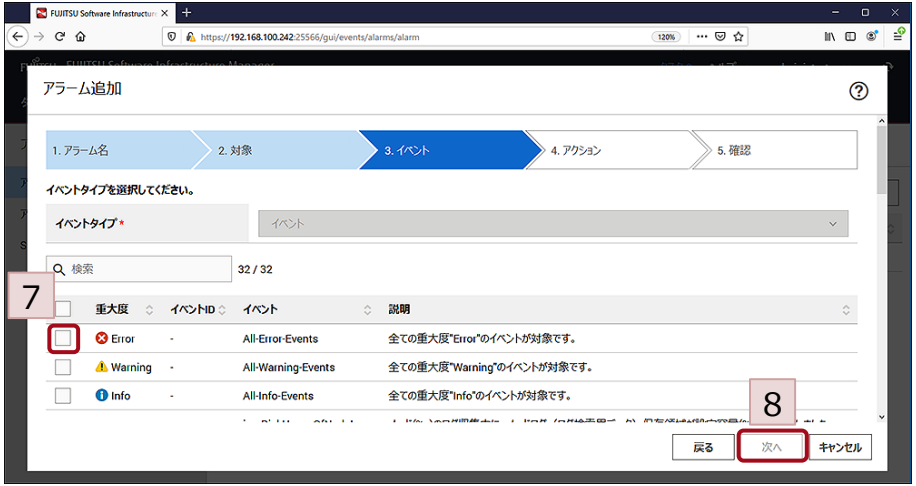
5. [対象種別]を選択します。
6. [次へ]をクリックします。

本資料では、下記の情報を選択します。
対象種別：システム
※[システム]は、ISM内部の異常やイベントが対象となります。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（12/14）

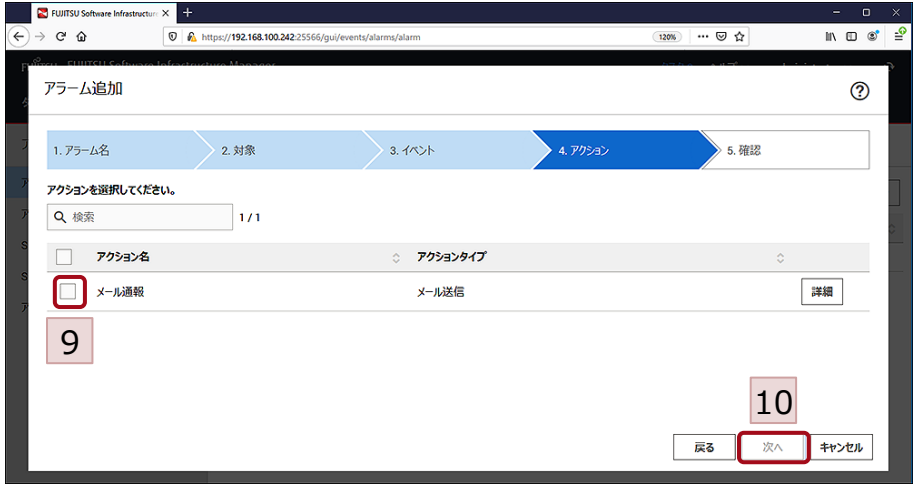
アラームの設定 -5



7. [Error]にチェックを付けます。
8. [次へ]をクリックします。

イベントの一覧から対象とするイベントにチェックを付けます。

アラームの設定 -6



9. [メール通報]にチェックを付けます。
10. [次へ]をクリックします。

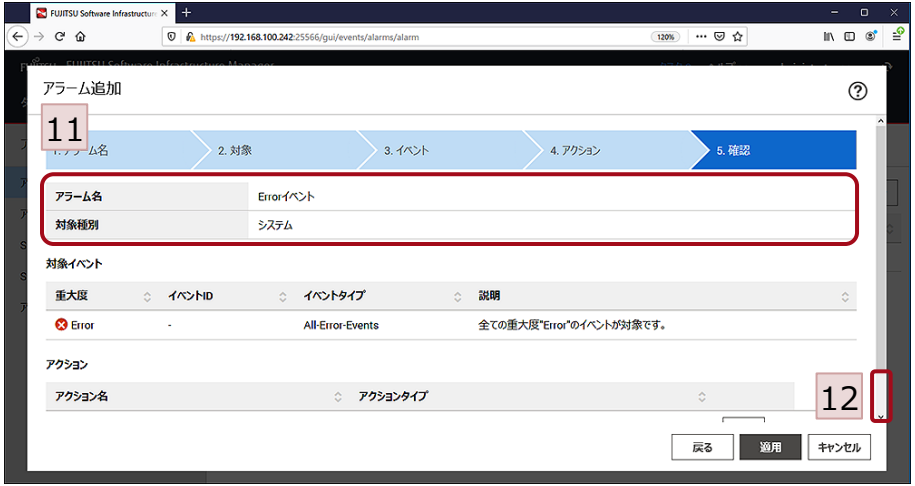
アクション一覧から、作成したアクション名を選択します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（13/14）

FUJITSU

アラームの設定 -7



11. 設定内容を確認します。
12. [スクロールバー]の下部をクリックし、画面下部に移動します。

入力した下記の情報が表示されていることを確認します。
アラーム名：Errorイベント
対象種別：システム

アラームの設定 -8

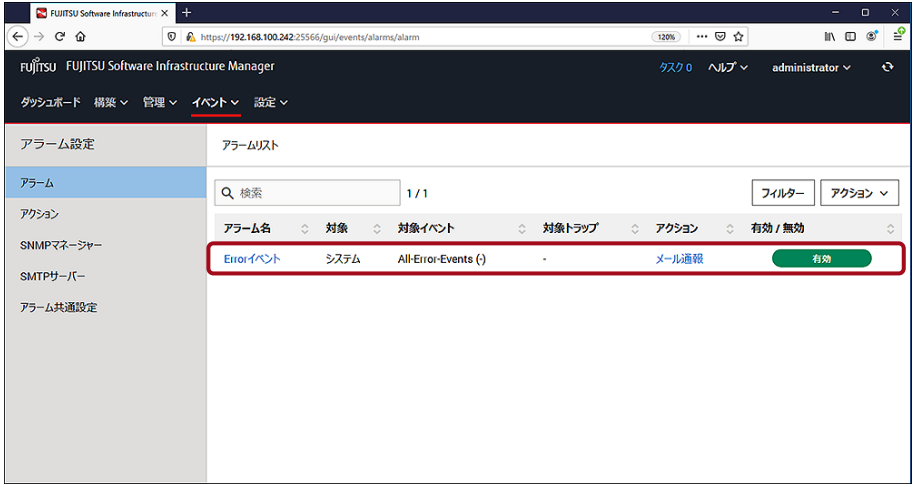
13. 設定内容を確認します。
14. [適用]をクリックします。

選択した下記の情報が表示されていることを確認します。
対象イベント：Error
アクション名：メール通報

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

4.3 アラーム通知設定（14/14）

アラームの設定 -9



アラームの追加が完了すると、設定した[アラーム:Errorイベント]が
[アラームリスト]画面に表示されます。
以上で、アラームの設定は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5. ファームウェア管理機能

5.1 ファームウェア管理機能について

5.2 ファームウェアのインポート

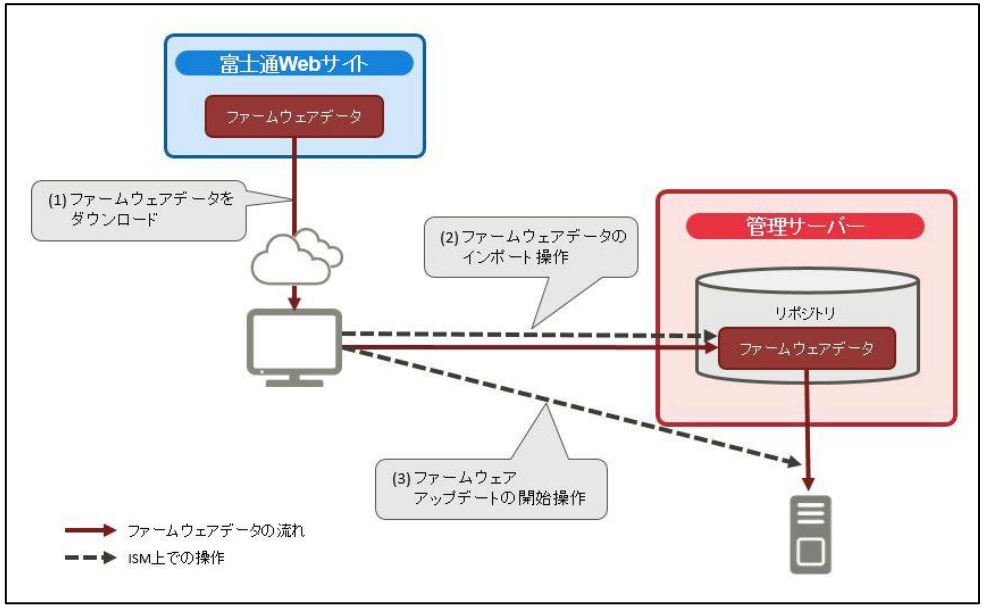
5.3 ファームウェアのアップデート

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.1 ファームウェア管理機能について

ファームウェアの管理機能とは

ファームウェア管理機能は、ノードに対してファームウェアのアップデートを行ったり、バージョンを一元管理する機能です。
本機能によって、ノードの保守作業時の手間を軽減することができます。
ただし、ファームウェアをアップデートする場合は事前にファームウェアデータをISMにインポートする作業が必要となります。
以下の図は、ファームウェアアップデートの流れを記載したものになります。



Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（1/9）

FUJITSU

ファームウェアのインポート

管理対象ノードに適用する最新のファームウェアデータを入手します。
入手したファームウェアデータを、ISMのリポジトリにインポートします。
保存方法としては、以下の2種類の方法があります。

- サイトに公開されたDVDから提供される、ファームウェアデータのISOイメージファイルをリポジトリに取り込む方法
- 富士通サイトで提供されている、各ノードのファームウェアデータをリポジトリに取り込む方法

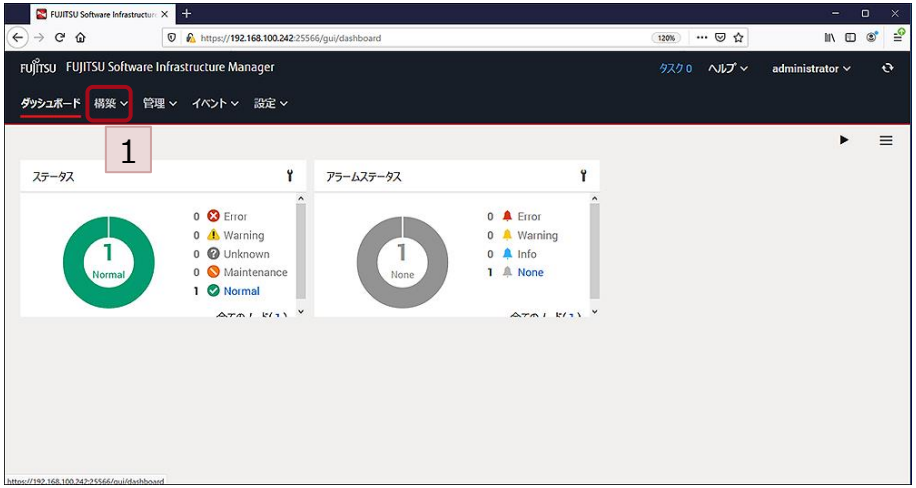
本資料では、富士通のWebサイトからダウンロードしたファームウェアデータ（iRMC）を、ISMにインポートします。
https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/

また、事前準備としてダウンロードした、ファームウェアデータ（exe形式）を解凍し、再度zip形式に圧縮します。
※ISMにインポートできる形式がzip形式のファイルのみのため

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（2/9）

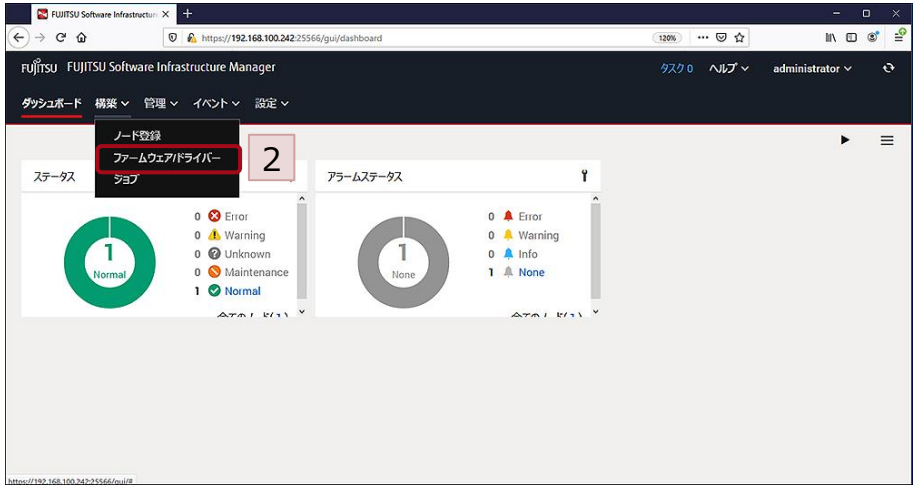
ファームウェアのインポート -1



1. [構築]をマウスオーバーします。

アップデート対象（iRMC）のファームウェアデータをISMへインポートします。

ファームウェアのインポート -2

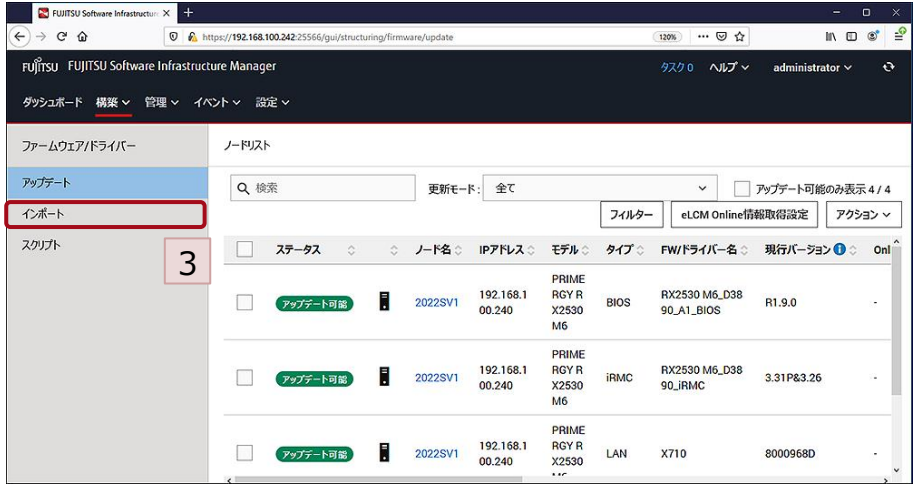


2. メニューから[ファームウェア/ドライバー]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

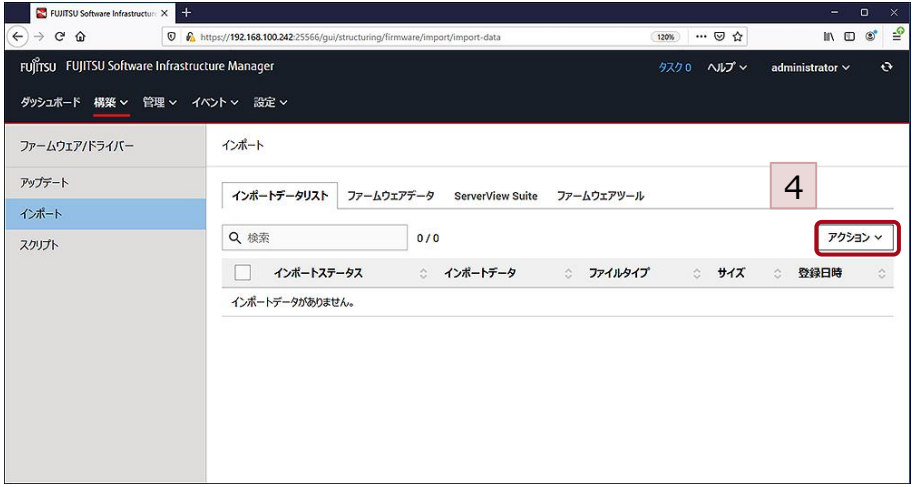
5.2 ファームウェアのインポート（3/9）

ファームウェアのインポート -3



3. [インポート]をクリックします。

ファームウェアのインポート -4

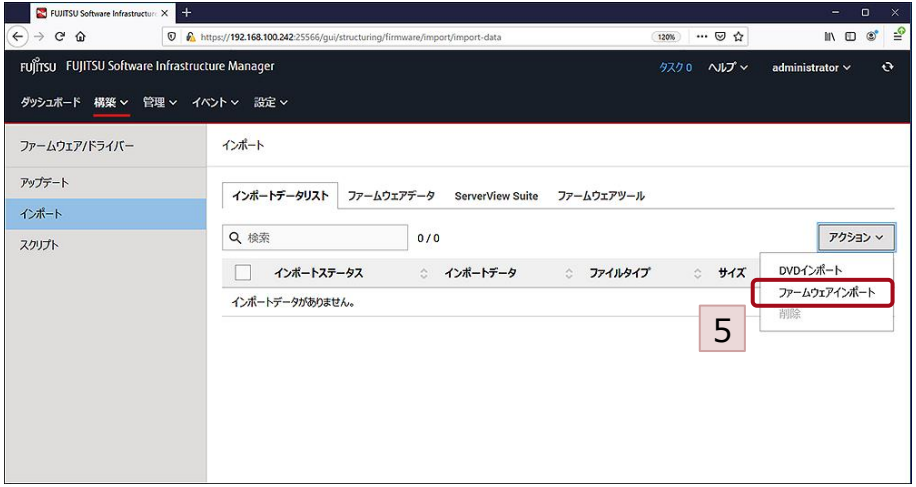


4. [アクション]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

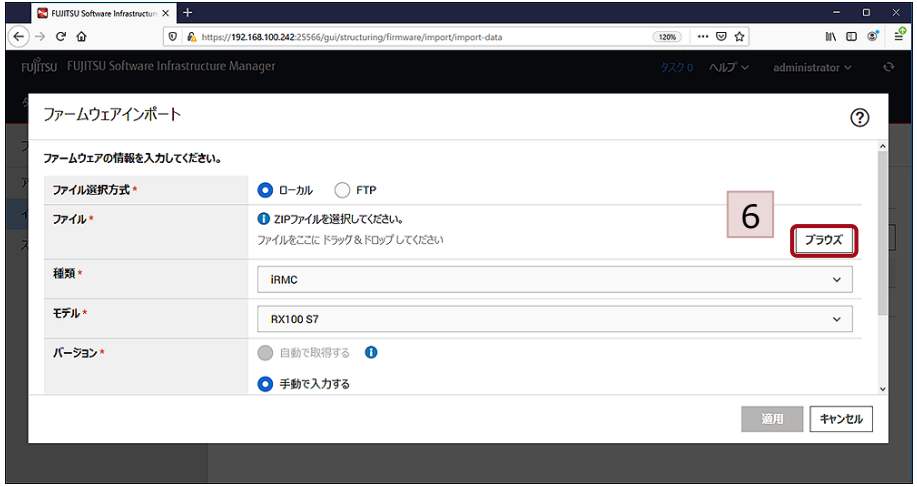
5.2 ファームウェアのインポート（4/9）

ファームウェアのインポート -5



5. メニューから[ファームウェアインポート]をクリックします。

ファームウェアのインポート -6



6. [ブラウズ]をクリックします。

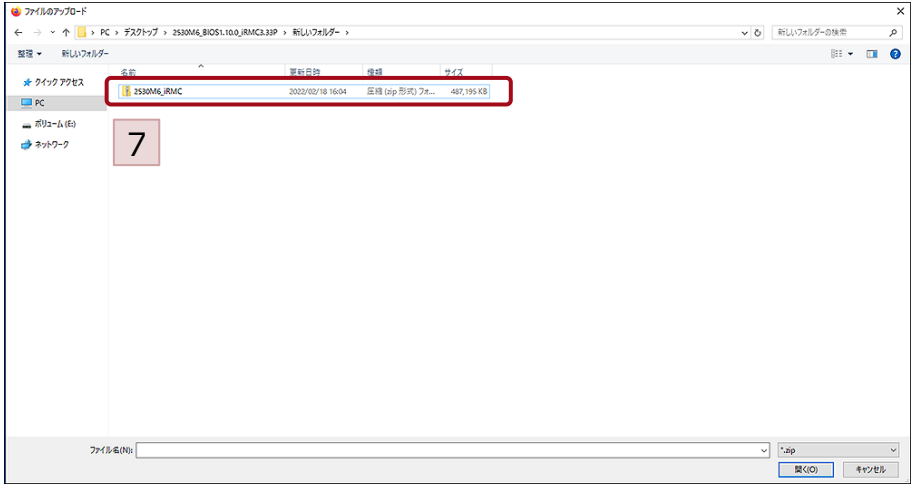
本資料では、富士通のWebサイトからダウンロードした
ファームウェアデータ（iRMC）を、ISMにインポートします。
※インポートできるファイルは、zipファイルのみとなります。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（5/9）

FUJITSU

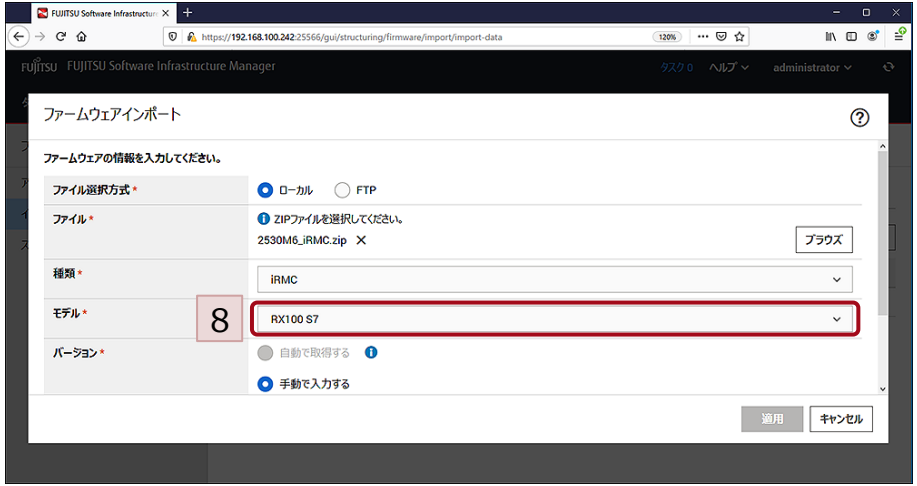
ファームウェアのインポート -7



7. [ファイル名]をダブルクリックします。

本資料では事前に、アップデート対象のファームウェアデータ（zipファイル）を格納しています。

ファームウェアのインポート -8



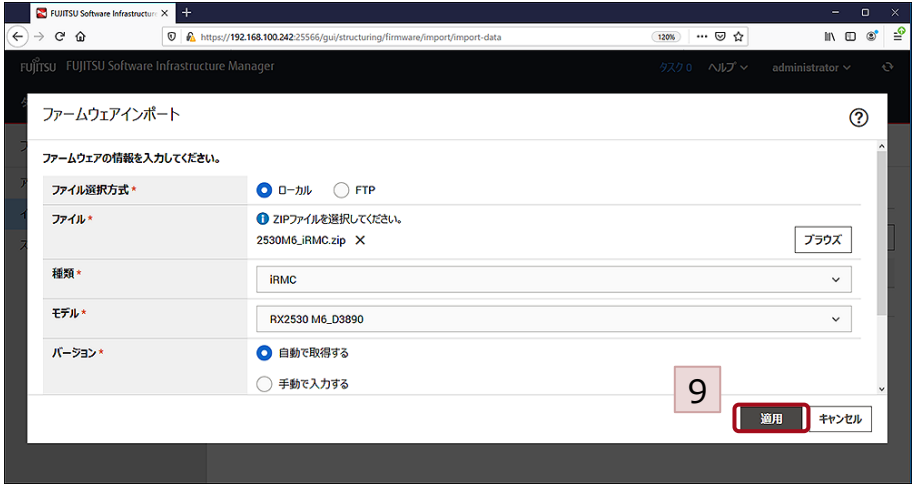
8. [モデル]を選択します。

本資料では、下記の情報を選択します。
モデル：RX2530 M6_D3890

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（6/9）

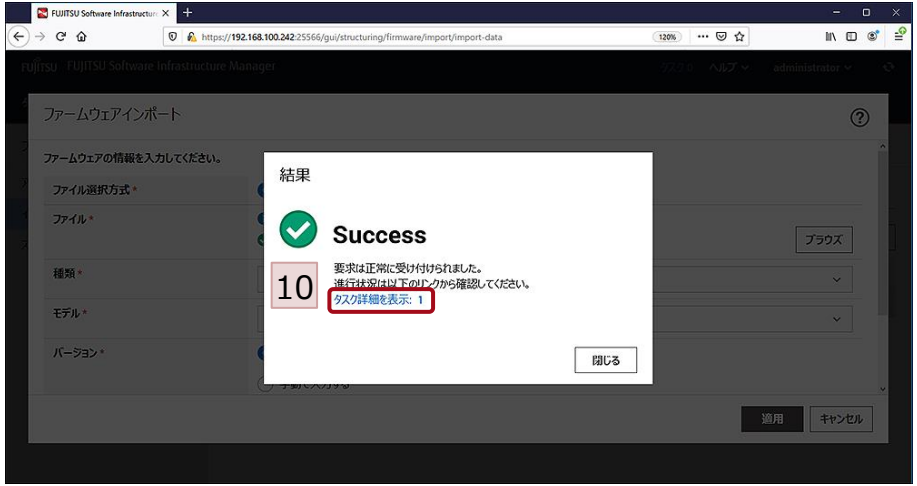
ファームウェアのインポート -9



9. [適用]をクリックします。

ファームウェアのバージョンは、ISMが自動で取得します。

ファームウェアのインポート -10



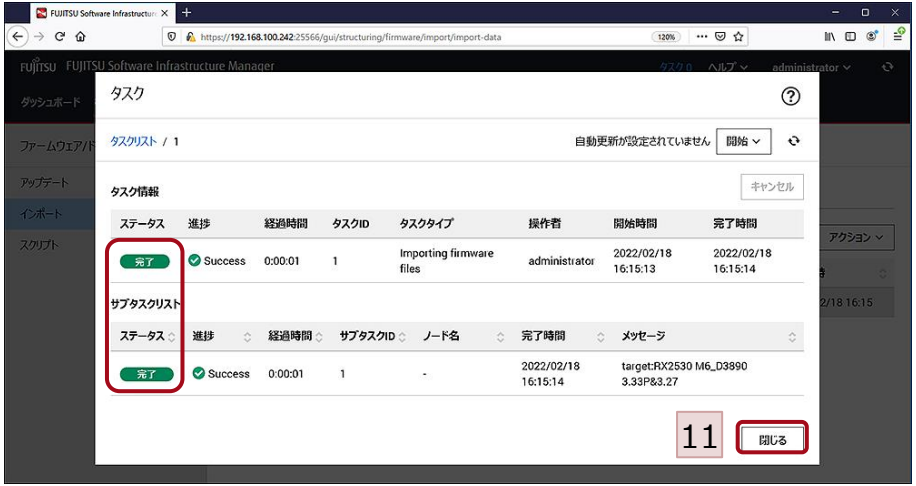
10. [タスク詳細を表示]をクリックします。

タスクの進行状況を確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（7/9）

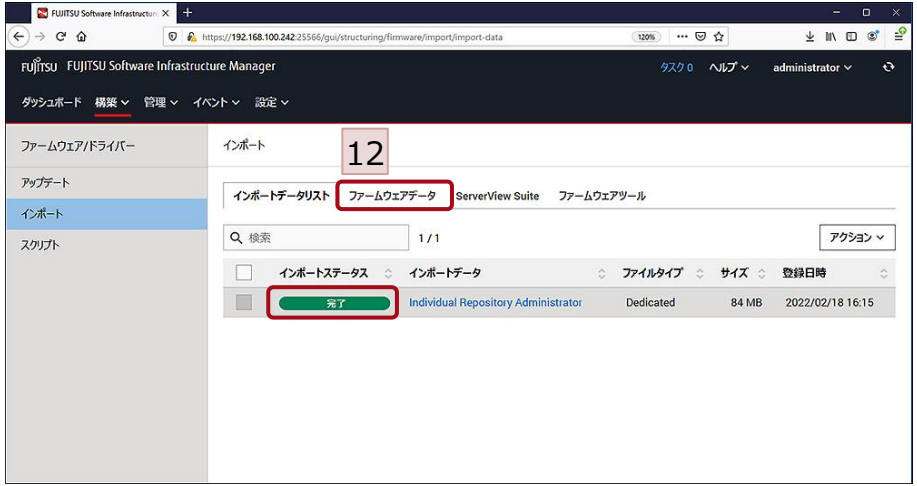
ファームウェアのインポート -11



11. [閉じる]をクリックします。

ステータスが完了していることを確認し、[閉じる]を選択します。

ファームウェアのインポート -12



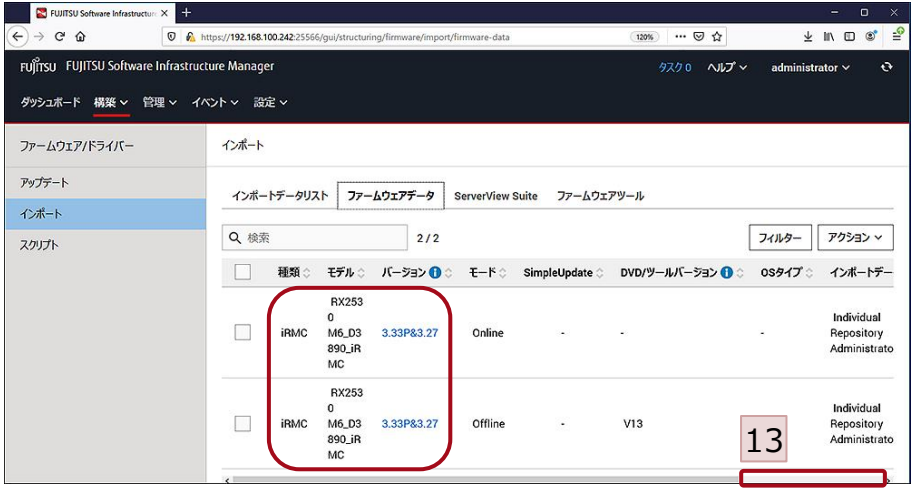
12. [ファームウェアデータ]をクリックします。

インポートステータスが、[完了]になっていることを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（8/9）

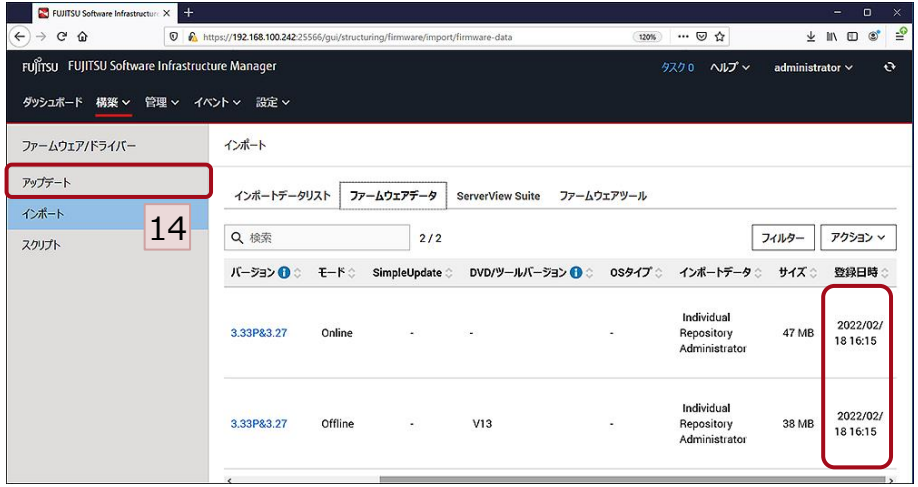
ファームウェアのインポート -13



13. [スクロールバー]の右をクリックし、画面右に移動します。

アップデート対象の種類とバージョンが正しいことを確認します。

ファームウェアのインポート -14



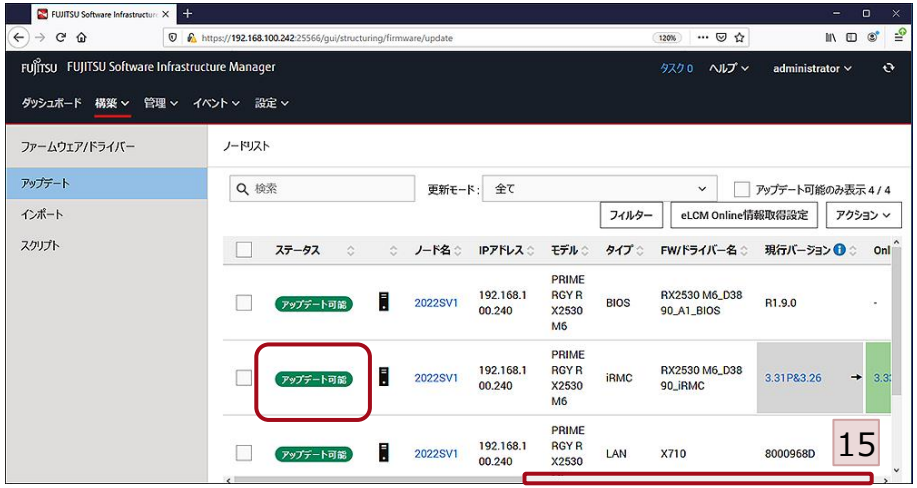
14. [アップデート]をクリックします。

登録日時が更新されていることを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.2 ファームウェアのインポート（9/9）

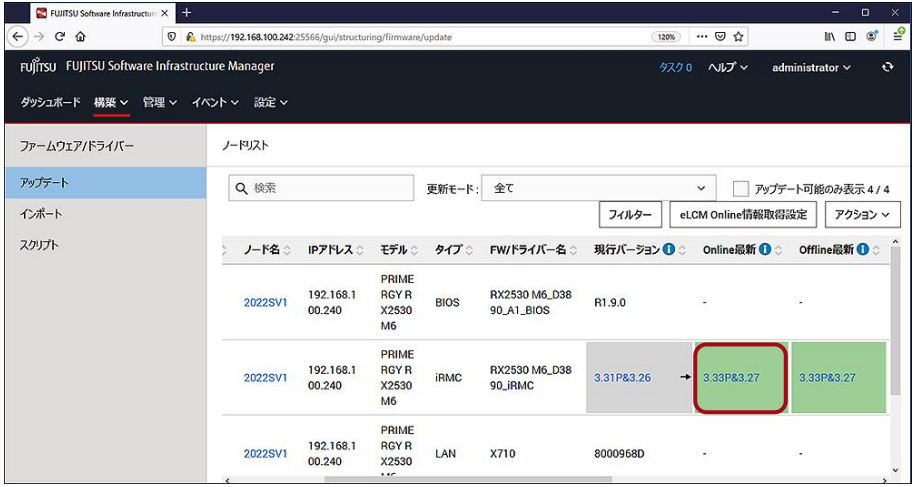
ファームウェアのインポート -15



15. [スクロールバー]の右をクリックし、画面右に移動します。

ステータスが[アップデート可能]になっていれば、インポートは完了しています。

ファームウェアのインポート -16



[RX2530 M6_D3890_iRMC]のOnline最新に、[3.33P&3.27]が表示されていることを確認します。
以上で、ファームウェアのインポートは完了です。

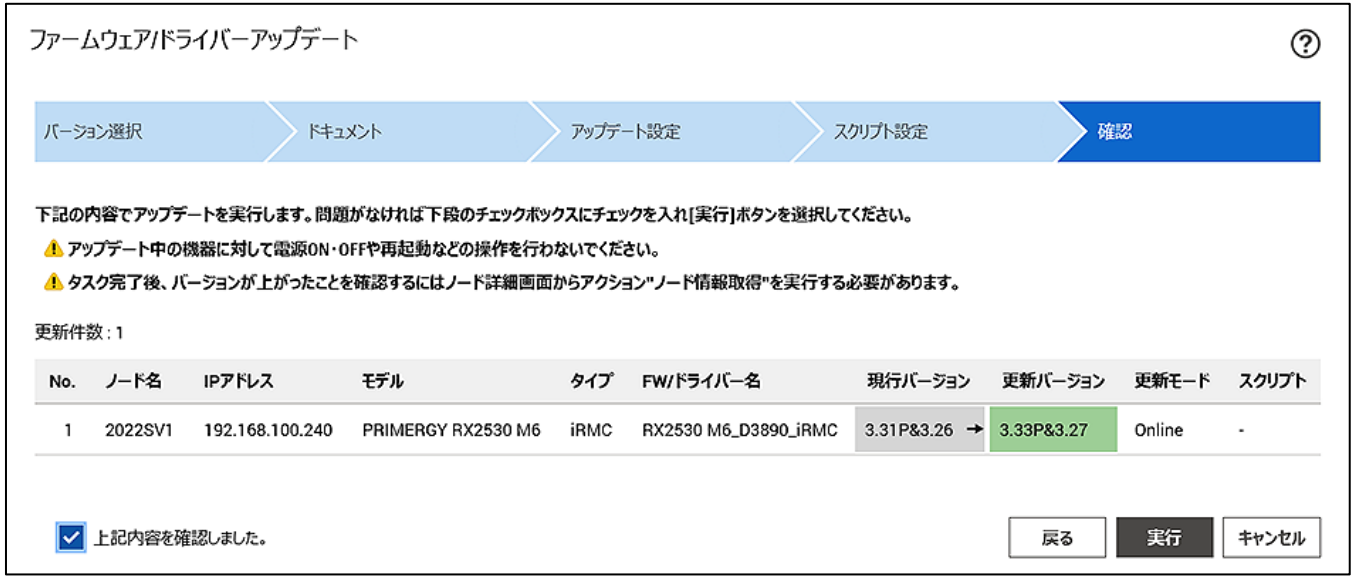
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（1/13）

FUJITSU

ファームウェアのアップデート

インポートしたiRMCのファームウェアを元に、アップデートを実施します。
アップデート後は、ファームウェアの管理画面からアップデートしたことを確認します。

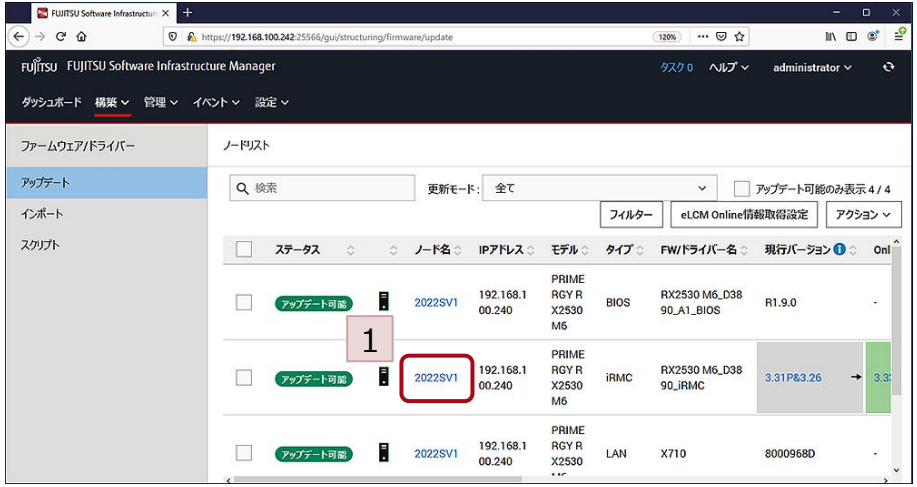


Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（2/13）

FUJITSU

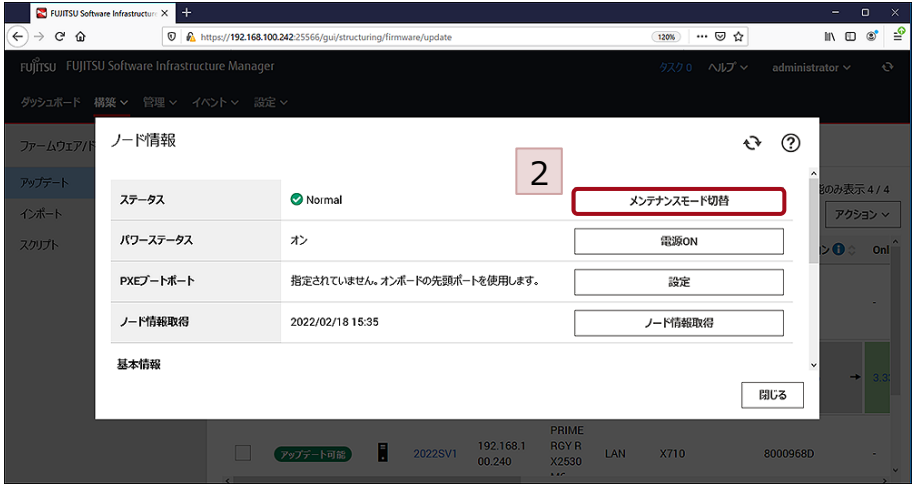
ファームウェアのアップデート -1



1. ノード名[2022SV1]をクリックします。

インポートしたファームウェアデータで、アップデートします。

ファームウェアのアップデート -2



2. [メンテナンスモード切替]をクリックします。

アップデート対象ノードをメンテナンスモードに変更します。
※メンテナンスモードに変更することで、アップデート途中に
　ISMのアラームが上がることを防ぎます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（3/13）

FUJITSU

ファームウェアのアップデート -3

3. [はい]をクリックします。

ファームウェアのアップデート -4

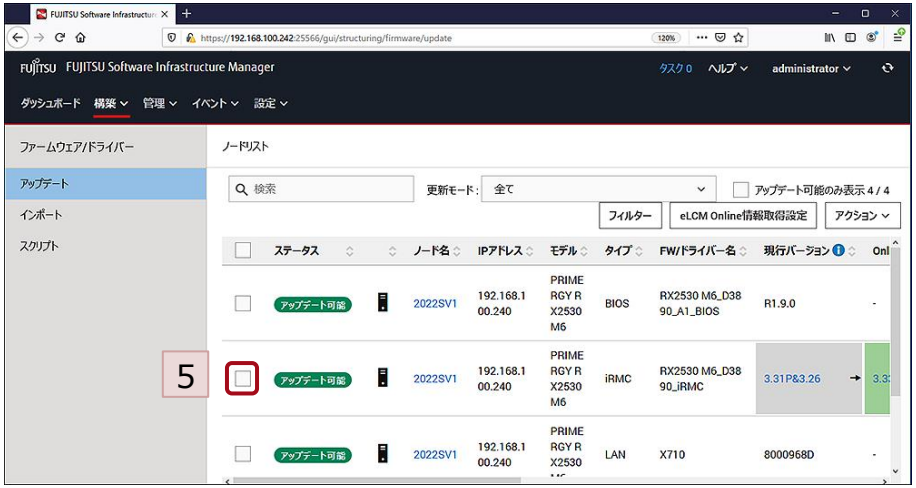
4. [閉じる]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（4/13）

FUJITSU

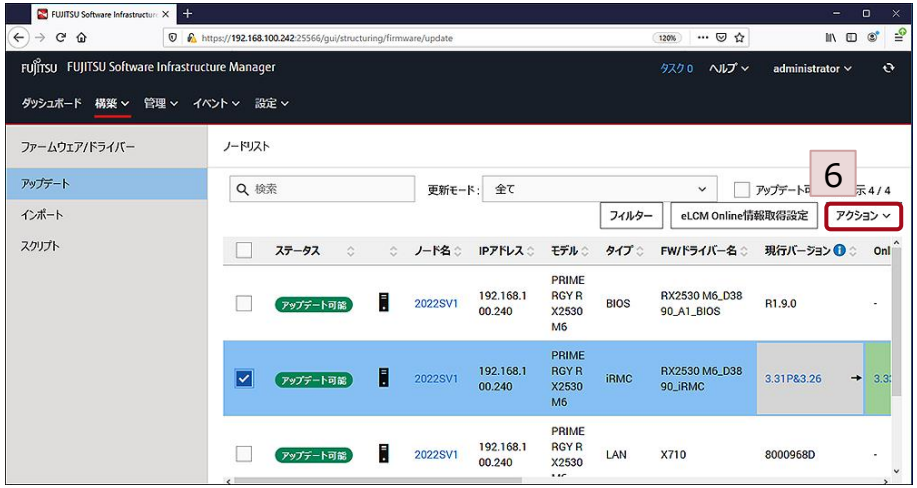
ファームウェアのアップデート -5



5. アップデート対象の[ノード]にチェックを付けます。

複数のファームウェアデータをインポートしている場合、複数選択することが可能です。
※本資料では、iRMCのみのため一つだけチェックを付けます。

ファームウェアのアップデート -6

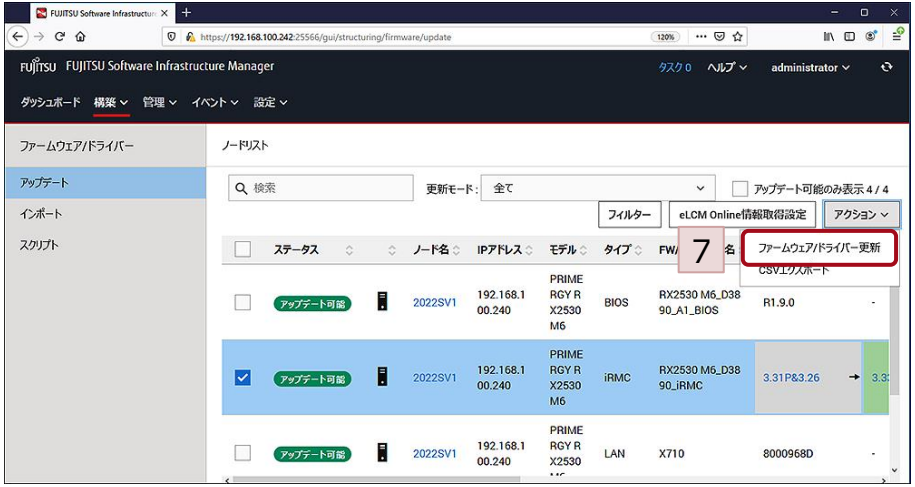


6. [アクション]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（5/13）

ファームウェアのアップデート -7



7. メニューから[ファームウェア/ドライバー更新]をクリックします。

ファームウェアのアップデート -8

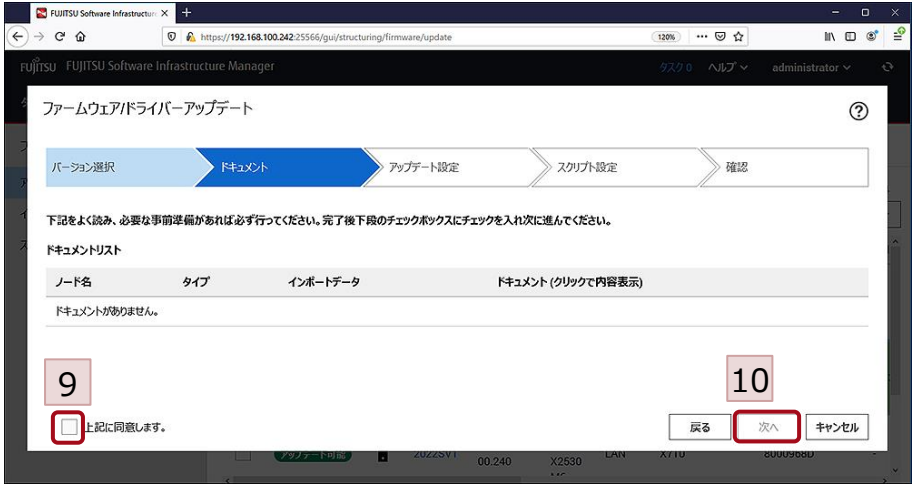
8. [次へ]をクリックします。

更新モードは、デフォルトの[Online]を選択します。
以下に、更新モードの違いを記載します。
・Online：ノードが起動している状態で適用
・Offline：ノードが停止している状態で適用

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（6/13）

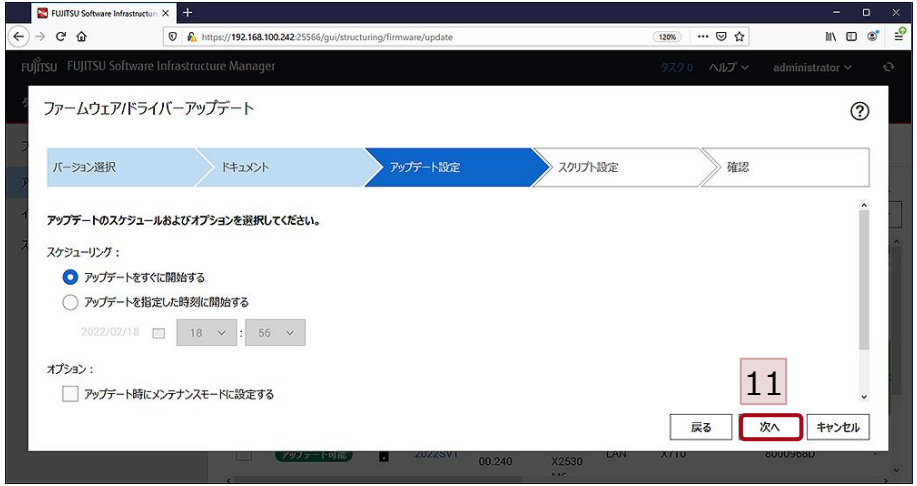
ファームウェアのアップデート -9



9. [上記に同意します。]にチェックを付けます。
10. [次へ]をクリックします。

ファームウェアに添付されている事前準備用のドキュメントもISMへインポートした場合、その一覧が表示されます。
本資料では、ドキュメントをインポートしておりません。
ドキュメントで事前準備の完了を確認してから、手順を進めてください。

ファームウェアのアップデート -10



11. [次へ]をクリックします。

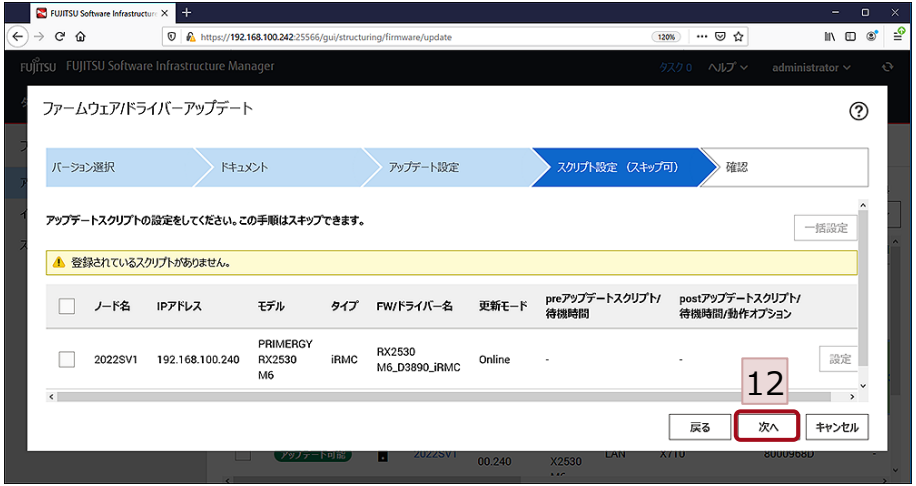
ファームウェアアップデートのスケジュールを設定することができます。
※必要に応じて、スケジューリングなどを設定してください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（7/13）

FUJITSU

ファームウェアのアップデート -11



12. [次へ]をクリックします。

ファームウェアアップデート開始前と完了後に、外部ホスト上に配置した任意のスクリプトを実行できます。
※本資料では、スクリプトを使用しないのでスキップします。

ファームウェアのアップデート -12

13. [上記内容を確認しました。]にチェックを付けます。
14. [実行]をクリックします。

ファームウェアアップデートの実行前に、条件を確認した上で[上記内容を確認しました。]にチェックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

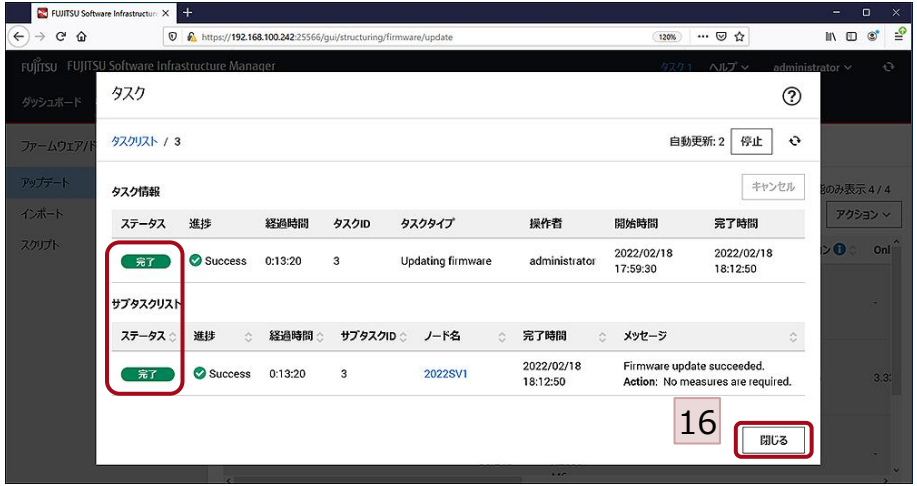
5.3 ファームウェアのアップデート（8/13）

ファームウェアのアップデート -13

15. [タスク詳細を表示]をクリックします。

タスクの進行状況を確認します。

ファームウェアのアップデート -14



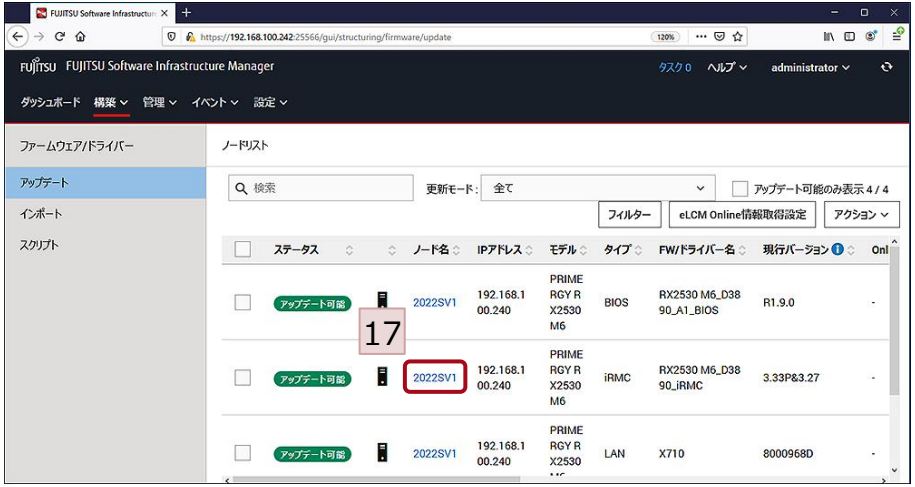
16. [閉じる]をクリックします。

ステータスが完了したことを確認し、画面を閉じます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（9/13）

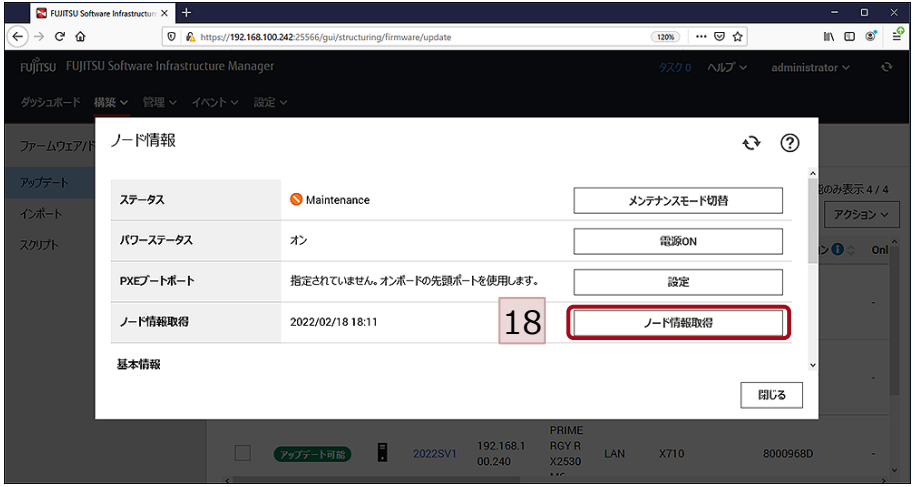
ファームウェアのアップデート -15



17. ノード名[2022SV1]をクリックします。

ノード情報を再取得することで、アップデートが適用されているかを確認します。

ファームウェアのアップデート -16



18. [ノード情報取得]をクリックします。

ノード情報の再取得を行います。

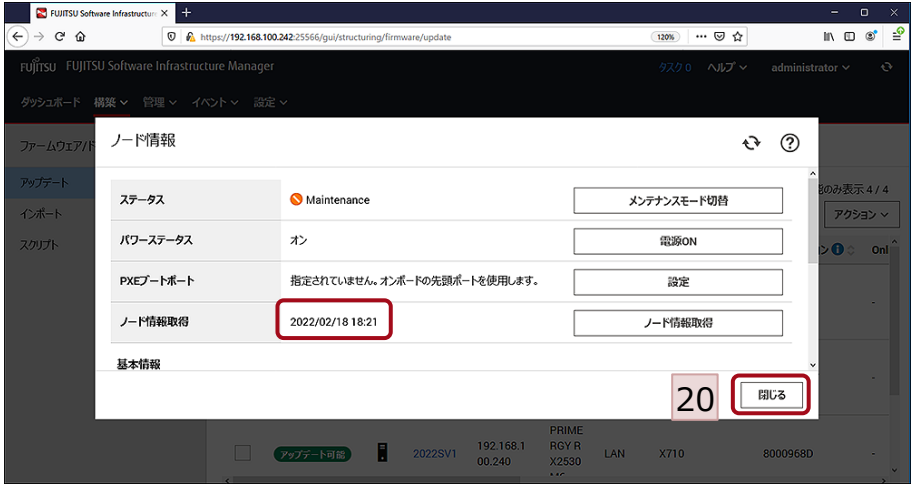
Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（10/13）

ファームウェアのアップデート -17

19. [取得]をクリックします。

ファームウェアのアップデート -18



20. [閉じる]をクリックします。

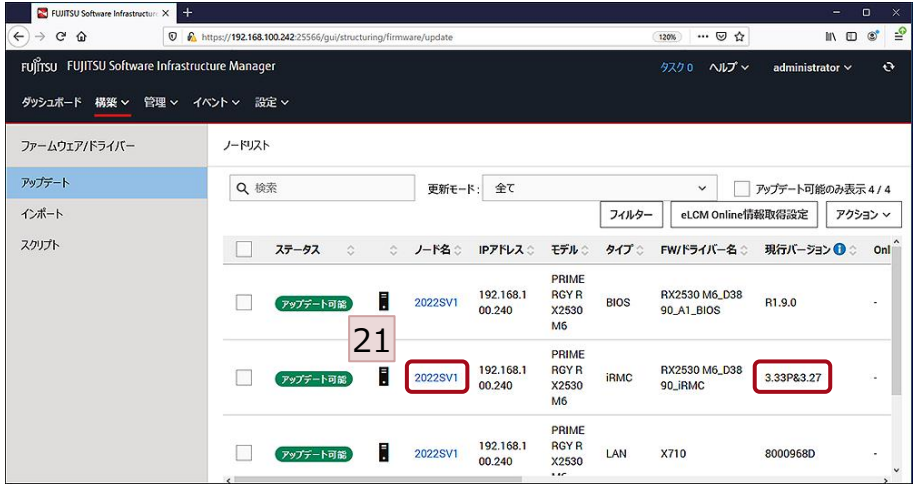
ノード情報取得の日時が更新されたことを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（11/13）

FUJITSU

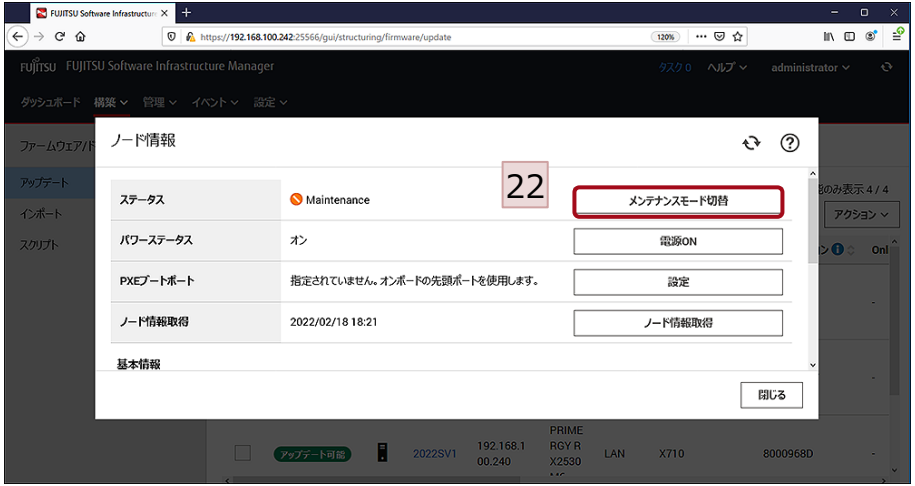
ファームウェアのアップデート -19



21. ノード名[2022SV1]をクリックします。

[RX2530 M6_D3890_iRMC]の現行バージョンが、アップデートの際に適用した下記のバージョンであることを確認します。
現行バージョン: 3.33P&3.27

ファームウェアのアップデート -20



22. [メンテナンスモード切替]をクリックします。

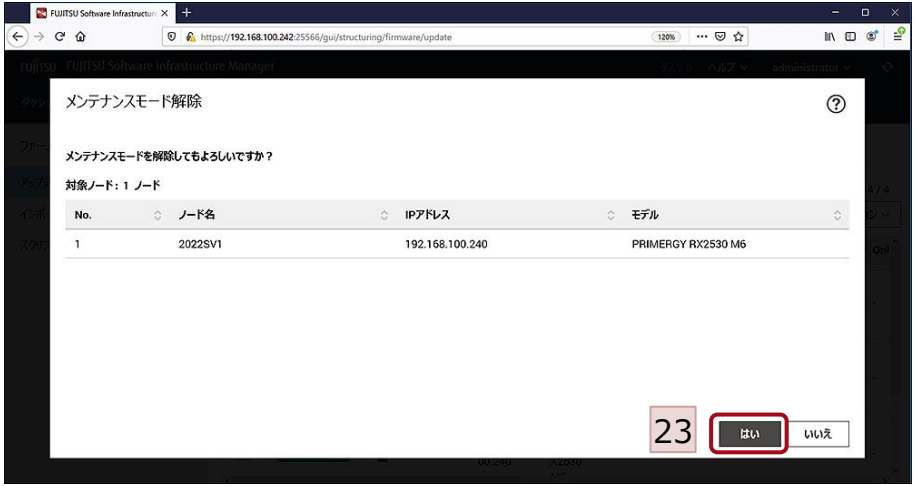
メンテナンスモードを解除します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（12/13）

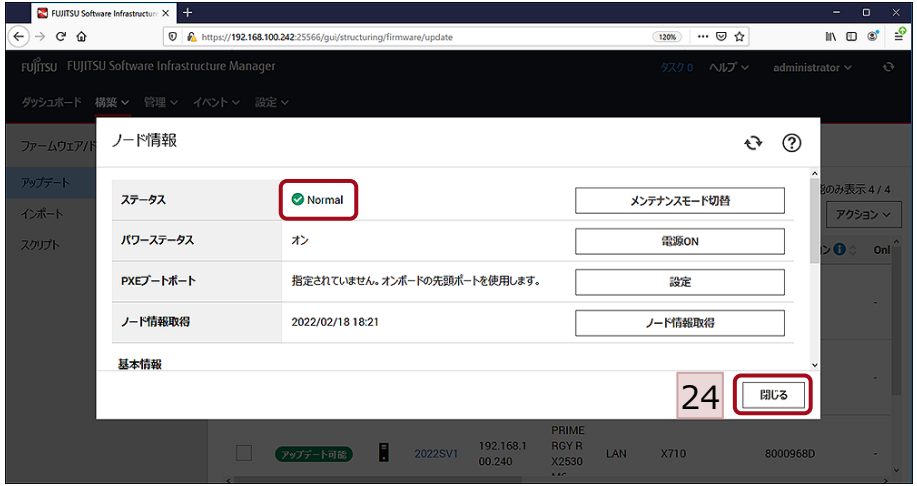
FUJITSU

ファームウェアのアップデート -21



23. [はい]をクリックします。

ファームウェアのアップデート -22



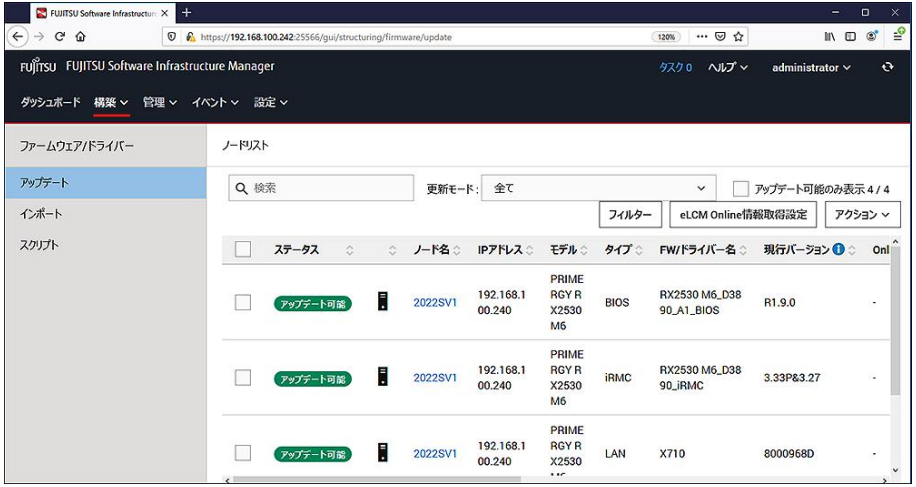
24. [閉じる]をクリックします。

ステータスが[Normal]になったことを確認します。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

5.3 ファームウェアのアップデート（13/13）

ファームウェアのアップデート -23



以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6. 保守資料の採取

6.1 保守資料の採取（CLI）

6.2 保守資料の採取（GUI）

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.1 保守資料の採取（CLI）（1/4）

FUJITSU

保守資料の採取（CLI）について

保守資料は、ISMの誤動作を調査する際に必要となります。
administratorでISMへ接続し、ISMのコマンドで保守資料を採取します。

障害調査ログのみを採取する場合

```
> ismadm system snap –dir /Administrator/ftp
snap start
Your snap has been generated and saved in:
/Administrator/ftp/ismsnap-20181115104425.tar.gz
```

障害調査ログ／ISM-VA オペレーティングシステムログ／データベース情報を一括採取する場合

```
> ismadm system snap -dir /Administrator/ftp –full
snap start
Your snap has been generated and saved in:
/Administrator/ftp/ismsnap-20181115105256-full.tar.gz
```

採取した保守資料をダウンロードします。
採取コマンド実行時に出力先とファイル名が表示されますので、管理端末からadministratorでFTPアクセスし、ダウンロードします。
※「-dir」で指定した出力先にFTPでアクセスしてください。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.1 保守資料の採取（CLI）（2/4）

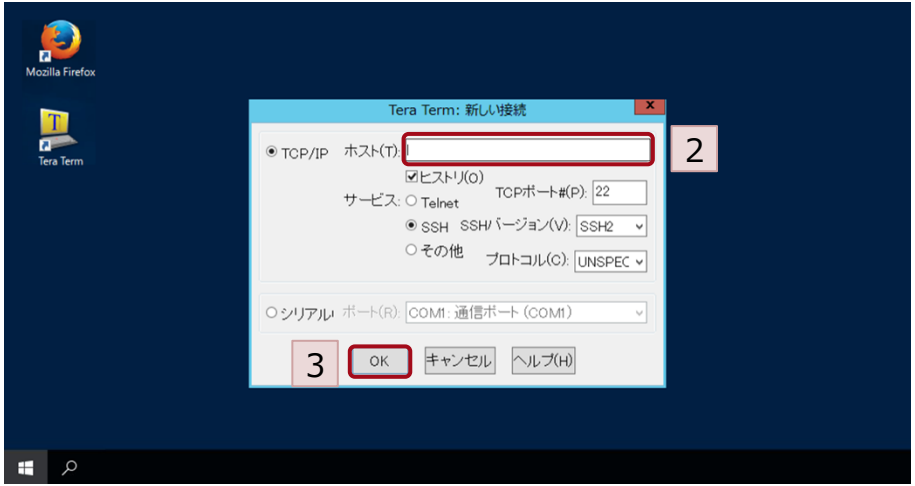
FUJITSU

保守資料の採取（CLI）-1

1. [Tera Term]をダブルクリックします。

ismadmのコマンドを使用して、ISMの保守資料を採取します。

保守資料の採取（CLI）-2



2. [ホスト]を入力します。
3. [OK]をクリックします

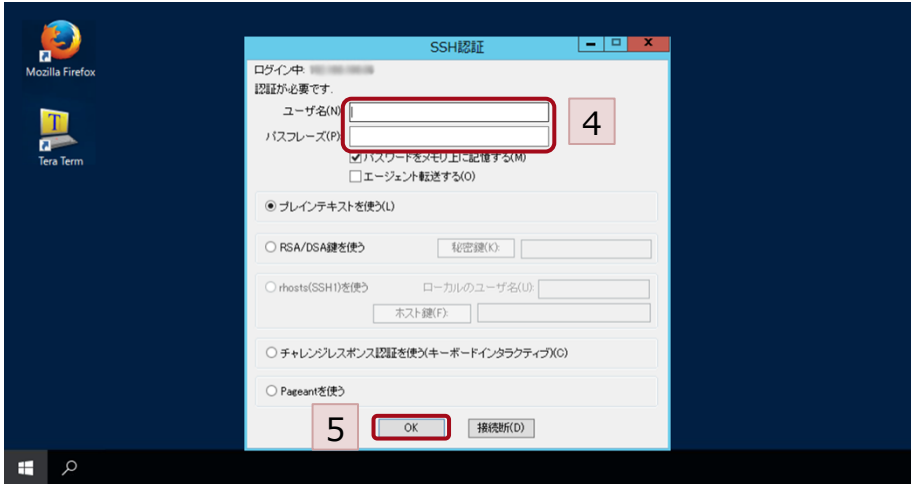
ISMにSSH接続でログインします。
本資料では、ISMのIPアドレスを入力します。
ホスト：192.168.100.242

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.1 保守資料の採取（CLI）（3/4）

FUJITSU

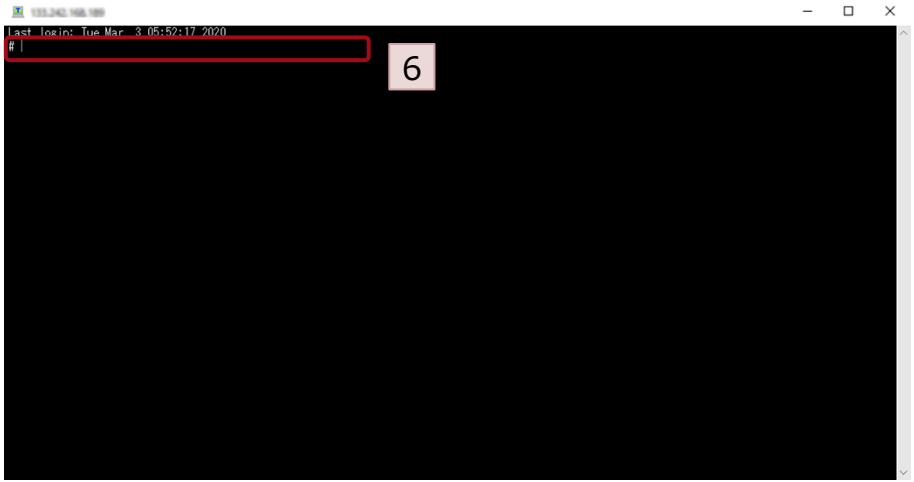
保守資料の採取（CLI）-3



4. [ユーザ名]と[パスフレーズ]を入力します。
5. [OK]をクリックします。

本資料では、下記の情報を入力します。
ユーザ名：administrator
パスフレーズ：admin

保守資料の採取（CLI）-4



6. コマンドを入力し、[Enter]キーを押します

ISMの保守資料を採取します。
本資料では、下記の情報を入力します。
コマンド：ismadm system snap -dir /Administrator/ftp -full

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.1 保守資料の採取（CLI）（4/4）

FUJITSU

保守資料の採取（CLI）-5

```
Last login: Tue Mar 3 05:52:17 2020
# ismadm system snap -dir /Administrator/ftp -full
Searching log files ...
Snap start
Collecting log file (1/23)
Collecting log file (2/23)
Collecting log file (3/23)
Collecting log file (4/23)
Collecting log file (5/23)
Collecting log file (6/23)
Collecting log file (7/23)
Collecting log file (8/23)
Collecting log file (9/23)
Collecting log file (10/23)
Collecting log file (11/23)
Collecting log file (12/23)
Collecting log file (13/23)
Collecting log file (14/23)
  Compress/Copying files ... <20>
Collecting log file (15/23)
Collecting log file (16/23)
Collecting log file (17/23)
Collecting log file (18/23)
Collecting log file (19/23)
Collecting log file (20/23)
Collecting log file (21/23)
Collecting log file (22/23)
Collecting log file (23/23)
Your snap has been generated and saved in:
    /Administrator/ftp/ismsnap-20200306002006-full.zip
#
```

採取した保守資料は、ISMへ管理者権限でFTPアクセスし、
ダウンロードしてください。
以上で、保守資料の採取（CLI）は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.2 保守資料の採取（GUI）（1/6）

FUJITSU

保守資料の採取（GUI）について

CLI以外にも、ISMのGUIから保守資料を採取できます。

どちらかの採取モードを選択し、保守資料を採取できます。

- 全て：障害調査ログ／ISM-VA オペレーティングシステムログ／データベース情報の一括採取
- 一部：障害調査ログのみの採取

ISMのGUI「保守資料」画面から採取された保守資料は、以下のディレクトリに保持され、
このディレクトリ配下の保守資料だけが表示されます。

- 保守資料格納ディレクトリ：/Administrator/transfer
- ISM-のFTP送受信ディレクトリ/Administrator/ftpに保持されている保守資料
  （CLIで採取した保守資料）は、「保守資料」画面には表示されません。

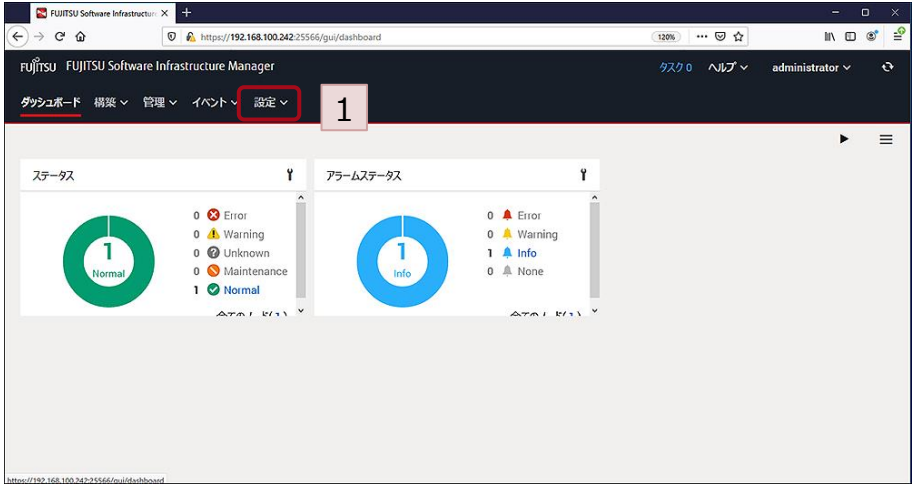
保守資料は、5世代分まで保持されます。5世代を超えると、作成日時の古いものから自動的に削除されます。
保守資料は、採取後5週間が経過すると自動的に削除されます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.2 保守資料の採取（GUI）（2/6）

FUJITSU

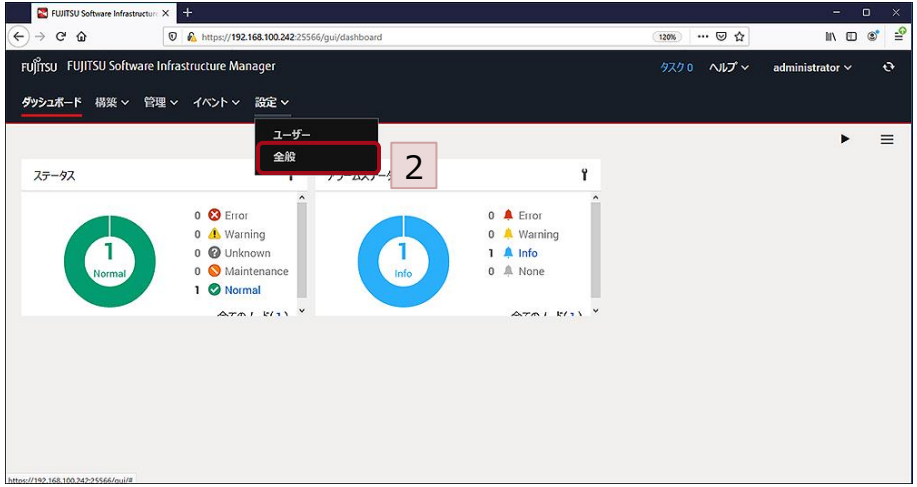
保守資料の採取（GUI）-1



1. [設定]をマウスオーバーします。

ISMのWeb GUIへログインし、保守資料の採取およびダウンロードします。

保守資料の採取（GUI）-2

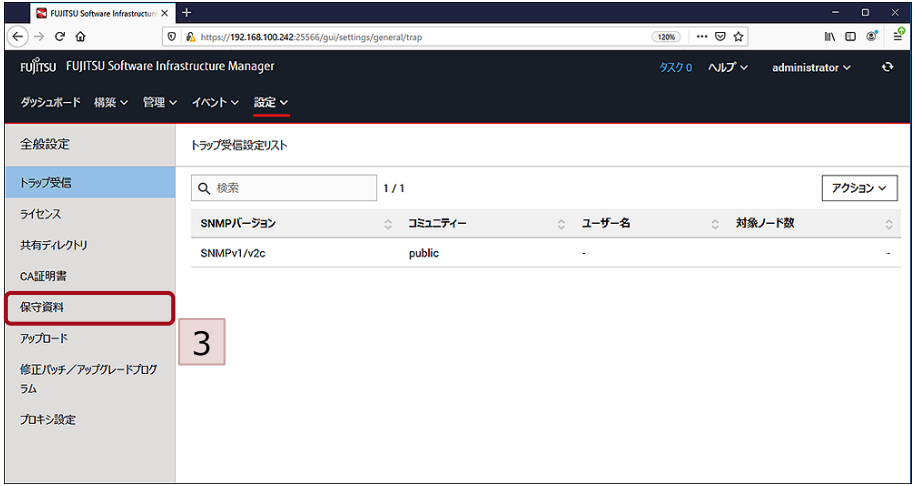


2. メニューから[全般]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

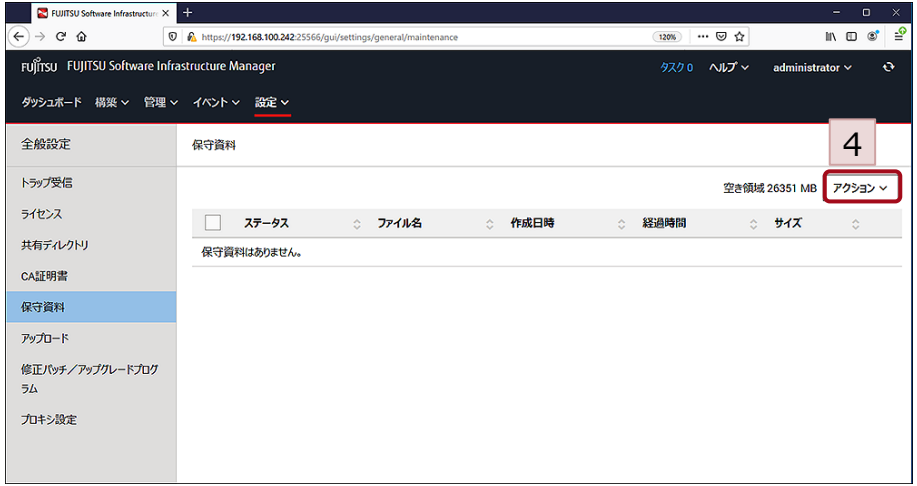
6.2 保守資料の採取（GUI）（3/6）

保守資料の採取（GUI）-3



3. [保守資料]をクリックします。

保守資料の採取（GUI）-4



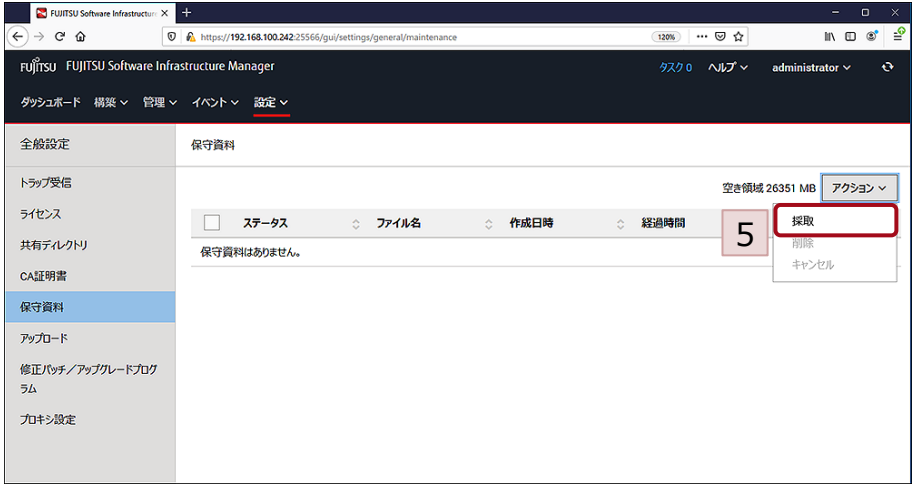
4. [アクション]をクリックします。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.2 保守資料の採取（GUI）（4/6）

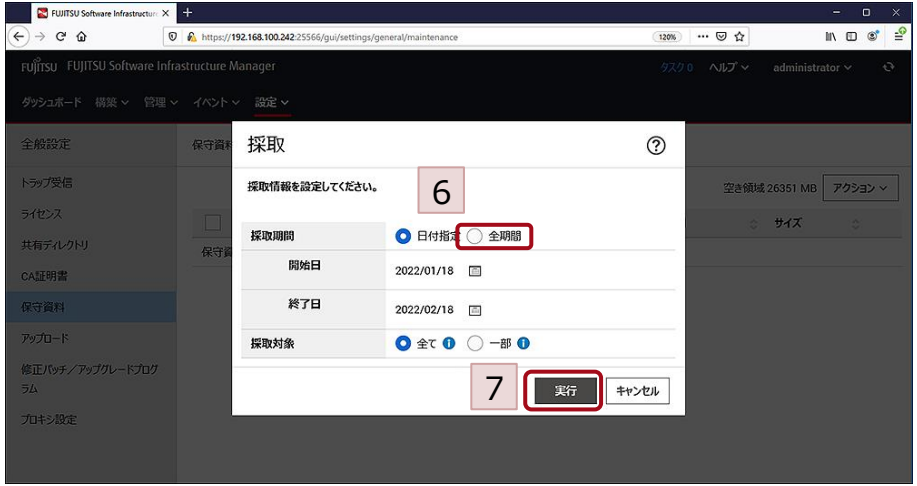
FUJITSU

保守資料の採取（GUI）-5



5. メニューから[採取]をクリックします。

保守資料の採取（GUI）-6



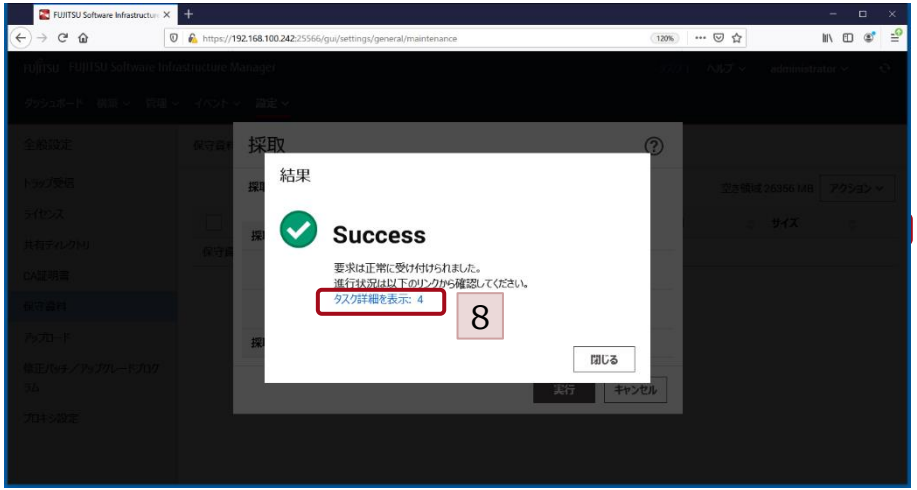
6. 採取期間に[全期間]を選択します。
7. [実行]をクリックします。

採取モードを選択し、保守資料の採取を実行します。
本資料では、下記の情報を選択します。
採取期間: 全期間
採取モード: 全て　※デフォルト選択

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.2 保守資料の採取（GUI）（5/6）

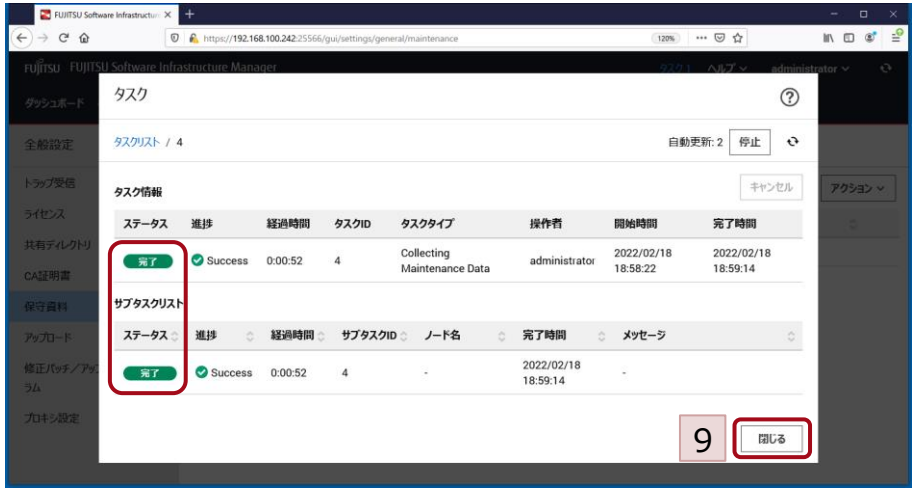
保守資料の採取（GUI）-7



8. [タスク詳細を表示]をクリックします。

タスクの進行状況を確認します。

保守資料の採取（GUI）-8



9. [閉じる]をクリックします。

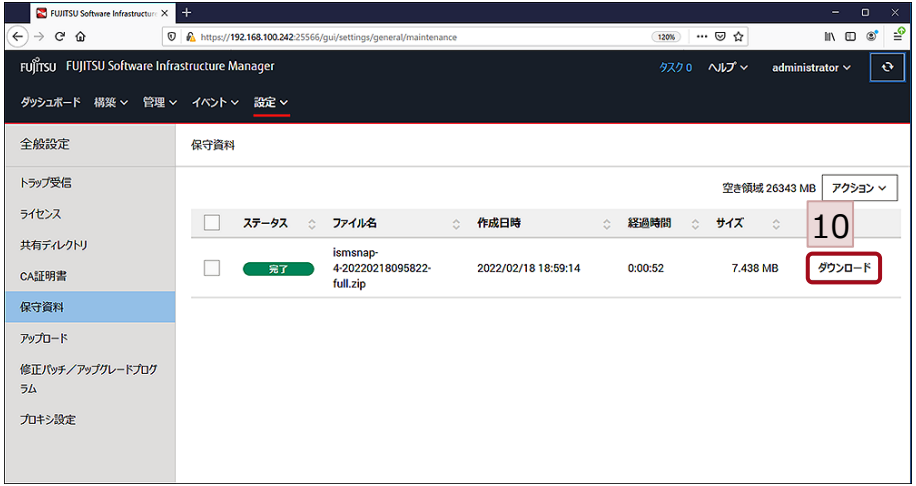
ステータスが完了したことを確認し、画面を閉じます。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

6.2 保守資料の採取（GUI）（6/6）

FUJITSU

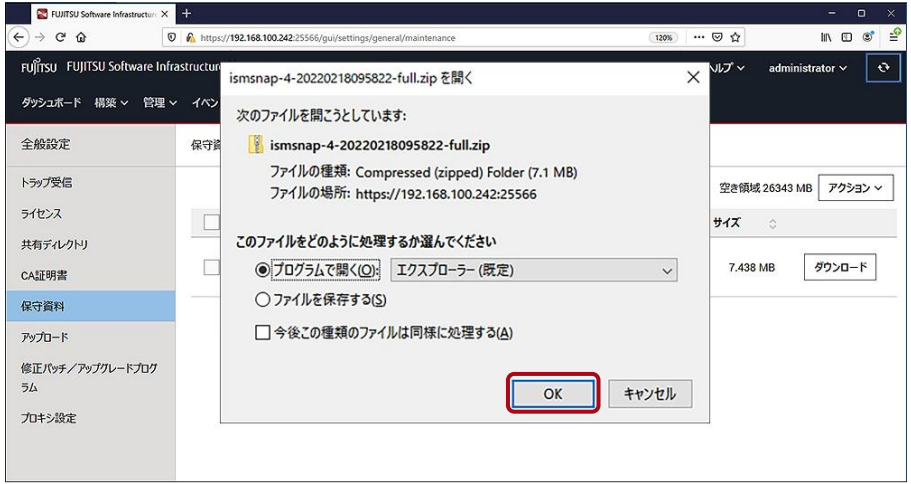
保守資料の採取（GUI）-9



10. [ダウンロード]をクリックします。

保守資料は、5世代分まで保持されます。
5世代を超えると、作成日時の古いものから自動的に削除されます。
保守資料は、採取後5週間が経過すると自動的に削除されます。

保守資料の採取（GUI）-10



[OK]をクリックすると、操作端末上に保守資料がダウンロードされます。
※必要に応じて、ダウンロード先を変更してください。
以上で、保守資料の採取（GUI）は完了です。

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED

Thank you

Copyright 2023 FUJITSU LIMITED